

安養寺森西遺跡 大館馬場遺跡 阿久津宮内遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

（遺物観察表・写真図版編）

1995

群馬県教育委員会
群馬県埋蔵文化財調査事業団
建設省

安養寺森西遺跡 大館馬場遺跡 阿久津宮内遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

（遺物観察表・写真図版編）

1995

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
建設省

凡例

- 1 本書は『安養寺森西遺跡 大館馬場遺跡 阿久津宮内遺跡』の分冊、遺物観察表・写真図版編である。
- 2 遺物観察表については土器観察を中心とした表組を基本としたため、その他の製品について土器と同一の表内に記載したものは一部不適切な部分もある。おもな項目は下記のとおりとした。
 - ・No. 器種 では本文中の遺物番号と器種・器形を記した。平安時代後半の土器で土師・須恵の区別の難しい一群については土器種の記載を避けた。
 - ・計測値 では遺物の外側実測値を記した。このため実測図と若干差異を生じたものもある。復元値には（ ）を、残存値には〔 〕を付けた。またこの項では 口→口縁、頸→頸部、胴→胴部、底→底部、台または脚→台部や脚部の下端、孔→孔の内径、重→重さ 等の略語を使用した。
 - ・出土・復元状態 では出土位置と出土状態、およびに接合作業による復元状態を記した。遺物の残存状態では1/8を最小単位としそれ以下は小破片とした。
 - ・成・整形技法と器形の特徴 では遺物の製作工程と、実測図を補足するための器形の特徴を記した。
 - ・備考 の①胎土では、土器以外では材質を記した。③色調では、土器の二次被熱や付着物の影響のない部分を選び、標準土色帖による最も近いチャートの色名を記した。④のその他では主に焼成後に表れた特徴を記した。
- 3 写真図版については下記の通りである。
 - ・カラー写真は本文編口絵に掲載した。
 - ・写真は本文記載の項目にそってに遺構→遺物の順で一括して掲載した。このため、個別の遺構と出土遺物是对応していない部分が多い。
 - ・遺構写真については縮率は考慮していない。
 - ・遺物写真については遺存状態の良いものを中心に、おおよそ小型品を1/2、大型品を1/3の縮率となるように努めた。このため破片については省略したものが多い。

遺物観察表目次

凡例		3 溝出土遺物	25
1 竪穴住居出土遺物	1	4 井戸出土遺物	28
安養寺森西遺跡		安養寺森西遺跡	
AY-1号住居出土遺物	1	AY-1号井戸出土遺物	28
AY-2号住居出土遺物	1	AY-2号井戸出土遺物	28
AY-3号住居出土遺物	1	AY-3号井戸出土遺物	29
AY-4号住居出土遺物	3	AY-4号井戸出土遺物	29
AY-5号住居出土遺物	4	AY-6号井戸出土遺物	29
AY-6号住居出土遺物	4	AY-7号井戸出土遺物	30
AY-7号住居出土遺物	5	AY-8号井戸出土遺物	36
AY-8号住居出土遺物	6	AY-9号井戸出土遺物	38
AY-9号住居出土遺物	7	AY-10号井戸出土遺物	43
AY-10号住居出土遺物	7	AY-11号井戸出土遺物	44
AY-11号住居出土遺物	7	AY-12号井戸出土遺物	47
AY-12号住居出土遺物	8	AY-14号井戸出土遺物	48
AY-13号住居出土遺物	8	AY-16号井戸出土遺物	48
AY-14号住居出土遺物	10	AY-17号井戸出土遺物	49
AY-15号住居出土遺物	10	AY-19号井戸出土遺物	50
AY-16号住居出土遺物	11	AY-20号井戸出土遺物	50
AY-17号住居出土遺物	11	AY-21号井戸出土遺物	50
AY-18号住居出土遺物	11	大館馬場遺跡	
AY-19号住居出土遺物	12	OT-7号井戸出土遺物	51
AY-20号住居出土遺物	12	OT-9号井戸出土遺物	51
AY-21号住居出土遺物	13	OT-11号井戸出土遺物	51
AY-22号住居出土遺物	13	OT-12号井戸出土遺物	52
AY-23号住居出土遺物	13	OT-13号井戸出土遺物	52
AY-24号住居出土遺物	14	OT-15号井戸出土遺物	52
AY-25号住居出土遺物	14	OT-17号井戸出土遺物	52
AY-27号住居出土遺物	14	阿久津宮内遺跡	
AY-28号住居出土遺物	15	AK-3号井戸出土遺物	53
AY-29号住居出土遺物	16	5 墓壇出土遺物	53
AY-30号住居出土遺物	16	安養寺森西遺跡	
AY-31号住居出土遺物	16	AY-2号墓壇出土遺物	53
AY-32号住居出土遺物	17	AY-4号墓壇出土遺物	54
AY-33号住居出土遺物	17	大館馬場遺跡	
AY-34号住居出土遺物	18	OT-1号墓壇出土遺物	54
AY-35号住居出土遺物	18	6 桶土坑出土遺物	54
AY-36号住居出土遺物	18	7 土坑出土遺物	55
AY-38号住居出土遺物	19	安養寺森西遺跡土坑出土遺物	55
AY-39号住居出土遺物	19	大館馬場遺跡土坑出土遺物	60
阿久津宮内遺跡		阿久津宮内遺跡土坑出土遺物	60
AK-1号住居出土遺物	20	8 遺構外出土遺物	61
AK-2号住居出土遺物	21	9 弥生時代の遺物	63
2 館跡の堀出土遺物	21	10 氾濫層下竪穴住居出土遺物	65
館堀(北堀)	21	11 氾濫層下畠出土遺物	66
館堀(南堀)	21		
館跡の堀上出土の近世・近代遺物	22		

写真図版目次

- PL-1 遺跡全景
安養寺森西遺跡全景 (南東から)
大館馬場・阿久津宮内遺跡全景 (北西から)
- PL-2 調査風景
弥生時代包含層試掘グリッド全景
AY-16号井戸調査風景 (東から)
AY-5号井戸調査風景
井戸底面付近の調査風景
安養寺森西遺跡流路調査風景
大館馬場遺跡溝調査風景
大館馬場遺跡島調査風景
武蔵島地区トレンチ配置状況
- PL-3 AY-1~6・10号住居
AY-1・10号住居全景 (西から)
AY-2号住居全景 (西から)
AY-3号住居全景 (西から)
AY-3号住居遺物出土状態 (西から)
AY-3号住居遺物出土状態 (西から)
AY-4号住居全景 (西から)
AY-5号住居全景 (西から)
AY-6号住居全景 (西から)
- PL-4 AY-7~13号住居
AY-7号住居全景 (西から)
AY-8号住居遺物出土状態 (西から)
AY-9号住居全景 (南から)
AY-9号住居カマド全景 (南から)
AY-11号住居全景 (西から)
AY-12号住居掘り方全景 (南から)
AY-13号住居遺物出土状態 (西から)
AY-13号住居遺物出土状態 (西から)
- PL-5 AY-14~17号住居
AY-14号住居全景 (西から)
AY-14号住居掘り方 (西から)
AY-15号住居全景 (東から)
AY-15号住居掘り方 (東から)
AY-16号住居全景 (東から)
AY-16号住居掘り方 (北西から)
AY-17号住居掘り方 (南から)
AY-17号住居セクション (南から)
- PL-6 AY-18~22号住居
AY-18号住居全景 (南から)
AY-18号住居セクション (南から)
AY-19号住居全景 (南から)
AY-20号住居掘り方 (西から)
AY-21号住居全景 (東から)
AY-21号住居カマド全景 (南から)
AY-22号住居全景 (西から)
AY-22号住居遺物出土状態 (南から)
- PL-7 AY-23~28号住居
AY-23号住居全景 (西から)
AY-24号住居全景 (西から)
AY-25号住居全景 (西から)
AY-25号住居遺物出土状態 (西から)
AY-26号住居全景 (南西から)
AY-27号住居全景 (西から)
AY-28号住居全景 (西から)
AY-28号住居カマド全景 (西から)
- PL-8 AY-30~34号住居
AY-30号住居全景 (西から)
AY-30号住居掘り方全景 (西から)
AY-31号住居全景 (西から)
AY-31号住居カマドセクション
AY-32号住居全景 (西から)
- AY-32号住居カマドセクション
AY-33号住居全景 (西から)
AY-34号住居全景 (西から)
- PL-9 AY-35~39号住居
AY-35号住居遺物出土状態 (西から)
AY-36号住居カマド遺物出土状態 (南から)
AY-37号住居全景 (西から)
AY-37号住居カマドセクション
AY-38号住居全景 (西から)
AY-38号住居カマド全景 (西から)
AY-39号住居全景 (西から)
AY-39号住居カマド掘り方全景
- PL-10 竪穴住居出土遺物 (AY-1~3号住居)
- PL-11 竪穴住居出土遺物 (AY-4~7号住居)
- PL-12 竪穴住居出土遺物
(AY-8・9・11・13号住居)
- PL-13 竪穴住居出土遺物
(AY-14・15・19・20号住居)
- PL-14 竪穴住居出土遺物
(AY-21・23~25・27~29号住居)
- PL-15 竪穴住居出土遺物
(AY-31・33・35・36号住居)
- PL-16 竪穴住居出土遺物
(AY-36・38・39号住居)
- PL-17 AK-1・2号住居および出土遺物
AK-1号住居遺物出土状態 (西から)
AK-1号住居カマド遺物出土状態
AK-1号住居カマドセクション
AK-2号住居遺物出土状態 (西から)
AK-2号住居カマド遺物出土状態
AK-2号住居カマドセクション
- PL-18 安養寺森西遺跡中世館跡
- PL-19 中世館掘り出し遺物および
堀上層の近世・近代遺物
- PL-20 AY-1~7号掘立柱建物
AY-1号掘立柱建物全景 (南から)
AY-2号掘立柱建物全景 (南から)
AY-3号掘立柱建物全景 (西から)
AY-4号掘立柱建物全景 (南から)
AY-5号掘立柱建物全景 (上面 南から)
AY-5号掘立柱建物柱穴断面 (南から)
AY-6号掘立柱建物全景 (南から)
AY-6・7号掘立柱建物全景 (南東から)
- PL-21 AY-8~13・15号掘立柱建物
AY-8号掘立柱建物全景 (南から)
AY-9号掘立柱建物全景 (西から)
AY-10号掘立柱建物全景 (南から)
AY-11号掘立柱建物全景 (南から)
AY-12号掘立柱建物全景 (南から)
AY-12号掘立柱建物柱穴礎石
AY-13号掘立柱建物全景 (南から)
AY-15号掘立柱建物全景 (南から)
- PL-22 OT・AK掘立柱建物
OT-1号掘立柱建物 (南から)
OT-2号掘立柱建物 (西から)
OT-3号掘立柱建物 (東から)
OT-4号掘立柱建物 (南から)
OT-5号掘立柱建物 (東から)
OT-6号掘立柱建物 (東から)
AK-1号掘立柱建物 (南から)
AK-2号掘立柱建物 (西から)

PL-23 AY-13・15・17～19号溝

AY-2～4号溝遠景(北西から)
AY-13号溝(南東から)
AY-15号溝(北から)
AY-16号溝(北東から)
AY-17号溝(東から)
AY-18号溝(南西から)
AY-19号溝(南西から)

PL-24 AY-20・21・24・25号溝

AY-20号溝(東から)
AY-20号溝セクション
AY-20号溝セクション
AY-21号溝(南から)
AY-24号溝セクション
AY-25号溝セクション
AY-25号溝(西から)
AY-25号溝セクション

PL-25 AY-28～31号溝

AY-28号溝(北西から)
AY-28号溝セクション
AY-28号溝セクション
AY-28号溝セクション
AY-29号溝(南から)
AY-29号溝セクション
AY-30・31号溝(南から)
AY-30・31号溝セクション

PL-26 AY-32～35号溝

AY-32号溝(西から)
AY-32号溝セクション
AY-33号溝(西から)
AY-33号溝セクション
AY-34号溝(南西から)
AY-35号溝(西から)
AY-35号溝セクション

PL-27 OT-2～4号溝

OT-2号溝(南西から)
OT-2号溝セクション
OT-3・4号溝(南から)
OT-3号溝セクション
OT-3号溝セクション
OT-4号溝セクション
OT-4号溝セクション

PL-28 OT-5・6号溝 AK-1・2号溝

OT-5号溝(西から)
OT-5号溝セクション
OT-6号溝(南から)
OT-6号溝セクション
AK-1号溝(南から)
AK-2号溝セクション
AK-2号溝(南から)
AK-2号溝(南から)
AK-2号溝出土遺物

PL-29 AK-3～5号溝

AK-3号溝(南から)
AK-3号溝セクション
AK-4号溝(南西から)
AK-5号溝(西から)
AK-5号溝セクション
AK-5号溝セクション
AK-5号溝セクション

PL-30 AY-1・16号溝出土遺物

AK-1・2号溝出土遺物

PL-31 AY-1～10号井戸

AY-1号井戸底面
AY-2号井戸
AY-3号井戸
AY-4号井戸
AY-5号井戸セクション
AY-6号井戸
AY-7号井戸
AY-7号井戸井戸枠
AY-8号井戸セクション
AY-8号井戸
AY-9号井戸
AY-9号井戸井戸枠
AY-10号井戸上面

PL-32 AY-11～13・15～21号井戸

AY-11号井戸
AY-11号井戸井戸枠確認状態
AY-11号井戸井戸枠
AY-12号井戸底面付近セクション
AY-12号井戸
AY-13号井戸上面
AY-15号井戸セクション
AY-16号井戸上面
AY-16号井戸木枠確認状態
AY-17号井戸上面
AY-18号井戸セクション
AY-19号井戸上面
AY-20号井戸
AY-21号井戸遺物出土状態
AY-21号井戸上面

PL-33 OT-1～11号井戸

OT-1号井戸上面
OT-2号井戸セクション
OT-3号井戸
OT-4号井戸上面
OT-4号井戸遺物出土状態
OT-5号井戸セクション
OT-6号井戸上面
OT-7号井戸上面
OT-8号井戸上面
OT-8号井戸井戸枠
OT-9号井戸
OT-10号井戸
OT-11号井戸上面
OT-11号井戸井戸枠

PL-34 OT-12～21号井戸

OT-12号井戸上面
OT-12号井戸底面
OT-12号井戸出土遺物
OT-13号井戸上面
OT-13号井戸井戸枠
OT-14号井戸上面
OT-15号井戸上面
OT-16号井戸
OT-17号井戸
OT-18号井戸
OT-19号井戸樹皮出土状態
OT-19号井戸
OT-20号井戸セクション
OT-20号井戸
OT-21号井戸

PL-35 AK-1～16号井戸

AK-1・2号井戸
AK-3号井戸
AK-4号井戸
AK-5号井戸
AK-6号井戸

- AK-7号井戸セクション
 AK-8号井戸
 AK-9号井戸
 AK-10号井戸
 AK-11号井戸
 AK-12号井戸
 AK-13号井戸セクション
 AK-14号井戸
 AK-15号井戸
 AK-16号井戸
- PL-36 AY-2・6・7号井戸出土遺物
 PL-37 AY-7号井戸出土遺物(2)
 PL-38 AY-7号井戸出土遺物(3)
 PL-39 AY-7号井戸出土遺物(4)
 PL-40 AY-8・9号井戸出土遺物
 PL-41 AY-9号井戸出土遺物
 PL-42 AY-9・10・11号井戸出土遺物
 PL-43 AY-11号井戸出土遺物
 PL-44 AY-12・16号井戸出土遺物
 PL-45 AY-17・19・21号井戸出土遺物
 PL-46 OT-11・13・17号井戸および
 AK-3号井戸出土遺物
- PL-47 OT-1~6号火葬土坑
 OT-1号火葬土坑全景(南から)
 OT-1号火葬土坑全景(西から)
 OT-2号火葬土坑全景(東から)
 OT-3号火葬土坑全景(東から)
 OT-3号火葬土坑セクション
 OT-4号火葬土坑全景(東から)
 OT-4号火葬土坑セクション
 OT-5号火葬土坑全景(東から)
 OT-5号火葬土坑セクション
 OT-6号火葬土坑全景(西から)
 OT-6号火葬土坑底面施設(西から)
- PL-48 AY-1~7号墓壇
 OT-1・2号墓壇、AK-1号墓壇
 AY-1号墓壇(南から)
 AY-3号墓壇(東から)
 AY-4号墓壇(南から)
 AY-4号墓壇(北西から)
 AY-2号墓壇(北から)
 AY-5号墓壇(南から)
 AY-6号墓壇(東から)
 AY-7号墓壇(東から)
 OT-1号墓壇(西から)
 OT-2号墓壇(東から)
 AK-1号墓壇(南から)
- PL-49 墓壇出土遺物および人骨
 PL-50 AY-1~9号桶土坑および
 AY-1号桶土坑出土遺物
 AY-1号桶土坑全景(南西から)
 AY-1号桶土坑セクション
 AY-1号桶土坑遺物出土状態(南西から)
 AY-1号桶土坑出土遺物
 AY-2~4号桶土坑全景(南から)
 AY-5・6号桶土坑全景(北から)
 AY-7~9号桶土坑全景(南から)
- PL-51 AY-1~20号土坑
 PL-52 AY-16~44号土坑
 PL-53 AY-45~61号土坑
 PL-54 AY-62~79号土坑
 PL-55 AY-83~116号土坑
 PL-56 AY-117~169号土坑
 PL-57 AY-170~193号土坑
 PL-58 AY-197~242号土坑
 PL-59 AY-247~263号土坑
 PL-60 AY-264~282号土坑
- PL-61 AY-283~307号土坑
 PL-62 AY-310~336号土坑
 PL-63 AY-337~355号土坑
 PL-64 AY-356~376号土坑
 PL-65 AY-377~400号土坑
 PL-66 AY-401~442号土坑
 PL-67 AY-443~464号土坑
 PL-68 AY-459~485号土坑
 PL-69 AY-486~512号土坑
 PL-70 AY-509~529号土坑
 PL-71 AY-530~535号土坑、
 OT-1~17号土坑
 PL-72 OT-18~40号土坑
 PL-73 OT-36~71号土坑
 PL-74 OT-72~99号土坑
 PL-75 OT-100~121号土坑
 PL-76 OT-122~130号土坑
 AK-1~6号土坑
 PL-77 AK-7~21号土坑
 PL-78 AK-22~37号土坑
 PL-79 AK-36~53号土坑
 PL-80 安養寺森西遺跡土坑出土遺物
 PL-81 土坑および遺構外の出土遺物
 PL-82 弥生時代の遺跡
 遺物出土状態
 H区h-22G付近遺物出土状態
 H区1-20・21G付近遺物出土状態
 土器出土状態
 石鏃出土状態
- PL-83 弥生時代の遺物 土器(1)
 PL-84 弥生時代の遺物 土器(2)
 PL-85 弥生時代の遺物 石器(1)
 PL-86 弥生時代の遺物 石器(2)
 PL-87 弥生時代の遺物 石器(3)
 PL-88 弥生時代の遺物 石器(4)
 PL-89 氾濫層下堅穴住居と出土遺物
 OT-1号住居全景
 OT-1号住居遺物出土状態
 OT-1号住居出土遺物
- PL-90 氾濫層下畝(1)
 AY-D区氾濫層下第1面畝近接(南西から)
 AY-C・D区氾濫層下第2面畝全景(北西から)
 AY-D区氾濫層下第3面畝全景(南から)
 AY-D区氾濫層下第3面畝全景(南西から)
 AY-E区氾濫層下第1面畝全景(南東から)
 AY-E区氾濫層下第1面畝全景(南から)
 AY-E区氾濫層下第1面畝全景(南西から)
 AY-E区氾濫層下第2面畝全景(南西から)
- PL-91 氾濫層下畝(2)
 AY-E区氾濫層下第1面畝全景(南西から)
 AY-E区氾濫層下第2面畝全景(南西から)
 AY-F区氾濫層下第1面畝全景(南西から)
 OT-F区氾濫層下第1面畝全景(北西から)
 OT-F・G区氾濫層下第1面畝遠景(南西から)
- PL-92 氾濫層下畝(3)
 OT-G区氾濫層下第2面畝全景(南から)
 OT-G区氾濫層下第2面畝全景(南から)
 OT-G区氾濫層下第2面畝全景(南東から)
 OT-G区氾濫層下第2面畝近接(北東から)
 OT-H区氾濫層下第3面畝全景(北東から)
 AK-H区氾濫層下第1面畝全景(北西から)
 AK-I区氾濫層下第1面畝全景(南東から)
 AK-H・I区氾濫層下第1面畝調査風景
 (東から)
- PL-93 氾濫層下畝出土遺物(1)
 PL-94 氾濫層下畝出土遺物(2)
 PL-95 花粉分析・種子同定資料

出土遺物観察表

1. 竪穴住居出土遺物 安養寺森西遺跡

AY-1号住居跡出土遺物 (本文15頁 PL-10)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口 12.8 底 7.0 高 3.5	カマド火床上 7cmの3片 口 1/3 底 1/2	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。外面に接合痕状のヒビあり。ロクロ痕はやや弱い。内底は平滑。	①素地やや粗くボソボソしている。②還元焰。不十分で軟調。③灰白5Y7/2。ほぼ一様。④内底に墨書の可能性のある淡い黒色部分あり。
2 土鍾	長 3.9 端幅0.9~0.8 中幅 1.4 重 8.0g	カマド西袖前の 床直上完形	器面は平滑で成形痕はほとんど残っていない。使用痕は端部内側が若干窪む程度。	①素地やや緻密。0.5mm大の粗砂の混入やや多い。②酸化焰。硬調。③にぶい橙5YR7/3。一様。
3 土鍾	長 4.5 中径 0.9 端径 0.5 孔 0.2 重 5.0g	カマド火床直上 完形	器面は凹凸が少ないが、ややねじれて孔部まで歪む。わずかな使用痕が観察できる。	①素地やや緻密。混入物も少ない。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。ほぼ一様。

AY-2号住居跡出土遺物 (本文16頁 PL-10)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(須恵)	口(15.0) 底(6.8) 高[2.7]	埋没土 2片 1/4個体	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。残存部分に鈕の取り付けの痕跡なく、無鈕の蓋と思われる。ロクロ痕やや強い。	①素地はボソボソ。3mm大の片岩の混入目立つ。赤褐色鉱物混入。②還元焰。やや不十分でやや軟調。③黄灰2.5Y6/1。赤色味をおびるムラあり。
2 杯(須恵)	口(12.0) 高 2.9	埋没土 2片 2/5個体	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。内面のロクロ痕はきわめて弱く、平滑に仕上げている。	①素地やや粗い。2mm大の片岩、石英、黒色鉱物を含む。②還元焰。普通。③暗青灰5B4/1。口縁端部やや明度高い。
3 杯(土師)	口(1.8) 高[3.3]	埋没土 2片 図示部の1/3	口縁外面は上半で強いナデ、下半に指頭圧痕が残り、中央は無調整で細かなヒビがある。内面は布目状の強い擦痕が巡っている。外底は磨きに近い弱い削り。	①素地やや緻密。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。断面まで一様。
4 杯(土師)	口(12.2) 高[3.2]	埋没土 3片 口 1/3 底 1/10	口縁外面上半は粗いナデ、下半はきわめて雑なへら削りで、中央一部に無調整部分が残っている。内面のナデはやや丁寧。口縁は波状に歪み、径不安。	①素地普通。雲母細片、角閃石等の微細な混入物やや多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。濃淡あり一様でない。
5 甕(土師)	口(20.0) 頸(18.2)	埋没土 3片 図示部の2/5	コの字状口縁は内外面とも強いナデ。外面は中央でナデ弱く、圧痕状の窪みが残っている。	①素地普通。パミス、雲母細片まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。黒色味をおびるムラあり。
6 土鍾	長 4.7 中幅 1.2 端幅 0.5 孔 0.25 重 6.0g	埋没土 完形	器面は全体に摩滅して、成形痕は不明瞭。使用痕も少ない。	①粒子は細かいが粘性乏しく、ザラザラしている。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/2。一部黒色味をおびている。

AY-3号住居跡出土遺物 (本文18・19頁 PL-10)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口 13.1 高 4.3	南壁直下の床上 6cm=カマド内 口 1/4 底 3/4	右回転ロクロ→きわめて雑なへら削りで切り離し痕を消している。ロクロ痕はやや強く、内底では渦巻状。底部厚く重量。	①素地やや粗く、2mm大の長石、石英、片岩を含む。②還元焰。やや硬調。③黄灰2.5Y6/1。
2 杯(土師)	口(13.6)	埋没土 2片 図示部の1/5	外底の削りは細かく丁寧。内面のナデも強く丁寧で、平滑に仕上げている。口縁端部が太い。	①素地やや粗い。気泡まじる。パミス、角閃石、1mm大の角礫等も含む。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR6/3。外面黒色味おびるムラあり。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 杯(土師)	口12.2~12.6 高 [3.4]	カマド前面床 上 7cm 4片 4/5個体	口縁の形状は一定でない。外底の削りは雑で縁部では不明瞭。内面には細かな凹凸が多い。	①素地普通。角閃石、パミスまじりの砂粒の混入やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
4 杯(土師)	口(16.2)	南壁直下の床 上 6cm 図示部の1/3	外底の削りはやや弱いが丁寧。内面のナデも丁寧に平滑に仕上げている。歪みがあり、径・傾きとも不安。	①素地緻密だが、粘性に乏しい土がまじる。細砂の混入やや多くザラザラしている。②酸化焰。硬調で焼き締まる。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に灰色味をおびるムラ。
5 杯(土師)	口(13.0) 高 3.8	埋没土 口若干 底 1/2	外底は幅広く強い削り。内面のナデは丁寧。歪みが強く、傾き、径とも不安。	①素地はややボソボソしている。角閃石、パミス等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。外面は暗褐色のムラ広い。
6 杯(土師)	口 12.0 高 4.3	東壁直下の床 上 7cm 3/5個体	器面の剥落多く、整形痕は不明瞭。平面は楕円形に歪み径不安。	①素地やや粗くザラザラしている。角閃石、パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰。硬調で焼き締まる。③にぶい橙5YR7/3。内面やや彩度高い。
7 杯(土師)	口(19.6)	西壁寄の床 上 6cm 埋没土 3片 図示部の1/3	外面の削りは幅広く強く息長い。内面のナデも強く、幅太の擦痕が巡っている。	①素地やや粗く、気泡まじる。角閃石、雲母細片等の細かな混入物含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/4。黒色味の強いムラ多い。④二次被熱により器面やや脆弱化している。
8 杯(土師)	口14.9~15.5 高 4.1	北壁下~住居 中央床上 8cm 埋没土 2片 ほぼ完形	口縁内外面に布目状のナデ時の擦痕が残っている。底部は凹凸多く、成形時補修の痕跡が、外面は接合痕、内面は押圧痕となって残っている。	①素地普通。パミス、角閃石等微細な混入物を含む。②酸化焰。やや硬調。③橙7.5YR7/6。外面一部灰色味をおびる。
9 甕(土師)	口16.2~17.0 頸14.2~14.8	カマド前面床 上 6cm 図示部ほぼ完存	外面の削りはやや細かいが、内面胴部ナデは幅太の工具を使用。口縁外面のナデは雑で端部の形状は一様でない。	①素地やや粗い。雲母細片、赤褐色鉱物等の微細な混入物を含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。内外面とも黒斑あり。
10 甕(須恵)	口(19.0) 胴 29.2 高 28.8	住居中央床上 6cm 口 1/3 胴~底 2/3	外面は平行叩きの上にやや強い横位ナデ。内面は青海波状の雑なアテ具痕。外底周辺のみ著しく摩滅している。	①やや砂質でザラザラした素地。片岩を若干含んでいる。②還元焰。普通。③灰10Y5/1。内面は明度高い。
11 大甕(須恵)	頸(33.0)	図示部の1/10 埋没土	外面はカキ目のような横位の細かな叩き。内面は同心円状の整ったアテ痕が残っている。口縁外面はやや不明瞭な沈線区画内に櫛描波状文を施文。	①素地やや緻密。2~3mm大の片岩がやや目立つ。チャート、長石等雑多な混入物を含む。②還元焰。普通。③表面赤灰2.5YR4/1。断面灰赤10R5/2。
12 鎌(鉄器)	刃渡 12.8 峰厚 0.25	南西隅壁直下 ほぼ完形	研ぎ減り少ないが、刃部に刃こぼれあり。小振りの鎌であるが、刃こぼれの範囲より柄の径は約2.5cmと推定。	①著しいフレなく農具としてはやや良好。
13 鎌(鉄器)	刃渡 15.1 峰厚 0.25	北西隅付近 ほぼ完形	折り返し部分に木質が若干残存している。木質より柄の復元径は2cm以上になる。研ぎ減りはやや少ない。	①断面はめくれるように割られる。普通。
14 鎌(鉄器)	刃渡[11.8] 峰厚 0.2	西壁際埋没土 切先部を欠く	研ぎ減り著しく旧状は不明だが、峰部は直線的であり他の2点より大型となる可能性あり。研ぎ残しの範囲より柄の径は2.5cmと推定される。	①フレ少なく農具としてはやや良好。
15 刀子(鉄器)	刃渡 8.3 茎長 5.8 峰厚 0.45	埋没土 完形	峰部の厚さに比較して刃部は著しく短く、かなり研ぎ減りしたのと思われる。基部は切先と同じように減っていることから、柄を外して研いでいることが判る。	①良好。錆化は進む。
16 鎌か(鉄器)	長 [3.5] 幅 0.6 厚 0.4	埋没土 身部と端部欠く	断面長方形で、刀子か鎌の茎と思われる。木質等は残存しない。両端の欠失は旧時のもの。	①軽量で材質はあまり良くない。
17 刀子(鉄器)	茎長[3.6] 刃渡[2.8] 峰厚 0.45	埋没土 両端を欠く	研ぎ減り著しく残存部分はわずか。茎に木質が若干付着し残存している。峰部分はやや太く、関も深く、比較的大型の刀子であった可能性もある。	①鉄の質は良く、錆化が進んでいるが、フレ等は少ない。
18 鎌か(鉄器)	長 [7.8] 幅 0.4 厚 0.3	埋没土 両端を欠く	X線写真では、錆のかたまりの中に関と思われる部分が見られる。茎とすれば、鎌の可能性が高い。先端が扁平であることから斧矢状の鎌と思われる。	①錆化によるフレ少なく、材質は比較的良好。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
19 刀子か (鉄器)	刃渡 4.4 峰厚 0.05	埋没土 両端欠く	刀子刃部と思われるが、薄く、天地不明。刃こぼれ状の欠損が片側に集中していることより、峰と刃を区別した。14の鎌と同一個体の可能性あり。	①透化すすむがフクレ等は少なく材質は良好で農具とは考えにくい。
20 土錘	長 4.6 中径 1.2 端径 0.4 孔 0.2 重 6.0g	埋没土 完形	22にほぼ同じ。図示部は平面形の歪みの最も大きな部分。使用痕が図示部上端にわずかに観察できる。	①22にほぼ同じ。②22にほぼ同じ。③22にほぼ同じ。
21 土錘	長 5.3 幅 1.2 孔穴 0.25 重 7.0g	埋没土 完形	やや歪んでいる。成整形痕はほとんど残っていない。使用痕は一端でわずかに観察できる。	①素地やや粗い。粗砂の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。黒斑部分広い。④孔内に炭化した糸が残存している。口絵2参照。
22 土錘	長 5.1 中径 1.2 端径 0.4 孔 0.2 重 6.0g	北壁際 完形	器面は摩滅して、成形痕はほとんど見えない。使用痕もほとんど認められない。	①素地は緻密だがやや粘性を欠く。角閃石、赤褐色鉱物等を含む。②酸化焰。普通。③灰白2.5Y8/2。ほぼ一様。
23 土錘	長 4.6 中径1.2~1.3 端径 0.4 孔 0.2 重 6.0g	北壁寄り埋没土 完形	両端部付近に片側から強い押圧を受けた歪みあり。器面は摩滅して成形痕はほとんどわからない。使用痕もほとんど観察できない。	①素地やや粗くザラザラしている。角閃石、長石等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙10YR7/3。ほぼ一様。
24 土錘	長 4.9 中径 1.1 端径 0.4 孔 0.15 重 5.0g	埋没土 完形	孔はやや小さい。一端で指頭の押圧痕が残っている。使用痕は見つからない。	①素地普通。赤褐色鉱物、石英等を含む。②酸化焰。普通。③灰白2.5Y8/2。ほぼ一様。
25 土錘	長 4.5 中径 1.2 端径 0.5 孔 0.2 重 5.0g	埋没土 完形	器面にねじれたようなヒビあり。成形痕は摩滅のため観察できない。使用痕も見つからない。	①23に近い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/4。黒斑あり。
26 土錘	長 [3.7] 中径 1.2 端径 0.4 孔 0.15 重 5.0g	埋没土 2/3個体	孔は細い。成形痕は不明瞭。使用痕は観察できない。欠損は旧時のもの。	①23に近い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。黒斑あり。
27 紡錘車	上径 4.2 下径2.1~2.3 高 2.0 孔 0.7 重 46.0g	西壁際 完形	側面中央の研磨(または摩滅)が弱く光沢がない。この部分に放射状を中心とする不規則な刻線状のキズがある。	①蛇紋岩。
28 紡錘車	上径 4.0 下径 2.5 厚 1.7 孔 0.8 重 44.0g	カマド北袖際 完形	外面全面に研磨、および光沢がある。上面で一方向、側面・下面に方向不定の鋭い擦痕が残っている。	①蛇紋岩。

AY-4号住居出土遺物 (本文21頁 PL-11)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口(14.8) 底(10.0) 高(3.3)	埋没土	右回転ロクロ→底部残存部分は回転ヘラ削り。ロクロ痕は内外面ともやや強い。	①素地やや砂質。白色砂粒、輝石等を含む以外混入物少ない。②還元焰。やや硬調。③灰10Y6/1。内面は明度高い。
2 杯(土師)	口 11.9 高 3.3	埋没土2片 1/2個体	外面の削りはやや弱いが丁寧。内面のナデも丁寧で平滑に仕上げている。	①素地普通。パミス、角閃石等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。一様。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 杯(土師)	口(13.2) 高〔4.0〕	埋没土2片 口 1/4 底 1/3	外底の削りは幅広くやや強い。内面のナデも強いが器面には凹凸あり。	①素地普通。1mm大の礫、角閃石、雲母細片等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。内外面に黒斑あり。
4 鉢か (土師)		カマド内ニ埋 没土2片	厚手で底部が小さく、広口の鉢になると思われる。外底に弱い削りのあとが残る。内面は指頭によるとと思われる方向不定のナデ。	①やや粒子の粗い素地。0.5mm大のバミスやが多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙10YR7/3。黒色味をおびるムラあり。④内面全面に漆状の薄い付着物あり。
5 杯(土師)	口 13.8 高 4.0	カマド北袖脇 床直上2片 3/4個体	外面の削りは幅広く強い。内面のナデもやや強く丁寧だが、器面には細かな凹凸が多い。	①素地やや緻密。雲母細片、バミス、チャート等を含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。外面に彩度の低いムラあり。
6 杯(土師)	口 15.8 高 4.9	埋没土4片 口 2/3 底 完存	外底の削りはやや弱い。幅広く息長い。無調整部分広い。内面のナデは丁寧で強い。	①素地普通。バミス、角閃石、1mm大の礫を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。外面に灰色味の強いムラあり。
7 杯(土師)	口 14.4 高 4.4	埋没土6片 完形	外底の削りはやや弱い。幅広く息長い。内面のナデは強く、口縁部には布目状の擦痕が巡っている。内面にモミ状の圧痕あり。	①素地普通。バミス、角閃石等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。底部は内外面とも彩度低い。
8 甕(土師)	口(26.0) 頸(23.0)	南壁直下床直上 図示部の1/3	口縁外面のナデ弱く、明瞭な接合痕が残っている。肩部の削りは丁寧。内面は口縁部のみ強いナデ。	①素地やや粗い。チャート、輝石等微細な混入物やや多い。②酸化焰。やや硬調。③外面にぶい橙5YR7/4。内面黒色。
9 土錘	長〔4.3〕 中径 1.3 端径 0.7 孔 0.3 重 9.0g	埋没土 2/3個体	器面にはねじれたような細かな凹凸があり、平滑さにやや欠ける。使用痕は観察できない。	①素地普通。角閃石、バミス等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙10YR7/3～黒褐10YR3/2。

AY-5号住居出土遺物 (本文22頁 PL-11)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口 11.9 高 3.1	カマド北袖前 面ニ埋没土3片 口 2/5 底 3/5	外底の削りはやや雑。口縁の無調整部分も広い。内面はやや強いナデ。口縁内面に焼成前の可能性のある不明瞭な線刻あり。	①素地普通。角閃石、石英、チャート等少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい褐7.5YR6/3。外面に黒斑あり。
2 杯(土師)	口(13.2) 高 3.6	埋没土2片 図示部の1/5	外底の削りは方向不定。雑で強く、器面に凹凸あり。内面のナデも強いが、器面に凹凸が残っている。	①素地やや緻密。角閃石、バミス等を少量含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4～黒褐10YR3/2。一様でない。
3 杯(土師)	口(16.8) 高〔6.7〕	北西壁隅直下2 片ニ埋没土3片 図示部の1/4	外面の削りは幅広く雑でやや強い。口縁部の無調整部分も広い。内面のナデはやや丁寧。口縁は波状に歪んでおり傾き、径ともに不安。	①素地やや粗い。輝石、角閃石等の小粒の混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/3～にぶい黄褐10YR5/3。
4 土錘	長 4.9 中径 1.1 端径 0.4 孔 0.1 重 6.0g	埋没土 完形	孔径がきわめて小さい。器面摩滅していて整形痕は見えないが平滑である。使用痕はわずかしか見えない。	①素地普通。砂粒やや多くザラザラしている。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/4。灰色味をおびるムラあり。

AY-6号住居出土遺物 (本文24頁 PL-11)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口(12.0) 高〔3.8〕	南壁際 図示部の2/5	左回転クロー残存する底部の全面に回転ヘラ削り。端部内面と外底縁部が若干摩滅している。	①素地普通。黒色鉱物、片岩、チャート等の混入やや多い。②還元焰。普通。③黄灰2.5Y6/1。
2 杯(土師)	口(12.6) 高〔3.1〕	埋没土3片 図示部の1/3	外面の削りは丁寧で口縁端部のナデはきわめて強い。内面に丁寧で細かな放射状暗文を施している。	①素地普通。輝石、石英まじりの粗砂を少量含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。内面にぶい橙5YR6/4。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 杯(土師)		東壁際埋没土 底 1/3	口縁の深い鉢形土器と思われる。平坦な内底に4本の直線を中央で交鎖させ放射状の意匠となる弱い線刻を施している。外底は幅太の削り。	①素地やや緻密。輝石のまじる細砂を含む。気泡がまじる。②酸化焰。硬調で焼き締まる。③にぶい橙5YR7/4。断面はやや灰色味をおびる。
4 杯(土師)	口(13.8) 高 4.2	埋没土2片 1/4個体	外底の削りは雑でやや弱い。口縁下半の無調整部分も広い。内面は丁寧で強いナデで仕上げている。	①素地普通。角閃石、2mm大のチャート等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内面は赤色味をおびる。
5 土鍾	中径 1.1 孔 0.3 重 2.0g	埋没土 図示部の1/2	器面は摩滅して整形痕は不明瞭。	①素地やや緻密だが粘性に欠ける。混入物少ない。②酸化焰。普通。③灰白10YR8/2。黒斑あり。

AY-7号住居出土遺物 (本文26頁 PL-11)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口17.2~17.8 高 [6.9]	カマド内35片 ほぼ完形	外面の削りは強く細かく、無調整部分をほとんど残さない。口縁のナデも強い。内面のナデもやや強く、やや粗い布目状の擦痕が巡っている。	①素地普通。角閃、パミス、赤褐色鉱物等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙2.5YR6/4~7.5YR7/4。
2 杯(土師)	口17.9~18.6 高 [4.8]	南東壁下カマド北袖前面埋没土4片 7/8個体	外面はやや強く細かな削り。口縁部の無調整部分も平滑。内面のナデも強く、やや粗い布目状の擦痕が規則的に巡っている。	①素地普通。輝石、パミス等の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。外面は赤色味・灰色味をおびるムラあり。④内底に赤色顔料状の付着物あり。
3 杯(土師)	口14.7~15.6 高 4.1	南東壁下床上7cm 8片 ほぼ完形	口縁には細かな波状の歪みあり。器形も左右非対称。外底の削りは丁寧でやや細かい。内面のナデは強く、布目状の粗い擦痕が巡っている。	①素地普通。パミス等小粒の混入物を少量含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい黄褐10YR5/3。内面にぶい黄褐10YR5/3。④漆状の薄い付着物あり、一部黒褐色で光沢あり。
4 杯(土師)	口 15.5 高 5.2	南東壁直下7cm ほぼ完形	外底の削りは規則的で丁寧。内面のナデも丁寧で強く、器面は平滑。布目状のやや粗い擦痕が巡っている。	①素地普通。角閃石、パミス、1mm大の礫等を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい褐7.5YR6/3。
5 杯(土師)	口(12.0) 高 3.5	カマド内 口 2/5 底 3/5	外底の削りはやや丁寧。口縁部ナデの範囲は狭い。内面のナデは丁寧でやや強い。内底に焼成後の不規則なヘラ描きあり。	①素地やや緻密。角閃石、パミス、雲母細片等の微細な混入物を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内外面に黒斑あり。
6 杯(土師)	口14.5~14.9	中央東床直上2片 床上3cm 図示部の4/5	口縁部は波状に大きく歪む。外面の削りは丁寧で強く、無調整部分を残さない。内面のナデもきわめて強く、粗く不規則な擦痕が巡っている。	①素地普通。パミス、角閃石等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/3。色相、彩度とも一様でない。
7 杯(土師)	口(12.4) 高 [3.3]	南東壁下7cm 2片 図示部の2/5	外底の削りはやや雑。口縁のナデも範囲が狭い。内面のナデは丁寧でやや強く、平滑に仕上げている。	①素地普通。パミス、1mm大のチャート等を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内外面に黒斑あり。
8 鉢(土師)	口 18.0 高 [4.8]	南東壁床直上埋没土4片 図示部ほぼ完存	外面の削りは丁寧でやや強い。内面のナデもやや強く、布目状の擦痕が巡っている。内面は細かな凹凸多い。	①素地普通。角閃石、パミス、チャート等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。下半は内外面とも灰色味強い。
9 甕(土師)	口(22.0) 頸(17.2)	北壁下床直上2片 図示部の1/3	外面の削りは丁寧。口縁部のナデは無調整部分をほとんど残さない。内面のナデも丁寧。	①素地普通。角閃石、雲母細片のまじる砂粒やや多い。②酸化焰。やや硬調。③橙5YR6/6。内面下半は彩度低い。
10 甕(土師)	口13.6~14.3 底 5.6~6.3 高 14.5	カマド内 完形	外面削りは幅広い工具を使用し丁寧で強い。内面には布目状のやや細かな擦痕が残っている。内面中位に油煙状の光沢のある黒色の付着物あり。	①素地普通。微細なチャート、石英等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR6/3。赤色味、黒色味あるムラあり一様でない。
11 羽口		埋没土 図示部小片	基部がわずかに開く羽口と思われる。外面に幅広い板状工具による圧痕が残る。12とは別個体と思われる。	①ボソボソの粗い素地。スサの混入は少ない。1mm大のチャートの混入やや多い。②③12に類似している。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
12 羽口	径(7.2) 孔(3.0)	埋没土 図示部小片	基部がやや開く羽口の破片。外面に板状工具による圧痕が縦位に見られ、横断面はやや角柱状になる。内面はやや平滑。	①ボソボソの粗い素地にスサを少量まぜている。パミス、角閃石等の混入物もない。②酸化焰。二次被熱の影響で硬質になっている。③にぶい黄橙10YR 7/3。黒褐色部分も広い。
13 土錘	長 4.5 中幅 1.2 端幅 0.5 孔 0.2 重 5.0g	南中央壁下9cm 完形	押圧痕がわずかに観察できる。使用痕は不明瞭。	①素地普通。角閃石、パミス、チャート等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10Y7/2。黒斑広い。

AY-8号住居出土遺物 (本文28頁 PL12)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口 11.6 高 3.4	中央南西寄り 床直上 口 3/5 底 完存	左回転ロクロ→回転ヘラ切り無調整。内底には渦巻状のロクロ痕が残っている。外底は研ぎ込んだように平滑。	①素地やや緻密。1mm大の礫、パミスを少量含む。②還元焰。やや硬調。③灰白10Y8/1。内外面同様。
2 高台付杯(須恵)	口 11.1 台 7.1 高 5.3	南壁直下床直上 完形	右回転ロクロ→回転ヘラ切り→回転利用の雑な高台取り付け。ロクロ痕弱く内底も平滑。	①素地普通。黒色鉱物、3mm大の片岩等を含む。②還元焰。硬調で焼き締まる。③灰白10Y7/1。内外面同様。
3 杯(土師)	口 15.7 高 3.5	208土坑に埋没 土8片 ほぼ完形	外底の削りは幅広く息長く規則的、また無調整部分をあまり残さない。内面のナデは強い。やや厚手で重量。	①素地普通。雲母細片、1mm大のチャート等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ同様。
4 杯(土師)	口(12.4) 高〔 3.3〕	埋没土 図示部の1/4	外底は細かく強い削りで、縁部にも削り残り部分はない。内面のナデも強いが、底部に細かな凹凸が残る。	①素地普通。輝石、パミス等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。明度、色調とも同様でない。
5 杯(土師)	口(12.2) 高〔 2.5〕	208土坑に埋没 土2片 図示部の1/5	外面の削りは細かいが、強くて不規則。縁部に削り残り部分がある。内面のナデは丁寧。内面に線刻状の不明瞭な傷がある。	①素地普通。輝石、パミス等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。内面やや彩度低い。
6 杯(土師)	口 15.6 高 2.9	208土坑3片 埋没土6片 口 2/3 底部ほぼ完存	平底気味。外底の削りはほぼ一方雑。縁部の削り残り部分も広い。内面のナデは丁寧で、布目状のやや粗い擦痕が巡っている。	①素地普通。輝石、パミス等細かな混入物のまじる砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。明度の低いムラあり。
7 甕(土師)	口(22.4) 頸(17.4) 胴(20.2)	西壁下床直上 カマドに埋没土 図示部の1/2	外面は上部に横位の削りの後、縦位の丁寧な削りを加えている。内面のナデは幅広いの工具痕が残っている。	①素地やや粗い。砂粒の混入やや多い。②酸化焰。③にぶい橙5YR7/4。破片ごとに異なっている。④破損後の二次被熱の影響強い。

AY-9号住居出土遺物 (本文30頁 PL-12)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口(13.6) 底(8.6) 高 4.4	南西壁下5片 口 1/4 底部ほぼ完存	右回転ロクロ→回転糸切り→縁部回転ヘラ削り。ロクロ痕は弱く細かい。	①素地普通。黒色鉱物、チャート等を少量含む。②還元焰。やや硬調。③灰白5Y8/1。黒色味をおびるムラあり。
2 杯(土師)	口 13.2 高(3.1)	埋没土2片 口 2/5 底 1/5	器面は摩滅し、整形痕は不明瞭。外面口縁のナデの範囲は広い。内面のナデは強い。	①素地普通。輝石、角閃石、石英、パミス等細かな雑多な混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。外面一部赤色味が強い。
3 杯(土師)	口(13.6) 高〔 2.7〕	埋没土 カマド 前面床直上 図示部の1/8	外面口縁部のナデは下半にナデ残しがある。内面のナデは丁寧で平滑に仕上げている。内面に2ヶ所の線刻あり。	①素地やや緻密。輝石等のまじる砂粒を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。明度の低いムラ多い。
4 杯(土師)	口 13.8 高(3.5)	図示部の2/5	外底の削りは残存部分で一方雑。口縁下半の無調整部分広い。内面のナデはやや雑で器面に細かな凹凸あり内底縁部に焼成後の線刻「メ」あり。外面口縁下半にスス状の付着物あり。	①素地普通。角閃石、パミス等のまじる粗砂の混入やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。外面やや彩度低い。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
5 甕(土師)	口(14.4) 高〔 5.2〕	埋没土 図示部の1/3	外面の削りは強く鋭い。口縁部のナデも強いが、頸部屈曲部分は無調整部分が残る。内面のナデは丁寧。	①素地普通。チャート、石英まじりの砂粒を含む。 ②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面はムラが多い。
6 甕(土師)	口(22.0) 頸(18.0)	カマド前面床 直上の13片 口 1/2 胴上半 1/4	外面の削りは幅広く息長く強い。口縁付近のナデは頸部に強い擦痕が残っている。内面のナデは丁寧。二次被熱の影響あり。	①素地普通。バミス、雲母細片等のまじる砂粒やが多い。 ②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。赤色味、黒色味をおびるムラ多く一様でない。

AY-10号住居跡出土遺物 (本文31頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(13.2) 高 3.6	埋没土 5片 口 1/2 底 1/3	外底きわめて幅広く息長い削り。口縁下半無調整だが器面の凹凸少ない。内面のナデは強いが底部の凹凸が残る。	①素地普通。角閃石、バミス等小粒の混入物含む。 ②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。内面は赤色味が強い。
2 杯(土師)	口(12.4) 高 3.6	カマド内 2片 埋没土 2片 図示部の1/4	口縁端部の形状は様でない。外面削りは幅広くやや鋭い。口縁下半に指頭状の圧痕。内面ナデはやや雑で強い。	①素地普通。角閃石、バミス等を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
3 土錘	中径 1.3 端径0.5~0.7 孔 0.4 長 4.6 重 6.0g	埋没土 完形	幅に比べて孔の径が大きく端部は尖っている。成形痕は不明瞭。両端に強くこすれた使用痕が残っている。	①素地普通。混入物少なく良好。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
4 土錘	端幅 0.6 孔 0.4 長〔 3.1〕 重 2.0g	埋没土 1/3個体	先端が尖り孔径も大きいため軽量である。成形痕は不明瞭。使用痕もあまり明瞭でない。	①②③に近似している。

AY-11号住居跡出土遺物 (本文34頁 PL-12)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(須恵)	口(14.0) 高〔 2.1〕	カマド掘方 図示部の1/6	鈕部分を欠失。右回転クロー→天井部 外面は広範囲に回転ヘラ削り。内面の ロクロ痕はやや強い。	①素地普通。白色砂粒以外の混入物少ない。②還元 焰。普通。③暗青灰10Bg4/1。断面一部は赤褐色を呈 している。
2 杯(土師)	口(15.0) 高 2.8	カマド掘方2片 口 1/8 底 3/4	外底は一方の丁寧なナデ。内面のナ デも丁寧だが、底部に指頭圧痕が多く 平滑さに欠ける。	①素地普通。細砂の混入やや多いが、大粒の混入物 なし。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4で一様。 断面は黄色味強い。
3 杯(土師)	口(13.4) 高 3.3	掘方6片≠埋没 土 2片 口 1/4 底 3/4	外底の削りは雑で細かく方向不定。内 面のナデはやや強い。口縁外端は小さ く肥厚しているが形状は一定でない。	①素地やや粗くボソボソ。バミス、角閃石等含む。 ②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外底はや や灰色味をおびる。
4 杯(土師)	口 12.6 高 3.7	掘方7片≠埋没 土 口 1/2 底部ほぼ完存	外底の削りは丁寧でやや鋭い。内面の ナデも丁寧だが、底部は凹凸あり。	①素地普通。バミス、雲母細片等を含む。②酸化焰。 やや軟調。③橙5YR6/6。外底に黒斑あり。
5 杯(土師)	口 15.7 高 3.8	カマド燃焼部内 ≠掘方 口 2/5 底 3/5	外底の削りは強く鋭い。内面のナデは やや強いが器面は凹凸あり。薄手。	①素地やや粗い。角閃石、バミス等の混入物やや多 い。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐5YR5/4。外底は 黒斑広い。
6 杯(土師)	口(13.4) 高〔 3.6〕	掘方埋没土 4片 ≠9住埋没土 図示部の2/5	外底は幅広く息の長い削り。口縁下半 の無調整部分広い。内面のナデはやや 粗い。内底縁部に楕円形の不明瞭な圧 痕が巡っている。	①素地普通。1mm大の混入物やや多い。②酸化焰。 普通。③灰黄褐10YR5/2。内面は黒色味をおびる。
7 杯(土師)	口(13.8) 高〔 3.7〕	掘方 図示部の1/3	口縁内端は小さく肥厚するが、形状は 一定していない。外面の削りは丁寧で やや強い。内面のナデも強い。	①素地普通。バミスまじりの粗砂を含む。②酸化焰。 普通。③橙5YR6/6。内面は彩度低い。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
8 杯(土師)	口14.1~13.8 高 4.2	掘方6片=9 住3片 口 3/4 底部ほぼ完存	外底の削りは丁寧でやや鋭い。内面のナデも丁寧だが底部には細かな凹凸が残る。外底にモミ状の圧痕あり。	①素地普通。混入物少なく良好。②酸化焰。普通。③橙7.5YR7/6。ほぼ一様。
9 甕(土師)	口(13.8) 高(5.9)	カマド燃焼部内 2片=掘方 埋没土2片 図示部の3/4	外面の剥落すすみ整形痕は不明。内面のナデは丁寧で、胴部も平滑に仕上げている。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰。③にぶい橙2.5YR6/4。内面暗赤褐5YR3/2。④二次被熱の影響強い。
10 甕(土師)	口(20.0) 頸(16.0)	竈掘方3片 埋没土2片 図示部の1/6	外面は口縁に強いナデ。胴部の削りは幅広。内面のナデは丁寧。歪みあり径不安。	①素地普通。赤褐色鉱物、チャート等の混入物やや多い。②酸化焰。やや硬調。③橙2.5YR6/6。内面にぶい黄橙10YR7/3。
11 甕(土師)	口(23.0) 高〔 5.2〕	掘方=9住 図示部の1/4	口縁端部はやや尖っている。外面の削りは強いが、ナデ部分は不整。内面のナデはやや丁寧。	①素地やや粗い。砂粒、輝石等の混入多い。②還元焰。やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。黒斑部分広い。

AY-12号住居跡出土遺物 (本文35頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	底 6.4 高〔 2.5〕	埋没土 底 完存 口下半 1/2	右回転ロクロ→回転ヘラ切り無調整。内底のロクロ痕は渦巻状。残存部のロクロ痕は弱い。	①素地やや緻密。2mm大の片岩、チャート等を少量含む。白色針状鉱物を散見する。②還元焰。普通。③赤灰5R5/1で断面まで一様。
2 杯(土師)	口(11.8) 高(3.7)	埋没土2片 図示部の1/6	歪みのある破片からの復元で、口径、傾きともに不安。外面の削りは幅広で丁寧。口縁部のナデは下半の無調整部分広い。内面のナデは強く、粗い擦痕巡っている。	①素地普通。輝石まじりの砂粒を少量含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/3。④内底に漆状の薄い付着物あり。

AY-13号住居跡出土遺物 (本文38・39頁 PL-12)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(須恵)	口 16.7 高 3.7 鈕 3.5	南東隅付近床 直上=南東壁 直下床直上 カマド南袖前 面床直上 ほぼ完形	右回転ロクロ→回転糸切り→天井縁部に雑な回転ヘラ削り→鈕取り付け。ロクロ痕弱い。内端の折り返しは鋭い。上面の色調の差より口径14.7cm前後の杯の上で倒置して重ね焼きしたことが判る。	①ザックリしたやや粗い素地。赤褐色鉱物、片岩等の混入物多い。②不十分な還元焰。やや軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。縁部灰10Y4/1。
2 蓋(須恵)	口(17.6) 高〔 3.4〕	南東隅付近床 直上=カマド内 =周溝内 埋没土3片 図示部の2/5	右回転ロクロ→天井部に狭い範囲で雑で弱い回転ヘラ削り。鈕の痕跡あり。ロクロ痕やや弱い。	①素地やや粗い。片岩、赤褐色鉱物等1mm大の混入物含む。②不十分な還元焰。やや軟調。③橙2.5YR6/6。暗褐10YR3/3。破片毎に異なる。④破損後に二次被熱。
3 蓋(須恵)	口 17.9 高 4.4 鈕 3.8	南東隅付近床 直上=南東壁 直下床直上 7/8個体	右回転ロクロ→天井部に幅太の回転ヘラ削り→鈕取り付け。ロクロ痕はやや弱い。縁部に粘土を貼り付けた焼成前の雑な補修痕あり。	①素地普通。チャート、粗砂等を少量含む。②不十分な還元焰。やや軟調。③橙2.5YR6/6。内面灰白2.5Y8/2。
4 双耳杯 (須恵)	口 (13.5) 高台 9.0 高 4.5 耳 17.0	埋没土6片 口 1/3 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り→外底のほぼ全面に回転ヘラ削りと思われる擦痕が残る。内底のロクロ痕は渦巻状。耳部にはヘラ削り痕の上に指紋が残っている。外底は摩滅していて硯として使用した可能性あり。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物、1mm大の粗砂等を含む。②還元はやや不十分だが普通。③灰白5Y7/1。内面は赤色味をおびる。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
5 杯(須恵)	口 13.8 底 7.7 高 4.1	南東隅付近壁 直下床直上 口 1/2 底 完存	片回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕は内面でやや強く、底部は渦巻状。	①素地普通。1mm大のチャート、赤褐色鉱物等を含む。②還元焰。普通。③灰白7.5Y7/1。外面に暗褐色のムラ広い。
6 杯(須恵)	口(16.4) 底 9.6 高 6.0	南東隅付近壁 直下床直上 カマド内 口 1/4 底 3/4	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕は細かくやや強く、内底では渦巻状。厚手で重量。	①ややザラザラした粗い素地。角閃石、赤褐色鉱物等を含む。②還元やや不十分で軟調。③灰黄褐10YR4/2。赤色味、黒色味おびるムラあり。④破損後の二次被熱の影響あり。
7 杯(須恵)	口 16.3 底 9.4 高 5.7	中央床直上 南東隅付近壁 直下床直上 口 2/3 底完存	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕やや弱く細かい。厚手で重量。	①ザックリした素地。チャート、黒色鉱物等の混入やや多い。②還元焰。やや硬調。③灰10Y6/1。内底やや黒色味をおびる。
8 杯(須恵)	口(13.0) 底 8.0 高 4.1	埋没土4片 口 2/5 底 3/5	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。内面口縁上半の窪み強いが、形状は一定していない。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、石英、1mm大の礫を含む。②還元焰。やや軟調。③灰白5Y7/1。一部赤色味をおびる。
9 杯(須恵)	底 6.5前後 と思われる	埋没土 底 小片	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。内底は平坦。外底に「×」印の焼成前の弱い線刻あり。	①素地普通。細砂を含む。②還元焰。普通。③灰白7.5Y7/1。断面一部赤色味をおびる。
10 杯(土師)	口(12.6) 高〔3.4〕	埋没土4片 口 2/5 底 1/5	外底はやや弱い丁寧な削り。口縁部のナデはきわめて強く、無調整部分との境に段ができる。口縁内端は小さく屈曲しているが形状は一様でない。内面のナデも強い。	①素地普通。パミス、石英等の小粒の混入物含む。②酸化焰。普通。③明赤褐2.5YR5/6。一様。
11 杯(土師)	口(11.0) 底〔6.6〕 高 3.4	南東隅付近壁 直下床直上 口 1/4 底 1/2	外底は一方方向の丁寧な削り。口縁上半のナデは強いが接合痕が残っている。下半に指頭状の圧痕あり。内面のナデは丁寧。	①素地普通。パミス、角閃石等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。ほぼ一様。
12 杯(土師)	口 11.0~11.4 底 7.7 高 3.7	南東隅付近壁 直下床直上 埋没土6片 ほぼ完成	外底の削りは方向不定でやや雑。口縁下半に指頭状の圧痕が巡っている。内面のナデはやや丁寧だが器面の凹凸が目立つ。	①素地普通。パミス、角閃石、片岩等を少量含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。内面に黒斑あり。
13 杯(土師)	口 11.8 底 7.2~7.6 高 3.5	南東隅付近壁 直下床直上 カマド南袖脇 床直上 完形	外底の削りは雑で弱く成形時の窪みが残っている。口縁下半に指頭状の圧痕わずかに残る。内面のナデは強いが器面は凹凸。口縁は波状に歪んでいる。	①素地普通。角閃石、2mm大の礫等を少量含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/3。ほぼ一様。④素地緻密。細砂以外の混入物少ない。
14 杯(土師)	底〔7.2〕	埋没土3片 底 3/4 口下端 1/4	右回転ロクロか。外底残存部分全面に回転ヘラ削り。内面は底部に一方方向、口縁に弧状の丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。薄手でシャープな土器。	②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。黒斑状のムラあり。内面やや光沢のある黒色。
15 杯(土師)	口(17.0) 底〔9.2〕 高〔5.7〕	東壁下中央 床直上 カマド 内埋没土 図示部の1/4	右回転ロクロか。外面は口縁中位まで幅太の回転ヘラ削り。内面はやや幅太のヘラ磨き。	①素地普通。赤褐色鉱物のまじる細砂を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。黒色味の強いムラあり。内面は 光沢の弱い黒色。
16 甕(土師)	口(19.6) 頸(17.6) 高〔7.8〕	カマド内埋没土 図示部の1/5	外面の削りは丁寧でやや鋭い。口縁のナデも丁寧だが頸部に接合痕が残る。内面のナデも甕類としては丁寧。	①素地普通。パミス、赤褐色鉱物等小粒の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③明赤褐2.5YR5/6。黒色味をおびるムラあり。
17 甕(土師)	口(20.2) 頸(17.4) 高〔7.1〕	埋没土6片 図示部の1/6	外面の削りはやや鋭い。ナデはやや丁寧。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、粗砂の混入やや多い。②酸化焰。普通。③橙5YR7/6。ほぼ一様。
18 甕(土師)	口(17.2) 頸(15.4) 高〔5.1〕	南東隅付近壁 直下床直上 埋没土3片 図示部の2/5	外面の削りはやや強い。頸部のナデも強く、一部に稜ができる。内面のナデは丁寧で強く、深いヘラの痕が残っている。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、パミス等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③暗赤褐5YR3/2~にぶい赤褐2.5YR5/4。④外面頸部の剝落著しい。
19 甕(須恵)	口(17.4) 頸(14.6) 高〔27.7〕 胴(26.2)	中央東寄り床 直上=20住居 埋没土 口 1/8 胴 1/3	内面胴部には指頭痕状の窪みが全面に見られ、肩部付近のみロクロ痕に似た稜が巡っている。外面全面は横位ナデだが器面の平滑さにやや欠ける。	①ザラザラしたやや砂質な素地。片岩、長石等3mm大の細礫やや多い。②還元焰。普通。③青灰5B6/1。断面は赤色味が強い。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
20 鎌か (鉄器)	刃渡 [4.4] 峰厚 0.1	埋没土 身部破片	形状より刀子か鎌と思われるが、薄く、 天地不明。研ぎ減り状の湾曲部より刃 部を想定した。材質より鎌の可能性が 高い。	①フクレ多く材質は悪い。
21 土錘	長 4.6 中幅 1.1 端幅 0.4 孔 0.2 重 4.0g	北西隅付近床 直上 完形	整形痕は観察できない。使用痕がわず かに残っている。	①ザラザラしたやや粗い素地。パミス、角閃石等 を含む。②酸化焰。普通。③灰白2.5Y8/2～灰黄褐10YR 5/2。
22 土錘	長 (3.1) 中幅 1.2 孔 0.15 重 4.0g	埋没土 両端部欠く	整形痕は不明瞭。両端部は削り込んだ ように鋭く割れている。	①素地やや粗い。パミス、2mm大の細礫を含む。② 酸化焰。普通。③灰白2.5Y7/1。黒色味をおびるムラ あり。

AY-14号住居跡出土遺物 (本文41頁 PL-13)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口 13.5 底 7.1～7.5 高 3.3	埋没土10片 掘方 口 3/4 底 完存	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロ クロ痕はやや強い。口縁内面に同一方 向の細かな傷あり。	①ボソボソでやや粗く、軽量の素地。2mm大の細礫 も少量含む。②やや不十分な還元焰。普通。③灰白 10Y5/1。外面口縁は黒色味、内面は赤色味をおび る。
2 杯(須恵)	口 13.3 底 6.2 高 3.5	埋没土 8片 口 1/2 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロ クロ痕はきわめて弱い。内底平滑。	①素地やや粗い。1～3mm大の片岩の混入多い。② 還元焰。普通。③暗青灰5B4/1。同様。
3 高台付杯 (須恵)	口 14.3 台 7.4 高 5.4	埋没土12片 図示部の4/5	右回転ロクロ→回転糸切り痕は不明瞭 →ロクロ利用高台取付け。ロクロ痕は 外面のみ強い。内底に重ね焼き時の高 台部分の痕が残っている。平面形が楕 円形に歪む。	①ガサガサした軽量でやや粗い素地。片岩、黒色鉱 物等を含む。②還元焰。やや硬調。③灰白10Y8/1。 上半一部で黒色味をおびる。
4 杯(土師)	口 11.8 高 3.2	カマド前面 6片 埋没土 5片 口 4/5 底部ほぼ完存	外底の削りは弱い丁寧。口縁上半の ナデは強く、中位に小さな段ができる。 内面のナデは強いが雑。口縁内端は小 さく内側に折れるが、形状は一定でな い。	①素地普通。角閃石、パミス、細礫等の混入物やや 多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/ 4。内面は黄色味をおびる。
5 杯(土師)	底7.8程か	埋没土 破片	外底はほぼ一方の削りで平坦に仕上 げる。内底は縁部に強いナデ。外底に 焼成後の鋭い線刻あり。	①素地普通。石英、角閃石のまじる細砂の混入が多 い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面 黒褐色。
6 甕(土師)	口 20.2 頸 17.8 胴 21.2	埋没土+カマド 内+カマド 掘方 口 完存 胴上半 2/3	外面の削りは肩部で幅広。胴部でやや 幅狭。内面はへら状工具のナデでやや 平滑に仕上げる。	①素地普通。赤褐色鉱物、チャート等の混入物やや 多い。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6～暗赤褐5YR 3/2。同様でない。④破損後に二次被熱。

AY-15号住居跡出土遺物 (本文43頁 PL-13)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(須恵)	天(16.4)	北壁中央寄り 床直上+埋没土 図示部の2/5	右回転ロクロ→天井部回転へら削り。 ロクロ痕は外面のみ細かくやや強い。 内面に径約15cmの杯身口縁の重ね焼き 痕あり。	①砂質でややザラザラした粗い素地 1～2mm大の 細礫を含む。②還元焰。普通。③灰白10Y8/1。黒褐 色のムラ広い。
2 杯(土師)	口(11.8) 高 [2.6]	埋没土 図示部の1/5	外底の削りは弱く不明瞭だが、器面は 平滑。外面口縁下半も無調整だが凹凸 少ない。内面も平滑に仕上げている。	①素地普通。輝石、パミス等を含む。②酸化焰。普 通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
3 杯(土師)	口(14.2) 高 [4.0]	埋没土 2片 図示部の1/6	口縁内端は小さく肥厚している。外底 の削りは粗いが、無調整部分を残さな い。内面のナデは丁寧で強い。	①素地普通。輝石、2mm大の赤褐色鉱物等の混入物 やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR6/ 4。内面、断面一部灰色味をおびる。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
4 杯(土師)	口 11.9 高〔3.5〕	埋没土3片 図示部の3/4	外面の削りはやや丁寧で、口縁の無調整部分も狭い。内面のナデは丁寧で強く、平滑に仕上げている。	①素地普通。パミス、角閃石等微細な混入物を含む。 ②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
5 壺(三彩)	口(5.6) 高〔4.0〕	埋没土2片 図示部の1/6	有蓋土器の身部破片である。剝落がすすみ不明瞭だが、残存部には細かなロクロ痕が残る。緑釉部分に変色した箇所が多く、二次被熱の可能性。小破片からの復元で径、傾きとも不安。	①素地やや緻密で混入物少ない。精選され良好。②酸化焰。普通。③内面淡黄2.5Y8/3。断面は黒色味強い。④口絵参照。
6 甕(土師)	口(22.4) 頸(20.2) 高〔10.0〕	中央東寄り床直上2片 図示部の1/6	口縁内端にやや幅太の沈線が巡っている。外面の削りは鋭い。ナデはやや丁寧。	①素地やや粗い。輝石、パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙2.5YR6/4。一部黒色味をおびるムラあり。

AY-16号住居跡出土遺物 (本文44頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	底 5.6	埋没土2片 口下半1/4 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕はやや弱い。	①素地普通。3mm大のチャート、片岩を含む。②還元焰。普通。③暗青灰5PB3/1。断面と内底は赤色味をおびる。
2 杯(土師)	口 11.4 高 2.9	北西隅壁直下床直上埋没土3片 1/2個体	外面の削りはやや幅広。強さが一定でなく細かな凹凸あり。内面のナデは強いが器面に凹凸あり。	①素地普通。パミス、細砂を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味、灰色味をおびる部分広く、一様でない。

AY-17号住居跡出土遺物 (本文45頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	底 7.5	埋没土 図示部の2/3	ロクロ回転右→回転糸切り無調整。内底は平坦。厚手。	①素地は砂質で粗い。1～3mm大の礫、パミス含む。②還元焰、やや軟調。③灰5Y6/1。ほぼ一様。
2 カマド 構築材	長(22.3) 幅(19.2) 厚(9.2) 重 4,300g	カマド内 半欠品	4面に幅太の加工痕が残るが上面以外はあまり明瞭でない。被熱の影響強く脆弱化著しい。上面は赤く、割れ口を含む他の面は黒色味が強い。	①デイサイト質凝灰岩。④割れ口を含む全面被熱。

AY-18号住居跡出土遺物 (本文46頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(11.6) 高 3.1	埋没土≠貯蔵 穴3片 1/2個体	外底は残存部分でほぼ一方向の削り。内面ナデはやや丁寧だが器面にも細かな凹凸残る。口縁部の形状は一様でない。	①素地普通。パミス、輝石、1mm大の粗砂等を含む。②酸化焰。普通。③橙5YR7/6。外底は黒斑広い。④内底にはほぼ一方向の細かな擦痕あり。
2 杯(土師)	口(14.0) 高 3.4	埋没土2片 1/8個体	外面の削りは細かい。内面のナデはやや丁寧。口縁部の残存はわずかで、径・傾きとも不安。	①素地普通。輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一様。
3 甕(土師)	口(22.0) 頸(18.2)	埋没土2片 図示部の1/6	外面の削りはやや丁寧で細かい。内面口縁上半に幅太の沈線が巡っている。口縁の残存はわずかで径不安。	①素地やや砂質。輝石、赤褐色鉱物等細かな混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。内外面ほぼ一様。

AY-19号住居跡出土遺物 (本文48頁 PL-13)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口 12.8 底 6.9 高 3.6	中央東寄り床直上4片 ほぼ完形	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕はきわめて弱く砂粒の移動も少ない。	①素地普通。長石、片岩を中心に最大5mmほどの混入物多い。黒色鉱物を少量含む。②還元焰。やや硬調。③青灰5B5/1。口縁外面に暗青灰色の重焼き痕あり。
2 高台付杯(須恵)	口 15.6 高台 8.6 高 7.2	南壁直下床直上埋没土 口 3/4 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り→ロクロ利用高台取付け。ロクロ痕は細かく弱い。内面は平坦。外面口縁に墨痕の不明瞭な墨書あり。積文は口唇。外底中央にも墨書あるが積文不明。	①素地普通。2mm大のチャートを含む。②還元不充分でやや軟調。③灰7.5Y6/1。外面に青色味、内面に黄色味をおびるムラあり。
3 杯(須恵)	口 13.3 底 8.5 高 4.2	中央東寄り床直上 ほぼ完形	右回転ロクロ→回転糸切り高台取付け時のナデで、切り離し痕は残らない。ロクロ痕は内底と口縁外面でやや強い。	①素地普通。粗砂、赤褐色鉱物等を少量含む。②還元焰。やや軟調。③灰白5Y7/1。内底は明度低い。
4 杯(土師)	口(13.0) 高[3.4]	埋没土4片 口 1/6 底 1/3	外底の削りはやや雑。内面のナデは丁寧で口縁のみやや鋭い擦痕が巡っている。口縁は小さく波状に歪んでいる。	①素地普通。砂粒の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
5 杯(土師)	口(13.4) 高[3.8]	埋没土2片 掘方1片 口 1/8 底 1/4	外面は削り、ナデとも丁寧。内面は鋭い擦痕の残る強いナデの上に、やや雑で細かい暗文を加える。	①素地普通。雲母細片、赤褐色鉱物等微細な混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙2.5YR6/4。外底に黒斑あり。
6 台石か	長 [16.3] 幅 13.8 厚 10.3 重 3,718g	南西隅付近床直上 両端欠く	両端欠けるが、片側には摩滅部分、逆側は被熱による変色部分があり、旧時のままの遺物である。自然面は4面とも著しく平滑で台石と想定したが、竈袖石の可能性もある。刃物による鋭い擦痕がある。	①粗粒安山岩。④割れ口を含む両側面に被熱。
7 白玉	径 0.7 厚 0.2 孔 0.2 重 1.0g	埋没土 完形	表・裏面とも平滑さ欠く。側面は幅1mm以下の細かな縦位の整形痕がある。孔の内面は平滑だが、端部は剥落が多い。	①滑石。③暗緑灰色を呈している。
8 土錘	長 2.7 中幅 0.8 端幅 0.5 孔 0.2 重 2.0g	埋没土 完形	きわめて小型。器面は平滑で整形痕は残らない。端部は一方に著しい使用痕状の窪み、他にわずかな窪みあり。	①素地普通。混入物少なく良好。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/3。一部に薄い黒斑あり。
9 土錘	長 3.5 中径 0.9 端径 0.5 孔 0.2 重 4.0g	埋没土 完形	小型品。器面は平滑で整形痕は見えない。器形に歪みあり。両端に顕著な使用痕。	①②8にほぼ同じ。③にぶい橙7.5YR6/3。黒斑あり。

AY-20号住居跡出土遺物 (本文50頁 PL-13)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口(13.0) 高[3.2]	埋没土 図示部の1/5	右回転ロクロ。外面でロクロ痕きわめて強い。高台の付く椀になるか。	①素地やや粗い。チャート、輝石等の混入やや多い。②不十分な還元焰。普通。③にぶい黄橙10YR6/4。黒斑あり。
2 杯(土師)	口(11.0) 高[3.3]	埋没土 図示部の1/5	外底の削りは弱い丁寧。口縁下半は無調整だが平滑。内面のナデは強い。歪みあり、径・傾きとも不安。	①素地普通。バミスまじりの砂粒を少量含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。内外面一様。
3 杯(土師)	底6.5cm程か	埋没土 底 1/4	平坦な底部破片。外底の削りはやや弱い。内面のナデもやや弱い。外底に焼成前の意匠不明の線刻あり。	①素地普通。細砂の混入多い。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。内面は黄色味をおびている。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
4 甕(土師)	口(22.6) 頸(21.4) 胴(27.0)	埋没土1片 カマド内2片 図示部の1/5	口縁を中心に外面に明瞭な輪積状の接合痕が残る。外面削りはやや強い。肩部に無調整部分残る。内面のナデも強く、幅広の工具痕が残っている。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、パミス、チャート等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内面は赤色味強い。
5 甕(土師)	口(21.0) 頸(19.6)	埋没土2片 カマド内 図示部の1/3	口縁外端に不規則な沈線が巡る。外面の削りは幅広。頸部は不整。内面のナデは強く幅広の擦痕が残る。	①ガサガサのやや粗い素地。パミス、角閃石等を含む。②酸化焰。やや硬調。③明赤褐2.5YR5/6。ほぼ一様。
6 甕(土師)	口(19.0) 頸(17.8)	埋没土2片 図示部の1/5	外面の削りは幅広で丁寧。ナデも丁寧で鋭い擦痕が巡っている。内面はやや粗い横位のナデ。	①素地普通。パミス、角閃石まじりの粗砂やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。外面は黒斑広い。
7 甕(土師)	胴(23.4)	埋没土4片 図示部の1/3	外面削りは幅広でやや弱い。内面ナデはきわめて弱く不明瞭。歪みのある胴部片からの復元で径・傾きとも不安。	①素地やや粗い。パミス、石英、長石等小粒の混入物を含む。②酸化焰。普通。③外面暗赤褐5YR3/2。内面にぶい赤褐5YR4/3。
8 甕(土師)	口 21.4 頸 19.8 胴(24.6) 底(3.7) 高(25.8)	カマド煙道部内 5片+埋没土27片 口 3/4 胴 1/4	外面の削りはやや強く、鋭い工具痕が残る。口縁部のナデも強い。内面のナデは丁寧だが、器面に凹凸が残る。	①素地やや粗い。パミス、赤褐色鉱物、石英等雑多な混入物を含む。②酸化焰。普通。③明赤褐2.5YR5/6~暗赤褐5YR3/2。破損後の二次被熱で破片毎に色調異なる。

AY-21号住居跡出土遺物 (本文51頁 PL-14)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(須恵)	鈕 4.4	掘方 鈕 完存 天 図示部1/3	右回転クロー→天井部回転ヘラ削り→回転利用の鈕取付け。クロー痕やや弱い。内面平滑。	①ボソボソのやや粗い素地。チャート、角閃石、細礫を含む。②還元焰。普通。③灰白10Y8/1。外面暗青灰5B3/1。部分広い。
2 杯(土師)	口12.4~12.7 高 3.4	中央床上3cm 2片+埋没土 口 3/4 底 完存	外底は幅広で規則的な削り。口縁下半の無調整部分広いが、器面は平滑。内面は強いナデで器面は平滑さ欠く。	①素地普通。パミス、角閃石まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/3。外底は赤色味をおびている。
3 台付甕(土師)	台上 6.1 台下(12.0)	中央床上3cm 床直上 図示 部内端3/4欠く	底面は平坦でやや広い。台部のナデはやや雑で器面は不整。接合痕が残っている。	①素地普通。0.5mm大の白色砂粒等微細な混入物やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい褐7.5YR5/3。内面は黒褐色。

AY-22号住居跡出土遺物 (本文52頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(18.2) 高 5.5	埋没土5片 口 1/4 底 1/3	外底は幅太でやや雑な削り。内面のナデはやや丁寧。内底にほぼ一方向の擦痕が目立つ。	①素地やや緻密。雲母細片、細砂等の微細な混入物含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
2 甕(土師)	口(20.8) 頸(17.2) 高〔 8.8〕	カマド燃焼部内 3片 図示部の1/8	口縁外端が肥厚している。外面の削りはやや強い。胴部内面には指頭痕状の窪みが残っている。	①素地やや砂質。赤褐色鉱物、輝石等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。色調、彩度とも一様でない。

AY-23号住居跡出土遺物 (本文53頁 PL-14)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口12.5~12.8 高 3.7	カマド南袖脇 床直上 ほぼ完形	外面の削りは雑で無調整部分も広いが器面の凹凸は少ない。内面のナデもやや雑。口縁部の形状は一定していない。	①素地普通。赤褐色鉱物目立つ砂粒含む。②酸化焰。やや硬調。

AY-24号住居跡出土遺物 (本文55頁 PL-14)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口 13.6 底 9.0 高 3.9	南壁中央下床直上 口 5/6 底 完存	右回転ロクロ→回転ヘラ切りか→底部全面と口縁下端に回転ヘラ削り。内底以外はロクロ痕きわめて弱い。	①素地普通。1mm大のチャート、黒色鉱物を少量含む。②還元焰。やや硬調。③灰白。外面10Y7/1、内面10Y8/1。
2 杯(須恵)	口(14.2) 底 7.3 高 3.9	中央北西寄り床直上 埋没土2片 口 1/4 底 3/4	右回転ロクロ→底部全面と口縁下端に回転ヘラ削り。ロクロ痕きわめて弱い。内面立ち上がり部に弱い沈線が巡る。	①砂質でやや粗い素地。1mm大のチャート等の混入やや多い。②還元焰。普通。③灰白7.5Y8/1。ほぼ一樣。
3 杯(土師)	口(14.8) 高〔3.3〕	埋没土 図示部の1/6	外面の削りはやや強い。内面のナデは丁寧だが、底部に細かな凹凸が残る。口縁に歪みあり傾き不安。	①素地普通。輝石、パミス、1mm大の礫を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。口縁端部に黒斑あり。
4 小型甕(土師)	口(14.4) 頸(13.0)	埋没土 口 2/5 胴上半 1/5	外面の削りは幅広くやや丁寧。内面のナデも丁寧で甕類としては平滑に仕上げている。	①素地やや砂質。赤褐色鉱物等を少量含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR4/4。内面黒褐色。
5 甕(土師)	口(24.0) 頸(18.0)	埋没土6片 図示部の1/3	外面の削りやや雑。内面は強いナデで丁寧に仕上げている。口縁端部は両側からの強いナデで若干窪んでいる。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、粗砂等の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一樣。

AY-25号住居跡出土遺物 (本文57頁 PL-14)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口 13.5 高 3.4	埋没土5片 口 1/2 底 2/3	外面の削りは規則的で、底部中央ではほぼ一方向。口縁下半の無調整部分も平滑。内面のナデは丁寧。	①素地普通。角閃石、パミス等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面橙5YR7/6。
2 杯(土師)	口(14.2) 高〔2.7〕	埋没土 図示部の1/5	外底の削りはやや鋭く、縁部に削り残しがある。内面のナデは強く、底部に粗い擦痕が巡っている。口縁内端に弱い沈線が巡る。歪み強く、径・傾きとも不安。	①素地普通。パミス、輝石等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。外面は黒色味強い。
3 杯(土師)	口(14.7) 高 4.2	埋没土6片 口 1/2 底部ほぼ完存	外底の削りは規則的で細かい。内面ナデはやや強く、口縁に粗い擦痕が巡る。内底はやや平滑さ欠く。	①素地普通。②酸化焰。普通。③橙7.5YR6/6。
4 甕(土師)	口(21.4) 頸(17.0)	埋没土4片 図示部の1/4	外面の削りは丁寧で強い。口縁中位無調整だが平滑。内面のナデも丁寧。口縁内端はわずかに肥厚している。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。
5 甕(土師)	口22.6~23.6 頸 20.3	埋没土17片 図示部ほぼ完存	外面削りは幅狭で、縦位の削りが頸部付近までおよぶ。内面も幅狭の工具を使用した細かなナデが頸部付近に多く見られる。	①素地普通。赤褐色鉱物、粗砂、パミス含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR7/6。ほぼ一樣。
6 甕(土師)	口 23.0 高(20.5)	埋没土17片 図示部の1/2	外面削りは幅広く鋭いが、やや不規則。内面は幅広い工具で息の長いナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの粗砂やや多い。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。黄色味の強い部分も広い。
7 甕(土師)	底 4.8~5.3	埋没土15片 胴下半 1/4 底 完存	外面の削りは幅広く丁寧。外底の削りは一方向。内面は接合痕が残る。二次被熱で器面はやや脆弱化している。	①素地普通。角閃石、赤褐色鉱物、粗砂等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3~橙2.5YR6/6。

AY-27号住居跡出土遺物 (本文60頁 PL-14)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口 13.0 高 4.0	南西隅床直上7片 口 2/3 底 完存	外面の削りは方向不定で細かい。内面のナデはやや粗く、器面は凹凸多い。薄手で軽量。	①素地普通。パミス、角閃石等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。内面は彩度低い。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
2 杯(土師)	口12.8~13.2 高 3.3	中央西寄り床 直上5片 ほぼ完形	外面の削りは規則的で幅広く丁寧。内面のナデも丁寧で、口縁部にやや粗い擦痕が巡っている。	①素地普通。パミス、角閃石等小粒の混入物を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい褐7.5YR5/4。ほぼ一様。
3 杯(土師)	口(13.6) 高〔3.5〕	埋没土5片 図示部の1/5	外面の削りは弱い。指頭痕状の窪みが残っている。内面のナデは強く、粗い擦痕が巡っている。口縁内端は弱く肥厚しているが、形状は一定でない。	①素地普通。混入物は少ない。②酸化焰。普通。③明赤褐5YR5/6。内面は明度高い。
4 杯(土師)	口 13.6 高 3.1	埋没土6片 1/2個体	外面の削りは鋭く、削り残し部分は少ない。内面のナデは丁寧。放射状の細かな暗文あり。中央に焼成前の沈線あり。口縁外端は強いナデで2条の段ができる。	①やや緻密な素地で重量である。角閃石、パミス、石英等やや多い。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。断面まで一様。
5 杯(土師)		埋没土 底 小片	平底気味の杯底部である。内底には細かな凹凸が残る。外底に焼成後の線刻「キ」または「井」あり。	①素地普通。輝石、パミス等細かな混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。ほぼ一様。
6 小型甕 (土師)	口(15.0) 頸(12.0)	中央北床直上 埋没土 図示部の2/5	外面削りは二次被熱の影響で不明瞭。口縁端部に強いナデ。内面のナデは丁寧。内面頸部付近に黒色の付着物顕著。	①素地普通。パミス、角閃石、細砂の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。黒色味をおびるムラ多い。
7 土錘	長 5.2 中径 1.4 端径 0.5 孔 0.2 重 8.0g	カマド北袖前 面床直上 完形	器面は平滑で整形痕は殆ど見えない。使用痕は両側に僅かに見える。	①緻密だが粘性にやや欠ける素地。赤褐色鉱物含む。②酸化焰。普通。③浅黄橙10YR8/3。一様。

AY-28号住居跡出土遺物 (本文62頁 PL-14)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口(11.0) 高 3.4	埋没土 図示部の1/3	右回転ロクロ→外底残存部分は回転ヘラ削り。ロクロ痕は弱い。	①素地やや粗い。1mm大の礫の混入やや多い。②還元焰。普通。③灰白10Y7/1。内面は明度高い。
2 高台付杯 (須恵)	台(9.8) 高〔1.8〕	北壁下中央寄り 床直上 図示部の1/4	右回転ロクロ→切離し不明→外底残存部分全面回転ヘラ削り→回転利用高台取付け。ロクロ痕弱い。内底平滑。	①素地普通。黒色鉱物を少量含む。細砂やや多い。②還元焰。普通。③灰白10Y8/1。やや黒色味をおびるムラあり。
3 杯(土師)	口(17.0) 高 5.5	中央南寄り床直上 7片=埋没土 2片 口 1/6 底 2/3	外面削りはやや幅広く削り残しは少ない。内面のナデは強い。口縁に至みあり、径、傾きとも不安。内端は小さく肥厚しているが形状は一様でない。	①素地普通。角閃石、赤褐色鉱物、砂粒を含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。内面7.5YR7/6。
4 杯(土師)	口13.2~13.8 高 4.4	南東隅壁直下 床直上5片 口 3/4 底 完存	外面の削りは幅広くやや丁寧。口縁下半の無調整部分に巻上げ状の接合痕残る。内面のナデはやや丁寧。平面は楕円形状に歪む。	①素地普通。角閃石、パミス等細かな混入物やや多い。②酸化焰。やや硬調。③橙5YR6/6。一様。
5 甕(土師)	口(23.0) 頸(17.8) 高〔6.7〕	南東隅壁直下 床直上 図示部の1/4	外面の削りは幅広く強い。内面のナデは丁寧。口縁部の歪み著しく、径不安。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、雲母細片等を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
6 甕(土師)	口(24.2) 高〔17.0〕	北壁下中央寄り 床上4cm 図示部の1/3	外面の削りは丁寧で幅広く鋭い。口縁部のナデも丁寧。内面のナデも丁寧でやや強い。大型の土器としては薄手である。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミス等を含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。赤色味の強い部分あり。

AY-29号住居跡出土遺物 (本文63頁 PL-14)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
2 杯(土師)	口12.8~13.2 高 3.3	中央西寄り床直上5片 ほぼ完形	外面の削りは規則的で幅広く丁寧。内面のナデも丁寧で、口縁部にやや粗い擦痕が巡っている。	①素地普通。パミス、角閃石等小粒の混入物を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい褐色7.5YR5/4。ほぼ一様。

AY-30号住居跡出土遺物 (本文64頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(16.4) 高 3.5	南隅付近埋没土の8片 口 1/3 底 1/2	外面の削りはやや幅広く息長い。内面ナデは口縁にやや粗い擦痕が巡る。器面の凹凸やや大きい。内面口縁に線刻を重ねたような焼成後の傷あり。	①素地普通。パミス、石英、粗砂等の混入物あり。②酸化焰。普通。③にぶい橙2.5YR6/4。内面黄色味をおびる。
2 杯(土師)	口(14.4)	中央床直上埋没土 図示部の1/5	外面削りはやや細かい。口縁下半の無調整部分広く、巻き上げ状の接合痕残る。内面ナデは強く、粗い擦痕巡る。	①素地普通。パミス、角閃石、2mm大の細礫等やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。

AY-31号住居跡出土遺物 (本文66頁 PL-15)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(13.2) 高 3.6	西壁際埋没土 1/5個体	外底中央に強い凹凸あり、わずかに葉脈状の圧痕が残る。内底中央も葉脈状の押圧痕顕著。外面の削りはやや雑。内面は口縁に強く鋭い擦痕が巡っている。口縁は小さく波状に歪む。	①素地普通。角閃石、パミス等を含む。②酸化焰。やや硬調。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
2 杯(土師)	口(15.0) 高 3.9	張出部埋没土 口 1/8 底 1/4	外面の削りは幅広く強い。無調整部分をほとんど残さない。内面のナデもやや丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地普通。パミス、角閃石等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
3 杯(土師)	口(10.4) 高〔3.7〕	南壁下床直上 図示部の1/4	外面の削りは弱く不明瞭。外底中央付近は不整。内面のナデはやや丁寧で平滑に仕上げてある。	①素地やや緻密。角閃石、パミス、3mm大の礫等を含む。②酸化焰。普通。
4 杯(土師)	口 14.5 高 4.3	南壁下埋没土 3片 1/2個体	外底の削りは中央で弱く、縁辺でやや強い。口縁部下半の無調整部分はやや平滑。内面は丁寧なナデでやや平滑に仕上げる。	①素地普通。角閃石、2mm大の細礫を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/3。暗褐色の黒斑状のムラ広い。
5 杯(土師)	口(17.8)	張出部2片 図示部の1/3	外面の削りは幅広くやや雑。口縁のナデは上端のみで未調整部分広く、器面に深く細かな縦位のヒビが残る。内面は丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地普通。角閃石、チャート、白色砂粒等を少量含む。②酸化焰。硬調で焼き締まる。③橙5YR6/6。外底は灰色味をおびる。
6 杯(土師)	口(18.8)	カマド前床直上 カマド内3片 図示部の1/3	外面の削りは幅広く強い。内面のナデはやや粗い。大型杯類としては薄手で軽量。	①素地ややボソボソで粗い。粗砂の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/4。外面一部灰色味をおびる。
7 甕(土師)	口 14.6 高〔13.7〕	カマド内10片 口 3/4 胴 1/2	口縁上端が平坦である。外面上半は二次被熱のため削り不明瞭。外半は幅広く丁寧な削り。内面のナデも丁寧だがやや剥落すすむ。	①素地普通。砂粒の混入多い。赤褐色鉱物、雲母細片等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。外面一部彩度低い。

AY-32号住居跡出土遺物 (本文67頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(12.0) 高〔 3.6〕	カマド内 図示部の2/5	外面の削り弱い。縁部の無調整部分も一部に砂粒の動きがあり、ごく弱い削りを加えた可能性あり。内面のナデは強い。	①素地普通。角閃石、パミス、石英等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。外面に黒色味、灰色味おびるムラあり。
2 杯(土師)	口(13.2) 高〔 3.4〕	南西隅埋没土 2片 図示部の2/5	外面の削りは弱い。器面は無調整部分も含め平滑。内面も丁寧で強いナデで平滑に仕上げる。	①素地普通。パミスまじりの砂粒を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内面やや赤色味をおびる。

AY-33号住居跡出土遺物 (本文69・70頁 PL-15)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口13.1~13.5 底 6.5 高 3.8	床直上 8片 ほぼ完形	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕強いが、内底ではやや平滑。	①素地普通。1~3mm大の長石粒やや目立つ。黒色鉱物少量含む。②還元焰。普通。③灰白5Y7/1。口縁端部は明度低い。
2 杯(須恵)	口(13.0) 底 6.4 高 3.5	カマド内 1/2個体	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕はきわめて弱く、器面は平滑。厚手でぼってりしている。	①素地普通。チャート、細礫等1~3mm大の混入物含む。②還元は不充分だがやや硬調。③灰白2.5Y8/2。口縁付近は赤色味強い。
3 杯(須恵)	口(12.2) 底 7.2 高 3.4	カマド際中央 2片 口 1/6 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り→底部縁辺回転ヘラ削り。ロクロ痕きわめて弱いが、薄手で端正な作りである。	①素地やや緻密。白色砂粒、1mm大の粗砂を含む。②還元焰。やや硬調。③暗青灰5PB4/1。内底は赤色味をおびる。
4 杯(須恵)	口(13.0) 底(6.0) 高 4.1	北側埋没土 埋没土上面 図示部の1/3	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。内面のロクロ痕は弱い。	①ややぼそぼそで粗い素地。3mm大のチャートを少量含む。②還元焰。普通。③灰白7.5Y8/2。口縁部は黒色味が強い。
5 杯(須恵)	口 12.8 底 6.7 高 3.1	埋没土上面 口縁上半の1/2 欠く	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。外面でロクロ痕やや強く、上半の窪みは著しい。内面はやや平滑。	①素地普通。黒色鉱物、1~2mm大のチャート等を含む。②還元焰。やや硬調。③灰白7.5Y7/1。口縁外端は黒色味をおびる。
6 杯(土師)	口 12.6 底 9.5 高 3.3	東壁下床直上 ほぼ完形	外底の削りは幅広く息長い。口縁下端に指頭または工具による不規則な圧痕が巡る。内面のナデは丁寧で口縁端に粗い擦痕が巡る。	①素地普通。輝石、パミスまじりの砂粒を少量含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい赤褐色5YR5/4。黒色味、赤褐色味をおびるムラあり一様でない。
7 杯(土師)	口 12.8 高 2.8	中央床上 5cm 3片 口 1/3 底 2/3	外面の削りはやや弱い。口縁のナデの範囲は広い。内面のナデはやや雑で、底部は不整。内底中央に墨痕のやや薄い墨書「子」。	①素地普通。雲母細片の目立つ砂粒、パミス等細かな混入物含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
8 杯(土師)	口 11.2 底 8.2 高 3.9	中央床上 3cm 2片+埋没土 4片 口 1/2 底 1/4	外底は残存部分でほぼ一方の丁寧な削り。口縁下半の無調整部分は粗く深いヒビが多く見られる。内面のナデは丁寧で強い。	①素地やや粗いが混入物は少ない。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
9 刀子	長〔 5.2〕 峰厚 0.4	北東隅壁直下 茎部のみ	刃部基部幅が2.2cmあり、刀子としては大振りになる。	①錆によるフクレ等が少ないが大型の刀子としてはあまり良くない。
10 鎌(鉄器)	刃渡 20.4 峰厚 0.4	東壁下床直上 3cm ほぼ完形	基部折り返しの様子から、柄と刃部は120°近い鈍角になる。実質刃渡りは18cm程の大振りで研ぎ減りも少ない。峰部は緩やかな曲線状だが、先端部のみ強く屈曲している。	①割れ口の材質部はメクレるように剥がれる。普通。④木質が付着しているが柄とは異なるようだ。
11 鋤(鉄器)	長〔13.7〕 耳幅 3.1	10の鎌とくっついて出土 片側耳部分	刃部を欠くが、耳部の緩い屈曲よりU字形鋤先となる。	①錆によるフクレ等は少なくやや良好。④木質が付着しているが身とは異なるようだ。
12 砥石	長 17.4 幅 4.7 厚 4.7 重 257g	南壁密着 一端を欠く	両端を除く4面使用。割口部分にも粗い擦痕があり、欠けたまま使用していたことが判る。両側面は横断面が小さく窪む。大きさから置砥であるが、端部付近に方向不定で細かな擦痕あり。	①砥沢石。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(12.0) 高〔 3.6〕	カマド内 図示部の2/5	外面の削り弱い。縁部の無調整部分も一部に砂粒の動きがあり、ごく弱い削りを加えた可能性あり。内面のナデは強い。	①素地普通。角閃石、パミス、石英等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。外面に黒色味、灰色味おびるムラあり。

AY-34号住居跡出土遺物 (本文71頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(13.2) 高〔 2.4〕	北壁下床直上 図示部の1/6	外面の削りは幅狭で強い。口縁のナデは深い擦痕が残る。内面は丁寧なナデで平滑。小片からの復元で径不安。	①素地普通。輝石、パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。外面に黒色味をおびるムラあり。
2 杯(土師)	口(13.0) 高〔 2.1〕	東壁下床上10cm 図示部の1/8	外面の削りは丁寧。口縁下半は無調整だがやや平滑。内面のナデも丁寧で器面は平滑。小破片からの復元で径・傾きとも不安。	①素地普通。パミス、1mm大の礫まじりの砂粒を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内外面ほぼ同様。

AY-35号住居跡出土遺物 (本文72頁 PL-15)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口(12.6) 底 8.0 高 3.9	埋没土 図示部の1/4	右回転クロー底部の残存部分と口縁下端に回転ヘラ削り。内底以外ではクロー痕弱い。	①素地普通。黒色鉱物粒の混入やや多い。②還元焰。普通。③灰7.5Y6/1。外面一部青色味をおびる。
2 杯(土師)	口 15.0 高 3.5~3.7	床直上2片 3/4個体	外面削りは息長く、やや鋭い。口縁下端に無調整部分が残る。内面ナデは強く、布目状の擦痕が同心円状に巡る。	①素地普通。輝石等細かな混入物のまじる砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。一部に赤色味おびるムラあり。
3 杯(土師)	口(17.6) 高 5.2	西壁下床上10cm 2片 図示部の1/4	外面の削りは幅広でやや弱い。口縁部の削り残し部分はほとんどない。内面のナデは丁寧でやや粗い。布目状の擦痕が同心円状に巡っている。	①素地普通。混入物は少ない。気泡がまじる。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ同様。
4 杯(土師)	口(15.2) 高〔 2.2〕	床直上2片 図示部の1/6	外面の削りは丁寧でやや鋭い。内面のナデも丁寧で平滑に仕上げている。	①素地普通。パミス、石英、輝石等を含む。②酸化焰。やや硬調。③橙5YR7/6。外面一部赤色味をおびる。
5 甕(土師)	口 24.0 高〔 6.1〕	西壁寄り床直上3片 図示部の3/4	胴部はきわめて薄手。外面の削りはやや鋭い。内面のナデも強く、工具痕が多数残っている。口縁部は小さな波状に歪む。	①素地やや砂質。赤褐色鉱物、チャート等含むが、大型土器としては混入物少ない。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。外面一部灰色味をおびる。

AY-36号住居跡出土遺物 (本文74・75頁 PL-15・16)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(土師)	口(13.2) 高〔 3.1〕	埋没土 図示部の1/8	外底の削りやや弱い。口縁上端のみ強いナデ。無調整部分広いが比較的平滑。内面のナデは丁寧だが器面は若干凹凸あり。薄手。小破片からの復元で径不安。	①素地やや緻密。輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。口縁は内外面とも黒色味おびる。
2 杯(土師)	口(14.4) 高〔 3.5〕	埋没土 図示部の1/8	外底の削りやや強い。無調整部分は狭い。内面のナデは丁寧で平滑に仕上げている。小破片からの復元で径・傾きとも不安。	①素地普通。パミス、輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。ほぼ同様。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 甕(土師)	口 23.5 底 5.5~6.1 高 30.3 頸 19.6 胴 21.1	カマド前面床直上 ほぼ完形	薄手できわめて丁寧なつくりである。体部は内外面とも平滑。口縁上半のみ器面はやや荒れている。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物を少量含む。粗砂の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/3~2.5YR6/4。一様でない。
4 甕(土師)	口 24.0 底 4.8 高 30.5	東袖芯材として使用 ほぼ完形	薄手で丁寧なつくりである。外面の削りは幅広く息長い。器面の凹凸少ない。口縁中央に指頭痕状の窪み残る。内面のナデもきわめて丁寧で、平滑に仕上げている。	①素地普通。パミス、輝石まじりの砂粒の混入やや多い。②酸化焰。普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面下半は灰色味をおびる。
5 甕(土師)	口 22.5 底 4.8 高 29.9	カマド焼き口西側芯材 口縁を1/2欠く	外面の削りは丁寧で細かい。内面のナデも丁寧だが、接合痕状の凹凸が残っている。口縁内面にやや強い段が残っている。外面底面より19cmの高さまでスガが付着している。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。内面は灰色味強い。
6 甕(土師)	口 (23.0) 胴 20.3 底 4.8 高 32.4	カマド焼き口中央芯材 口 1/3 胴 2/3	外面の削りは幅太で息長く鋭い。内面のナデは丁寧だが器面に凹凸が残る。内面は器面の剥落すずむ。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物等細かな混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。内外面とも下半は明度低い。
7 甕(土師)	口 22.4 高 [23.9] 頸 19.1 胴 20.8	カマド焼き口東側芯材 口 1/2 胴上 半ほぼ完存	薄手で丁寧なつくりの土器である。内面胴部に接合痕が残り、下位にあるものは特に顕著である。口縁外面にも接合痕あり。調整は丁寧。	①甕としては緻密。赤褐色鉱物、白色砂粒等を含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6~にぶい褐7.5YR6/4。④破損後に二次被熱。
8 甕(土師)	口 22.5 胴(20.6) 高(27.0)	西袖芯材として使用 上半 完存 胴中央 1/2	口縁外面に鋭い沈線が巡っている。外面の削りは細かい。内面のナデはやや雑で器面に細かな凹凸が多い。胴部外面は一方に片寄ってスガが付着。	①素地普通。輝石、パミス等やや細かな混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
9 甕(土師)	口(24.5) 底(5.6) 高(30.2)	カマド内とカマド前面床直上 図示部の4/5	外面の削りはやや弱いが息長く丁寧。口縁上端のナデは強いが、中央にナデ残り部分がある。内面のナデはやや丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミス等のまじり砂粒を含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。下半と内面は彩度低い。

AY-38号住居跡出土遺物 (本文77頁 PL-16)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土錘	長 4.3 幅 1.1 端幅 0.6 孔 0.2 重 6.0g	南側埋没土 完形	両端はきわめて平坦に整えている。胴部の整形は不明瞭。使用痕と思われるわずかな窪みが孔の端に見られる。	①素地緻密。混入物も少ない。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/2。黒色味・赤色味強いムラあり。
2 土錘	長 4.4 幅 0.9 端幅 0.7 孔 0.2 重 4.0g	埋没土 完形	端部の平坦さは1に同じだが、胴部の張りがなく、器面に指頭痕状の窪みが多い。使用痕と思われるわずかな窪みが孔の端にあり。	①②1にほぼ同じ。③灰黄2.5Y6/2。黄色味・黒色味の強い部分あり、一様でない。

AY-39号住居跡出土遺物 (本文79頁 PL-16)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口13.0~13.4 底 6.0 高 4.1	北壁下床直上 3/4個体	右回転クロー→回転糸切り無調整。クロー痕きわめて弱い。底部縁部の摩擦著しいが、高台は当初から無い器形と思われる。厚手で重量。	①素地やや粗くザラザラしている。混入物少ない。②酸化焰気味。やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。黒色味・赤色味の広いムラあり。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
2 高台付碗 (須恵)	口(15.0) 台 7.9 高 5.7	カマド内 口 1/4 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り→回転利用の高台取付け。口縁下端の高台接合部分にナデの痕跡わずか。高台にクラック入る。ロクロ痕弱い。厚手で重量。	①砂質でザラザラした素地。混入物は少ない。②還元焰。普通。③灰白10Y8/1。内底はやや黒色味をおびる。
3 高台杯碗 (須恵)	口 13.0 底 7.0 高 5.5	中央床上15cm 口 1/6 底 1/2	右回転ロクロか→回転利用の高台取付け。ロクロ痕はきわめて弱い。高台取付けは2に類似。	①素地普通。輝石、やや大粒のパミス等を含む。②還元気味。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。底部付近内外面は灰7.5Y5/1。
4 碗(須恵)	台 6.8 高 [3.6]	北壁下床直上 口下半 1/4 底部ほぼ完存	右回転ロクロか→回転糸切り→回転利用高台取付け。二次被熱のため器面の剥落著しく、ロクロ痕は不明瞭。	①素地やや粗い。輝石やや多い。チャート散見。②還元気味か。二次被熱の影響強い。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味・黒色味をおびるムラあり、様でない。
5 高台付碗 (須恵)	口(14.0) 台 7.6 高 5.2	埋没土上面 口 1/8 底 1/2	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ利用の雑な高台取付け。ロクロ痕弱い。高台の摩滅すすむ。	①ザックリしたやや粗い素地。輝石まじりの砂粒を含む。②不十分な還元焰。普通。③灰黄2.5Y6/2。口縁外面はにぶい黄橙10YR7/4。
6 甕(土師)	口 14.8 高 (5.6)	埋没土 図示部の1/5	外面の削りは幅広で強い。口縁部のナデは深い擦痕が残っており、上方に沈線が巡っている。内面のナデは丁寧。	①素地普通。パミス、輝石、赤褐色鉱物等、細かな混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。外面に黒色味の強いムラ多い。

阿久津宮内遺跡

AK-1号住居跡出土遺物 (本文81頁 PL-17)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付碗 (須恵)	口 13.2 台 6.1 高 5.1	中央床東寄りの床直上7片 口 1/2 底 3/4	右回転ロクロ→回転糸切り→やや雑な高台取付け。口縁上半は外反する。ロクロ痕弱い。	①素地普通。チャート、片岩等やや大粒の混入物含む。②還元焰。普通。③灰白5Y7/2。断面と内底中央は黒色味強い。
2 皿?	口(11.8) 高[2.6]	カマド前面 南壁際床直上 図示部の1/4	右回転ロクロ。口縁内面にやや鋭い沈線が巡る。定高高台の可能性あり。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物等の混入物やや多い。気泡まじる。②酸化焰か。やや硬調。③浅黄橙7.5YR8/4。断面は彩度低い。
3 甕(土師)	口(20.8) 胴(22.6) 高[19.0]	カマド内ニカマド前面5片 図示部の1/4	外面削りはやや雑で息長い。口縁や体部内面にはハケ目状のナデ痕あり、口縁は歪み強く径不安。	①素地やや粗い。パミス、赤褐色鉱物等の混入物多い。②酸化焰。やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。黒色味をおびるムラあり。
4 甕(土師)	口(21.0) 高 [9.2]	中央床直上 南壁下ニカマド内 図示部の1/3	外面は細かくやや強い削り。口縁のナデも丁寧でやや強い。内面は幅広工具によるナデで、平滑に仕上げている。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物、チャート等の混入物やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。
5 カマド材	長 [14.4] 幅 [6.9] 厚 [6.2]	南壁際上層 破片	正面、側面には細かなスダレ状の圧痕が残る。器面は平坦。下面は中央が窪み不整。	①シルトに近くやや軽量。混入物は少ない。②酸化焰。厚手だが内面まで硬化している。③浅黄橙7.5YR8/3。
6 カマド材	長 [11.7] 幅 [8.2] 厚 [9.7]	埋没土	5と同一個体の可能性あり。粘土塊を板状に合わせた接合痕あり。二次被熱の影響強い。	①②③5に同じ。

AK-2号住居跡出土遺物 (本文83頁 PL-17)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗(須恵)	口 11.5 底 4.7 高 4.0	北側床直上5片 口 2/3 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕は外面下半のみやや強い。	①素地普通。黒色鉱物、3mm大の片岩の混入多い。②還元焰。やや軟調。③灰白10Y7/1。外面に黒斑状のムラあり。
2 杯(土師)	口(20.2) 高〔6.4〕	カマド周辺床 ほぼ直上 図示部の1/6	口縁外端に弱い窪み巡るが形状は様でない。外面の削り弱い。内面のナデはやや粗い擦痕が残っている。歪みあり、径・傾きとも不安。	①素地普通。バミス、輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙2.5Y6/4。ほぼ一様。
3 土釜 (土師)	口(21.0) 高〔9.8〕	北側床直上2片 図示部の1/6	外面の削りはやや弱く、横方向と縦方向で幅が異なる。内面は幅広工具によるナデの痕あり。二次被熱の影響で内面の剥落すすむ。	①ボソボソの粗い素地。輝石、バミス混じりの粗砂を含む。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐2.5YR4/3。内面黒色味強い。
4 甕(土師)	底 3.7 高〔9.4〕	カマド周辺床 ほぼ直上5片 胴下半 1/4 底部ほぼ完存	外面削りは丁寧。内面も比較的平滑。外底は砂底でチャート、石英等0.3~1mm大の混入物あり。	①素地普通。バミス、赤褐色鉱物等やや大粒の混入物多い。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐2.5YR4/3。内面にぶい橙5YR6/4。
5 甕(土師)	底 4.6~5.0 高〔3.7〕	カマド周辺床 ほぼ直上2片 図示部の3/4	外面の削りは強い。内底には指頭痕状の凹凸あり。外底に一方向の雑な磨きあるが、平滑さ欠く。厚手だが軽量。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石の混じる砂粒含む。②酸化焰か。やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に黒色味、内面に赤色味をおびるムラあり。

2 館跡の堀出土遺物 安養寺森西遺跡

館堀(北堀) (本文85頁 PL-19)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢 (青磁)		上層 図示部小片	釉は厚く粘手の美しい発色。細かな気泡多い。貫入なし。二次的被熱により表面やや荒れる。	①きわめて緻密。黒色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面白色。

館堀(南堀) (本文87頁 PL-19)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓮弁碗 (青磁)		埋没土 図示部小片	蓮弁レリーフは細かいがやや雑。釉はやや薄く貫入は見られない。整った細かな気泡あり。釉は淡い緑青色。	①緻密だがややザラザラしている。②充分に磁器化している。③断面灰白色。④龍泉窯系。13世紀。
2 鉢(白磁)		埋没土 図示部小片	口縁外端は折り返し。釉は薄いが一様でない。ややくすんだ灰白色に発色。細かな気泡を多く含む。	①きわめて緻密。黒色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面白色。④北宋。12世紀。
3 碗(青磁)		埋没土 図示部小片	外底にやや弱いロクロ痕。内面は浅い線刻。釉は薄く透明感の強い灰緑色。細かいが不揃いな気泡を含む。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分に磁器化している。③断面灰白色。④舶載。13世紀。
4 凹み石	長 16.5 幅 13.8 厚 10.2 重1,150g	床面直上 完形	上面に窪みがあり内側は底部を中心に剥落が多い。1側面と下面に工具痕が見られる。	①軽石(二ツ岳)。
5 凹み石	長 16.6 幅 14.9 厚 14.5 重2,250g	埋没土 完形か	加工痕の不明瞭な不整形の角礫の上面に窪みがある。	①軽石(二ツ岳)。
6 凹み石	長 22.7 幅 15.3 厚 11.2 重2,150g	埋没土 完形か	上面に窪みがあり底部周辺が剥落している。他の面に加工痕が不均等に残るが器面は不整。	①軽石(二ツ岳)。
7 銅銭	径 2.35	埋没土 完形	表裏面とも剥落すすむ。	④熙寧元寶。北宋銭。1068年初鑄。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿(陶器)	口(11.2) 底 4.0 高 1.9	上層 口 2/5 底 4/5	外面は下半までヘラ削り。釉は薄く透明感あり。細かな貫入が見られる。口縁外端のみウルシ状のやや厚い付着物あり。	①緻密。黒色の微細な混入物を少量含む。②硬調。③断面灰白色。④19世紀か。
2 皿受け(陶器)	口(9.4) 底 7.5 高 5.9	上層 上半 1/4 底 完存	杯部内面に細かく強いロクロ痕あり。外底を除いた全面に薄い釉をかける。透明感強くきわめて細かな貫入あり。	①やや砂質。混入物はほとんど含まない。②硬調。③断面淡黄褐色。④地方窯。幕末以後。
3 鉢(陶器)	口(15.4)	上層 破片	染付けはきわめて細かい。呉須はやや明るい藍色に発色。釉はやや薄く、不揃いの気泡が多い。	①きわめて緻密で混入物を含まない。②充分に磁器化している。③白色。④肥前系。19世紀前半。
4 小碗(磁器)	口(9.6) 台 3.7 高 5.1	上層 体 1/4 底 3/4	底部厚手。外面は雪の輪梅花文。呉須はくすんだ藍色に発色。釉は薄く不揃いな気泡あり。	①やや緻密で褐色の微細な混入物をわずかに含む。②充分に磁器化している。③断面ややくすんだ白色。④波佐見。18世紀中葉~後半。
5 碗(陶器)	口(10.0)	上層 図示部の1/6	薄手の優品である。内外面に厚い白土打刷毛。釉は薄く細貫入あり。	①砂質。混入物はほとんど含まない。②やや硬調。③断面えんじ色。④現川か。江戸時代か。
6 小碗(磁器)	口(7.8) 底(3.0) 高 5.0	上層 上半 1/8 下半 1/3	畳付き部分を釉ハギ。呉須はくすんだ藍色に発色。釉は薄く細かな気泡がまじる。	①白色の混入物まじる。②充分磁器化している。③断面白色。④肥前系。19世紀前~中葉。
7 小碗(磁器)	台 3.2	上層 口下端 1/4 底 完存	高台内端に砂粒付着。染付けは山呉須か。釉はやや薄い。細かな気泡が多い。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面白色。④波佐見。18世紀中葉~後半。
8 猪口(磁器)	口(7.4) 底 3.3 高 3.5	上層 口 1/2 底 ほぼ完存	銅版刷り。くすんだ藍色に発色。釉は薄くきわめて細かな気泡を含む。やや灰色味をおびた発色。	①緻密で混入物を含まない。②磁器化している。③断面ややくすんだ白色。
9 小碗(磁器)	口(8.0) 台 3.6 高 4.3	上層 上半 1/8 下半 1/2	上絵は松竹梅の意匠と思われ図示部外に松葉あり。赤色の印版の上に赤と緑の筆描きを加えている。内面は剥落すすみ不明瞭。釉は薄くきわめて細かな気泡あり。	①緻密で混入物を含まない。②充分磁器化している。③断面白色。
10 小碗(陶器)	口 7.8 台 3.2 高 4.3	上層 口 2/3 底 1/2	口縁上端と高台外端に鉄釉を加える。釉はやや厚く青色味をおびている。赤絵上絵の痕跡あり。	①やや砂質。②還元焰。③断面やや赤色味をおびた灰色。
11 ぐい呑(磁器)	口(5.6) 底(3.2) 高 6.0	上層 1/3個体	型造り。銅版刷りで版が上にずれている。	①緻密で黒色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面ややくすんだ白色。
12 ぐい呑(磁器)	口 4.7 台 3.4 高 5.4	上層 ほぼ完存	印版で版の継ぎ目が3ヶ所あり。呉須はベロ藍だがややくすんだ発色。	①緻密で混入物を含まない。②充分磁器化している。③断面白色。④明治時代。
13 皿(磁器)	口 12.5 台 5.0 高 3.1	上層 2/3個体	畳つきの一部に細砂付着。内底縁部は蛇の目状の雑な釉ハギ。呉須はくすんだ藍色に発色。釉は薄く透明感弱い。気泡少ない。	①やや緻密で褐色の微細な混入物をわずかに含む。②充分磁器化している。③断面ややくすんだ白色。④波佐見。18世紀後半~19世紀初頭。
14 皿(磁器)	台(11.7)	上層 図示部の1/3	やや厚手。畳つき部は釉ハギ。呉須はくすんだ藍色に発色。釉はやや厚く気泡少ない。	①やや緻密。褐色の微細な混入物多い。②充分磁器化している。③断面くすんだ白色。④波佐見か。
15 飯茶碗(磁器)	口(12.0) 台 3.8 高 5.0	上層 口 1/6 底 1/2	銅版刷り。釉はきわめて薄くやや濁っている。きわめて細かな気泡を含む。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面はややくすんだ白色。④明治時代以降。
16 飯茶碗(磁器)	口(12.2) 台(4.4) 高 5.4	上層 2/5個体	印版で外面に1ヶ所内面に2ヶ所の継ぎ目あり。ベロ藍。釉は薄く光沢強い。気泡多い。	①緻密で褐色の微細な混入物を少量含む。②充分磁器化している。③断面白色。④明治時代以降。
17 皿(磁器)	口(14.2) 台 8.0 高 3.4	上層 2/5個体	口縁は変則的な輪花状。高台は蛇の目状。銅版刷りか。呉須は明るい藍色に発色。釉は薄く光沢あり。	①緻密。②充分に磁器化している。③断面白色。④肥前か。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
18 皿(磁器)	口(16.2) 台(8.3) 高 2.8	上層 2/5個体	蛇の目状の高台。輪花状の口縁。呉須は鮮やかな藍色に発色。釉はやや薄く光沢あり。気泡多い。外底に釉による文字あり。	①褐色の細かな混入物やや多い。②充分磁器化している。③断面白色。④瀬戸・美濃系か。
19 皿(磁器)	口(14.8) 台 8.0 高 4.0	上層 口 1/3 底 1/2	印版。高台蛇の目状。口縁輪花状。呉須は淡い藍色に発色。	①黒色の微細な混入物を少量含む。気泡まじる。②充分磁器化している。③断面やややくすんだ白色。
20 皿(磁器)	口(10.9) 台 6.2 高 1.9	上層 口 1/3 底 2/3	疊つき部は釉ハギ。内面銅版刷り。呉須はやや淡い藍色に発色。	①黒色の微細な混入物を少量含む。②充分磁器化している。③断面白色。④瀬戸・美濃系。
21 鉢(陶器)	台 11.1	上層 図示部の3/4	内底に8個のトチン痕が残っている。外面は体部まで丁寧なヘラ削り。釉は薄く透明で細貫入が見られる。外底に墨書あり。	①やや砂質。混入物は少ない。②やや硬調。③断面灰白色。外底は黄色味をおびる。④益子・笠間系か。
22 皿(磁器)	口(18.9) 台 9.8 高 6.3	上層 口 1/8 底 2/3	外底は蛇の目状。銅版刷り。呉須は明るい藍色。釉にはごく細かな気泡がまじる。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面やややくすんだ白色。④瀬戸・美濃系。
23 土鍋蓋	鈕 6.8	上面 図示部 ほぼ完存	土鍋の蓋。内面に渦巻状のロクロ痕あり。釉は外面でうのふ状。内面は褐釉状で光沢強い。内面に細貫入あり。	①ややモグサ質状。黒色の微細な混入物を散見。②やや硬調。③断面灰黄色。④益子・笠間系か。
24 片口 (陶器)	口(13.0) 台(8.1) 高 6.1	上層 図示部の2/5	片口部の取付けは雑。疊つき部釉ハギ。呉須は明るい藍色に発色。釉は薄く細貫入あり。	①やや砂質。黒色鉱物を少量含む。②還元焰で焼き締まる。③断面灰白色で底部付近は赤色味をおびる。④益子・笠間系か。
25 徳利 (陶器)	口 4.2 底 8.1	上層 首部完存 他は1/3	きわめて薄手。内面は細かなロクロ痕。外底は回転ヘラ削り。上半に漆黒釉を厚くかける。上下で接合はしなかったが同一個体と思われる。	①やや砂質だが混入物は少ない。②還元焰。普通。③断面灰褐色。④江戸時代か。
26 徳利 (陶器)	底 7.6	上層 図示部の4/5	薄手。内面はやや細かなロクロ痕。外底は回転ヘラ削り。呉須の文字・記号はくすんだ藍色に発色。釉は透明で灰色味をおびる。細貫入、細かな気泡がある。	①やや砂質。混入物はほとんど含まない。②酸化気味か。硬調。③断面淡褐色から灰白色。
27 徳利 (陶器)	口 3.5	上層 口 1/2 肩 2/5	口縁断面に明瞭な接合痕あり。内面のロクロ痕細かい。残存部分は背面で屋号部分あり。黒色に発色。釉はやや薄くやや粗い貫入あり。	①やや砂質。混入物は少ない。②硬調。③断面やや黄色味をおびた灰白色。
28 徳利 (陶器)	口 2.6	上層 口 完存 肩 1/8	釉は厚さ一様でなく一部で虫喰いありやや粗い貫入と細かな気泡あり。乳白色に発色。	①ややモグサ土状。混入物を含まない。②普通。③断面灰黄色。
29 徳利 (陶器)	最大径 14.0	上層指示部の1/2	細かなロクロ痕あり。文字は「小林」か。黒褐色に発色。背面にも屋号と思われる記号あり。釉はやや薄く灰色味をおびている。細かな気泡あり。	①やや砂質。灰色の細かな混入物を少量含む。②やや硬調。③断面灰白色。
30 徳利 (陶器)	底 11.2	上層 胴下半 1/4 底 3/4	外底は削り出し高台状。文字は黒褐色に発色。釉は全面に薄く施され灰釉状のやや緑色味をおびた発色。	①やや砂質。混入物をほとんど含まない。②硬調。③断面灰白色。
31 砥石	長[6.5] 幅 5.8 高 6.3 重 250g	上層 両端欠く	1側面にハツリ痕が残っている。残存する4面とも使用痕があるが平坦である。破損後にも一部使用している。大ききから置砥。	①流紋岩。
32 銅銭	径 2.45	上層 完形	背面は無文で郭は大きく歪む。	④寛永通寶。
33 地輪か	長 22.7 幅 20.3 高[15.7] 重 5.95kg	上層 2面のみ残存	平面は楕円形を呈しているが地輪と思われる。側面の工具痕は風化してきわめてわかりにくい。上面中心に幅広く強い後世の工具痕が加わっている。	①流紋岩質凝灰岩(馬見岡凝灰岩)。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
34 不明	長[13.0] 幅[4.3] 高[9.8] 重 320g	上層 破片	残存刷る2面ともに全面に斜位のノミ状工具痕がある。地輪の可能性。	①溶結凝灰岩。
35 鉢(陶器)	口(25.0)	上層 図示部の1/2	釉は薄く透明感あり。やや細かな貫入あり。	①やや砂質。②やや硬調。③断面淡褐色。④益子・笠間系か。
36 鉢(陶器)	底 20.0	上層 図示部の4/5	35と同一個体か。内底に9個の平面台形状のトチン痕あり。外底は無釉で丁寧な回転ヘラ削り。	①②③④35に同じ。
37 こね鉢(陶器)	口 21.2 底 12.5 高 11.4	上層 上半 2/5 下半 完存	体部のロクロ痕は細かい。内底に6個のトチン痕あり。	①やや砂質。混入物はほとんど含まない。②やや硬調。③断面淡黄褐色。④益子・笠間系か。
38 鉢(陶器)	口(32.0)	上層 図示部の1/3	内外面ともやや細かなロクロ痕が残っている。釉は薄く細かな貫入あり。	①やや砂質。混入物は少ない。②やや硬調。③断面淡褐色。④益子・笠間系か。
39 植木鉢か(陶器)	台(22.8)	上層 図示部の4/5	中央に孔のある内底部と中央に突起のある外底、台部が別の作りで釉によって貼り付けてある。底部と台部はややズレており融着した焼台転用の蓋と植木鉢か。外面体部下半に灰青色、底底部に黒色の施釉でどちらも光沢強い。	①ザックリした重い素地。灰白色の粗砂やや多い。②還元焰。硬調。③断面灰黄色。④産地不詳。明治時代以降か。上方から突起部を叩き抜いて植木鉢転用に備えた鉢の可能性あり。
40 コンロ(軟質陶器)	口 29.2 底 20.5 高 20.7 孔径 1.8	上層 上半 2/3 下半 ほぼ完存	3足、3孔、3個の把手が付く。足と把手は縦断面上の同位にあり間に孔がある。内面下半は凹凸の強いロクロ痕。上半は鋭い擦痕が巡っている。外面はやや平滑。口縁上端は丁寧な仕上げ。	①ボソボソしたやや粗い素地。輝石、バミス等の細かな混入物を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③黒褐2.5Y3/1。内面中位は淡黄色。
41 火鉢(軟質陶器)	口(19.8)	上層 図示部の2/5	手あぶりか。型造り。内面には弱いロクロ痕あり。外面は口縁に磨き。胴部は押型。内外面とも器面はいぶして薄く吸炭。光沢はない。	①ザラザラしたやや粗い素地。粗砂を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③断面灰色。表面灰黒色。
42 軟質陶器		上層 破片	火鉢の上端か。上面は鋭い削りの上に○岩崎の刻印あり。内面は研磨の可能性。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。黒色味の強いムラあり。断面中央も黒色。
43 軟質陶器		上層 破片	火鉢の上端部破片か。大型品としては薄手。上面に久保田の刻印あり。	①軽量でしまり欠ける。赤褐色鉱物含む。気泡まじる。②酸化焰気味か。やや硬調。③淡赤橙2.5YR7/4。断面は赤色味強い。
44 鉢(軟質陶器)	口(39.0) 底 13.0 高 12.6	上層 1/3個体	外面下半に磨きに近いような弱い削りあり。内面は雑な磨きで黒色処理を施す。	①やや粗い。粗砂、赤褐色鉱物を含む。②酸化焰気味か。やや軟調。③断面淡褐色で中央は灰褐色。
45 カマドか(軟質陶器)	口 38cm程か	上層 図示部小片	外面に3cm幅14条の櫛描文あり。各条は断面四角で深い。内面は鋭い擦痕巡る。口縁上端は丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①ボソボソでやや粗い素地。バミス、赤褐色鉱物等の混入多い。②酸化焰気味か。やや硬調。③断面褐2.5YR5/6。口縁付近は黒色味強い。
46 釜輪(軟質陶器)	口内面(32.0) 下面(30.0)	上層 1/3個体	全面に横位ナデの擦痕あり。縁部に細かな歪み多い。上端にタール状の付着物。下面にスス状の付着物多い。	①ざつりした素地。砂粒を含む。大粒の混入物なし。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙10YR7/4。ススの付着等で黒色味の強い部分広い。
47 蓋(軟質陶器)	口(26.0) 底(13.6) 高 3.7	上層 図示部の2/5	火消し壺の蓋と思われる。内面は丁寧なナデ。天井部外面は不整。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物を少量含む。②中間的な焰調。普通。③黒褐色。断面灰色。
48 カマド軟質陶器	口(35.8)	上層 図示部の1/3	斜格子状の節描文上に把手の孔あり。内面はロクロ痕状のやや鋭い擦痕が巡っている。	①素地やや粗く重量。黒色鉱物含む。②中間的な焰調。やや硬調。③灰黄色で断面中央は黒色味強い。外面は褐色。
49 焙烙(軟質陶器)	口(28.0)	上層 図示部の1/8	内面は強いナデ。耳の取り付け丁寧。外底は不整で砂粒が少量付着。二次被熱の影響やや強い。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物等やや大粒の混入物を含む。②酸化焰気味。やや硬調。③褐色で外面は黒色味強い。

3 溝出土遺物 安養寺森西遺跡 (本文119・127・130・133・134・136・137頁 PL-30)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1溝-1 石鉢	底 18cm程か 重 760g	埋没土 底部小片	外面に細かな工具痕、底面にはやや深い工具痕あり。内面は摩滅しているがやや平滑さに欠ける。	①粗粒安山岩。
1溝-2 容器	長 17.6 幅 17.3 高 [7.4] 重 1,250g	埋没土 底 4/5	立方体状の加工品の中を四角くくり抜いたものと思われ地輪の可能性もある底面、側面は平坦面を作っているが窪み部分は不整。	①軽石 (二ツ岳)。
16溝-1 杯(土師)	口11.8~12.6 底 5.9~7.0 高 4.2	埋没土 口 4/5 底 完存	外面下半に粗いヘラ削り。外底中央に皮膚膚状の無調整部分残る。内面強いナデ。平面楕円形に至む。	①素地普通。1~2mm大の赤褐色鉱物、パミス、輝石を含む。②酸化焰。やや硬調。③明赤褐5YR5/6。断面は彩度低い。
20溝-1 杯(土師)	口(17.2) 高(4.5)	埋没土 1/3個体	外底の削りは幅広でやや粗い。口縁上端のみ強いナデ。内面は凹凸やや多い。	①素地普通。輝石、パミス等固化まな混入物含む。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR6/3。内面明度低い。
25溝-1 皿(土師)	口(9.0) 底 7.8 高 2.7	埋没土 2/5個体	手づくねだが外底は平坦。外面には指頭状のきわめて幅広の押圧痕。口縁上端に鋸歯状の切れ込みあり。	①粗くザックリした素地。3mm大の礫まじる。②酸化焰。やや硬調。③明赤褐2.5YR5/6。内面黒色。
25溝-2 杯(土師)	口(10.0) 高 3.1	底面直上 口 1/3 底 2/3	ロクロ不使用。器面の摩滅すすみ整形痕不明。歪み著しい。	①粒子細かいがシルトまじりのようで純度低い。②中間的な焰調。やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。断面まで一様。
25溝-3 不明	長 14.4 幅 14.8 高 11.6 重 1,009g	底面直上	径30cm程の偏平な礫の破片の割口に不明瞭な工具痕が見られる。	①軽石 (二ツ岳)。
27溝-1 不明	長[12.2] 幅[9.3] 高[7.8] 重 297g	21井戸付近下層 半欠品か	上面に不規則な工具痕あり。自然面が残っているのは上面と1側面のみで他は割れ口となる。	①軽石 (二ツ岳)。
27溝-2 凹み石	長[9.2] 幅 9.6 高 6.0 重 529g	21井戸付近下層 半欠品	上面に整った円形を呈した窪みあり。両側面は磨面。下面もやや浅い窪みあり。上面の割口上にも一部磨面が見られる。	①軽石 (二ツ岳)。
27溝-3 地輪	長[21.3] 幅[14.7] 高[16.8] 重 6,575g	21井戸付近下層 2/3個体	3面が一部残存しており正面には加工痕、上面には刀傷のような長い擦痕が残っている。割れ口には矢を入れたような幅太の工具痕が不明瞭につながっている。	①凝灰岩。④正面に破損時、裏面と1側面に中心に破損後の被熱痕あり。
29溝-1 碗(青磁)		埋没土 図示部小片	外面やや細かなロクロ痕。内面の線刻は2条1単位の部分が多い。幅広だが浅い。釉は薄く灰緑色に発色。細かな気泡を含む。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面灰白色。④舶載。12世紀。
30・31 溝-1 碗(青磁)		埋没土 小片	内面線刻は浅い。外面に弱いロクロ痕。釉は薄く透明感のある灰緑色。細かな貫入あり。細かな気泡を少量含む。	①緻密。黒色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面灰色味をおびた白色。④舶載。13世紀。
30・31 溝-2 灯明皿	口(5.8) 底(4.2) 高 2.3	埋没土 上半 1/4 下半 1/3	薄手。外面は体部下半までヘラ削り。鉄釉を薄く施すが内底にはやや厚くたまっている。	①素地普通。砂粒を少量含む。②酸化焰気味。やや硬調。③橙7.5YR6/6。

大館馬場遺跡 (本文143~145頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3溝-1 碗(青磁)		埋没土 口~体 小片	内面の線刻はやや鋭い。釉は薄くやややくすんだ灰釉色を呈している。やや細かな貫入あり。気泡は不揃いである。	①素地やや緻密。微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面灰白色。
3溝-2 砥石	長 5.9 幅 6.3 厚 2.8 重 50g	埋没土 ほぼ完形	自然石の1面を強く砥ぎ込んだ小型品だが、深い擦痕はない。	①軽石(ニツ岳)。
5溝-1 皿(白磁)	口(9.8)	上層 図示部の1/5	口透け皿で口縁端部は鋭い釉ハギ。外面に虫喰いやや多く見られる。釉はやや薄く乳濁した白色で細貫入が少し見られる。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面やや灰色味をおびた白色。④元代。
5溝-2 碗(青磁)		埋没土 図示部小片	やや薄手。線刻部分はやや深い。釉はやや薄く透明感のある灰緑色に発色。不揃いの気泡を含む。	①緻密で微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面灰白色。④同安窯系。
6溝-1 小皿	口(8.2)	埋没土 図示部の1/4	ロクロ不使用。底部は上げ底状か。外面は口縁上端のみ強いナデで他は不明瞭。指頭痕状の不明瞭な圧痕あり。内面はやや平滑。	①素地普通。パミス、赤褐色鉱物を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③におい橙7.5YR7/4。断面は彩度低い。
6溝-2 碗(青磁)		埋没土 口縁小片	外面にいわゆる猫描手の線刻。内面屈曲部分に弱い沈線あり。釉は薄く灰緑色に発色し気泡はきわめて細かい。	①緻密で混入物を含まない。②充分磁器化している。③断面灰白色。④同安窯系。12~13世紀。

阿久津宮内遺跡 (本文146・148頁 PL-30)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1溝-1 小杯 (土師)	口 9.0 高 1.7	底面直上 完形	外底は雑な削り。口縁や内面にはナデの痕跡不明瞭で平滑さに欠ける。口縁は波状に至む。	①素地普通で軟質。陶器に近い。輝石まじりの砂粒含む。②中間的な焰調。硬調。③灰白2.5Y8/2。灰色味の強いムラ広い。
1溝-2 小皿 (土師)	口 9.1~9.3 高 1.5	底面直上 完形	外底は雑な削り。内面はやや平滑。歪み強い。1溝-1と同巧と思われ外底のほぼ同じ位置に指頭圧痕がある。	①素地普通。輝石まじりの砂粒を少量含む。②中間的な焰調。硬調。③淡黄2.5Y8/3。外面に黒斑広い。
2溝-1 碗(須恵)	口 12.3 底 5.4 高 3.8	土器群下 口 1/2 底 3/4	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕は外面のみでやや強い。内面は平滑。薄手で軽量。	①素地やや粗い。1~4mm大の片岩、チャート等の混入やや多い。②還元焰。普通。③暗青灰5B4/1。ほぼ一様。
2溝-2 杯(須恵)	底 5.4	土器群1の下 口下半 2/3 底 完存	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕は外面のみ強い。二次被熱の影響で器面脆弱化。	①素地普通。輝石等細かな混入物やや多い。②中間的な焰調。硬調。③淡黄橙10YR8/3。赤色味、黒色味おびつムラあり。
2溝-3 杯(土師)	口13.1~13.5 底 6.1 高 4.7	土器群8の下 ほぼ完形	口縁外面は無調整で下半の削りはほとんどない。外底は雑で強い削り。内面のナデ強いが器面は不整。歪み強く形状は一様でない。	①素地普通。パミス、赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒を少量含む。②中間的な焰調。硬調。③灰白10YR8/2。赤色味をおびるムラあり。
2溝-4 杯(土師)	口13.1~13.6 底 6.2 高 4.3	土器群南から 3番目 完形	外面の削りは雑でやや強い。中位には指頭痕状の窪みが並んでいる。内面のナデはやや強いが器面は不整。歪み著しく形状は一様でない。	①素地普通。パミスやや多い。輝石まじりの砂粒含む。②中間的な焰調。やや軟調。③淡黄2.5Y8/3。外面一部に赤色味おびるムラあり。
2溝-5 杯(土師)	口12.8~13.2 底 6.5~7.0 高 4.3	底面より25cm 完形	外面に接合痕状のヒビあり。外底は雑な削りで無調整部分残る。口縁外面は無調整部分広く中位には指頭痕状の窪みが並ぶ。内面のナデは雑で特に底部は不整。	①素地普通。パミス、輝石まじりの砂粒を含む。②中間的な焰調。硬調。③淡黄橙7.5YR8/3。外底に薄い黒斑あり。
2溝-6 杯(土師)	口12.2~12.6 底 5.2 高 4.2	土器群最南端 完形	外面の削りは口縁下半で細かく底部で方向で強い。中位には指頭痕状の窪みが並んでいる。内面のナデはやや強いが器面は不整。歪み強い。	①素地普通。輝石、パミス、赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中間的な焰調。硬調。③淡黄2.5Y8/3。外底に灰色のムラあり。

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
2溝-7 杯(土師)	口(12.6) 高 3.8	土器群4の下 口 1/4 底 1/2	外底は一方方向の丁寧でやや強い削り。口縁は上半で幅広いナデ。下半は無調整。内面のナデは丁寧だが底部でやや不整。	①素地普通。輝石、雲母細片のまじる細砂を含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。一部に薄い黒斑あり。
2溝-8 杯(土師)	口12.7~13.1 底 5.0 高 4.4	土器群北から 2番目 完形	外面下半は細かな削り。中位に指頭痕状の窪みが並んでいる。口縁外端直下に不規則な窪みが巡る。内面ナデはやや強いが器面は不整。歪み強い。	①素地普通。輝石、パミスまじりの砂粒を少量含む。②中間的な焰調。硬調。③灰白2.5Y8/2。外面に灰色味をおびるムラあり。
2溝-9 杯(土師)	口12.9~13.3 底 5.7~6.0 高 4.5	土器群の西方 40cm 完形	外面に接合痕状のヒビあり。外底の削りはほぼ一方方向でやや丁寧。口縁下半の削りはやや弱い。内底広い。内面のナデは強いが器面は不整。歪み強く形状は様でない。	①素地普通。パミスやや目立つ。輝石まじりの砂粒を少量含む。②中間的な焰調。硬調。③浅黄2.5Y8/3。外面に黒斑や赤色味をおびるムラあり。
2溝-10 杯(土師)	口12.6~13.0 底 5.2~5.6 高 4.4	土器群南から2 番目 完形	外面に削りは口縁下半で細かく底部では一方方向で強い。中位には指頭痕状の窪みが並んでいる。内面のナデはやや強いが器面は不整。歪み強い。	①素地普通。パミス、赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中間的な焰調。硬調。③浅黄2.5Y8/3。外面は黒色。
2溝-11 杯(土師)	口12.1~12.4 底 5.3~5.7 高 4.2	土器群の北西方 40cm 完形	外面に接合痕状のヒビあり。口縁中位に指頭痕状の窪みが並びその上に雑な削りが見られる。外底の削りは一方方向でやや丁寧。内面のナデは強いが器面はやや不整。やや歪みあり。	①素地普通。パミス、輝石、赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中間的な焰調。硬調。③淡黄橙10YR8/3。低彩度部分も広い。
2溝-12 杯(土師)	口 12.7 底 5.8 高 4.2	土器群最北端 完形	外底の削りは一方方向で丁寧。口縁下端は部分的に弱い削り。口縁中位の指頭痕状の窪みはやや弱い。内面立ち上がり部の屈曲がやや強い。やや歪みあり。	①素地普通。パミス、輝石まじりの砂粒を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③浅黄2.5Y8/3。外面に黒斑あり。
2溝-13 杯(土師)	口 12.4 底 4.4 高 4.7	土器群の北方 2m 底面ほぼ 直上 ほぼ完形	口縁外面の削りは下端のみで細かい。外底の削りはほぼ一宝庫飢え丁寧。口縁中位の指頭痕状の窪みはやや弱い。内面のナデはやや強い。	①素地普通。パミス、輝石混じりの砂粒を含む。②中間的な焰調。硬調。③灰白2.5Y8/2。外底は黒褐色。
2溝-14 土錘	長 6.7 幅 1.4 端厚 0.4 孔 0.2 重 13.0g	底面より10cm 完形	器面は摩滅がすすみ整形痕はほとんどわからないが平滑に仕上げている。一端にヒモズレ状の使用痕あり。	①素地やや緻密。パミス、輝石等細かな混入物を少量含む。②酸化焰。やや硬調。③灰白5Y8/1。割口は黒色味が強い。

4 井戸出土遺物 安養寺森西遺跡

AY-1号井戸出土遺物 (本文156・157頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 桶側板	長 46.2 幅 7.4~6.5 厚 1.3~1.1	完存	1~12は一個体の桶の部材である。図示したのは約1/2で、他は乾燥がすすんで復元できなかった。上側ほど幅・厚みとも大きい。内面下隅に底板状の圧痕あり。	①木取りは板目。④本井戸の桶材はプレバートが取れず、樹種同定できなかった。いずれも針葉樹である。
2 桶側板	長 46.4 幅 10.0~8.4 厚 1.3~0.6	完存	上下に2孔あり。下は栓あり。上は雑な穿孔で両脇が押圧により平滑。外面上端にタガ状の二条圧痕あり。内面下端に底板状の圧痕あり。	①木取りは板目。上半のみ遺存状態が良い。④「丁吉」の屋号焼印あり。
3 桶側板	長 46.3 下端 4.8	ほぼ完存	底板状の圧痕は明瞭。	①木取りは板目。遺存状態はきわめて悪い。④厚さは上端で1.0cm以上、下端で1.0cm。
4 桶側板	長[45.1] 幅 7.3~6.1	上端を欠く	内面下端に底板状の圧痕あり。外面のタガ痕は不明瞭。	①木取りは板目。④厚さは上端で1.1cm以上、下端で0.9cm。
5 桶側板	長 46.7 幅 9.6~8.3	ほぼ完存	底板状の圧痕は不明瞭。	①木取りは板目。④厚さは上端で1.3cm、下端で1.0cm。
6 桶側板	長 46.7	破片	底板状の圧痕は不明瞭。上側に釘を抜いた痕のような小孔あり。	①木取りは板目。④厚さは上端で1.1cm、下端で0.8cm。
7 桶側板	長 47.1	破片	下端は土圧を受け歪んでいる。底板状の圧痕はやや不明瞭。	①木取りは板目。小さなフシ穴あり。遺存状態は悪い。
8 桶側板	長 46.8	完存	上側に釘を抜いたような小孔多い。	①木取りは板目。
9 桶側板	長 46.9	完存	上部に穿孔あり、2と対になる。	①木取りは板目。
10 桶側板	長 46.5	完存	タガ痕、底板痕ともに明瞭。上側に小孔多い。	①木取りは板目。
11 桶側板	長 46.3 幅 8.0~7.1	一部を欠く	底板状の圧痕はやや明瞭。	①木取りは板目。遺存状態は悪い。④厚さは最大1.1cm。
12 桶側板	長[46.0]	破片 一端を欠く	天地不明。	①木取りは板目。④厚さは最大1.1cm。

AY-2号井戸出土遺物 (本文158頁 PL-36・40)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 染付碗 (磁器)	口 10.0 台 4.4 高 5.1	上層 1/2個体	畳付き部は釉ハギか。外面に雪の輪梅花。高台に二重圏線。外底に文様を手画きする。呉須はやや沈んだ濃藍色。	①きわめて緻密で混入物を含まない。②十分に磁器化している。③胎土白色。④肥前系。
2 染付碗 (磁器)	口(9.8) 台 3.6 高 5.1	2・9井戸 1溝 口 1/3 口 1/3 底部完存	高台部下端は露胎で内外面とも黄色の細砂が付着している。施文は外面のみで体部に雪の輪梅花文。高台に二重圏線。外底に文様。呉須は淡くすんだ青色。	①緻密で白色の細砂を少量含んでいる。②十分磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半。
3 碗(磁器)	台(6.0) 高(3.7)	上層	ロクロ回転右。畳付き部は窯の中で剥がれており、本来は外面全体に施釉。釉は淡い灰緑色で細かな気泡がまじる。	①きわめて緻密で混入物を含まない。②十分に磁器化している。③断面はやや灰色味をおびた白色。
4 飯茶碗 (磁器)	口(10.2) 台 4.4	2・9井戸 口 1/2 底 3/4	右回転ロクロ。外面の青磁部分は大粒の気泡多く粗い貫入が見られる。	①素地きわめて緻密で混入物もない。②十分磁器化している。③断面は白色。
5 碗(磁器)	口(10.0) 台(4.6) 高 5.2	2・8井戸 口 1/5 底 1/2	呉須はやや淡い藍色。外底に文様。	①きわめて緻密で混入物を含まない。②十分に磁器化している。③断面白色。
6 碗(磁器)	口 9.4 台 3.8 高 5.2	2・9井戸上層 1/2 底 完存	文様は雪の輪梅花の裏面。呉須は淡い藍色に発色。釉はやや薄く細かな気泡が多い。畳付き部は釉ハギ。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②十分に磁器化している。③断面白色。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
7 碗(磁器)	口(7.2) 台 4.3 高 6.2	2・9井戸上層 口 1/3 底 2/3	文様は形骸化が著しい。呉須はくすんだ藍色に発色。釉は厚く乳濁している。やや細かな気泡がまじる。畳付き部は釉ハギ。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②十分磁器化している。③断面白色。④肥前系か。19世紀前半～中葉。
8 白磁壺	口(9.6) 頸(8.8)	2・9井戸上層 図示部の2/5	右回転ロクロ。口縁外面にやや雑なレリーフを加えている。口縁上端は釉ハギ。釉は薄く細かな気泡が見られる。	①素地緻密。黒色の微細鉱物を散見する。②十分磁器化している。③断面白色。
9 鉢 (陶器)	台 10.1	2・9井戸上層 図示部ほぼ完存	内面の整形はやや雑。外面は丁寧な回転へら削り調整。釉は漬け掛け。	①ガサガサした素地で黒色鉱物の混入非常に多い。②還元焰。硬調。③露胎部分にはぶい黄橙色。釉は褐色でテリがある。
10 大鉢 (陶器)	底(19.2)	2・9井戸上層 破片	深いレリーフと刺突文からなる。釉はやや厚く透明感のある淡い灰緑色に発色。細貫入とやや粗い気泡がまじる。	①モグサ土に似た素地。黒色、白色の細かな混入物。②還元焰。やや硬調。③断面は黄色味をおびた灰白色。④瀬戸・美濃系。18世紀後半～19世紀前半。
11 水滴 (磁器)	長(3.0) 幅[2.3] 高[3.3]	上層 破片	型押し成形。赤絵は釉の上に書き加えているが緑・黒色を加えた前面は露胎であった。	②磁器化している。
12 砥石	長 [7.6] 幅 4.1 厚 1.6 重 80.0g	上層 両端欠く	両端を欠き、3面に使用痕あり。上面は切り出し時の鋸の痕が残っている。	①砥沢石。
13 凹み石	長 12.4 幅 8.9 高 5.0 重 250.0g	上層 ほぼ完存	上面に広く不明瞭な窪みあり。下面には幅広工具で深く削った痕が平坦面となっている。一部に不明瞭な磨面あり。	①軽石(ニツ岳)。

AY- 3号井戸出土遺物 (本文159頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 凹み石か	長 9.2 幅 [7.5] 高 5.9 重 150.0g	埋没土 破片	上面は広い窪み。下面は斜位に平坦面を削り込んでいるが工具痕は明瞭でない。	①軽石(ニツ岳)。④破損前の被熱痕あり。

AY- 4号井戸出土遺物 (本文160頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 古銭	径 2.52	埋没土 1/2個体	縁は表裏面とも高い。	④紹聖元寶、篆書体。北宋銭1094年初鑄。

AY- 6号井戸出土遺物 (本文161頁 PL-36)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 釘 (鉄器)	長[6.8]	埋没土 端部欠く	頂部薄い。未使用品の可能性あり。	①クラック少ないが、あまり良くない。③褐色味をおびる。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 底板	径 20.6 厚 1.5	下層 ほぼ完存	2枚の板を合わせ4本の木釘で留めたものと思われる。側面には留め具の痕跡なく桶の底板か。	①ヒノキ属。柾目材と板目材の2点。
2 曲物底板	径 (32.4) 厚 0.9	下層 3/4	1枚板か。腐蝕すすみ整形痕は残っていない。厚さより曲物の底板か。	①ヒノキ属か。木取りは柾目。
3 底板	径 11.9 厚 0.8	下層 1/2	半欠品。大きさより柄杓状製品の底板か。	①モミ属。木取りは柾目。
4 曲物底板	径 30cm程か 厚 0.9	下層 破片	2と同様の大型底板である。縁部は面取り状になっている。小孔は2つあるが虫喰いの痕か。	①スギ。木取りは板目か。
5 曲物	径 10.8 厚 0.8	下層 完存	桜皮と思われる留め具残存。曲物状の側板を留めたもの。大きさより柄杓状製品の底板か。	①トウヒ属。木取りは柾目。
6 底板	径 11.6 厚 0.9	下層 一部欠く	縁部に削りの痕跡がわずかに残る。柄杓状製品の底板か。	①モミ属。木取りは柾目。
7 底板	径 19.7 厚 0.9	下層 一部欠く	曲物の底板と思われるが留め具痕は見つからなかった。	①ヒノキ属か。木取りは板目。
8 底板	径 25.4 厚 1.1	下層 完存	4枚の板を竹釘で合わせる。図示部右側は補修の貼り合わせ。裏面に平行の鋭い傷。側面に留め具痕あり。曲物か。本遺跡群中最大の径あり。	①スギ。柾目材と板目材あり。④竹釘は図示した1本の他中央板の合わせに使用した4本が確認できる。
9 底板	径 17.4 厚 1.6	下層 完存	2枚の板を2本の竹釘で合わせる。側面に削りの工具痕。厚さより桶底板。	①ヒノキ属。木取りは柾目。④小さなフシあり。
10 底板		下層 破片	厚さより桶底板。腐蝕がすすみ整形痕は確認できない。歪み大きい。	①モミ属。木取りは板目。
11 桶側板	長 [9.7] 幅 7cm程か	下層 破片	把手の受け部片。	①スギ。木取りは板目。④厚さ1.4cm。把手孔は径2.5cm程か。
12 桶側板	長 [22.3] 幅 9.0 厚 1.6	下層 上半破片	把手の受け部分。両側面に竹釘の孔と刃物あり。表面上端は砥き減ったように摩滅している。	①スギ。④厚さ1.6cm。把手孔は5.3×3.6cmの縦長で歪んでいる。
13 桶側板	長 [27.9] 幅 8.5	下層 両端欠く	天地不明。	①スギ。
14 桶側板	長 [43.4] 幅 5.2	下層 下端欠く	表裏両面に斜位～横位の擦痕多い。表裏とも一部炭化する。	①ヒノキ属。木取りは板目。④厚さ1.0cm。
15 桶側板	長 [47.0] 幅 5.9	下層 上端欠く	外面に3ヶ所のタガの圧痕あり。内面下端にも底板状の圧痕残る。	①スギ。木取りは板目。④厚1.0cm。
16 桶側板	長 46.8 幅 5.0	下層 完存	外面に2ヶ所のタガ圧痕あり。内面下端にも底板状の圧痕残る。	①スギ。木取りは板目。④厚さは上端で1.4cm、下端で0.9cm。
17 桶側板	長 [32.2] 幅 8.5	下層 上半部破片	上面内端に面取りあり。両側面の上端には竹釘の痕の小孔あり。	①スギ。④厚さは1.6cm。
18 桶側板	長 [23.0] 幅 [5.2]	下層 破片	天地不明。	①トウヒ属。④厚さは1.8cm。
19 側板か	長 [14.8] 幅 5.9	下層 両端欠く	曲物側板と桶側板の中間的な厚さである。曲げた痕跡は確認できない。	①スギか。④厚0.4cm。
20 桶側板	長 17.5 幅 7.0	下層 完存	外面に2段のタガ圧痕。内面に底板の圧痕あり。本井戸出土品には例のない低い桶の側板である。	①スギ。④厚さ1.0cm。
21 不明	長 28.0 幅 11.1	下層 完存か	表裏不明。ホゾ状の深い切り込みあり。一面にホゾ状部分と同じ幅の傷と細かな擦痕あり。把手状のものか。	①スギ。木取りは板目。④厚さ1.7cm。ホゾ状の溝は幅1.6cm。深さ5.3cm。
22 不明	長 27.8 幅 [6.5]	下層 一端を欠くか	21と対になるものか。表裏不明。一面にホゾ穴状部分と同じ幅の強い圧痕あり。両面に鋭い擦痕が多数残る。	①ヒノキ属。木取りは板目。フシあり。④厚さ2.1cm。ホゾ状の溝は幅1.6cm、深さ1.2cm。
23 板状品	長 [23.4] 幅 25.0	下層 2点の大破片を接合。一端を欠くか。	板状品に反りの出たものか。一端は摩滅しており井戸枠とは考えにくい。腐蝕すすむが工具痕が散見できる。	①モミ属。木取りは板目。大きなフシあり。④厚さ最大2.4cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
24 厚板	長[23.0] 幅 24.4	下層 両端欠くか	井戸枠か。工具痕散見。	①トチノキ。④厚さ最大2.3cm。
25 板状品	長[27.6] 幅 23.0	下層 両端欠く	井戸枠か。	①クリ。木取りは板目。④厚さ最大2.4cm。一部炭化している。
26 板状品	長[31.4] 幅 31.0	下層 縁部大 破片 2片接合	厚手の板材で一方の木口はほぼ完存。 井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さ2.6~1.9cm。
27 板状品	長[35.4] 幅[13.0]	下層 縁部破片 2片接合	木口は一部残存。井戸枠か。縦位の圧 痕状変色部分あり。	①スギ。木取りは板目か。④厚さ2.4~1.9cm。
28 板状品	長[47.4] 幅[10.2]	下層 両端欠く	井戸枠か。	①スギ。木取りは板目。④厚さ2.3cm。
29 板状品	長[29.0] 幅[9.5]	下層 両端欠く	腐蝕すすみ不明瞭。図示部左端は炭化 している。井戸枠か。	①マツ属単維管束亜属。木取りは板目。④厚さ2.9 ~2.0cm。
30 板状品	長[18.9] 幅[12.0]	下層 両端欠く	井戸枠か。	①スギ。木取りは板目。④厚さは2.9~1.7cm。
31 板状品	長[26.3] 幅[17.1]	下層 5点接合 両端欠く	井戸枠か。	①スギ。木取りは板目。④厚さは2.4~1.9cm。
32 板状品	長[16.4] 幅[19.3]	下層 大破片	厚手の破片で一方の木口はほぼ完存。 井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さは3.1~1.6cm。
33 板状品	長[22.2] 幅[10.2]	下層 2点接合	木口の一部残存か。井戸枠か。	①スギ。木取りは板目。④厚さは1.5~1.2cm。
34 板状品	長[27.0] 幅[11.6]	下層 一端欠く	厚手の破片で一方の木口は完存か。1 面に縦位の圧痕状の変色部分あり。井 戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。フシあり。④厚さは2.7~1. 9cm。
35 板状品	長[21.1] 幅[10.6]	下層 縁部破片	木口の一部残存。ホゾ状の窪みあり。 井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さ2.7cm。
36 板状品	長[21.9] 幅[9.0]	下層 両端欠く	腐蝕すすみ不明瞭。井戸枠か。	①アスナロカ。木取りは柾目か。④厚さ最大2.6cm。
37 板状品	長[43.7] 幅[9.1]	下層 両端欠く	腐蝕すすみ不明瞭。井戸枠または桶側 板か。	①スギ。木取りは板目。④厚さ最大1.0cm。
38 板状品	長[34.6] 幅[8.0]	下層 両端欠く	腐蝕すすみ不明瞭。井戸枠または桶側 板か。	①スギ。木取りは板目。④厚さは1.3cm。
39 板状品	長[27.5] 幅[10.3]	下層 縁部破片	木口の一部残存か。腐蝕がすすみ不明 瞭。幅広で井戸枠か。	①スギか。木取りは板目。④厚さ最大1.9cm。
40 板状品	長[16.5] 幅[7.2]	下層 縁部破片	一方の木口残存。1面に縦位の圧痕あ り。井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さ2.0cm。
41 板状品	長[8.9] 幅[8.6]	下層 縁部破片	厚手。二方の木口残存。1面は摩滅す すむ。井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さ3.5cm。
42 板状品	長[26.9] 幅[13.2]	下層 大破片	桶側板としては幅が広すぎる。反りの 出た井戸枠か。	①スギ。木取りは板目。
43 井戸枠	長[46.0] 幅 3.7×2.5	下層 4点接合 一端を欠く	ノミ状の工具痕がわずかに残る。凸形 のホゾ部は長さが左右で喰い違う。	①クリ。木取りは板目。④ホゾは長さ2.7cm、厚さ1. 9cm。
44 井戸枠	長[35.2] 幅 7.6×3.7	下層 2点接合 一端を欠く	割り材の2面を加工し断面は扇形。内 側にノミ状の工具痕。釘穴状の孔あり。 凸形のホゾ部は長さが喰い違う。	①エノキ属。割り材を加工。④ホゾは推定で長さ2. 5cm、厚さ1.8cm。
45 井戸枠	長[27.2] 幅 6.0×3.4	下層 一端を欠く	1面に細かな擦痕。もう1面に押圧痕 状の変色部分あり。	①クリ。木取りは板目。④ホゾは長さ3.1cm、厚さ2. 7cm。
46 井戸枠	長[12.7] 幅 5.3×3.7	下層 縁部破片	図示部は表・側面。1面に細かな擦痕 あり。	①クリ。割り材を加工か。④ホゾは長さ3.0cm、厚さ 2.3cm。
47 井戸枠	長[13.8] 幅 5.0×4.1	下層 縁部破片	図示部は表・側面。ホゾの削り出しは 雑。腐蝕すすみ不明瞭。	①クリ。芯持ち材を加工。④ホゾは長さ4.4cm、厚さ 2.9cm。
48 井戸枠	長[42.2] 幅 5.5×3.6	下層 3点接合 一端を欠く	両面に工具痕がわずかに残る。凸形の ホゾ部は長さが喰い違う。	①クリ。木取りは板目。④ホゾは厚さ2.1cm。
49 井戸枠	長[25.2] 幅 6.2×3.9	下層 両端欠く	図示部は表・側面。一方のホゾの痕跡 のみだが他と形状異なる。凸形ホゾの 井戸枠としては作りも丁寧で材質も良 く建築部材転用の可能性あり。	①ニレ属。木取りは柾目。④痕跡から推定したホゾ は幅2.1cm、厚さ1.0cmで著しく小さい。
50 井戸枠	長[17.7] 幅 6.3×3.0	下層 縁部破片	1面に縦位で幅35mmの弱い圧痕あり。 凸形のホゾは長さが喰い違う。ホゾの 曲がりは押圧によるもの。	①クリ。木取りは板目。④ホゾは長さ3.4cm、厚さ2. 1cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
51 井戸枠	長[27.9] 幅 6.4×3.4	下層 縁部破片	1面に工具痕がわずかに残る。ホゾは太い。	①クリ。木取りは板目。④ホゾは長さ3.1cm、厚さ2.9cm。
52 井戸枠	長[16.6] 幅 6.9×3.5	下層 2点接合 縁部破片	割り材の割口面は加工なし。外面に斜位の傷あるが新しいもの。凸形のホゾは細く長さは喰い違う。	①エノキ属。割り材を加工。④ホゾは長さ4.5cm、厚さ1.8cm。
53 井戸枠	長[42.7] 幅 9.8×5.8	下層 大破片	全面にやや粗いノミ状の工具痕が残存する凹形のホゾの作りは丁寧。	①ヌルデ。割り材を加工。フシあり。④ホゾは深さ4.3cm、幅3.9cm。
54 井戸枠	長[45.2] 幅 6.9×3.8	下層 2点接合 大破片	小さく屈曲する材だが柱部には加工痕はほとんど見えない。凹形のホゾの作りも雑。	①クリ。割り材を加工。フシ多い。④ホゾは深さ2.6cm以上、幅2.8cm。
55 井戸枠	長さ[13.6]	下層 縁部破片	凹形のホゾ部分にフシがあり突出している。柱部には加工痕はほとんど見えない。	①クリ。割り材を加工。④ホゾは深さ3.5cm。
56 井戸枠	長[19.8] 幅 6.2×3.8	下層 縁部破片	割り口に縦位の小さな擦痕多い。外面は面取り状の加工痕。凹形のホゾは小さく開く。	①エノキ属。割り材を加工。④ホゾは深さ3.0cm、推定幅2.3cm。
57 井戸枠	長[53.4] 幅 8.1×4.0	下層 大破片	柱部はフシ多く屈曲あるが加工痕はほとんど見えない。	①クリ。割り材を加工。フシ多い。④ホゾは深さ3.8cm、推定幅3.2cm。
58 井戸枠	長[7.4] 幅(4.4)	下層 縁部破片	二又部分を凹形ホゾに加工か。Y字形の井戸枠材となる可能性。	①モモ。芯持ち材を加工。④ホゾは深さ2.8cm、幅2.1cm。
59 井戸枠	長[22.6] 幅 6.1×3.2	下層 縁部破片	割り口に細かな傷あり。加工痕はほとんど見えない。	①エノキ属。割り材を加工。フシあり。④ホゾは深さ3.0cm、推定幅2.0cm。
60 井戸枠	長[19.6] 幅 6.9×3.3	下層 縁部破片	芯側に押圧痕状の幅3cmの縦位の変色部分あり。変色部から中央側にそれぞれ釘穴状の斜位の貫通孔あり。	①クリ。木取りは板目。④ほぞの深さは4.4cm。
61 枠材か	長[25.2] 幅 3.5×2.6	下層 2点接合 両端欠く	中央付近にノミ状の不明瞭な加工痕が見られる。	①クリ。木取りは板目。
62 板材	長[15.2] 幅[7.8]	下層 小破片	剝離多く整形痕は見えない。板状の井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さは最大で1.3cm。
63 板材	長[39.2] 幅 6.8	下層 縁部破片	1面の縁部に不明瞭な圧痕状の変色部分あり。縁は鋭い。井戸枠か。	①スギ。木取りは板目。④厚さは2.1cm。
64 角柱状品	長[33.8] 幅 5.8~5.1	下層 2点接合 両端欠く	中央に斜位の不明瞭な圧痕状の変色部分あり。割れ口も摩滅すすむ。図示部は表・側面。	①エノキ属。木取りは板目。フシあり。④厚さは最大3.7cm。
65 角柱状品	長[9.7] 幅 4.1	下層 両端欠く	腐蝕すすみ不明瞭。	①モミ属。木取りは板目。④厚さは2.8cm。
66 板状品	長[23.5] 幅 5.9	下層 両端欠く	図示部右端は縁辺付近か。桶側板または井戸枠か。	①クリ。木取りは板目。④厚さは最大2.0cm。
67 角柱状品	長[25.3] 幅 6.3~5.5	下層 両端欠く	正面に縦位の板状の圧痕あり。井戸枠を留めた杭状品の可能性あり。図示部は表・側面。	①ケヤキ。木取りは板目。④厚さは最大4.8cm。
68 板状品	長[14.4] 幅 5.6	下層 両端欠く	幅3cmの縦位の圧痕あり。井戸枠か。	①スギ。木取りは板目。④厚さは2.1cm。
69 板状品	長[18.8] 幅[6.8]	下層 縁部破片	整形痕は不明瞭。井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さは3.0cm。
70 杭状品	長[15.7] 幅 4.9	下層 両端欠く	整形痕は不明瞭。杭または井戸枠か。	①クリ。割り材。④厚さは4.4cm。
71 角柱状品	長[30.9] 幅 6.2	下層 両端欠く	裏面に縦位の細い圧痕あり。井戸枠か。	①サクラ属。割り材。④厚さは3.8cm。
72 杭状品	長[29.3] 幅 6.4	下層 縁部破片	端部を雑に削り出しているようで、井戸枠の杭か。	①ニレ属。木取りは板目。④厚さは3.3cm。
73 杭状品	長[18.9] 幅 6.8	下層 2点接合 縁部破片	端部を1ヶ所のみ面取りしており、井戸枠の杭か。	①クリ。木取りは板目。④厚さは2.7cm。
74 杭状品	長[22.6] 幅 5.8	下層 縁部破片	端部を雑に削り出し、井戸枠の杭か。柱部にも粗い削りの痕あり。	①クリ。割り材を加工か。④厚さは4.1cm。
75 板状品	長[24.1] 幅 7.1	下層 両端欠く	腐蝕すすみ不明瞭。表面はすすけたように炭化している。	①クリ。木取りは板目。④厚さは最大2.4cm。
76 杭状品	長[39.2] 幅 6.2	下層 2点接合 縁部破片	先端部を雑に削り出しており井戸枠の杭か。割り口に整形痕は見られない。	①クリ。割り材。フシ多い。④厚さは2.2cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
77 杭状品	長[27.8] 幅 4.8	下層 両端欠く	外面に縦位4条の幅太押圧痕状の窪みあり。割り口整形痕は見られない。井戸枠の杭か。	①クリ。割り材。④厚さは最大2.9cm。
78 板状品	長[24.7] 幅 6.3	下層 両端欠く	整形痕は見られない。図示部は表・側面。	①クリ。割り材。反り著しい。④厚さは最大3.2cm。
79 不明	長[24.2] 幅[5.7]	下層 縁部破片	ノミ状の整形痕あり。縦位の強い押圧痕が表・側面2面に残っている。	①ヌルデ。割り材か。フシあり。④厚さは最大4.7cm。
80 杭状品	長[28.3] 幅 5.8×4.9	下層 両端欠く	残存部分には整形痕は見えないが割り口は比較的平坦である。	①クリ。割り材。
81 角柱状品	長[43.9] 幅 4.8×2.5	下層 一端を欠く	縦位の細く弱い押圧痕あり。井戸枠の杭か。	①スギ。割り材。フシあり。
82 井戸枠か	長[36.3] 幅 6.8×2.6	下層 一端を欠く	残存状態が悪く不明瞭だが右端は凹形のホゾと思われる。ホゾ上に押圧痕あり。表皮を剥ぐ時の傷が残る。	①クリ。割り材を加工。④ホゾは深さ1.5cm。推定幅は3.4cm。
83 杭状品	長[21.3] 幅 4.1×3.3	下層 両端欠く	整形痕は見られない。	①クリ。木取りは板目。
84 不明	長[15.9] 幅 6.8	下層 両端欠く	屈曲の大きな材だが整形痕はみえない。	①クリ。割り材。④厚さは最大4.4cm。
85 板材か	長[13.6] 幅[4.2]	下層 小破片	整形痕は不明瞭。厚手の板材か。	①クリ。木取りは板目。④厚さは最大2.9cm。
86 不明	長[19.4] 幅[5.9]	下層 縁部破片	表裏両面に縦位の不明瞭な押圧痕あり井戸枠の杭と思われる。図示部は表・側面。	①ヌルデ。芯持ち材。フシあり。④厚さは最大5.7cm。
87 不明	長[16.1] 幅 4.4	下層 完存か	一部に樹皮残存。先端は炭化している。形状からクサビの可能性。	①ヒイラギ。木取りは柾目。④厚さは3.0~1.1cm。
88 板材	長[18.2] 幅 8.6	下層 両端欠く	縦位2条の不明瞭な押圧痕状の窪みあり。井戸枠か。	①モミ属。木取りは板目。④厚さは最大1.2cm。
89 板材	長[18.6] 幅[6.5]	下層 縁部破片	整形痕、押圧痕等は見られない。	①スギ。木取りは板目。フシあり。④厚さは最大2.2cm。
90 不明	長[52.0] 幅 6.9	下層 完存か	ノミ状の整形痕が見えるが形状不安で用途不明。未製品の可能性。	①木取りは板目。④厚さは最大で2.8cm。
91 不明	長[27.6] 幅 6.8×3.8	下層 両端を欠く	ナタのような工具による受部の掘り込みあり。井桁状の使用が想定でしる。	①クリ。割り材を加工。
92 杭状品	長[27.5] 幅 5.2×3.1	下層 縁部破片か	押圧痕がわずかに残る。整形痕は見えない。	①クリ。割り材。フシ多い。
93 井戸枠	長[36.4] 幅 4.8×4.3	下層 両端欠く	凸形のホゾの痕跡が残る。押圧痕状の窪みあり。柱部に整形痕は見られずホゾ部のみの作り出しか。	①ヤマグワ。芯持ち材を加工。フシ多い。④ホゾの幅は1.9cm。
94 杭状品	長[14.5] 幅 5.0×2.4	下層 縁部破片	整形痕は見えない。	①クリ。割り材。フシあり。
95 板状品	長[18.1] 幅 7.2	下層 両端欠く	整形痕は見えない。	①モミ属。木取りは板目。④厚さは1.3cm。
96 杭状品	長[13.0] 幅 4.4×3.7	下層 縁部破片	押圧痕状のやや強い窪みあり。井戸枠の杭と思われる。整形痕は見えない。	①サクラ属。芯持ち材。フシ多い。
97 杭状品	長[13.2] 幅 4.3×2.4	下層 縁部破片	押圧痕状の不明瞭な変色部分あり。井戸枠の杭か。整形痕破片見えない。	①クリ。割り材。
98 杭状品	長[20.8] 幅 2.6×2.0	下層 両端欠く	整形痕は見えない。	①クリ。芯持ち材。やや屈曲する。
99 不明	長[10.8] 幅 6.7	下層 縁部破片	斜位に鋭く削り込まれている。端材か。	①スギ。木取りは板目。フシあり。④厚さは1.9cm。
100 杭材か	長[29.6] 幅 5.1×4.4	下層 両端欠く	表面中央に押圧痕状の不明瞭な痕跡あり。裏面の窪みは発掘調査時の傷。	①ヤマグワ。芯持ち材。フシ多い。
101 杭材か	長[29.1] 幅 8.5×4.7	下層 縁部破片	表裏両面に押圧痕状の縦位の窪みあり整形痕は不明瞭。	①ヌルデ。割り材。フシあり。
102 杭材か	長[27.8] 幅 4.6×2.4	下層 2点接合 両端欠く	押圧痕の可能性のある窪みあるが不明瞭。加工痕は見られない。	①ヌルデ。割り材。フシ多い。
103 杭材か	長[12.5] 幅 4.2×1.8	下層 縁部破片	1面に押圧痕状の縦位の窪みあり。井戸枠の杭か。	①クリ。割り材。

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
104 杭材か	長[16.4] 幅 4.3×2.7	下層 両端欠く	大きな窪みあるが自然のものか押圧によるものか識別できなかった。	①クリ。割り材。
105 杭材か	長[43.2] 幅 4.2×1.1	下層 端部欠く	押圧痕の可能性のある窪みあるが不明瞭。加工痕は見られない。	①ヌルデ。割り材。フシ多い。
106 端材	長 11.5 幅 5.6	下層 完存	平面、断面とも台形。工具痕は残っていない。	①ヒノキ属。木取りは板目。④厚さ3.0cm。
107 端材	長 8.2 幅 5.3	下層 完存	表裏両面に鋸歯痕のような斜位の擦痕が残る。	①スギ。木取りは板目。④厚さ2.1cm。
108 板状品か	長[6.3] 幅 10.1	下層 両端欠くか	割れ口不明瞭で板状品の破片か端材か識別できない。鋸歯痕のような斜位の擦痕がわずかに見える。	①スギ。木取りは板目。④厚さ1.6cm。
109 端材か	長 4.1 幅 4.9	下層 破片	割れ口不明瞭で板状品の破片か端材か識別できない。整形痕は見えない。	①ヒノキ属か。木取りは板目。④厚さ1.2cm。
110 端材	長 9.1 幅 13.5	下層 完存	切り口は鋭く表裏両面とも平坦でカナナ掛けした建築部材を鋸で切り落とした端材と思われる。	①スギ。木取りは板目。④厚さ3.1cm。
111 不明	長 22.7 幅 5.3	下層 2点接合 完存か	表裏両面に鋸歯状のやや方向不定の擦痕あり。切り口は鋭い。	①ヒノキ属。木取りは板目。フシあり。④厚さ最大2.0cm。
112 不明	長[8.3] 幅 5.8	下層 縁部破片	断面方形で中央へ向かって細くなる。建築部材のホゾ部破片か。	①クリ。木取りは柾目。④厚さはホゾ部最大4.5cm、柱部3.2cm。
113 杭材	長[16.4] 幅 5.2×3.5	下層 2点接合 縁部破片	先端部のみを雑に削り込んでいる。	①クリ。割り材を加工か。フシあり。
114 杭材か	長 19.8 幅 3.5×2.8	下層 完存か	柱部に押圧痕あり。端部を雑に削るが加工痕は見えない。杭またはクサビと思われるが頂部に痕跡なし。	①モミ属。木取りは割り材を加工。
115 板状品か	長[16.2] 幅 3.7	下層 破片	剥落部分多く不明瞭。平坦部分多く板材の破片と思われる。	①モミ属。木取りは板目。④厚さは1.8cm。
116 板状品か	長[9.6] 幅 2.8	下層 破片	押圧痕状の変色部分あり。板材の破片と思われるが不明瞭。	①スギ。木取りは板目か。④厚さは最大1.3cm。
117 杭材か	長[10.5] 幅 4.7×4.1	下層 両端欠く	押圧痕状の窪みあり。井戸枠の杭か。	①クリ。木取りは板目。
118 井戸枠	長[23.8] 幅 2.8	下層 縁部破片	縁部は凹形あるいはL形のホゾと思われるが割れ口不明瞭。厚さ幅とも一定でない。押圧痕状の窪みか。	①クリ。木取りは板目か。フシ多い。④厚さは最大2.8cm。ホゾは長さ3.0cm。
119 杭材か	長[16.1] 幅 3.7×3.5	下層 両端欠く	押圧痕状の強い窪みあり。井戸枠の杭か。	①クリ。木取りは板目。
120 棒状品	長 9.2 径 2.4×1.7	下層 完存か	割れ口は見えすく摩滅したように断面縁部は丸くなっている。	①スギ。木取りは割り材か。
121 棒状品	長[10.2] 径 1.6×1.2	下層 一端を欠く	加工痕、使用痕は見えないが丸く仕上げてあり製品の破片と思われる。	①モミ属。木取りは割り材か。
122 不明	長[39.2] 幅 3.2	下層 両端欠くか	腐蝕すすみ不明瞭。厚さから曲物側板が考えられるが、表裏両面とも平坦さに欠ける。	①クリ。木取りは柾目か。④厚さは最大0.5cm。
123 井戸枠か	長[42.4] 幅 6.0	下層 両端欠くか	凹形のホゾが若干残存する井戸枠横板と思われるが不明瞭。整形痕等は残っていない。	①クリ。割り材を加工。反り大きい。④厚さは1.2cm以上。ホゾであれば長さは2.5cm以上。
124 杭状品か	長[12.0] 幅 5.9	下層 縁部破片	井戸枠の杭が考えられるが頂部にあたる部分に痕跡なし。各面は平坦に仕上げているが整形痕は見えない。	①ニレ属。木取りは板目。④厚さは3.8cm。
125 板状品か	長[12.8] 幅 8.1	下層 破片	本遺跡には例の少ない薄板で建築部材と思われる。一縁部に鋸で斜めに落としたような切り口あり。	①マツ属複雑管束亜属。木取りは柾目。フシあり。④厚さは0.7cm。
126 井戸枠	長 75.6 幅 35.4	下層 ほぼ完存	両端に凹形のホゾを切り出した大型井戸枠。表裏両面に縦位～斜位の敲打痕多数あり。	①アスナロ。木取り不明。④厚さは2.7cm。ホゾは高さ2.5～2.8cmで、凹部の幅は右側約16cm。左側約18cmとくい違う。
127 井戸枠	長 70.2 幅 30.7	下層 一部欠く	両側に凸形のホゾあり。他方は不明。125と対になるもの。表裏両面に縦位の敲打痕多数あり。	①アスナロ。木取りは柾目か。④厚さ最大2.3cm。ホゾは高さ3.1cmで凸部の幅は17.5cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
128 井戸枠	長[71.8] 幅 27.5	下層 2点接合 一部欠く	両側に凸形のホゾがあると思われる。残存するホゾ部に凹形ホゾの圧痕が残る。裏面には斜位の擦痕多い。	①モミ属。木取りは板目。④厚さ最大2.2cm。ホゾは高さ3.3cmで凸部の幅は11.5cm。
129 井戸枠か	長[61.5] 幅[23.7]	下層 3点接合 1/2	片側の木口が残存しホゾのない井戸枠横板か。縦位の擦痕あり。	①スギ。木取りは柾目で流れている。④厚さ最大3.2cm。
130 井戸枠か	長[36.3] 幅 30.8	下層 縁部破片	129と同様の横板か。裏面に幅約10cmの板錠の圧痕あり。	①モミ属。木取りは柾目。④厚さ最大2.4cm。
131 不明	長[29.7] 幅[23.3]	下層 破片	ヒビ割れ著しく細かな観察できない。縁を丸く加工してあるようだ。	①トチノキ。木取り不明。④厚さ6.4~2.3cm。
132 曲物側板	長[63.6] 幅[9.2]	下層 破片	2枚合わせの側板破片。折り曲げ時の刻み目が残っている。	①ネズコ。④1枚の厚さは約0.3cm。
133 板状品	長[57.4] 幅 9.8	下層 破片か	片側木口は斜めに加工してあるようだが不明瞭。	①スギ。木取りは板目。④厚さ最大2.3cm。
134 井戸枠	長[78.1] 幅 9.2	下層 完形	片側は凸形、他方は鉤の手状の変則的なホゾを持つ。凸形ホゾは扁平。	①アスナロ。割り材を加工か。④厚さ最大4.9cm。凹形ホゾは長さ5.8cm、幅2.3cm。鉤の手ホゾは幅2.3cm。
135 井戸枠か	長[80.4] 幅 7.8	下層 ほぼ完形	凸形ホゾはきわめて小さい。片側はねじれたように屈曲している。	①クリか。木取りは柾目か。④凸形ホゾは高長1.5cm前後。
136 井戸枠	長[65.5] 径 5.2×4.8	下層 3点接合 一端欠く	表面の加工痕はわずかで凸形ホゾ部を作り出した雑なもの。屈曲あり。	①モモ。芯持ち材を加工。フシ多い。④ホゾの残存高は2.2cm、幅1.9cm。
137 井戸枠	長 80.9 幅 6.1	下層 ほぼ完形	片側が屈曲し凸形ホゾも小さく135と類似する。	①クリ。木取りは板目。フシあり。④厚さ最大3.1cm。凸形ホゾは高さ1.8~1.5cm、幅は2.0cmと1.5cm。
138 井戸枠	長[57.6] 幅 8.5	下層 縁部破片	凸形ホゾは表面にも段ができるが作り出しによるか圧痕か不明。	①木取りは不明。④ホゾは高さ6.0cm。幅2.8cm。
139 井戸枠	長[81.0] 幅 5.6	下層 一端欠く	凸形ホゾは中央を外れている。	①クリ。木取りは柾目で流れる。④ホゾは長さ2.0cm、幅1.5cm。
140 井戸枠	長 82.0 幅 7.8	下層 2点接合 ほぼ完形	角柱状品から凸形ホゾを作り出す。ホゾは大きい。一端の屈曲は押圧によるものか。	①ヌルデ。芯持ち材を加工。フシ多い。④厚さ最大5.3cm。ホゾは両側ともに長さ約7cm、幅約3cm。
141 井戸枠	長[65.0] 幅 6.2	下層 両端欠く	両側が屈曲するが、片側はフシ部分で135等とは異なる。反りによるものか。	①クリ。木取りは板目。フシあり。④厚さ最大3.8cm。凸形のホゾは痕跡のみ。
142 井戸枠か	長[74.2] 幅 6.3	下層 両端欠く	形状より井戸枠横板と思われるがホゾ部分は残存しない。	①クリ。木取りは柾目か。④厚さ最大3.0cm。
143 井戸枠	長[52.8] 径 4.7~3.8	下層 3点接合 一端欠く	屈曲の多い材だが、凸形のホゾのみ作り出している。図示は表側面。	①クリ。芯持ち材を加工。フシあり。④ホゾは高さ4.0cm、幅1.9cm。
144 井戸枠	長[63.4] 幅 8.5	下層 両端欠く	形状より井戸枠横板。ホゾ部分残存しない。不明瞭だが押圧痕状の窪みあり。	①アスナロか。木取りは柾目か。④厚さ最大3.5cm。
145 井戸枠	長[75.8] 幅 6.3	下層 両端欠く	凹形ホゾの一部残存する。やや鋭い工具痕見られる。	①クリ。木取りは柾目。④厚さ最大2.9cm、ホゾの高さは1.7cm以上。
146 井戸枠	長[67.3] 幅[8.5]	下層 破片	凹形ホゾの一部残存する。腐蝕すすみ不明瞭だが工具痕状の凹凸多い。	①木取りは柾目か。④厚さ最大4.5cm。ホゾは高さ5.6cm、幅4.0cm。
147 井戸枠	長[71.9] 幅 9.3	下層 一端欠く	表裏両面に押圧したような縦位の工具痕が残る。凹形ホゾは窪み部分広い。	①アスナロ。木取りは柾目か。④厚さ最大5.4cm。ホゾは深さ5.5cm以上、幅1.6cm。間隔約5cm。
148 井戸枠か	長[54.5] 幅 7.4	下層 両端欠く	杭状品だが凹形ホゾの窪み部分が一部残存する。柱部に加工痕は見られない。	①エノキ属。割り材を加工。④厚さ4.7cm。
149 井戸枠	長[78.8] 幅 7.0	下層 ほぼ完形か	凹形のホゾは両側に裂けるようにヒビが入っている。	①クリ。木取りは板目。④厚さ最大3.8cm。ホゾは深さ3.3cm以上。幅1.7~1.3cm。間隔3.4cmと2.5cm。
150 井戸枠	長[74.5] 幅 9.7	下層 一端欠く	149同様のヒビあり。幅狭の縦位の押圧痕状の窪みあり。ホゾは大きさがくい違っている。	①アスナロ。木取りは柾目か。④厚さ最大5.4cm。ホゾは深さ5.7cmと4.3cm。幅2.5cmと1.5cm。間隔5.2cm。
151 井戸枠	長[72.2] 幅 9.4	下層 両端欠く	凹形のホゾは細く長い。表裏両面に押圧痕状の縦位の窪みあり。	①アスナロ。木取りは柾目か。④厚さ最大4.7cm。ホゾは深さ6.5cm以上、幅1.6cm。
152 井戸枠	長[73.8] 幅 6.8	下層 3点接合 両端欠く	押圧痕状の縦位の窪みあり。	①ヌルデ。芯持ち材を加工。フシあり。④厚さ4.4cm。ホゾは高さ5.2cm、幅2.1cm。
153 井戸枠	長[69.6] 幅 14.6	下層 ほぼ完形か	押え杭受けの溝を削り込んだ横板。溝部の端に鋸歯の痕跡あり。手斧状の工具痕が表面に多い。	①アスナロ。木取りは板目。④厚さ2.1cm。杭受け溝の幅は4.0~3.5cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
154 井戸枠	長[68.5] 幅 17.8	下層 ほぼ完形か	153と同巧。鋸歯の痕跡明瞭だが溝は削りきっていない。	①アスナロ。木取りは柾目か。④厚さ2.3cm。杭受け溝の幅は2.8~2.5cm。
155 井戸枠	長[75.0] 幅 8.0~6.6	下層 4点接合 両端欠く	凹形のホゾ部はやや開く。柱部縁は隅丸に仕上げるか。1面に加工痕あり。	①クリ。木取りは板目。④厚さ4.5cm。ホゾは深さ4.6cm、幅2.9cm。
156 井戸枠	長[53.5] 径 5.4×5.1	下層 7点接合 一端欠く	杭状品に凹形のホゾを作り出してあり柱部に加工痕は見えない。	①サクラ属。芯持ち材を加工。フシ多い。④ホゾは深さ4.8cm、幅1.6cm、間隔2.6cm。
157 井戸枠	長[72.3] 幅 10.1	下層 両端欠く	欠失部側は摩滅したように滑らかで井戸内の破損には見えない。杭として転用した可能性あり。	①アスナロ。木取りは柾目で流れる。④厚さ最大5.2cm。ホゾは深さ4.3cm以上、幅3.1cm推定間隔約4cm。
158 不明	長[77.2] 径 6.4×5.9	下層 両端欠く	両端を雑に削って尖らせているようでホゾのある井戸枠にはならない。	①クリ。割り材を加工。フシあり。
159 杭材か	長[64.7] 径 6.5×5.6	下層 2点接合 ほぼ完形か	一端を雑に削って尖らせている。頂部に敲打痕はない。	①サクラ属か。芯持ち材。フシあり。
160 不明	長[58.3] 幅 6.1	下層 2点接合 一端欠く	形状より井戸枠と思われるが残存する端部にホゾの痕跡なし。	①クリ。割り材を加工か。④厚さ最大4.3cm。
161 井戸枠	長[42.7] 幅 8.0~6.5	下層 一端欠く	凹形のホゾ部が開き155に類似。ホゾ脇に押圧痕状の凹みあり。	①エノキ属。割り材を加工か。④厚さ4.2cm。ホゾは深さ3.6cm、幅2.9cm、間隔2.5cm。

AY-8号井戸出土遺物 (本文177・178頁 PL-40)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 猪口 (磁器)	台 3.2	上層 上半 1/8 下半 1/3	畳付きの一部に白色の細砂が付着する。呉須はややくすんだ藍色に発色。釉は薄くやや乳濁している。細かな気泡が多い。	①緻密。暗褐色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面白色。④産地不詳。18世紀前半~中葉。
2 猪口	口(5.8) 台(3.5) 高 2.6	1/3個体	右回転ロクロ→高台削り出し時のヘラ痕が明瞭に残っている。釉は潰け掛けでやや細かな貫入あり。外底は露胎。	①素地緻密。1mm大の灰黄色混入物やや多い。②還元焰。やや硬調。③胎土は灰白色。透明釉はややオリープ色味おびる。
3 猪口 (磁器)	台 7.3 台 3.1 高 4.2	埋没土 口 3/4 底 完存	畳付き部と内底に白色の砂粒付着。呉須は山呉須。透明釉は部分的に厚くかかりやや青緑色がかった発色をしている。細かな気泡を少量含む。	①素地はきわめて緻密で混入物ほとんど含まない。②充分に磁器化している。③胎土は白色。
4 碗(磁器)	口 8.0 台 3.1 高 4.7	埋没土 3/5個体	外面のみ擦痕状のロクロ痕が残っている。呉須はやや明るい藍色に発色。釉は薄く不揃いな気泡がある。	①緻密。黒色の微細な混入物を少量含む。②充分磁器化している。③断面はややくすんだ白色。
5 香炉 (青磁)	口 8.9 台 5.8 高 5.0	埋没土 ほぼ完存	蛇の目高台状。外面は断面U字状の工具で雑で鋭い縦位のレリーフ。やや緑色味をおびた発色で釉は薄くやや粗い貫入と大粒の気泡が見られる。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面白色。④産地不詳。江戸時代。
6 碗(陶器)	口(9.2)	埋没土 図示部の1/8	右回転ロクロか。貫入はきわめて細かいが二重貫入はない。外面に緑青色の桜花文を加えているが位置部で著しく剥落。	①やや砂質だが混入物のほとんどない水簸粘土。②還元焰。普通。③胎土はやや黄色味をおびた灰白色。透明釉はわずかに緑色味をおびる。④
7 碗(磁器)	口(10.5) 台 3.8 高 4.9	埋没土 口 2/5 底 完存	畳付き部は釉ハギ。呉須は藍色に発色。釉は薄く気泡がまじる。やや青緑色をおびている。	①やや緻密。黒色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面灰色味をおびた白色。④肥前系。18世紀中葉~後半。
8 飯茶碗 (磁器)	台(3.9)	上層 体部中位 1/6 底部付近 1/3	畳付き部は釉ハギ。呉須はやや鮮やかで濃い青色に発色。透明釉はわずかに青色味をおび細かい気泡が多い。	①素地緻密。黒色、灰黄色の微細な混入物を散見。②充分に磁器化している。③胎土はやや灰色味をおびた白色。④肥前系。
9 碗(陶器)	口(10.8) 台(2.8) 高 4.9	口 1/6 底 1/3	右回転ロクロ。外底・高台部は露胎。内底に円錐ビン痕あり。細貫入が見られる。文様部分は剥落して不明瞭だが金色を呈したもののか。	①多少ザラザラしているが混入物はまれな水簸粘土。②還元焰。普通。③胎土は黄色味をおびた灰白色。透明釉はややオリープ色味をおびる。④京焼系か。
10 碗 陶胎染付	口(9.8)	埋没土 図示部の1/3	外面腰部の釉下はしぼり目のような小さな窪みあり。染め付けはくすんだ藍色に発色。釉はやや薄く細貫入が多い。	①砂質でザラザラしている。混入物は少ない。②やや硬調。③断面は灰白色。④肥前系。18世紀前半。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
11 皿	口 10.4 底 5.8 高 2.2	上層 埋没土 口 1/2 底 完存	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。口縁上端を上方へつまみ上げているが端部は尖らない。ロクロ痕弱く内底はやや平坦。ほぼ全面に呪符墨書が記されているが不鮮明で読めない部分あり。	①ややボソボソした素地。赤褐色鉱物、パミス、砂礫等の混入やや多い。②中間的な焰調。やや硬調。③淡黄橙10YR8/4。
12 皿 かわらけ	口 9.7 底 6.1~6.4 高 2.5	上層 埋没土 3/4個体	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。内底に渦巻状のロクロ痕が残っている。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒やや多い。②中間的な焰調。硬調。③橙5YR6/6。外面一部赤色味強い。
13 皿 かわらけ	口(9.2) 高 2.2	埋没土 口 1/8 底 4/5	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。内底は比較的平坦で弱いロクロ痕が渦巻状に残っている。	①素地やや粗い。パミス、赤褐色鉱物、輝石等の混入物を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面は赤色味をおびる。
14 皿 かわらけ	口(9.9) 底 6.2 高 2.0	口 1/4 底 3/4	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕弱い。内底は平坦。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、輝石等がまじる。②中間的な焰調。やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。赤色味をおびるムラ広い。
15 皿 かわらけ	口 9.8 底 5.5 高 2.4	口 2/3 底 完存	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。内底に同心円状の細かなロクロ痕が残っている。	①素地やや粗い。パミス、赤褐色鉱物、輝石等の混入やや多い。②中間的な焰調。硬調。③にぶい橙5YR6/4。口縁上半は内外面とも黒色味強い。
16 灯明皿 かわらけ	口(9.2) 底 6.0 高 1.6	口 若干 底 ほぼ完存	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕弱く内底は平坦。底部中央に焼成後の穿孔あり。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。断面までほぼ同様。
17 灯明皿 かわらけ	底 6.1	底 2/3	左回転ロクロ→糸切りと思われるが不明瞭。内底にやや鋭い同心円状のロクロ痕。底部に2ヶ所焼成後の穿孔。	①ややボソボソの粗い素地。輝石、パミス等を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③淡黄橙7.5YR8/4。外底や断面は彩度低い。
18 灯明皿 かわらけ	口(9.6) 底 5.8 高 2.4	図示部の1/6	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。体部は粗い擦痕が巡っている。底部に焼成後穿孔あり。口縁の歪み著しく径、傾きとも不安。	①素地はややボソボソ。混入物が少ない。②中間的な焰調。やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。外面に黒色味をおびるムラあり。
19 砥石	長[4.8] 幅 2.5 高 2.3 重 38.0g	上層 半欠品	4角柱状の半欠品小口面を含む3面使用。両側面はハツリ時の工具痕と思われる不明瞭な痕跡あり。被熱痕が割れ口上にも見られる。	①砥沢石。
20 砥石	長[6.2] 幅 2.5 高 2.3 重 63.0g	上層 半欠品	4角柱状。4面使用の半欠品。各面とも中央付近がやや窪む傾向あり。	①砂岩。
21 きせる (銅製品)	径 0.4~0.6	上層 両端欠く	接合部で一部剥がれる。煙管側に螺旋状の掘り込み。	
22 きせる (鉄製品)	長[4.2] 径 0.5~0.9	上層 下半欠く	接合部は若干はみ出し、仕上げは雑。	
23 釘 (鉄製品)	長[5.7]	埋没土 両端欠く	断面形状不定で角はやや丸味がある。他の製品の可能性あり。	①クラックない。③やや褐色味をおびる。
24 釘 (銅製品)	長[2.4] 厚 0.5	埋没土 両端欠く	頂部でなく屈曲した身部と思われる。	①クラック少ないが、あまり良くない。③褐色味強い。
25 釘 (鉄製品)	長 5.7 幅 0.5~0.7	埋没土 両端欠く	断面形状不定で、他の製品の可能性あり。	①錆化すすむがクラック少ない。芯は空洞状になる。あまり良くない。③褐色味強い。
26 釘 (鉄製品)	長[10.1] 厚 0.7	埋没土 両端欠く	剥落すすむ。	①あまり良くない。③褐色味強い。
27 銅銭	径 22.5	上層 完形		④寛永通寶。背面に「足」か。所謂足尾銭か。
28 銅銭	径 22.4	上層 完形		④寛永通寶。背面に「足」か。
29 銅銭	径 22.1	上層 完形		④寛永通寶。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
29 銅銭	径 2.21	上層 完形		④寛永通寶。
30 銅銭	径 2.29	上層 完形		④寛永通寶。
31 銅銭	径 (2.32)	上層 半欠品		④寛永通寶。

AY-9号井戸出土遺物 (本文179~187頁 P L40~42)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗 陶胎染付	底 5.0	上層内 図示部の1/2	呉須はくすんだ藍色に発色。釉は薄く細貫入と気泡が多い。畳付きに白色の砂粒が多量に付着する。	①やや砂質。混入物はすくない。②硬調。③断面灰白色。④肥前系。18世紀前半。
2 碗(磁器)	口(9.6) 台(3.6) 高 5.0	上層 図示部の1/4	外面のみロクロ痕あり。呉須は暗い藍色に発色。釉は薄く気泡は少ない。外底は赤色味をおびている。	①緻密。混入物は少ない。②磁器化している。③断面はやや黄色味をおびた白色。④波佐見系。18世紀前半~中葉。
3 広東碗 (磁器)	台(5.4)	上層 図示部の1/3	呉須は薄くやくすんだ藍色に発色。釉は薄くごく細かな気泡がまじる。畳付きは釉ハギ。	①緻密で黒色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面白色。④波佐見系。18世紀中葉~後半。
4 広東碗 (磁器)	台(5.0)	上層 図示部の1/4	外面はアテ具状のロクロ痕が残る。呉須はやや明るい藍色に発色。釉は薄く細かな気泡がまじる。明るい白色に発色している。畳付きは釉ハギで一部に砂粒付着する。	①緻密。微細な気泡多い。②磁器化している。③断面白色。④波佐見系。18世紀中葉~後半。
5 碗(磁器)	口(9.2) 台 3.6 高 3.8	中層 1/3個体	外面にはやや細かなロクロ痕あり。呉須はくすんだ藍色に発色。釉は薄くやや細かな気泡まじる。畳付きに砂粒付着。	①緻密で黒色の微細な混入物を含む。②充分磁器化している。③断面白色。④波佐見系。18世紀中葉~後半。
6 碗(磁器)	口(9.6) 台 3.9 高 5.2	上層 口 1/2 底 完存	雪の輪梅花。呉須は薄くやくすんだ藍色に発色。釉はやや薄く細かな気泡を含む。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面白色。④波佐見系。18世紀中葉~後半。
7 碗(磁器)	口(8.0) 台 3.1 高 3.4	上層 口 1/3 底 1/2	呉須はくすんだ藍色に発色。釉は薄く口縁外端では気泡が粗く乳濁している。全体に灰色味をおびた発色。	①緻密で混入物は少ない。②充分磁器化している。③断面は灰白色。④波佐見系。18世紀中等~後半。
8 皿(磁器)	口(12.2) 台(6.5) 高 4.1	上層 口 1/6 底 1/3	高台には灰黄色の砂粒が多量に付着。外面に細かなロクロ痕あり。呉須はくすんだ藍色に発色。外底は渦福か。釉はやや薄くごく細かな気泡が多量にまじる。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面はややくすんだ白色。④波佐見系。18世紀中葉~後半。
9 皿(磁器)	口(14.9)	上層 図示部の1/5	輪花状の口縁。呉須はややくすんだ藍色に発色。釉は薄く細かな気泡を多量に含む。	①緻密で褐色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面はややくすんだ白色。④波佐見系。18世紀中葉。
10 小皿 かわらけ	口 10.2 底 4.9 高 1.9	上層 1/2個体	右回転ロクロ。外面は口縁中位まで回転ヘラ削り。内面に鉄釉の漬け掛け。内面にも一部かかる。釉にはテリあり。	①素地普通。0.5mm大の砂粒を含む。②還元焰。普通。③やや黄色味をおびた灰白色。
11 灯明皿 かわらけ	口(10.0) 底(3.8) 高 1.9	上層 図示部の2/5	10と同巧。	①素地緻密。混入物少ない。②還元焰。普通。③灰白色。
12 小皿 かわらけ	口(9.6) 底(4.0) 高 1.8	上層 1/3個体	10と同巧。歪みあり傾きは一様でない。	①素地はモグサ土にやや近い。混入物少ない。②還元焰。普通。③黄色味をおびた灰白色。
13 灯明皿 かわらけ	口(9.7) 底(4.2) 高 2.0	上層 1/3個体	右回転ロクロ。外面は口縁中位まで回転ヘラ削り。口縁外面上半と内面に鉄釉の漬け掛け。内底は刷毛塗りか。釉にはテリあり。内外面に重焼き痕あり。	①②③ 12に同じ。

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
14 皿 かわらけ	口(10.2)	上層	右回転ロクロ。外面は口縁中位まで回転へら削り。釉は漬け掛けて薄い。	①モグサ土。黒色の微細な混入物を散見する。②還元焰。普通。③断面は黄色味をおびた灰白色。④美濃系。
15 猪口 (磁器)	口(7.4) 台 2.8 高 3.5	上層 2/3個体	右回転ロクロ。畳付き部は釉ハギか。呉須はくすんだ藍色に発色。釉は固く器面に凹凸ができる。やや不揃いで細かな気泡を含む。	①きわめて緻密で黒色の微細な混入物を散見する。②十分に磁器化している。③断面白色。④肥前系。
16 猪口 (陶器)	口(5.5) 台 3.3 高 4.3	上層	右回転ロクロ。露胎部分広い。釉はやや薄く部分的に貫入が見られる。	①素地普通。灰黄色の混入物やや多い。②還元焰。やや硬調。③断面灰白色。
17 湯呑茶碗 (磁器)	口(6.4)	図示部の2/5	右回転ロクロ。外面に若松意匠の染付。呉須はくすんだ藍色に発色。釉はやや薄く細かな気泡がまじる。	①きわめて緻密で混入物を含まない。気泡若干まじる。②充分磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半。
18 湯呑茶碗 (磁器)	台(3.2)	上層 図示部の1/4	右回転ロクロ。畳付きは釉ハギ。外面中位に鉄釉の圈線。下半はカキ目状の沈線。釉は薄くやや粗い貫入が見られる。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半。
19 湯呑茶碗 (陶器)	台 3.4	上層 体 若干 底 完存	右回転ロクロ。呉須はややくすんだ藍色に発色。釉は外面でやや厚く細貫入が見られる。	①ややモグサ質。混入物少ない。②還元焰。硬調。③断面は黄色味をおびた灰白色。④瀬戸・美濃系。18世紀後半。
20 湯呑茶碗 (陶器)	台 3.5	上層 体 1/8 底 3/4	右回転ロクロ。畳付き部は釉ハギ。内底中央にも不明瞭な染付あり。	①ややザラザラした素地。混入物は少ない。②還元焰。硬調。③断面灰白色。④瀬戸・美濃系。18世紀後半。
21 碗(磁器)	口(9.2) 底 3.2 高 4.8	上層 口 1/6 底 ほぼ完存	やや厚手。畳付き部は露胎で一部に細砂付着する。染付は雪の輪梅花文で外底にも施文。呉須はくすんだ藍色に発色。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②十分に磁器化している。③断面白色。④肥前系。
22 飯茶碗 (磁器)	口(10.4) 台(3.6) 高 5.2	1/4個体	右回転ロクロ。畳付きは釉ハギ。染付は雪の輪梅花文で呉須はくすんだ藍色に発色。釉はやや薄く貫入、気泡は少ない。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②十分に磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半。
23 湯呑茶碗 (磁器)	口(7.6) 底 3.5 高 5.8	上層 口 1/3 底 2/3	右回転ロクロ。畳付き部に不均等に細砂付着。染付はやや雑で呉須は暗い藍色に発色。19、20の陶器と同一意匠である。釉は薄く不揃いの気泡の混入多	①緻密。微細な混入物を含む。②充分磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半。
24 広東茶碗 (磁器)	口(10.4) 底(6.0) 高 7.0	上層 口 1/8 底 1/2	右回転ロクロ。畳付き部釉ハギ。染付はくすんだ藍色に発色。釉は薄く細かな気泡が多い。	①緻密で黒色の微細な混入物を散見する。②十分に磁器化している。③断面白色。④肥前系。
25 碗(磁器)	台 3.9	上層 図示部の1/2	右回転ロクロ。染付は雪の輪梅花文か。呉須はくすんだ藍色に発色。釉は乳濁した発色で細かく不揃いの気泡交じる。	①素地緻密。黒色の微細な混入物散見する。②ほぼ磁器化している。③断面灰白色。④肥前系。18世紀後半。
26 飯茶碗 (磁器)	口(9.8) 台 4.2 高 5.4	上層 1/2個体	右回転ロクロで外面に若干工具痕あり。染付は雪の輪梅花文で呉須は薄くくすんだ藍色に発色。釉は薄い。きわめて細かな気泡あり。	①緻密で混入物は少ない。②十分に磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半。
27 ひょうそくたて (陶器)	台 2.9	上層 図示部ほぼ 完存	ロクロ使用か。糸切り痕残るが体部のロクロ痕は不明瞭。外底に鋭い焼成時の穿孔。上半に鉄釉の雑な生掛けをしたと思われタール状の黒色部分があるが剥落すすみ不明瞭。	①素地緻密。白色細砂を少量含む。②中間的な焰調か。やや硬調。③断面はレンガ色。
28 皿 (磁器)	台 5.8	上層 図示部の1/2	外底縁部を釉ハギ。染付は明るい発色でややペロ藍に近い。釉は薄いやや大粒の気泡を含む。	①緻密で混入物少ない。②十分に磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半か。
29 皿(磁器)	口(13.6) 底(8.2) 高 3.8	図示部の1/3	右回転ロクロ。畳付き部は釉ハギ。染付の呉須はややくすんだ藍色に発色。釉は薄く不揃いで細かな気泡が見られる。	①きわめて緻密で混入物をほとんど含まない。②十分に磁器化している。③やや灰色味をおびた白色。④肥前系。18世紀後半。
30 瓶(陶器)	口(4.8)	上層 図示部の1/5	口縁内端は釉ハギか。釉は薄くくすんだ胎釉調の発色。	①やや砂質でザラザラした素地。混入物は少ない。②やや硬調。③断面灰黄色。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
31 ひょうそく(陶器)	底 5.5	上層 図示部完存	右回転ロクロ。外底と内面下半は露胎。釉はやや厚く細貫入が多い。	①モグサ土状。細砂を少量含む。②還元焰。硬調。③断面はやや黄色味をおびた灰白色。④幕末～明治。
32 甕 軟質陶器	口(22.0)	上層 図示部の1/8	ロクロ使用の有無不明瞭だが器面はやや不規則な横位のナデ。外面に波状文を施文。長方形の刻文の一部がかかる。無釉。	①素地やや緻密。輝石、赤褐色鉱物等細かな混入物を含む。②中間的な焰調。硬調。③黄色味の強い灰白色。④18世紀か。
33 鉢(陶器)	台 9.8	上層 図示部ほぼ	右回転ロクロ。釉は漬け掛けで外底付近は露胎。胎釉調の発色でテリが強い。	①鉄分の多い素地で灰黄色の砂粒の混入多い。②還元焰。普通。③断面灰黄色。④産地不詳。
34 鉢(陶器)	底 13.0	上層 図示部の1/2	右回転ロクロ。ロクロ痕強い。底部に円盤状の接合痕が観察できる。釉は漬け掛け。胎釉長の発色でテリが強い。	①モグサ土にやや近い。細砂以外に混入物まれ。②還元焰。やや硬調。③断面やや黄色味をおびた灰白色。④瀬戸・美濃系。
35 大鉢 (陶器)	底 14.0	上層 図示部の3/5	右回転ロクロ。外底回転ヘラ削り。釉は漬け掛けで黄緑色味をおびた発色。細かな貫入あり。内底縁部には釉ハギの上に推定5ヶ所の目アトあり。	①モグサ土に近い。白色砂粒を少量含む。②還元焰。やや硬調。③断面黄色味をおびた灰白色。④瀬戸・美濃系。
36 摺鉢 (陶器)	底(17.8)	上層 図示部の2/5	外底は砂底。体部にはロクロ利用(ロクロ上)のヘラ削り。内面体部のおろし目はきわめて深い。単位不明。内底では2.3cm幅に7本。内底のみ摩滅著しい。	①素地普通。1～3mm大の砂礫の混入やや多い。②酸化焰か。硬調。③断面臙脂色。器面は紫色味が強くテリあり。
37 摺鉢 (陶器)	口 31.0	上層 図示部の1/8	外面は回転利用の削り。おろし目は3.3cm幅に13本。残存部分に摩滅減なし。	①②③ 36に近似する。
38 摺鉢 (陶器)	口(32.0)	上層 図示部の1/8	外面は回転利用の削りか。おろし目は2.5cm幅に7本。残存部分には摩滅面なし。	①素地やや緻密。白色砂粒のやや目立つ砂礫を含む。②酸化焰か。硬調。③臙脂色で断面まで一様。
39 摺鉢 (陶器)	口(37.6) 底(17.0) 高 14.9	上層 図示部の1/6	ロクロ右回転。外面はロクロ正置でヘラ削り。内面おろし目は3.1cm幅で10条口縁内面上端はおろし目の上にナデを加えている。外面は鉄軸ハケ刷りの可能性。	①素地やや緻密。1～2mm大のチャート、赤褐色鉱物含む。②大型の土器としては均質でムラなし。③断面煉瓦色。
40 摺鉢 (陶器)	口(34.0)	上層 図示部の1/6	外面下半に幅広でやや雑なヘラ削りで回転利用の可能性。おろし目の単位は3.4cm幅に14本。底部付近が摩滅している。	①素地普通。1～3mm大のチャートまじりの砂礫を含む。②酸化焰か。硬調。③橙色味が上方ほど強い。
41 火鉢 軟質陶器	口(45.0)	上層 図示部の1/6	ロクロ使用か。内面と口縁上端に丁寧なナデの上に幅太のヘラ磨き。黒色処理。	①素地普通。赤褐色鉱物等細かな混入物を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③外面暗灰褐色。内面黒色で弱い光沢あり。断面中央黒色。
42 壺 (陶器)	台 19.0	上層 体下半 1/2 底 ほぼ完存	左回転ロクロか。ロクロ痕やや強い。内底に4ヶ所の胎土目あり。畳付きにも痕跡が残っている。鉄軸は均等にかかけられていてテリが強い。	①緻密で混入物少ない。気泡がまじる。②きわめて硬調。③断面はやや灰色味をおびた白色。
43 焙烙	口(38.8) 底(35.6)	上層 図示部の1/6	やや丸味のある口縁で上端を平坦に仕上げている。底部には補修孔あり。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石等の混入物少量含む。②中間的な焰調。普通。③淡黄橙10YR8/3。
44 砥石	長 [8.8] 幅 2.9 厚 3.2 重 89.0g	上層 ほぼ完形	縦断面3角形の2面使用。1側面にはハツリ状の工具痕が一部に残っている。	①砥沢石。
45 砥石	長 [6.3] 幅 [3.6] 厚 1.9 重 63.0g	上層 両端欠く	扁平な小型砥石で2側面使用。使用面は平滑。上下両面は鋸歯状の工具痕が残っている。手持ち砥。	①砥沢石。
46 砥石	長 [7.5] 幅 2.6 厚 2.0 重 56.0g	上層 一端欠く	4角柱状の半欠品。4面使用で各面ともおおむね平滑。手持ち砥。	①流紋岩。
47 砥石	長 [3.6] 幅 3.1 厚 1.8 重 31.0g	上層 両端欠く	4角柱状の両端を欠く。4面使用だが剥落多く不明瞭な部分多い。	①砥沢石。

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
48 砥石	長 [5.8] 幅 4.0 厚 1.3 重 42.0g	上層 半欠品	偏平で4面使用の半欠品。使用面は各面とも平滑。	①砥沢石。
49 砥石	長 [8.5] 幅 6.2 厚 2.9 重 152.0g	上層	偏平大型の2面使用。使用面は平滑。1側面にハツリ痕状の工具痕あり。	①ホルンフェルス。
50 砥石	長 [6.9] 幅 3.4 厚 2.6 重 89.0g	上層 半欠品	4角柱状の半欠品。1側面が使用面で小口を含む4面に鋸歯状の工具痕が残っている。	①砥沢石。
51 砥石	長 [7.7] 幅 2.8 厚 2.7 重 102.0g	上層 半欠品	4角柱状の半欠品。使用面は2面だがやや平滑さに欠ける。1側面に鋸歯のような工具痕あり。一部に被熱痕あり。	①砥沢石。
52 キセル (銅製品)	長 6.6 広径 1.1 狭径 0.45	埋没土 完形	銅板の厚みは0.9mmで接合部もあまり目立たない。	
53 釘 (鉄製品)	長 [5.1] 厚 0.5	上層 端部欠く	頂部つぶれる。	①クラック多い。③褐色味が強い。
54 釘 (鉄製品)	長 [5.9] 幅 0.7 厚 0.5	埋没土 両端欠く	断面の形状より刀子茎になる可能性あり。	①クラック、フクレ少ない。やや良好。③やや褐色味をおびる。
55 栓	長 6.1	下層 ほぼ完存	側面に不明瞭だがやや粗い削り痕あり内端から5mmの幅で押圧による変形あり。挿入はあまり深くない。	①スギ。木取りは柾目か。④外側径2.6cm、内側径1.9~1.4cm。
56 細棒状品	長[11.5] 径 1.3×1.2	下層 一端を欠く	表面は外皮を剥がしたのみか。端部付近に貫通孔あり。孔の中央側は幅1.5cmの押圧痕状の窪みあり。	①クリ。芯持ち材を加工。④孔径は0.4×0.2cm。
57 桶側板	長 73.0 幅 12.3	下層 井戸底に埋設 ほぼ完存	57~76は20枚からなる同一の桶側板部材で井戸枠に使用。竹製のヌガが若干残存していた。両脇に2対のかくし釘穴が共通して認められる。底板の痕跡なく井戸枠用の桶か。下端は内外両面に面取り。	①57~76は自然乾燥を行いプレバート作成はしなかった。樹種は針葉樹でスギと思われる。本側板の木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.8cm。
58 桶側板	長 72.3 幅 13.5	下層 完存	かくし釘穴は左右でくい違う。タガの痕が4条残っている。右上の竹製かくし釘が詰まったまま残存。	①木取りは柾目で流れる。④厚さ2.7cm。
59 桶側板	長 71.7 幅 12.0	下層 完存	タガ痕不明瞭。右上の竹製かくし釘が詰まったまま残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.7cm。
60 桶側板	長 73.0 幅 10.5	下層 完存	タガ痕不明瞭。右上の竹製かくし釘がわずかに残る。	①木取りは柾目で流れる。④厚さ2.8cm。
61 桶側板	長 72.4 幅 12.1	下層 完存	タガ痕不明瞭。左側2対の竹製かくし釘が残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.8cm。
62 桶側板	長 72.0 幅 10.1	下層 完存	下端の面取り痕顕著。タガ痕不明瞭。上側2対の竹製かくし釘が残存。	①木取りは柾目で流れる。④厚さ2.7cm。
63 桶側板	長 72.9 幅 12.0	下層 完存	タガ痕不明瞭。上側2対の竹製かくし釘が残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。小さなフシあり。④厚さ2.7cm。
64 桶側板	長 73.5 幅 11.9	下層 完存	タガ痕不明瞭。右下を除く3ケのかくし釘残存。	①木取りは柾目で流れる。④厚さ2.6cm。
65 桶側板	長 73.5 幅 12.0	下層 完存	下端の面取り明瞭。タガ痕不明瞭。上側2対の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。④厚さ2.7cm。
66 桶側板	長 73.2 幅 10.6	下層 完存	下端の面取り明瞭。上方1条のタガ痕残存。右上の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.7cm。
67 桶側板	長 72.7 幅 11.8	下層 完存	下端の面取り明瞭。竹釘は残存しない。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。④厚さ2.7cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
68 桶側板	長 72.5 幅 12.0	下層 完存	下端面取り明瞭。上側に2条のタガ痕あり。左上と右下2ヶ所の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.8cm。
69 桶側板	長 72.5 幅 11.8	下層 完存	下端面取り明瞭。上下2条のタガ痕あり。右側2対の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ2.6cm。
70 桶側板	長 72.8 幅 11.8	下層 完存	上側に1条のタガ痕あり。左上と右下2ヶ所の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.8cm。
71 桶側板	長 72.5 幅 11.8	下層 完存	上側に1条のタガ痕あり。左側2対の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。シンあり。④厚さ2.7cm。
72 桶側板	長 72.9 幅 12.0	下層 完存	下端面取り痕顕著。上側に1条のタガ痕あり。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.8cm。
73 桶側板	長 72.9 幅 9.6	下層 完存	上側に1条のタガ痕あり。上方のかくし釘穴はわずかにくい違う。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.8cm。
74 桶側板	長 73.2 幅 12.2	下層 完存	下側にタガ痕がわずかに残る。上側2対の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.7cm。
75 桶側板	長 72.9 幅 14.0	下層 完存	上下2条のタガ痕がわずかに残る。右上の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.6cm。
76 桶側板	長 72.8 幅 13.3	下層 ほぼ完存	タガ痕不明瞭。左上の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.8cm。
77 桶側板	長 121.1 幅 12.6	下層 井戸底に埋設 完形	77～119の23点は同一の桶側板部材。両脇に上中下3対のかくし釘が共通して認められる。底板の痕跡なくきわめて厚手で井戸枠用の桶。本側板は内面下端にノミ状工具による面取り。左上に竹製かくし釘残存。	①自然乾燥を行いプレバレート作成はしなかった。樹種は針葉樹でスギと思われる。本側板の木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。④厚さ6.2cm。
78 桶側板	長 121.6 幅 13.2	下層 完形	下端内側に工具痕が残る。2条のタガ痕あり。右上、左下の2ヶ所に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。④厚さ6.0cm。
79 桶側板	長 120.8 幅 13.0	下層 完形	下端内側にわずかな工具痕残る。2条のタガ痕あり。左中、下の2ヶ所に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。④厚さ6.0cm。かくし釘穴は最大5ミリの深さ。
80 桶側板	長 120.7 幅 14.1	下層 完形	下端内側にノミ状工具痕顕著。3条のタガ痕残存。左下に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ5.6cm。
81 桶側板	長 121.1 幅 13.0	下層 完形	下端内側にわずかな工具痕残る。2条のタガ痕あり。右中、左下の2ヶ所に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。④厚さ6.0cm。
82 桶側板	長 121.2 幅 13.4	下層 完形	下端内側に粗い工具痕あり。かくし釘穴は上側でくい違い大きい。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。④厚さ6.0cm。
83 桶側板	長 121.0 幅 13.4	下層 完形	下端内面にやや強い工具痕。3条のタガ痕あり。右上、中に竹製釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ6.1cm。
84 桶側板	長 120.8 幅 13.0	下層 完形	下端内面のノミ状工具痕顕著。3条のタガ痕残存。左中、下に竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ6.2cm。
85 桶側板	長 121.3 幅 15.7	下層 完形	下面内面のノミ状工具痕やや明瞭。3条のタガ痕残存。右上に竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。④厚さ6.0cm。
86 桶側板	長 120.9 幅 13.0	下層 完形	下面内面に粗いノミ状工具痕あり。3条のタガ痕残存。右中に竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ6.3cm。
87 桶側板	長 121.0 幅 13.5	下層 完形	下端内面にやや強いノミ状工具痕。2条のタガ痕あり。左上に竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ6.0cm。かくし釘穴は最大4.8cmの深さあり。
88 桶側板	長 120.6 幅 13.2	下層 完形	下端内面にノミ状工具痕顕著。4条のタガ痕あり。左上に竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。④厚さ6.1cm。
89 桶側板	長 120.8 幅 15.1	下層 完形	下端内面にノミ状工具痕あり。3条のタガ痕あり。右中、下に竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ6.3cm。
90 桶側板	長 120.5 幅 17.0	下層 完形	22枚中最も幅広。下端内面にやや強いノミ状工具痕あり。3条のタガ痕あり。上側1対と左下に竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。④厚さ6.4cm。かくし釘穴は最大5cmの深さあり。
91 桶側板	長 120.5 幅 16.2	下層 完形	下端内面にやや強いノミ状工具痕。中央のかくし釘穴がくい違う。左側3ヶ所の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。④厚さ6.3cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
92 桶側板	長 120.6 幅 13.4	下層 完形	下端内側に工具痕あり。1条のタガ痕あり。中央のかくし釘穴が若干くい違う。左中を除く5ヶの竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ6.2cm。
93 桶側板	長 120.4 幅 13.5	下層 完形	下端内側の削りはやや弱い。4条のタガ痕あり。右側3ヶ所に釘残るが下側のみは金釘である。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。④厚さ6.0cm。
94 桶側板	長 120.0 幅 14.5	下層 完形	下端内側の削りは規則的で細かい。4条のタガ痕あり。左上、下の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ6.0cm。
95 桶側板	長 120.2 幅 14.5	下層 完形	下端内側にやや強いノミ状工具痕。3条で2重のタガ痕あり。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ6.1cm。
96 桶側板	長 120.1 幅 14.3	下層 完形	下端内側の削り痕顕著。2条で2重のタガ痕あり。右上の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ6.0cm。
97 桶側板	長 120.1 幅 13.3	下層 完形	下端内面の削りやや強い。上側、中央のかくし釘穴が左右でくい違う。左上に竹釘残存。	①木取りは板目で真側を外面にしている。フシあり。④厚さ6.2cm。かくし釘穴の径は4～3mm。
98 桶側板	長 119.7 幅 13.5	下層 完形	下端内面に削りやや強い。側面に細かな傷多い。右上、左中の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシ多い。④厚さ6.0cm。
99 桶側板	長 120.0 幅 12.8	下層 完形	下端内面の削りやや強い。中央のかくし釘穴が左右で大きくくい違う。左上、右中の竹釘残存。	①木取りは板目で流れる。フシあり。④厚さ6.2cm。
100 井戸枠	長 157.7 径14.8×12.5	下層 完形	100～102は4本組の井桁で、この他に1本破損して図示できなかったものがある。表皮を残した丸木状の材に2ヶ所のホゾ部をくり抜いている。	①自然乾燥を行いプレバートは作成せず。芯持ち材を加工。④ホゾは幅15.5～14.5cm、深さ約6cm。ホゾの間隔は88cm。
101 井戸枠	長 155.2 径12.2×9.8	下層 完形	表面無加工。ホゾ縁部には鋸歯状の工具痕あり。	①屈曲のある芯持ち材で枝払い雑。④ホゾは幅約17cm、深さ5～4cm。ホゾの間隔は89cm。
102 井戸枠	長 径	下層 完形	表面無加工。ホゾ縁部には鋸歯状の工具痕あり。	①屈曲のやや大きな芯持ち材で枝払い雑。④ホゾは幅17cmと20cm、深さ6.5cm。ホゾの間隔は89cm。

AY-10号井戸出土遺物 (本文190頁 P L 42)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 湯呑茶碗 (磁器)	口(8.4) 台(3.2)	上層 図示部の1/3	染付は竹の意匠で呉須はくすんだ藍色に発色。釉は薄く不揃いで細かな気泡を含む。	①緻密で微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面白色。④肥前系。18世紀後半～19世紀初頭。
2 碗(陶器)	口 9.7 底 4.5 高 6.3	上層 口縁の1/6欠く	右回転ロクロ。外面はロクロ上倒置の細かな回転ヘラ削りがラセン状に続く釉は透明釉と鉛釉の上下掛け分け。やや細かな貫入あり。畳付きは剥落。	①モグサ土に近い。混入物は少ない。②③断面淡い灰黄色。④瀬戸・美濃系。18世紀後半。
3 碗(陶器)	口 10.0 台 3.9 高 5.2	上層 ほぼ完形	右回転ロクロ。鉄絵は1ヶ所のみで黒褐色に発色。長石釉は潰け掛けでやや薄く細貫入あり。	①素地緻密で混入物をあまり含まない。②③断面灰白色。一部赤色味強い。④京焼系か。
4 灯明皿 (陶器)	口 12.0 底 4.9 高 2.3	上層 口縁上半1/2 欠く	右回転ロクロ→外底と口縁下端に鋭い回転ヘラ削り。立ち上がり部下端に1対の弧状の窓をあける。鉄釉を漬掛け。紫色味をおびた発色でテリが強い。外面にススの付着多い。	①素地緻密。白色細砂を少量含む。②やや硬調。③断面褐色。
5 碗(磁器)	口(9.8) 台 3.9 高 5.1	上層 口 1/5 底 完存	厚手でぼってりしている。染付は雪の輪梅花文で呉須は淡くやくすんだ藍色。釉は薄くややにごっており細かな気泡を含む。	①緻密で黒色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面灰白色。④肥前系。波佐見か。
6 瓶(磁器)	台 4.7	上層 胴下半 2/3 底 完存	右回転ロクロ。内面はコテ状の工具痕顕著。染付は胴部にわずかにかかり意匠不明。くすんだ藍色に発色。釉は外面全面にかかり畳付きは一部で釉ハギか。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分に磁器化している。③断面灰白色。④肥前系か。

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
7 皿	口 9.9 底 6.5 高 1.8	上層 口 3/4 底 完存	ロクロ回転右→回転糸切り無調整。ロクロ痕は内底以外では弱く不明瞭である。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、チャート等の細か。 ②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。淡い黒斑あり。
8 小皿	口(7.6) 底 3.7 高 1.2	上層 口 1/5 底 完存	ロクロ回転左→回転糸切り無調整。外底縁部には段があり円柱づくりの可能性。ロクロ痕は弱い。	①素地やや緻密。輝石等細かな混入物を少量含む。 ②酸化焰か。普通。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ同様。
9 灯明皿	口 10.0 底 6.1 高 1.7	上層 1/2個体	右回転ロクロ。ロクロ痕弱い。底面はやや歪む。底部中央に焼成時の穿孔あり。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、輝石等の混入物を含む。 ②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。断面まで同様。
10 小皿	口 8.3 底 4.1 高 1.4	上層 完形	8と同巧だが外底に段が見える。	①②③ 8に同巧。
11 小皿	口(9.2) 底(5.4) 高 2.2	上層 1/3個体	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。内底以外はロクロ痕弱い。底部に焼成時の穿孔あり。	①素地やや粗い。輝石、赤褐色鉱物、白色砂粒等の混入物を含む。②中間的な焰調。硬調。③淡黄橙7.5YR8/4。断面彩度低い。
12 焙烙	口(38.0) 底(33.0) 高 5.3	上層 口 1/4 底 1/3	外面口縁下半は弱い削りで型膚状の無調整部分が残っている。外面にスス付着。	①素地やや粗い。パミス等の混入物を含む。②中間的な焰調。普通。③褐灰7.5YR6/1。口縁は明度低く外底は黄色味おびる。
13 焙烙	口(39.0) 底(34.0) 高 4.9	上層 図示部の1/5	耳の取り付けは雑。口縁外面下半は鋭い削りで型膚痕を消している。口縁下半にスス付着するが下から6mmまでは全く付着物なし。	①素地やや粗い。②中間的な焰調。やや硬調。③灰白10YR7/1。口縁黒色。外底黄色味強い。
14 焙烙	口(36.2) 底(33.0) 高 5.3	上層 図示部の1/3	口縁外面下端は無調整で型膚状。底部に窓状の孔を焼成後に穿った痕が2ヶ所あり。穿孔部分にはスス付着。	①素地やや粗い。輝石、パミス等の混入物を含む。 ②中間的な焰調。普通。③にぶい橙7.5YR7/3。外面はスス付着で黒色。

AY-11号井戸出土遺物 (本文191~201頁 PL-42・43)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 焙烙		埋没土 小片	内底縁部付近に刻印あり。	①素地やや粗い。混入物多い。②中間的な焰調。やや硬調。③断面灰白色。器面は黒色。
2 灯明皿	口(9.0) 底(5.8) 高 2.0	埋没土 口 3/5 底 完存	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。横ナデは鋭い。径の異なる3孔を穿っている。口縁部2ヶ所に灯芯痕状のスス付着。部分的に器面の剥落すずむ。	①素地ややボソボソ。赤褐色鉱物、輝石、パミス等を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③橙7.5YR7/6。内底は灰白色。
3 灯明皿	口(9.0) 底 5.1 高 1.8	埋没土 口 2/5 底 完存	ロクロ回転左→回転糸切り無調整。底部に細い2孔を穿っている。割れ口上に灯芯痕状のスス付着。	①素地やや粗い。パミス、赤褐色鉱物、輝石等の混入物やや多い。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ同様。
4 砥石	長 7.9 幅 3.6 厚 3.5 重 119.0g	埋没土 完形	縦断面菱形で2面使用。擦痕の方向が一定でない。両側面に使用痕も整形痕も見られない。手持ち砥。	①砥沢石。
5 砥石	長[9.0] 幅 5.9 厚 2.1 重282.0g	埋没土 半欠品	4面使用でした面の砥き減りが最もすずむ。下面には幅1mmの刀傷状の鋭い溝と幅5mmのグラグラとした溝が加えられている。	①砂岩。
6 砥石	長[9.3] 幅 3.7 厚 2.7 重145.0g	埋没土 半欠品	明瞭な仕様面は1面のみ。他の面は鋸歯状の工具痕が残っているが平坦ではない。	①流紋岩。
7 砥石	長[6.2] 幅 4.4 厚 3.2 重158.0g	埋没土 両端を欠く	3面使用で両端は割れ口。各使用面はきわめて平滑。上面中心に被熱痕が著しく一端は割れ口上まで被熱している1側面に幅太の工具痕明瞭。	①流紋岩。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
8 釘 (鉄製品)	長[2.9] 幅 0.6	上層 両端欠く	ややねじれている。	①クラック多い。やや悪い。③褐色味をおびる。
9 鏡 (鉄製品)	長[10.4] 厚 1.0~0.5	上層 両端欠く	使用による緩やかな屈曲あり。	①クラックあり。あまり良くない。③褐色味強い。 ④被熱により劣化する。スス付着。
10 上白	径28cm程か 厚[7.3] 重 1,700g	埋没土	供給口付近の破片。上縁部は欠失している。ふくみは大きくすり合わせ面の摩滅すすむ。6分画か。	①粗粒安山岩。
11 下白	径30cm程か 厚[9.2] 重 2,150g	埋没土 1/5個体	すり合わせ面は摩滅して目は残存していない。ふくみは5mm前後である。側面は不整。	①粗粒安山岩。
12 下白	径30cm程か 厚[8.0] 重 1,300g	埋没土 1/8個体	すり合わせ面が中央へやや低く傾斜しているが上縁部を持つ痕跡がなく下白とした。分画不明。	①粗粒安山岩。
13 不明	長[15.8] 幅[12.6] 重 1,448g	埋没土 半欠品	上面中央は不整に窪み中に工具痕等見えない。縁部にきわめて強い工具痕あり。下面も上面同様の不整な窪みあり。	①粗粒安山岩。
14 下白か	長[20.5] 厚[8.4] 重 2,250g	埋没土 1/4個体	すり合わせ面は残存しないが形状から下白と推定した。底面に窪みを作った転用品である。	①粗粒安山岩。
15 火輪	長 24.5 厚 [22.2] 厚 15.6 重 10,950g	中層 4/5個体	整った形状をしている。上面は平坦。上面は平坦。側面下方はきわめて平滑。窪み部分に工具痕が残っている。	①粗粒安山岩。④破損前の弱い被熱痕あり。
16 蓋か	口 12.0 台 (5.8) 高 2.1	下層 2/3個体 口縁端部の大半と高台端部欠く	内面赤色、外面黒色の漆塗り。黒地の上に金色で天井部1ヶ所、体部3ヶ所の梅花文を配す。内面は黒漆の下地あり。	①トチノキ。④花纹は天井部のみ遺存状態良い。
17 椀	台(4.8) 高[6.6]	下層 体 1/2欠く 高台と口縁の端部欠く	内面赤色、外面黒色の漆塗り。体部は黒地の上に金色で3ヶ所の家紋を配す内面は黒漆の下地あり。	①ブナ属。
18 椀	台(6.0) 高[5.1]	下層 高台と口縁の両端欠く	内外面とも黒漆の下地に赤漆により表面を仕上げか。文様なし。	①ブナ属。
19 椀		下層 高台と口縁の両端欠く	内外面とも黒漆の下地に赤漆による表面仕上げか。外底に黒漆による文字あり。中口。	①ブナ属。
20 桶側板	長 86.5 幅 10.6	中層 39以下の細長い桶の上部にすえられたものと思われる。完存	20~38の19枚は同一の桶の側板材で、下端を内外面とも面取り状に削り側面に上下2対のかくし釘穴のあることを特徴としている。底板の痕跡はなく当初から井戸枠として作られたものである。本側板は右下を除く3ヶ所の竹製かくし釘が残存する。	①自然乾燥のためプレバート作成をせず樹種不明。針葉樹でスギか。本品の木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ3.1cm。
21 桶側板	長 84.5 幅 12.0	中層 完存	2条のタガ痕あり。右上と左下の2ヶ所に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.3cm。
22 桶側板	長 85.3 幅 13.9	中層 完存	2条のタガ痕あり。右上に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ3.0cm。
23 桶側板	長 85.5 幅 13.4	中層 完存	2条のタガ痕あり。外面に斜位の傷多い。上側に2対の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.8cm。
24 桶側板	長 84.8 幅 17.7	中層 完存	2条のタガ痕あり。右上に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.1cm。
25 桶側板	長 85.8 幅 15.5	下層 完存	2条のタガ痕あり。外面中位の細かな傷多い。右下の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.1cm。
26 桶側板	長 84.9 幅 12.2	下層 完存	2条のタガ痕あり。竹製かくし釘が4ヶ所すべて残存。やや薄手。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ2.3cm。

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
27 桶側板	長 86.7 幅 15.0	下層 完存	2条のタガ痕あり。タガ痕に並行した深い傷あり。右下を除く3ヶ所の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.3cm。
28 桶側板	長 85.8 幅 12.4	下層 完存	2条のタガ痕あり。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.0cm。
29 桶側板	長 85.5 幅 15.0	下層 完存	2条のタガ痕あり。側面に深い傷あり。右下の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ3.0cm。
30 桶側板	長 84.9 幅 10.0	下層 完存	外面の下降は雑で樹皮が一部残存している。2条のタガ痕あり。左側2ヶ所の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ2.6cm。下側が幅広になり上端より約1.5cm狭くなっている。
31 桶側板	長 86.0 幅 12.4	下層 完存	タガ痕やや弱い。外面に斜位で平行した圧痕状の窪みあり。下側2ヶ所の竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.1cm。
32 桶側板	長 85.8 幅 10.6	下層 ほぼ完存	2条のタガ痕あり。外面両側面縁部は面取り状に削られている。右上に竹製かくし釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.1cm。
33 桶側板	長 87.0 幅 10.5	下層 完存	2条のタガ痕あり。竹製かくし釘が4ヶ所すべて残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.0cm。
34 桶側板	長 85.4 幅 15.3	下層 完存	タガ痕やや弱い。外面に斜位の圧痕状の窪みあり。右下の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.0cm。下側は上端より約1.5cm幅広。
35 桶側板	長 85.0 幅 11.3	下層 完存	タガ痕やや弱い。外面に斜位で平行の圧痕状の窪み多い。外面側面一部に面取り。左下を除く3ヶ所の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ3.0cm。
36 桶側板	長 85.0 幅 11.2	下層 完存	タガ痕弱い。外面に斜位で平行の圧痕状の窪みあり。右側2ヶ所の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ2.8cm。
37 桶側板	長 84.7 幅 8.7	下層 完存	タガ痕弱い。竹釘は4ヶ所すべて残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.7cm。
38 桶側板	長 84.5 幅 8.7	下層 完存	ねじれは後世のもの。タガ痕不明瞭。左上の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ2.9cm。
39 板材	長[109.4] 幅 10.5	下層 両端欠く	40以後の板に類似するが側面のフシを削らず使用しており桶側板には不適当タガ痕、釘穴は認められない。	①樹種不明。針葉樹。木取りは柾目。1側面に2ヶのフシが突き出ている。④厚さ2.2cm。
40 桶側板	長[103.8] 幅 13.5	下層 上半欠く	59を除く40～61の21枚は同一の桶の側板。下端の面取りは行っていない。竹製かくし釘は下方に1対のみ。底板の痕跡なく井戸枠として作られたもの。	①自然乾燥を行いプレバレート作成せず樹種不明だが針葉樹でスギのようだ。本側板は木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ2.9cm。
41 桶側板	長[138.8] 幅 11.5	下層 上半欠く	2条のタガ痕あり。内面下端にもタガ痕状の変色部分あり。右側竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.7cm。
42 桶側板	長[140.5] 幅 13.5	下層 上半欠く	2条のタガ痕あり。竹釘は2ヶ所とも残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.6cm。
43 桶側板	長[139.4] 幅 10.8	下層 上半欠く	2条のタガ痕はやや不明瞭。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.8cm。
44 桶側板	長[91.6] 幅 9.6	下層 両端欠く	他の材と接合する可能性あり。タガ痕釘穴は認められない。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。
45 桶側板	長[129.0] 幅 15.6	下層 上半欠く	2条のタガ痕はやや不明瞭。右側の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ2.5cm。内面一部火を受けたように炭化。
46 桶側板	長[147.2] 幅 15.2	下層 上半欠く	2条のタガ痕はやや不明瞭。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは柾目で芯持ち材。フシあり。④厚さ2.8cm。
47 桶側板	長[132.7] 幅 10.8	下層 上半欠く	タガ痕不明瞭。外面に深く短い3条の傷あり。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは柾目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.8cm。
48 桶側板	長[145.6] 幅 10.4	下層 上半欠く	2条のタガ痕はやや不明瞭。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.5cm。
49 桶側板	長[145.3] 幅 10.4	下層 上半欠く	2条のタガ痕あり。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。歪んだ材である。フシあり。④厚さ2.8cm。
50 桶側板	長[142.5] 幅 15.2	下層 上半欠く	タガ痕は中位のみ明瞭。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.6cm。
51 桶側板	長[151.7] 幅 15.5	下層 上半欠く	タガ痕不明瞭。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。④厚さ2.4cm。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
52 桶側板	長[151.0] 幅 8.6	下層 上半欠く	タガ痕不明瞭。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシ多い。 ④厚さ2.7cm。
53 桶側板	長[148.2] 幅 11.0	下層 上半欠く	タガ痕やや不明瞭。	①木取りは柾目で流れる。芯持ち材。④厚さ2.7cm。 釘穴は深さ4cm。
54 桶側板	長[149.6] 幅 12.8	下層 上半欠く	タガ痕は中位のみ。	①木取りは柾目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.8cm。釘穴は径1.8cm。
55 桶側板	長[162.1] 幅 10.2	下層 上半欠く	タガ痕は中位のみ。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ3.0cm。
56 桶側板	長[151.0] 幅 10.6	下層 上半欠く	2条のタガ痕あり、中段の痕跡は窪む。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。フシあり。 ④厚さ2.6cm。
57 桶側板	長[157.7] 幅 11.0	下層 上半欠く	2条のタガ痕あり。右側の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.7cm。釘穴は深さ約4cm。
58 桶側板	長[180.9] 幅 15.5	下層 上半欠く	22本中最も長く残存している。2条のタガ痕あり。中段の痕跡は窪む。右側の竹釘残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.7cm。釘穴の深さ約4cm。
59 曲物側板	長[69.5] 幅 7.8	下層 破片	留め具の痕跡が2ヶ所残り14cm前後の径の曲物が想定できる。	④厚さ0.7cm。
60 桶側板	長[148.2] 幅 10.6	下層 上半欠く	2条のタガ痕あり中段の痕跡は窪む。	①木取りは柾目で流れる。芯側を内面にしている。 ④厚さ2.6cm。釘穴は径2.3cm。
61 桶側板	長[149.0] 幅 15.4	下層 上半欠く	タガ痕やや不明瞭。竹釘は2ヶとも残存。	①木取りは板目で芯側を外面にしている。フシあり。 ④厚さ2.5cm。
62 井戸枠	長[154.7] 幅 29.5	下層 一端欠く	横板組の井戸枠で内面に縦位3条の角材圧痕あり。外面はカンナ状の幅広工具による粗い削り痕。	①木取りは板目。④厚さ2.5cm。圧痕から復元できる角材の幅は7cm前後。
63 桶側板	長 47.8 幅 8.3~6.8	下層 完存	63~70は同一桶の側板で、内面に底板の圧痕がある。木材は外面のタガ痕不明瞭だが横位の細かな擦痕あり。	①63~70は自然乾燥させたためプレバート作成せず樹種不明。木材は木取り板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.3cm。
64 桶側板	長 47.6 幅[2.1]	下層 破片	内面の底板痕は顕著。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.8cm。
65 桶側板	長 47.3 幅[5.3]	下層 破片か	タガ痕は下段のみでわかる。外面に細かな横位の擦痕あり。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.4cm。
66 桶側板	長 46.8 幅 9.0~8.0	下層 完存	下段のタガ痕不明瞭。上段のタガ付近くに横位の擦痕あり。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.5cm。
67 桶側板	長 47.2 幅[5.2]	下層 破片か	下段のタガ痕不明瞭。外面はタガ周辺を中心に横位の擦痕多い。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.5cm。
68 桶側板	長 46.9 幅[5.5]	下層 破片	下段のタガ痕不明瞭。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.2cm。
69 桶側板	長 46.9 幅 6.2~7.3	下層 完存	下段のタガ痕不明瞭。内外面とも横位の擦痕あり。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.4cm。
70 桶側板	長 46.7 幅 9.8~8.8	下層 完存	下段のタガ痕不明瞭。外面に横位~斜位の擦痕、押圧痕あり。	①木取りは板目で芯側を内面にしている。④厚さ1.2cm。

AY-12号井戸出土遺物 (本文202頁 PL-44)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 不明	長 15.0 幅 9.2 厚 6.5 重 600g	埋没土	上面は平坦で磨面となり幅太の工具痕が窪んでいる。1側面も磨面か。にぎりの大きさに割ったものと思われる。	①軽石 (二ツ岳)。
2 磨石か	長 13.0 幅 10.3 厚 6.2 重 450g	埋没土	下面に平滑面はあり工具痕がわずかに残っている。正面は割口で裏面は自然面。握りに合わせた大きさとしている。	①軽石 (二ツ岳)。
3 凹み石	長[16.6] 幅[9.3] 厚 11.8 重 750g	埋没土 半欠品	上面に深い窪みを作っている。鋭い加工痕があるが平坦面はない。	①軽石 (二ツ岳)。

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
4 凹み石	長 13.6 幅 13.1 厚 9.5 重 800g	埋没土 完形	3側面をほぼ平坦にしている。上面に明瞭な窪みがある。下面にも中心を外れた位置に窪みあり。	①軽石（二ツ岳）。④工具痕の上に被熱している。
5 凹み石	長 14.8 幅 13.7 厚 8.5 重 900g	埋没土 完形	河原石状の円礫の上面のみわずかに窪めている。加工痕は見られない。	①軽石（二ツ岳）。
6 不明	長 15.0 幅 14.2 厚 11.8 重 1,900g	埋没土 完形	6面とも平坦面を作ろうとしている。2面には割石作業の矢のような痕跡あり。磨面に窪み部分なし。	①軽石（二ツ岳）。 ④上面中心に被熱痕と思われる黒色部分広い。

AY-14号井戸出土遺物（本文203頁）

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 13.8 高 3.5	埋没土 ほぼ完形	外面に巻き上げ状の接合痕が残っている。外底は指頭の弱いナデ。口縁部は強いナデで上端に鋭い擦痕が巡っている。厚手で重量。	①素地やや緻密。パミスマじりの細かな混入物を少量含む。②中間的な焰調。きわめて硬調。③淡黄2.5Y8/3。赤色味をおびるムラあり。

AY-16号井戸出土遺物（本文205～208頁 PL-44）

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 かわらけ	口(8.4) 高 1.9	埋没土 口 1/8 底 1/3	ロクロ不使用。内底は手のひら状の圧痕。口縁部は雑なナデ。2次被熱により外底は不整。	①素地やや粗い。パミスの混入多く赤褐色鉱物等を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③淡赤橙2.5YR7/4。内底は彩度低い。
2 かわらけ	口(8.4) 高 2.0	埋没土 1/2個体	1にはほぼ同巧。平面が楕円形に歪む。	①② 1と同じ。③明赤褐2.5YR5/6。ほぼ一様。
3 鉢	台(15.9)	埋没土 図示部の1/4	右回転ロクロか。ロクロ利用高台取付けで体部下端に回転ヘラ削り。外底は砂底状。ロクロ痕は粗いが不規則。内面は底部を除いて降灰釉がかかる。	①素地普通。チャート等1～3mm大の混入物多い。 ②還元焰。硬調。③灰白7.5Y7/1。ほぼ一様。
4 凹み石	長 14.2 幅 12.3 厚 9.4 重 1,450g	埋没土 完形	3側面に平坦面がありハツリ状の鋭い工具痕が残っている。上面は楕円形状の窪み。1側面、底面にも工具痕あり。	①角閃石安山岩。
5 上白	長[23.3] 幅[23.5] 厚[8.0] 重 4,350g	埋没土 1/4個体	武蔵型の臼である。すり合わせ径35cm以上の大型品。挽き手穴付近に縄で補強するための弱い窪みあり。6分画か。	①牛伏砂岩。
6 水輪	長[19.4] 幅[14.2] 厚 12.5 重 2,800g	埋没土 2/3	上・下面が平坦面であり水輪と思われるが側面2ヶ所も平坦にしている。	①軽石（二ツ岳か）。
7 不明	長 24.2 幅 21.8 厚 14.5 重 4,750g	上層 完形	上面はやや平坦で水輪の可能性もある鋭い擦痕が見られる。長軸方向の両側面が縄をかけたように窪んでいる。	①軽石（二ツ岳）。
8 板碑	長 57.2 幅 14.6 厚 2.8 重 3,700g	下層 ほぼ完形	小型。主尊は浅い葉研彫りの阿弥陀一尊種子。二条線、杵線あり。紀年銘は「延慶三年正月十日」か。碑面はやや摩滅。	①緑泥片岩。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
9 板碑	長 60.0 幅 19.2 厚 2.9 重 6,600g	下層 完形	小型。主尊は浅い葉研彫りの阿弥陀三尊種子。蓮座はキリークのみにあり。二条線あり。紀年銘は「永正二年十一月日」脇侍の中央より刻み始める。碑面はやや摩滅。裏面に不規則に工具痕を残す。	①緑泥片岩。
10 板碑	長 69.4 幅 21.5 厚 3.0 重 7,600g	下層⇨21井戸上層 完形	中型。主尊は葉研彫りの阿弥陀三尊種子。蓮座はキリークのみにあり。二条線あり。紀年銘は碑面の摩滅のため判読不可。裏面に数ヶ所横方向の工具痕を残す。	①緑泥片岩。
11 板碑	長 47.1 幅 19.9 厚 2.3 重 4,300g	下層 上半部 (基部欠損)	小型。主尊は浅い葉研彫りの阿弥陀一尊種子。二条線あり。紀年銘は「◆文六年六月日」、碑面は若干摩滅。裏面のほぼ全面に横方向の工具痕が残る。	①緑泥片岩。 ④◆は判読できない。
12 板碑	長 109.7 幅 31.3 厚 2.2 重 20,500g	下層 完形	大型。主尊は葉研彫りの阿弥陀三尊種子。脇侍共に蓮座あり。紀年銘は「广(広)康十◆」、私年号か。紀年銘両側に光明真言。二条線、枠線、天蓋あり。碑面は摩滅が著しく紀年銘、光明真言の一部は判読不可。	①緑泥片岩。④2片を接合。井戸枠としては別々に使用。 ④◆は年。
13 板碑	長 27.8 幅 19.3 厚 2.3 重 1,700g	下層⇨21井戸上層 上部破片	小型。主尊は葉研彫りの阿弥陀種子。種子中程より下は欠損。二条線あり。碑面の摩滅著しく、裏面も工具痕の痕跡あれど摩滅。	①緑泥片岩。
14 板碑	長 29.7 幅 20.4 厚 2.3 重 2,700g	下層 上部破片	中型。主尊は葉研彫りの阿弥陀種子。蓮座より下は欠損。二条線あり。碑面の摩滅大。裏面の工具痕は確認できず。	①緑泥片岩。
15 板碑	長 47.9 幅 28.2 厚 2.5 重 5,000g	下層 下半部破片	大型。紀年銘と光明真言の一部のみ残る。紀年銘は「◆己◆六月八日 ◆□◆(◆) ◆年三月」と判読。枠線あり。碑面の摩滅著しく、基部枠線下に工具痕あり。碑面破断面に7条程刀傷あり。	①緑泥片岩。 ④◆は判読できない。

AY-17号井戸出土遺物 (本文210頁 PL-45)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 口ハゲ皿 (白磁)		埋没土 図示部小片	口縁端部を釉ハギ。釉はやや薄く濁った白色に発色。貫入ないがやや細かな気泡まじる。外面一部に虫喰いあり。	①緻密。褐色の微細な混入物を散見する。②充分磁器化している。③断面白色。④元。14世紀。
2 摺鉢 焼締陶器	底 14.0	中層 図示部の1/5	外面は強い削り方でハケ目状の擦痕が残る。内面は灰黄色の降灰釉。	①ややザックリしている。長石、黒色好物を含む。②きわめて硬調。③灰黒色でほぼ一様。④常滑。
3 甕 (陶器)	口(25.6)	中層の4片 口 1/3 肩 1/2	口縁上端を平坦に仕上げたあり内側で小さく屈曲している。変則的な格子状の叩き目あり。粘土粒の付着も多い。内面は指頭状の圧痕で器面不整。濃緑色の自然釉がやや厚くかかる。	①ザックリした素地で2mm大の白色の混入物多い。②硬調。③内面、断面とも灰色で一様。④常滑。
4 甕 焼締陶器	口(19.6)	中層 図示部の1/3	口縁上端はやや丸い。頸部はクロロ痕状の擦痕が巡るが内面は雑で接合痕が残っている。外面肩部に黒色の降灰釉が斑状にかかる。	①ややザックリした素地で長石等細かな混入物を含む。②硬調。③灰黒色で一部赤色味をおびている。
5 摺鉢 焼締陶器	底(22.4)	中層 図示部の1/8	体部に比べ底部薄い。内面下半に弱いハケ目状の縦位の調整痕あり。降灰釉は見られない。	①素地やや緻密。1～5mm大の砂礫、黒色鉱物含む。②硬調。③断面灰色で一部若干赤色味をおびる。④常滑。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
6 甕 焼締陶器	口(23.0)	中層 口 2/5 肩 1/5	内面は平滑でロクロ痕のような細かな擦痕が巡っている。釉は灰黄色で斑状になり濃淡まちまちである。	①ややザックリした素地で白色、黒色の細かな混入物を含む。②硬調。③断面灰色。内面は明度低い。④常滑。
7 甕 焼締陶器	底(24.2)	中層の2片 図示部の1/8	外面はハケ目の酔うな縦位の削りの上にロクロを使用したような横位の鋭い削り。内面は方向不定の雑なナデ。降灰釉は見られない。	①やや緻密。黒色鉱物、長石のような鉱物粒を含む。②硬調。③断面灰色で一部赤色味が強い。④常滑。
8 甕 焼締陶器	口(32.2)	中層 図示部の1/8	口縁上端外方を平坦に仕上げてあり内側へ大きく屈曲する。肩部には灰緑色の自然釉がやや厚くかかっている。	①ザックリした素地で白色、黒色の鉱物粒の混入多い。5mm大の礫散見。②きわめて硬調。③断面灰白色。内面灰色。④常滑。
9 甕 焼締陶器	口(46.0)	中層の9片 口 2/5 肩 1/5	内面頸部付近までは横位のナデでやや平滑に仕上げているが肩部は凹凸多い口縁上端と外面肩部に灰白色の降灰釉が細かな斑状にかかる。	①ザックリしたやや粗い素地でチャートまじりの砂礫を含む。②やや硬調。③暗灰色。断面と肩部内面は灰色。④常滑。
10 砥石	長 7.0 幅 4.6 厚 2.5 重 93.0g	埋没土 ほぼ完形	横断面三角形の手持ち砥で全面使用。剥落部分の上にも擦痕が多い。	①流紋岩。
11 砥石	長 [10.5] 幅 5.8 厚 2.5 重 171.0g	埋没土 半欠品	糸巻き状砥石で割口を除く5面使用だが小口面は痕跡不明瞭。	①砥沢石。

AY-19号井戸出土遺物 (本文212頁 PL-45)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(須恵)	口(12.8) 底(7.6) 高 3.5	埋没土 口 1/4 底 1/3	右回転ロクロ回転糸切り無調整。ロクロ痕は弱く内面ではカキ目状。	①素地やや粗い。金雲母、輝石等細かな混入物含む。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。断面まで一様。
2 板碑	長 26.7 幅 21.7 厚 2.3 重 2,600g	上層 上半部破片	中型。主尊は浅い葉研彫りの阿弥陀種子。蓮座下部より欠損。二条線あり。碑面の摩滅著しく、裏面に横方向の工具痕あり。	①緑泥片岩。

AY-20号井戸出土遺物 (本文211頁)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 転用砥石	長 17.4 幅 9.1 厚 4.2	埋没土 破片	大型板碑破片の砥石転用品で、2面使用。砥ぎ面は平坦である。	①緑泥片岩。④板碑であれば、本遺跡出土品中最大級の大きさとなる。

AY-21号井戸出土遺物 (本文213・214頁 PL-45)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 砥石	長[4.8] 幅 2.1~3.2 厚[2.3] 重 50.0g	埋没土 破片	3面が残存しいずれも顕著な使用痕あり。下面の割口上にも鋭い擦痕が見える。	①砥沢石。
2 転用砥石	長 14.6 幅 12.7 厚 2.0	埋没土 破片	板碑破片の側面を手持ち砥として使用1側面はきわめて平滑。他の面は縁部に弱い磨面が見られる。上面に一方方向のやや鋭い擦痕が並ぶ。	①緑泥片岩。

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 地輪	長 22.2 幅 22.4 厚 16.9 重 16,480 g	埋没土 ほぼ完形	側面に積文不明の墨書あり。漢字か。上面の2隅に面取りあり。本来の正面は左側面とした部分かもしれない。丁寧に仕上げられており下面の幅太の工具痕以外は明瞭な工具痕はない。	①粗粒安山岩。
4 板碑	長 12.8 幅 14.0 厚 2.3 重 700 g	上層 中央部破片	中型。一部に彫り込みが残るが判読不可。碑面はやや摩滅。裏面に工具痕の一部残る。	①緑泥片岩。
5 板碑	長 46.1 幅 21.3 厚 2.5 重 4,800 g	埋没土2片 中央部破片	中型。主尊は葉研彫りの阿弥陀三尊種子。蓮座はキリークのみにより。紀年銘は「◆文六年正月日 了普禅尼」。碑面の摩滅は少なく裏面に横方向の工具痕を残す。	①緑泥片岩。 ④◆は判読できない。
6 板碑	長 31.9 幅 14.9 厚 2.6 重 1,800 g	埋没土 上部右側破片	小型。主尊は浅い葉研彫りの阿弥陀三尊種子。キリークの一部及びサが残る。蓮座はキリークのみにより。二条線一部残る。碑面はやや摩滅し、裏面全体に横方向の工具痕を残す。	①緑泥片岩。

大館馬場遺跡

OT-7号井戸出土遺物 (本文219頁)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗(青磁)	台 9 cm程か	埋没土 図示部の1/6	深いレールフあり。釉はやや厚く粘土の美しい発色。細貫入と微細な気泡あり。豊付き部は釉ハギで鮮やかな鉄足を見る。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面灰色味をおびた白色。

OT-9号井戸出土遺物 (本文219頁)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 花生 (青白磁)		埋没土 口〜体 小片	口縁端部は稜花状で8区画か。釉はやや薄く、薄い水色に発色している。やや細かな気泡がまじる。小片からの復元で径・傾きとも不安。	①きわめて緻密で混入物を含まない。②充分に磁器化している。③断面白色。④景德鎮系。12世紀。

OT-11号井戸出土遺物 (本文220頁 PL-46)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 白	高[39.2] 幅[34.4]	井戸底部中央に埋没 7片接合 1/3個体	1・2は同一個体。著しく脆弱で完形復元できず井戸枠に転用か。外面に顕著なノミ状の工具痕あり。底部は発見できず底抜けの白。	①トチノキ。芯部くり抜き材。④厚さ最大3.8cm。推定外径約41cm前後か。
2 白	高[36.4] 幅[27.3]	1に同じ 2片接合 1/4個体	1に同じ。土圧で変形して平坦になっている。外面にノミ状工具痕と横位の細かな擦痕あり。	①1と同一個体。④厚さ最大3.4cm。

OT-12号井戸出土遺物 (本文221頁)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 曲物側板	長[20.2] 幅[2.3]	下層 小破片	内面に2条の切り込みあり。径の復元できず。	①スギ。④厚さ0.3cm。
2 曲物底板	長[12.5] 幅[8.2]	下層 破片	2～4は摩滅、脆弱化ともすすんだ破片で割れ口も古いもの。破損したものを廃棄したものと思われる。	①ネズコ。④厚さ1.0cm。推定径15cm前後か。
3 曲物底板	長[12.8] 幅[11.0]	下層 3片接合 1/4個体	2に同じ。表面に斜位の擦痕あり。	①ケヤキ。④厚さ0.7cm。推定径18cm以上で2とは別個体か。
4 曲物底板	長[12.1] 幅[6.3]	下層 2片接合 破片	2に同じ。	①ケヤキ。④厚さ0.6cm。3と同一個体か。

OT-13号井戸出土遺物 (本文223頁 PL-46)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 井戸枠	長[77.3] 幅 7.0～5.5	下層 2片接合 完存	凸形ホゾの井戸枠。一端のホゾ部は左右の高さがくい違う。柱部の幅も左右の差が大きい。	①ヌルデ。芯持ち材を加工。フシあり。④厚さ5.5～4.9cm。凸形のホゾは高さ3.5cmと5.6cm。幅は3.1cmと3.6cm。
2 井戸枠	長 77.0 幅 7.8～6.7	下層 2片接合 一端を欠く	凹形ホゾの井戸枠。1同様に柱部の幅が左右で異なる。	①ヌルデ。芯持ち材を加工。フシあり。④厚さ5.0cm。凹形ホゾは深さが3.8cmと4.9cm。幅は3.7cmと推定3.4cm。
3 角柱状品	長 24.3 幅 4.6	下層 完存か	両端の割れ口は旧時のもの。表面は平滑。一端がやや細くなっており杭またはクサビ状の用途が考えられる。	①クリ。割り材を加工か。フシあり。④厚さ3.2cm。
4 井戸枠	長[22.6] 幅 4.0	下層 2片接合 両端を欠く	一端に凸形ホゾの基部残存。表面の整形はきわめて雑。	①クリ。割り材を加工か。フシ多い。④厚さ3.1cm。凸形ホゾの幅は推定1.9cm。
5 角柱状品	長[11.7] 幅 5.3	下層 両端を欠くか	表面の平滑さに比べ割れ口が不自然で両端を欠くものと判断した。	①エノキ属。割り材を加工。④厚さ3.5cm。
6 角柱状品	長[11.7] 幅 4.8	下層 一端を欠く	5と類似するが一端は平滑に仕上げている。杭またはクサビ状のものか。	①エノキ属。割り材を加工。④厚さ2.8cm。
7 角柱状品	長[21.5] 幅 3.9	下層 一端を欠く	剥落多い。原形は表面平滑なものか。1面に縦位の杭状の圧痕あり。	①クリ。芯持ち材を加工。④厚さ3.1cm。

OT-15号井戸出土遺物 (本文224頁)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓮弁碗 (青磁)		埋没土 口～体 小片	外面のレリーフはやや深い。軸はやや深い。軸はやや厚く砧手に近い発色。細かな気泡が多い。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面灰色味をおびた白色。④龍泉窯系。

OT-17号井戸出土遺物 (本文225頁 PL-46)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 焼締陶器	口(39.0)	上層 図示部の1/3	口縁上端は小さく窪む。外面に一部格子状となる叩き。内面は接合痕明瞭でアテ具痕不明。	①やや砂質。黒色、白色の細かな混入物を含む。②硬調。③やや暗い灰色で断面若干赤色味をおびる。④渥美。12世紀後半。
2 甕 焼締陶器	口 17.8	上層 口 3/4 肩 1/4	頸部のみ口ロ痕状の整った擦痕が巡る。内面には指頭状の深いナデの痕が巡る。口縁上端と肩部に白色の細かな斑状の降灰釉が薄くかかる。	①やや砂質。白色の粗砂を含む。②硬調。③灰色でほぼ一様。④渥美。12世紀後半。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 甕 焼締陶器	口(19.6)	上層 肩 1/2 口・胴上半 1/8	口頸部外面のみロクロ使用のような整った横位ナデ。内面には接合痕が残り肩部は指痕のようなやや長めの圧痕が並んでいる。外面には灰緑色を呈した細かな斑状の降灰釉がやや厚くかかる。	①素地やや緻密。1mm大の白色混入物を含む。②硬調。③断面灰色。器面は内外面とも紫色味をおびた褐色。④常滑か。
4 灯明皿	口 18.9 高 1.8	埋没土 1/2個体	ロクロ不使用。外面に不規則な接合痕あり。内面のナデはやや雑だが器面は平滑。	①ボソボソのやや粗い素地。パミス等1mm大の混入物やや多い。②中間的な焰調。普通。③にぶい橙5YR6/4。断面は彩度低い。
5 小皿 かわらけ	口 (8.0) 高 1.6	埋没土 図示部の1/3	ロクロ不使用。外面口縁端部に接合痕状のヒビあり。内面は雑なナデだが器面は平滑。燈芯痕状のスス付着する。	①ボソボソしたやや粗い素地。赤褐色鉱物等を少量含む。②中間的な焰調。やや硬調。③灰白10YR8/2。断面までほぼ一様。
6 砥石	長 [11.5] 幅 3.4 厚 2.9 重 154.0g	上層 ほぼ完形	断面糸巻き状の4面使用で1小口面にも擦痕あり。使用面は平滑。	①砥沢石。

阿久津宮内遺跡

AK-3号井戸出土遺物 (本文228頁 PL-46)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土錘	長 4.7 幅 1.9 厚 1.8 重 8.0g	埋没土 完形	一端に指頭痕状の窪みあり。	①素地やや緻密。長石、石英等を散見。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR6/3。④孔内径 0.7cm。

5 墓墳出土遺物

AY-2号墓墳 (本文237頁 PL-49)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 刀子 (鉄器)	刃渡[12.5] 茎長 1.75 峰厚 0.3	刃部破片	峰部、刃部とも直線的で切先が尖り切り出し小刀状。研ぎ減り少ない。欠損は旧時のもの。	①錆化によるフクレ少なく良質である。
2 釘(鉄器)	長[3.2]	頭部破片	芯は空洞になっている。頭部の敲打痕は明瞭でない。欠損は旧時のもの。	①クラック多い。やや悪い。
3 釘(鉄器)	長[2.6]	頭部破片	頭部は平坦。強い打撃を受け裂けるようなヒビが入る。欠損は旧時のもの。	①クラックあり。普通。
4 釘(鉄器)	長[2.4]	頭部破片	頭部の敲打痕は不明瞭。欠損は旧時のもの。	①軽量。錆化によるフクレ大きい。やや悪い。
5 釘(鉄器)	長[2.5]	頭部破片	頭部はつぶれる。身に対し木目が垂直方向となる木質残存。欠損は旧時。	①やや軽量。深いクラックあり。やや悪い。
6 釘(鉄器)	長[2.2]	端部破片	欠損は調査時のものか。	①軽量。やや悪い。
7 釘(鉄器)	長[3.7]	端部破片	全面に平行方向の木質残存。欠損は調査時のものか。	①やや軽量。
8 釘(鉄器)	長 6.9 幅0.57×0.55	端部欠く	頭部ややつぶれる。木目方向に平行な木質が4.5cmの深さで残存。欠損は調査	①クラックあり。普通。
9 釘(鉄器)	長 9.3 幅0.58×0.55	完形	頭部やつぶれる。木目方向に平行な木質が深さ6.7cm残存。	①クラックあり。普通。
10 釘(鉄器)	長[6.2]	端部欠く	頭部ややつぶれる。木質が一部残存。欠損は調査時のものか。	①深いクラック多い。やや悪い。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
11 釘(鉄器)	長[5.5]	端部欠く	頭部平坦。頭部付近では垂直方向、中位付近で平行方向の木目残存。欠損は旧時のもの。	①深いクラックあり。やや悪い。
12 釘(鉄器)	長[5.7] 幅0.56×0.50	端部欠く	頭部ややつぶれる。欠損は旧時のもの。	①軽量。クラック多い。悪い。
13 釘(鉄器)	長 5.2 幅0.55×0.53	端部欠く	頭部はねじれる。芯は空洞。欠損は調査時のものか。	①やや軽量。クラックあり。やや悪い。
14 釘(鉄器)	長 6.5 厚0.52×0.50	完形	折頭型の頭部はややつぶれる。最大幅は中位にある。	①錆化によるフレク少なくて釘としては良好。

AY-4号墓墳 (本文238頁 PL-49)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 銅銭	径 2.45	床直上 完形	地の金銅色が若干残っている。背面の縁は平坦。	④嘉祐通寶。篆書体。北宋銭。1057年初鑄。
2 銅銭	径 2.31	床直上 完形	背面の縁は平坦。	④皇宋通寶。北宋銭。1039年初鑄。
3 銅銭	径 2.40	床直上 完形	背面の縁はやや平坦。	④元豐通寶。篆書体。北宋銭。1078年初鑄。
4 銅銭	径 2.37	床直上 完形	背面の縁は落ちて平坦。	④治平元寶。篆書体。北宋銭。1064年初鑄。
5 銅銭	径 2.43	床直上 完形	地の金銅色がわずかに残っている。背面平坦。	④政和通寶。北宋銭。1111年初鑄。
6 銅銭	径 2.50	床直上 完形	地の金銅色が残っている。背面の縁の残りも良い。	④元豐通寶。草書体。北宋銭1078年初鑄。

OT-1号墓墳出土遺物 (本文240頁 PL-49)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 銅銭	径 2.56	床直上 完形		④永樂通寶。明銭。初鑄1368年。
2 銅銭	径 2.55	床直上 完形	付着した繊維を残したため、X線写真より判読。	④明道元寶。篆書。北宋銭。1023年初鑄。

6 1号桶土坑出土遺物 安養寺森西遺跡 (本文241頁 PL-50)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 不明 (鉄製品)	長 3.9	埋没土 一端欠くか	錆化すすみ不明瞭。断面は四角のようで、頂部の残る釘か。	①メクレ多く、あまり良くない。
2 釘 (鉄製品)	長 1.9	埋没土 両端欠く	壺金か。	①ややメクレあるが良好。③黒紫色。
3 火鉢	口 17.0 底 11.4 高 8.4	床面直上 ほぼ完形	三足の取り付け位置はややズレている。外面は平行叩き状の細かな刻文を6段に付けているが摩滅により不明瞭な部分が多い。内面ナデは丁寧に鋭い擦痕が巡っている。	①軽量でややボソボソした素地。赤褐色鉱物等細かな混入物を含む。②中間的な焰調。やや軟調。③灰褐10YR4/1。断面は明度高い。

7. 土坑出土遺物 安養寺森西遺跡 (本文293~297頁)

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
AY-10 -1	砥石	長(3.1) 幅(1.8) 厚 1.9 重 14.0g	埋没土 縁部少片	顕著な使用面は表面の一面のみ。側面裏面は強い擦痕が残っている。	①変質流紋岩。
AY-102 -1	鉢 (土師)	口(16.4) 高 5.0	埋没土 図示部の1/5	外底の削りは幅広でやや丁寧。口縁部は無調整部分広いが器面やや平滑内面のナデは丁寧。口縁端部の残存少なく径不安。	①素地普通。パミス、輝石等細かな混入物を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙2.5YR7/4。ほぼ一様。
AY-104 -1	甕か (土師)	底(6.6)	埋没土 図示部の1/4	ローリングの影響強く整形痕は不明外底に木葉痕が残っている。	①素地普通。チャート、輝石等の細かな混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐5YR5/3。ほぼ一様。
AY-155 -1	杯 (土師)	口(13.2) 高 3.1	上層の4片 2/5個体	口縁端部は一部で内側へ肥厚している。外面の削りはやや弱い。内面のナデは丁寧で強い。	①素地普通。輝石まじりの細砂を少量含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
AY-155 -2	杯 (土師)	口 12.8 高 3.1	上層の4片 図示部の4/5	外面削りはやや弱い息長く丁寧。口縁のナデは上端のみ。内面のナデは丁寧で器面は平滑。	①素地普通。パミス、輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。内面はやや赤色味が強い。
AY-155 -3	鉢 (土師)	口 16.2	埋没土 図示部の1/6	外底の削りはやや弱い丁寧。口縁は無調整部分広い。内面のナデは丁寧。小破片からの復元で径・傾きとも不安。	①素地普通。輝石、礫、パミス等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。
AY-155 -4	杯 (須恵)	底(7.6)	上層の2片 図示部の2/3	右回転クロー→回転糸切り→底部縁辺回転へ削り。残存部分ではクロー痕弱い。口縁下端は形状一様でない。	①素地普通。2mm大の礫を少量含む。②還元焰。普通。③灰白10YR7/1。断面までほぼ一様。
AY-155 -5	甕 (土師)	口(15.6)	上層 図示部の1/4	口縁上半外面に強いナデを加え端部は外方へ小さく突出している。外面の削りは強く器面に稜ができる。内面のナデはやや雑。	①素地やや砂質。輝石等の細かな混入物含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一様。
AY-168 -1	釘 (鉄製品)	長(7.0)	埋没土 先端部欠く	剝落多く旧状は不明瞭。断面四角と思われるが、頂部は折頭ではない。	①メクレ多く、やや悪い。③褐色味が強い。
AY-177 -1	小皿	口(9.6) 底 5.4 高 2.3	埋没土 口 1/6 底 ほぼ完存	右回転クロー→回転糸切り無調整。クロー痕は内底のみやや強く同心円状。口縁端部に燈芯痕状のスス付着。内底面に凍てハゼ状の剝落あり。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、パミス等を含む。②酸化焰気味か。やや硬調。③灰白2.5Y8/2。赤色味をおびるムラあり。
AY-177 -2	鍋	口 35.9 ~37.0 底 18.8 高 12.0	上層 ほぼ完形	外面に輪積み状の接合痕が明瞭に残る。厚みは均等である。口縁端部の外底の屈曲が強い。口縁部外面は指頭痕状の凹凸が全体に残り上端付近のみ強いナデ。内面はナデで平滑に仕上げている。内底中央に刻印と思われる圧痕あるが不明瞭。	①ボソボソした軽量の素地。赤褐色鉱物、輝石、パミス等小粒の混入物を含む。②酸化焰気味。普通。③灰白2.5Y7/2。上半は黒色味強い。外面はススの付着で黒色を呈している。
AY-177 -3	鍋	口(40.0) 底 18.9 高 12.0	上層 口 1/4 底 3/4	177-2にほぼ同巧。口縁下端内外面の稜はほとんど見られない。口縁上端はやや窪み外端は小さく尖る。内底中央に177-4と同意匠の刻印あり外底一部被熱による剝落あり。	①②③ 177-2に同じ。
AY-177 -4	鍋	口 37.2 底 19.2 高 11.6	上層 埋没土 4/5個体	177-2にほぼ同巧。口縁端部の外方への屈曲やや弱い。内底に刻印あり。外底に被熱による剝落あり。	①② 177-2に同じ。③177-2にほぼ同じ。断面中央は黒色味をおびる。
AY-177 -5	鍋	口 37.7 底 19.8 高 12.3	上層 口 ほぼ完存 底 1/2	177-2にほぼ同巧。底部中央を欠き刻印の有無は不明。	①② 177-2にほぼ同じ。③黒褐2.5Y3/1。断面は灰黄褐色で下半中央は黒色味が強い。
AY-177 -6	焙烙	口(40.0) 底(37.2) 高 5.6	埋没土 口 1/4 底 1/8	口縁上端の不規則な削りのため平坦部分と丸い部分がある。外面口縁下端に雑な削り。内底は平坦で平滑。耳の取付けは丁寧で上面内側やや摩滅。	①素地普通。輝石、パミス等の混入物を少量含む。②酸化焰気味。やや硬調。③灰黄2.5Y7/2。口縁内面は黄灰色。口縁外面はススの付着多く黒色味が強い。

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
AY-182 -1	釘? (鉄製品)	長[4.2]	埋没土 両端欠く	縦方向に割がれた残存か。	①メクレ多いが、材質は悪くない。
AY-183 -1	火鉢	口(17.6)	埋没土 図示部の1/8	右回転ロクロか。内面にはロクロ痕と思われる細かな擦痕が巡っている。外面は縦位の叩きによる施文だが内面にはアテ具痕は見られない。口縁上端のみ剥落すすむ。	①素地普通。赤褐色鉱物、雲母細片等細かな混入物を含む。②酸化焰気味。やや硬調。③器面は黒色。断面はにぶい赤褐色。
AY-189 -1	不明 (鉄製品)	長 5.2	埋没土 一端を欠く	毛抜きの種類か。先端尖る。	①あまり良くない。③褐色味をおびる。
AY-218 -1	摺鉢	底(13.0)	埋没土 図示部の1/6	右回転ロクロか。外面下半ではロクロ痕不明瞭。下端にはロクロ倒置によると思われるヘラ削り。卸し目は深く18mm間に7本の沈線。内面下半は使用痕顕著。	①ややボソボソした素地。片岩、長石、石英等1~3mm大の混入物多い。②酸化焰気味。きわめて硬調。
AY-220 -1	銅銭	径 2.40	埋没土 半欠品	背面は平坦。	④天聖元寶。北宋銭。1023年初鑄。
AY-226 -1	杯(土師)		埋没土 破片	底縁部の破片。外底にやや粗い削り。口縁下半は無調整。内面ナデの痕跡は不明瞭で器面は平滑さ欠く。内外面に墨書あるが欠失部分が多く積文不明。	①素地普通。輝石、パミス等細かな混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。内面にぶい黄橙10YR7/3。
AY-226 -2	土錘	長 5.2 幅 1.1 端幅 0.5 孔 0.15 重 5.2g	埋没土 完形	形状は中央付近でいびつだが孔は通っている。指頭痕は不明瞭。使用痕もほとんど残っていない。	①素地普通。パミス、輝石等の細かな混入物やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。一端に黒斑あり。
AY-264 -1	磨石 (石製品)	長 10.2 幅 10.7 厚 7.2 重 587.0g	上層 完形	上面は一端をうちかいて片手で握りやすい大きさに整えている。割れ口は平滑。下面は磨面でやや窪んでいる。	①軽石(二ツ岳)。
AY-264 -2	不明 (石製品)	長 9.9 幅 7.0 厚 6.6 重 196.0g	上層 完形	うちかきに使ったノミ状の工具痕と部分的に磨面があるが用途不明である。	①軽石(二ツ岳)。
AY-265 -1	不明 (石製品)	幅 5.2 厚 1.0 重 42.0g	上層 破片	上面、側面は平滑で斜位の鋭い擦痕が残っているが裏面はやや不整である。	①頁岩。
AY-265 -2	蓮弁碗 (青磁)	口(15.6)	上層 図示部の1/8	外面のレリーフはやや雑。釉はやや薄く粗い貫入が見られる。気泡は不揃いで多い。釉はオリーブ色。小破片からの復元で径不安。	①ややザラザラして磁器としてはやや悪い。②磁器化やや不十分。③断面灰白色。④龍泉窯系。13世紀。
AY-265 -3	不明 (石製品)	重 1,527g	上層 半欠品	円盤状の半欠品。工具痕は側面の幅広いもの以外は見えない。	①軽石(二ツ岳)。④上面中心に被熱により広い範囲で黒色になる。
AY-265 -4	不明 (石製品)	長 17.3 幅 13.3 高さ 13.5 重 1,500g	上層 完形か	ハツリ痕のような強い工具痕が部分的に残っている。	①軽石(二ツ岳)。④一側面に被熱痕のような黒色部分あり。
AY-265 -5	五輪塔 水輪 (石製品)	幅 25.6 高 17.5 重 5,453g	上層 2/3個体	上面・下面は水平の位置にない。上面のみ広く窪めてある。上面の工具痕は不明瞭で側面にあるものは二次的なものと思われる。	①軽石(二ツ岳)。④ススけたような被熱痕が散見できる。
AY-269 -1	碗 (陶器)	口 9.4 台 4.3 高 5.9	上層 体部2/5欠く	右回転ロクロ。外面体部にラセン状につながる4条の沈線を巡らす。内面は長石釉でやや粗い貫入あり。外面は胎釉との上下掛け分け。疊付き部分は釉はハギ。	①細礫、黒色鉱物まじりが素地はやや緻密。②硬調の還元焰。③胎土は灰白色。長石釉はやや緑色味をおびる。④瀬戸美濃系。

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
AY-270 -1	甕(土師)	口(29.6)	埋没土 図示部の1/4	外面の削りはやや弱いが丁寧に削り 残し部分は少ない。内面ナデは胴部 で雑。	①素地普通。パミス、赤褐色鉱物等細かな混 入物を含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい 赤褐5YR5/4。外面胴部は黒色味をおびる。
AY-272 -1	蓋(須恵)	口(11.4) 鈕 2.5 高 2.0	埋没土 縁 1/3 天 2/3	口縁端は小さく外方へ屈曲している 右回転ククロ。天井部回転ヘラ削り の範囲は狭い。鈕の取付けは丁寧。 内面転用硯状にやや研磨されている。	①素地普通。チャートまじりの砂粒を含む。 ②還元焰。やや硬調。③灰7.5Y6/1。ほぼ一 様。
AY-279 -1	碗 (青磁)	台 6cm前後 か	埋没土 底部付近1/2	内底の線刻は浅く不明瞭。釉は薄 いが透明感の強い灰緑色で細かな貫入 あり。気泡もやや多い。鉄足が見ら れる。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②充分 磁器化している。③断面灰白色。④龍泉窯系。 13世紀。
AY-295 -1	不明 (石製品)	長(11.5) 幅(9.6) 厚(11.1) 重 542.0g	上層	上面中央付近に小さな窪みの痕跡あり 。縁辺は磨面上面縁部と側面に深 い刀傷状の窪みと長く鋭い工具痕あり 。	①軽石(二ツ岳)。
AY-295 -2	不明 (石製品)	長 6.8 幅 5.9 厚 5.5 重 102.0g	上層 完形	細かな削りの工具痕と刀傷のような 窪みがほぼ全面に見られる。加工の 痕跡や磨面は見られない。	①軽石(二ツ岳)。
AY-295 -3	不明 (石製品)	長(14.8) 幅(13.0) 厚(11.0) 重 1,081g	上層 破片	上面に磨面があり若干窪んでいる。 側面には粗い工具痕が残っているが 整形面は見られない。	①軽石(二ツ岳)。④側面の割口上にわずかな 被熱痕あり。
AY-295 -4	不明 (石製品)	長 13.4 幅 10.5 厚 8.2 重 677.0g	上層 完形	上面に深さ5mmで1条の鋭い刀傷状 の窪みあり。1側面は顕著な磨面。 下面にも窪みあるが加工したものか 自然面か区別できない。	①軽石(二ツ岳)。
AY-295 -5	不明 磨石か (石製品)	長(12.8) 幅(11.4) 厚(8.8) 重 913.0g	上層 上面大半残存	上面に磨面がありその上に方向不定 で鋭い切り込みがある。	①軽石(二ツ岳)。④側面に破損前の被熱痕あり 。
AY-295 -6	不明 (石製品)	長 22.7 幅 8.5 厚 11.2 重 593.0g	上層 半欠品か	やや弱い工具痕が残っている。他の 面も鋭角に割れており加工途中に放 棄した未製品と考えたい。	①軽石(二ツ岳)。
AY-295 -7	不明 (石製品)	長(11.3) 幅 13.5 厚 7.3 重 702.0g	上層	上面と1側面に強い工具痕が残って いるが整形痕ではないようである。 下面はやや平坦で磨面に近い。	①軽石(二ツ岳)。
AY-295 -8	不明 (石製品)	長 18.2 幅 12.5 厚 9.3 重 1,204g	上層 完形	上面中央をやや外れた位置に敲打痕 のような剥落部分あり。深さ1cm近 い自然の窪みあり。下面には幅太で 長い工具痕多数あり。	①軽石(二ツ岳)。
AY-295 -9	不明 (石製品)	長 20.5 幅 12.8 厚 9.8 重 1,224g	上層 完形	上下両面にやや長い磨面がある。下 面を中心に幅広く深い工具痕あり。	①軽石(二ツ岳)。
AY-296 -1	五輪塔 火輪	長 25.2 幅 24.3 厚 14.8 重 10400g	西壁際上層 ほぼ完形	全面丁寧に仕上げ。稜も鋭く立ち上 げた製品である。孔内にノミ状の工 具痕が明瞭だが他はきわめてわかり にくい。	①粗粒安山岩。
AY-303 -1	皿 かわらけ	口 11.0 底 6.4 高 3.5	中層 口 1/2 底 完存	右回転ククロ→回転糸切り無調整。 ククロ痕は弱い。内底中央に指頭状 の押圧顯著で外底にもスグレ状の圧 痕が残っている。	①素地やや緻密。粗砂やや多く雲母片散見す る。②中間的な焰調。やや硬調。③淡橙5YR 8/3。口縁外面は赤色味をおびる。
AY-303 -2	高台付椀 (須恵か)	台 8.8	中層 図示部の1/2	高台および底部破片だが内底には回 転糸切り痕と思われる同心円状に近 い沈線あり。外底中央にも回転糸切 痕が残り底部を合わせて作っている。	①素地普通。雲母片を散見する。細砂を含む。 ②酸化焰か。やや硬調。 ③にぶい橙7.5YR7/4。断面まで一様。

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
AY-307 -1	不明 (石製品)	長(19.0) 幅(15.7) 厚(11.5) 重 1,903g	埋没土	径40cm近い礫の破片である。工具痕が多数あるが磨面、整形面はなく製作途中で放棄した未製品と思われる。	①軽石(二ツ岳)。④割口部分にも広く被熱している。
AY-307 -2	不明 (石製品)	長(21.0) 幅(21.7) 厚(11.2) 重 2,104g	埋没土 1/4個体か	径30~40cm大の球形円礫の破片と思われる。不規則に磨面が見られ幅広い工具痕が残っている。用途不明。	①軽石(二ツ岳)。
AY-307 -3	不明 軟質陶器	長(15.5) 幅 2.7 厚 2.4	中層 半欠品か	表面に雑な研磨ののち、不規則な焼成前の穿孔。	①素地やや緻密。微細な混入物多い。②中間的な焰調。③黒褐2.5Y3/1。
AY-307 -4	不明 軟質陶器	長(11.9) 幅 2.6 厚 2.4	中層 半欠品か		
AY-308 -1	皿 かわらけ	口 11.7 底 6.4 高 3.1~ 2.6	底部直上 ほぼ完形	右回転ロクロ。外底全面にナデまたは弱い削りを加え切離し痕は残らない。内底にカキ目状の擦痕が同心円状に巡る。乾燥または焼成時のキレツが残っている。	①ボソボソでやや粗い素地。赤褐色鉱物、輝石等を含む。②中間的な焰調。普通。二次被熱の可能性。③淡黄橙10YR8/3。黒色味、赤色味の強いムラ広く一様でない。
AY-309 -1	砥石	長 7.2 幅 1.7~3.6 厚 1.8~2.5 重 85.0g	埋没土 ほぼ完形か	4面使用。両側面が湾曲している。上端は切り出し面の上に粗い擦痕あり。下端は割口か。置き砥を手持ち砥に転用したものか。	①砥沢石。
AY-310 -1	皿 かわらけ	口(10.2) 底 4.8 高 3.0	中層 口 1/3 底 ほぼ完存	右回転ロクロ→回転糸切り。外底一部にゴザ状の圧痕あり。ロクロ痕は細かく弱く口縁部は端正な作りである。内底は凹凸やや大きい。	①ややザラザラした素地。パミス、輝石等を少量含む。②中間的な焰調。やや硬調。③淡黄橙10YR8/3。赤色味、黒色味をおびるムラあり。
AY-310 -2	皿 かわらけ	口(12.0) 底 5.9~ 6.2 高 3.2	中層 口縁上半1/3欠く	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。内底中央を除いてロクロ痕はきわめて弱い。口縁上半内外面に燈芯痕状のスス付着。	①素地普通。黒色鉱物、パミス等細かな混入物多い。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/2。赤色味、黒色味をおびるムラあり。
AY-310 -3	小皿 かわらけ	底 4.5	埋没土 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕は弱い。	①素地普通。パミスまじりの粗砂を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③淡橙5YR8/3。断面は彩度低い。
AY-310 -4	小皿 かわらけ	底 4.6	埋没土 図示部の3/5	310-3に同巧。内面にスス状の付着物あり。	①②③ 310-3に同じ。
AY-340 -1	不明 (石製品)	長 17.3 幅(13.6) 厚 10.3 重 1,263g	北壁際 ほぼ完形か	水輪のような円形の石に上面と側面割口に工具痕が多数残っている。	①軽石(二ツ岳)。④側面と割口に被熱痕あり。
AY-342 -1	皿 かわらけ	口 13.5 高 2.6	南壁際中層 ほぼ完形	ロクロ不使用。外底は無調整。内底は一方のナデでやや粗い擦痕が残っている。口縁部のナデもやや雑。厚手でやや重量。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物、パミス等を含む。②酸化焰か。やや硬調。③橙2.5YR6/6。一部黄色味をおびるムラあり。
AY-343 -1	碗(青磁)		埋没土 図示部小片	外面運弁と思われるが掘り込みは浅い。釉はやや浅く灰緑色。気泡はやや粗く不揃いである。	①緻密で混入物をほとんど含まない。②十分に磁器化している。③断面灰白色。④龍泉窯系。
AY-343 -2	小皿 かわらけ	口(8.2) 高 1.5	埋没土 図示部の1/4	ロクロ不使用。外底は無調整で器面は不整。内底中央に手のひらで押圧したような弱い圧痕あり。他はやや強いナデ。	①342-1に同じ。②酸化焰か。普通。③342-1に同じ。
AY-343 -3	小皿 かわらけ	口(9.6) 高 1.5	埋没土 図示部の1/4	ロクロ不使用。外底一部に雑なナデの痕あるが無調整部分広い。口縁および内面はやや強いナデ。	①素地普通。輝石、パミス等のまじる細砂多い。②酸化焰か。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味をおびるムラあり。
AY-344 -1	小皿 かわらけ	口(9.4) 高 1.7	埋没土 図示部の2/5	ロクロ不使用。外底は無調整か。口縁および内面は強いナデ。歪み強く断面の形状は測点によって異なる。	①素地普通。2mm大のパミス目立つ。②酸化焰か。やや硬調。③橙2.5YR6/6。断面まで一様。

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
AY-344 -2	皿 かわらけ	口(12.4)	埋没土 図示部の1/8	ロクロ不使用。外底はヘラ削りを加えたようだが不明瞭。口縁および内面はやや強いナデ。小片からの復元で径、傾きとも不安。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、パミス等を含む。②酸化焰か。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
AY-344 -3	鉢 軟質陶器	口(40.0) 高(5.8)	埋没土 図示部の1/8	外面は斜位の細かな叩きの上にやや粗い擦痕が巡っている。内面の横位ナデは削りに近く一部でハケ目状の沈線が残っている。	①素地普通。石英、片岩等のまじる1~2mm大の混入物多い。②還元焰か。やや硬調。③灰白5Y7/1。ほぼ一様。
AY-346 -1	刀子 (鉄製品)	長(5.8) 幅 0.7 峰 0.3	埋没土 茎を欠く	砥ぎ減り著しい。峰の厚さから、やや大型品の可能性。茎の可能性も残る。	①メクレなく良好。③やや褐色味をおびた黒紫色。
AY-347 -1	碗(青磁)		埋没土 底部小片	内面の線刻は浅い。軸は薄く透明感のあるオリブ色。細かな気泡を含む。	①緻密で混入物を含まない。②充分磁器化している。③灰色味をおびた白色。
AY-369 -1	凹み石 (石製品)	長 11.3 幅 10.2 厚 5.8 重 350g	埋没土 完形	上面を深く窪めている。窪み部分に工具痕は見えないが底部は剝落著しい。側面に工具痕あるが後世のものか。	①軽石(ニツ岳)。
AY-374 -1	銅銭	径 2.49	床面直上 完形		④開元通寶。初鑄621年。背面に弧状の印。
AY-377 -1	凹み石 (石製品)	長 18.0 幅 15.4 厚 12.9 重 1,984g	西壁際 完形	上面に大きな窪みあり。不明瞭な工具痕が残っている。3側面に平坦面を作っているが平滑さに欠ける。底面にも窪みあるが人為的なものかは判断できない。	①軽石(ニツ岳)。④下面に一部被熱痕あり。
AY-377 -2	五輪塔 空風輪 (石製品)		南側下層 完形		①流紋岩質凝灰岩(馬見岡凝灰岩)。
AY-409 -1	皿 かわらけ	口(13.8) 高 2.7	埋没土 図示部の2/5	ロクロ使用の痕跡なし。外底は無調整。内面は指頭による方向不定のナデ。	①ボソボソのやや粗い素地。輝石、白色砂粒等の細かな混入物多い。②中間的な焰調。やや硬調。③灰白10YR8/2。外面は赤色味をおびたムラ広い。
AY-424 -1	不明 (石製品)	長(15.6) 幅(12.3) 厚(7.3) 重 1,100g	埋没土 破片	上面に大きな窪みがあるが人為的なものかは不明。下面は断面U字状の工具痕が多数残っている。	①軽石(ニツ岳)。④下面に被熱痕がありその上に工具痕がある。
AY-425 -1	釘 (鉄製品)	長[8.4]	上層 端部若干欠く	頂部ややつぶれる。	①メクレ多い。③褐色味をおびる。
AY-427 -1	小皿 かわらけ	口 9cm程か	埋没土 小片	ロクロ不使用か。口縁部は内外面とも丁寧な横位ナデ。内外面に呪符と思われる細かな墨書あり。	①素地普通。②中性焰。やや硬調。③灰白10YR8/2。外面一部赤色味をおびる。
AY-430 -1	小皿 かわらけ	口 8.6~ 8.9 高 2.2	埋没土 完形	ロクロ不使用。外底に削りやナデの痕跡なし。内面は雑なナデ。歪み著しく口縁部の形状は一定でない。	①素地普通。チャートまじりの粗砂の混入多い。②中間的な焰調。やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。外底は赤色味強い。
AY-436 -1	鉢(白磁)		埋没土 口縁小片	外面に劃文の一部がかかる。口縁内端は軸ハギ。軸はやや薄く貫入はほとんど見られず気泡も少ない。	①きわめて緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面白色。④舶載。14世紀。
AY-447 -1	皿 かわらけ	底 5.3	底面直上 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕弱い。内底縁部やや強い押えによる窪みあり。	①素地普通。パミス、輝石、赤褐色鉱物等の混入やや多い。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内底に灰色味をおびた重ね焼き痕あり。
AY-474 -1	砥石	長(7.6) 幅 3.9 厚 2.2 重 112.0g	埋没土 一端欠く	欠け口一端を除く5面使用で裏面は剝落著しく不明瞭。一側面がねじれたような砥ぎ減りすすんでおり手持ち砥として使用している。	①砥沢石。

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
AY-497 -1	土鍾	長 4.0 幅 1.0 端幅 0.6 孔 0.2 重 3.7g	埋没土 完形	器面は風化進み整形痕は不明瞭。使用痕と思われる両端部の小さな欠けあり。	①極めて細かな素地。輝石等細かな混入物を散見する。②酸化焰。普通。③淡黄橙10YR8/3。器面に赤色味の強いムラあり。
AY-532 -1	高台付椀 (土師)	口(13.6)	埋没土 図示部の1/3	右回転ロクロ。ロクロ利用の高台取付け。ロクロ痕はやや弱い。内面口縁部に弧状の雑なヘラ磨き。内面黒色処理。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミス等の混入物多い。②酸化焰。やや硬調。③橙7.5YR7/6。一様でない。内面は光沢の弱い黒色。

大館馬場遺跡 (本文298頁 PL-81)

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
OT-39 -1	鉢 軟質陶器	口 35cm 程度か	埋没土 小片	片口部分がかかっている。内面はロクロ痕と思われる凹凸あり。外面は指頭痕状の圧痕。内面は摩滅しており摺鉢である。	①素地普通。雲母細片含む。3mm大のチャート散見。②中間的な焰調。硬調。③灰白5Y7/1。断面、内面は赤色味をおびる。
OT-53 -1	不明 (鉄製品)	幅 4.6	埋没土 破片	途中でねじれるように屈曲している端部は平坦で側面にも刃部は認められない。	①フクレ多く、あまり良くない。③褐色味をおびる。
OT-62 -1	砥石	長(8.7) 幅 3.0 厚 3.5 重 106g	下層 ほぼ完形	両端を除く4面使用。上面端部に玉造りに使用したような径7mmの顕著な窪みあり。上面以外の3面は平滑。	①砥沢石。
OT-103 -1	碗 染付磁器		埋没土 体部と高台端部 欠く	外面文様は意匠不明。透明釉の乗り悪く外面に細かな凹凸ができる。	①黒色鉱物微粒を散見する。緻密な素地だが一片だけ5mm大の長石角礫がまじる。②磁器化。③断面灰白色。呉須はやや濃い。

阿久津宮内遺跡 (本文298頁 PL-81)

土坑No	器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
AK-34 -1	小杯 (磁器)	台(2.6)	床直上 図示部の1/2	外底・疊付部は露胎。外面文様は植物意匠で呉須で葉、白土で花を描いているようだ。	①精選され極めて緻密。黒色の微細な混入物散見。②磁器化。③断面灰白色。釉はやや青色味をおび呉須は薄い。
AK-34 -2	碗 (陶器)	台(4.6)	床直上 図示部の2/5	疊付き部は釉ハギ。釉は薄いが細かく美しい貫入が入る。	①やや緻密で混入物なし。②硬調。③断面はやや黄色味をおびた灰白色。
AK-34 -3	刀子 (鉄製品)		床直上	刃部なく、莖部破片と思われる。	①フクレなく、良好。③若干褐色味をおびる。
AK-40 -1	鉢(青磁)		上層 図示部小片	細貫入の方向より右回転ロクロ。内面に線刻。釉は薄く青色味をおびた白色を呈している。細かな気泡多い。	①緻密で微細な混入物やや多い。②充分磁器化している。③断面白色。④肥前系。17~18世紀。
AK-40 -2	皿 かわらけ	底 4.6	中層 図示部の1/6	右回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕やや鋭い。薄手で整った造りの土器である。	①素地普通。混入物少なく良好。②中間的な焰調。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。断面まで一様。
AK-40 -3	陶硯		上層 小片	陸部の上縁破片と思われる。側面に斜位の細かな擦痕が顕著である。	①素地緻密。細砂まじる。②中間的な焰調。硬調。
AK-40 -4	板碑	長 26.0 幅 19.3 厚 2.5 重 1,800g	埋没土 上部破片	上部破片。中型。主尊は葉研彫りの阿弥陀種子。二条線あり。碑面はやや摩滅。裏面に横方向の工具痕あり。その他は欠損のため不明。	①緑泥片岩。
AK-40 -5	板碑	長 9.1 幅 17.4 厚 1.8 重 500g	埋没土 中央破片	中央部破片。中型。主尊はキリークが欠損するものの、脇侍のサ・サクが残るため阿弥陀三尊種子。脇侍は浅い葉研彫りで蓮座なし。紀年銘は「貞治二二(四)年◆」。碑面はやや摩滅。	①緑泥片岩。 ④◆は日か。

土坑No	器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
40土坑 - 6	不明 (石製品)	長(15.3) 幅(9.1) 厚(9.5) 重 490g	東壁際中層 小破片	上部に半球状の窪みがあるが工具痕はあまり明瞭でない。割口と自然面の区別も明瞭でない。	①軽石 (二ツ岳)。
40土坑 - 7	下白	厚(11.5) 重 1,920g	埋没土 1/6個体	磨面は片減りし中央が窪んでいる。磨面部径は18cm程か。	①粗粒安山岩。
40土坑 - 8	不明 (石製品)	長(10.8) 厚 3.7 重 129g	上層半 欠品か	表裏面は幅広く鋭い削り。側面は細かく丁寧な削りの工具痕が残っている。中央に両側よりやや雑な穿孔。	①軽石 (二ツ岳)。
44土坑 - 1	椀(須恵)	口(14.2) 台 6.4 高 5.2	北壁際床直上 口 2/5 底 完存	外面には巻き上げ状の接合痕が残っている。右回転ロクロ雑な高台取付け。ロクロ痕はきわめて弱い。	①素地やや粗い。輝石まじりの粗砂の混入が多い②還元焰。やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。内外面とも黒斑広い。

8 遺構外出土遺物 (本文324・325頁 P L-81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺(土師)	口(13.0) 頸 9.8	AY-E区 21号井戸壁内 図示部の1/2	口縁部に輪積状の接合痕顕著。口縁上端に8単位になるとされる稜花状の窪みあり。外面はハケ目状の削りの上にやや雑なへら磨き。	①素地普通。1～2mm大の赤褐色鉱物の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。内面は黒色味強い。
2 高杯 (土師)	口 16.3 脚 12.3 高 14.0	OT-G区 j-1・2G 口 1/2欠く	ソケット状にして杯部と脚部を接合。杯部内面は丁寧な磨き。脚部内面の削りも丁寧である。脚部外面ノナデは幅太の工具使用。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、片岩等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③橙5YR7/6。ほぼ一様。
3 杯(土師)	口(12.6) 高 3.5	AY-D・E区 流路 図示部の1/4	口縁内端は小さく内側へ屈曲している外底の削りは細かくやや弱い。内面は丁寧なナデ。	①素地普通。輝石、粗砂等を少量含む。②酸化焰。やや硬調。③橙7.5YR7/6。外面一部明度低い。
4 杯(土師)	口 11.9 高 3.1	AY-D区 西流路 1/2個体	外底の削りは幅広くやや丁寧。内底は平坦で中央に線刻と思われる不明瞭な「×」印あり。	①素地普通。パミス、輝石等やや細かな混入物含む。②酸化焰。やや軟調。③橙5YR6/6。外底はさらに赤色味が強い。
5 杯(土師)	口(16.0)	AY-E区 東流路 図示部の1/4	口縁外面は上端のみナデ。無調整部分広い。外底の削りはやや強い。内面のナデはやや丁寧。	①素地普通。パミス、砂粒の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。断面は彩度低い。
6 杯(土師)	口(17.2) 高 5.1	AY-D・E区 図示部の1/4	外面の削りはやや細かく鋭い。内面のナデは丁寧で平滑に仕上げている。	①素地普通。輝石、パミス等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい断面は5YR7/4。外面やや明度低い。
7 皿	口11.3～10.0 底 5.5	AY-E区 1-5G ほぼ完形	左回転ロクロ→回転糸切り無調整。ロクロ痕は弱い。内底不整。平面楕円形に歪む。	①ボソボソしてやや粗い素地。輝石、パミス等を含む。②中間的な焰調。やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。外面赤色味をおびるムラあり。
8 甕(土師)	口(15.8) 肩(14.2)	AY-E区 東流路 図示部の1/3	口縁外面に明瞭な接合痕が残っている口縁内外面とも布状の粗い擦痕が残るナデ。外面に削りは弱い。	①素地やや粗い。輝石、粗砂等の混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。黒色味をおびるムラあり。
9 杯(土師)	口(13.6) 高 3.2	AY-D区 西確認面 図示部2/5	口縁上半は弱く外反する。外底の削りは弱い。内面のナデはやや丁寧で粗い擦痕が残っている。歪みあり径不安。	①素地普通。パミス、砂粒等を少量含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。ほぼ一様。
10 椀(須恵)	口(16.0) 台(7.2) 高 7.2	AK-J区 g-9G 口縁上端の大半と高台1/2欠く	右回転ロクロ→回転糸切り→ロクロ利用のやや雑な高台取付け。ロクロ痕やや弱い。内面は平滑。	①素地緻密だがシルトのような微細な混入物を多量に含む。②やや不十分な還元焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。
11 杯(土師)	口 11.8 底 6.0 高 3.7	OT-表採 完形	外面は中位に顕著な接合痕あり。口縁は強いナデ。中位無調整で下半は強いへら削りを施す。内面は雑で強いナデ。外面に墨痕の比較的明瞭な墨書あり「久」か。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物等を含む。②酸化焰。硬調。③淡黄橙10YR8/3。外底に黒斑あり。④内面に広く油煙状の付着物あり。底部付近ではタール状になる。
12 鉢(青磁)		AY-D区 図示部小片	釉は厚く砧手の美しい発色。やや細かな貫入あり。細かく揃った気泡が多い。	①緻密で混入物を含まない。②充分磁器化している。③断面白色。④龍泉窯系。14世紀。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
13 碗(青磁)		OT-F区 4号井戸付近 図示部小片	彫りの深い蓮弁。釉はやや薄く乳濁した淡青色。細かな気泡が多い。	①きわめて緻密で混入物をほとんど含まない。②充分磁器化している。③断面やや灰色味をおびた白色。④龍泉窯系か。13世紀。
14 碗(青磁)		OT-F区 19号井戸付近 口小片	いわゆる猫描手。外面にはヘラ削りのような鋭い擦痕あり。内外面ともに櫛描状の文様あり。釉は薄く細かな気泡が見られる。わずかに黄色味をおびた灰色に発色し透明感が強い。	①緻密で混入物をほとんど含まない。気泡がわずかにまじる。②充分磁器化している。③断面灰白色。④同安窯系。12世紀。
15 碗(青磁)	台(5.6)	AY-D区 c-1G 底1/2 胴下半1/6	内面にのみ線刻あり。あまり深くない。釉はやや薄く淡い灰緑色に発色。貫入は見られないがやや大粒の気泡あり。	①緻密。混入物を含まない。②充分磁器化している。③断面灰白色。④龍泉窯系。13世紀。
16 紡錘車	上径3.7~3.9 下径3.0~3.1 厚1.2 孔0.65	OT-G区 w-10G	薄手。風化が進み整形痕は不明瞭。側面にはつり痕のような稜多い。細かな傷は新しいものか。	①蛇紋岩。④重さ29g
17 土錘	長5.0 中径1.1 端径0.5 孔0.35	AY-表採 完形	胴部のふくらみ弱い。	
18 土錘	長4.7 中径1.2 端径0.35 孔0.2	AY-B区 i-24G 完形	幅に比べ、孔径著しく細い。	
19 土錘	長3.1 中径0.8 端径0.5 孔0.3	AY-v-20G 完形	小型だが孔径太い。	
20 銅銭	径2.4	AY-E区 k-24G 完形	表裏面とも縁はやや高くしっかりしている。	④元祐通寶。篆書体。北宋銭。1093年初鋳。
21 銅銭	径2.35	AY-トレンチ 完形	背面は摩滅し、縁部は低い。	④元豊通寶か。北宋銭。1078年初鋳。
22 砥石	長[9.4] 幅2.8 厚1.8	AK-表採 両端欠く	両端は割れ口。表裏面は平滑だが両側面は細かな凹凸多いうえに剝落がかわる。4面使用の手持ち砥。	①砥沢石。④重さ77g
23 鎌 (鉄製品)	刃渡[6.7] 峰厚0.3	AY-E区 d-23G 刃部破片	砥ぎ減りはやや少ない。割れ口は調査時のもの。	①錆化によるふくれ少ない。良好。
24 きせる (銅製品)	長[3.5] 径0.5~1.0	AY-4住埋没 土 両端欠く	継ぎ目が明瞭に残存する。形状から欠損部分はわずかのようで小型の吸口と思われる。	①緑青顕著である。
25 櫛	長9.2 幅4.2 厚0.8	AY-汜濫層内 一部欠く	白木の櫛。8.3cm中に52本の細かな櫛目が入る。欠損の大半は調査時のもののようにほぼ完形の状態で廃棄されたものか。	①保存処理を先行したため樹種同定行わず。ツゲか。
26 自在鉤		AY-表採 完形	魚形をした自在鉤の部分。尾の付け根に強い圧痕あり。	③吸炭して黒色を呈している。
27 凹み石 (石製品)	長14.2 幅11.5 厚9.8 重950g	AY-上層 完形	上面に比較的整った窪みを穿っていて内面は剝落がすすむ。底面は磨面で平坦で斜位の細かな擦痕が残っている。工具痕も多い。	①軽石(ニツ岳)。
28 上臼 (石製品)	長[14.0] 厚7.8 重2.75kg	AY-B区 n-15G 挽き手部片	武蔵型石臼。すり合わせ面が著しく減って挽き手穴に一部かかっている。分画不明。	①花崗岩。
29 凹み石 (石製品)	径20.4~19.7 高[12.2]	OT-G区 v-10G	上面は断面逆三角形に丁寧な窪みを作る。側面は部分的な整形。	①軽石(ニツ岳)。④重さ2,610g

9 弥生時代の遺物 阿久津宮内遺跡 (本文328~331頁 PL-83・84)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺	頸 6.4 胴(27.0)	H区i・j-21G 頸 3/4 胴上半 1/8	やや幅太の平行沈線と矩形形で区画しその間に縄文施文が見られる。縄文はLRの横施文。胴部下半は無文で粗い横位の削りの痕が条痕状になっている。	①素地普通。チャートの目立つ1~2mm大の細礫多い。②酸化焰。普通。③淡黄橙10YR8/3~にぶい橙5YR7/4。
2 壺		H区h-22G 図示部小片	口縁は弱い折り返し。縄文LRを横位に施文した後、一条沈線を加える。上端はややにぶい刻みあり。	①素地普通。赤褐色鉱物、1~2mm大の礫等を含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。断面黒色味強い。
3 壺	胴部径20cm程 か	H区i-22・23G 図示部の1/6	上面の割口は平滑で口縁端部のようなのである。外面上半は平行沈線による菱形の区画か。中位以下には細かな条痕。内面にも幅太の条痕あり。	①素地普通。パミス、輝石等や細かな混入物多い。②酸化焰。普通。③灰白2.5Y8/2。黒色味をおびるムラ広い。断面黒色味強い。
4 壺	胴(16.9)	H区e-10G i・j-21G 胴中位 1/3 胴下半 3/4	残存部分では胴部中位のみ一条沈線とLR網による単軸絡条体IA類の施文下半はやや強い削りで条痕状の擦痕が残っている。	①素地やや粗い。チャートの目立つ細礫や多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙10YR7/3。黒色味の強いムラ広い。
5 壺か	底(5.8)	H区i-21G 図示部の1/2	外底は粗い網代痕。体部外面は方向不定で不明瞭な削り。内面ナデは粗い工具痕が残るが器面不整。	①素地やや粗い。1mm大の細礫の混入やや多い。輝石散見。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/3。内面、断面は黒色味強い。
6 壺	胴(30.2)	H区h-21G i-20・21・22G 上半 1/8 下半 1/3	輪積みか。外面上半には下方から引き上げた斜位の条痕。下半にも一部に条痕が見られる。内面のナデは雑で器面はやや平滑さ欠く。	①素地やや粗い。パミス、輝石、赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味、黒色味の強いムラあり一様でない。
7 壺		H区g-22G h-21・22G 図示部の1/5	輪積みか。外面はゆるい鋸歯状の条痕内面のナデはやや丁寧だが器面に凹凸残る。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰。やや軟調。③橙2.5YR6/0。外面に黒斑。断面は黒色。
8 深鉢	口17.6~18.6 底 3.3~3.5 高 22.4	H区g-20G h-20・22G i-21G j-21・22G ほぼ完形	地文は無筋L縄文の横位施文。胴中位は沈線による崩れた矩形区画内のみ縄文を残し他は工具使用の横位ナデで地文を消す。胴下半は縦位の条痕。内面は粗いナデで鋭い擦痕が残る。外底に木葉痕。	①素地普通。パミス、赤褐色鉱物まじりの砂粒多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。黒斑あり。
9 甕	口13.5~13.8	H区f-20G e-20・21・22G g-20・21G h-20・22G 図示部の3/4	地文の縄文は口縁外底は爪形文状の押圧痕が巡る。上半に二重沈線。下半は縦位ヘラ削り。内面は粗いナデで接合痕が残る。	①素地普通。輝石、パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面上半は黒色味強い。
10 甕か	底(7.0)	H区h-22G 図示部の1/3	外面はやや鋭いヘラ削りと指頭状の圧痕。内面のナデはやや丁寧。9と同一個体の可能性あり。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物等の混入やや多い。②酸化焰。普通。
11 深鉢	口(15.4)	H区e-21G g-21G 図示部の1/5	地文は縄文。RL横位で沈線区画内を磨消している。	①素地普通。パミス、赤褐色鉱物、石英等雑多な混入物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい赤褐2.5YR4/3。外面、断面は黒色。
12 深鉢	口(16.0)	H区 図示部の1/5	11にほぼ同巧。沈線は細く矩形は右肩上がりになる。	①②③ 11に同じ。
13 甕	口(20.8)	H区h-20・21G 図示部の1/4	口縁は折り返しの上に縄文施文。胴部は縄文地文上に太く深い一条沈線を巡らす。折り返し直下と波状の区画内は無文。縄文はRL横位。	①素地普通。チャート、赤褐色鉱物のやや目立つ1~3mm大の混入物を含む。②酸化焰。普通。③橙5YR6/6。一部黒色味をおびるムラあり。内面は彩度低い。
14 甕か		H区i-20G 図示部の1/8	外面地文は櫛描き疑縄文か。沈線は雑で幅太。内面はヘラ状工具によるナデで鋭い擦痕が残っている。	①素地普通。チャート、片岩まじりの1~3mm大の細礫多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。断面まで一様。
15 鉢		H区 図示部小片	口縁外面は折り返し部に指頭状の不明瞭な押圧痕。体部の条痕もやや不明瞭。	①素地ややシルト質。赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/3。内面黄色味強く断面黒色。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
16 鉢		H区g-22G 図示部小片	15に同巧で同一個体の可能性あり。	①②③ 15に同じ。
17 甕	口 30cm程か	H区i-22G 小片	外面は横位の粗い条痕。幅2cm程の工具使用か。内面はやや強いナデでヘラ状の工具痕が残る。	①素地普通。チャート、赤褐色鉱物、長石等雑多な混入物あり。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面橙5YR6/6。断面黒色。
18 鉢	口(27.4)	H区g・h・i-21G 図示部の1/4	口縁外端の折り返し部は雑で形状は一定でない。外面の条痕状の擦痕は丁寧につけられている。内面不整。薄手。	①素地普通。輝石、石英、パミス等のまじる粗石やや多い。②酸化焰。やや軟調。③暗赤褐2.5YR3/2。内面上半は明度高い。
19 鉢		H区h-21G 図示部小片	16にほぼ同巧だが折り返し部の押圧痕明瞭で上端の外反顕著。体部の条痕もはっきりしている。	①②③ 16に同じ。
20 鉢	口 28cm程か	H区h・i-23G 図示部の1/8	口縁上端は棒状工具押擦による刻み目外面の条痕は不明瞭。内面のナデは強く粗い。	①素地普通。1～3mm大のチャート、石英、細礫等雑多な混入物多い。②酸化焰。やや硬調。③内面にぶい赤褐2.5YR5/4。外面黒褐色。
21 甕	口(24.0)	H区h-22・23G 図示部の1/4	口縁上端は棒状工具の強い押擦による刻み目。外面は幅太で息の長い条痕。内面やや丁寧なナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面灰白色。断面黒色。
22 鉢	口 21.0	H区h・i-20G 図示部の2/5	外面はやや粗く不明瞭な条痕。内面はヘラ状工具のナデで鋭い擦痕が残っている。補修痕と思われる焼成後の穿孔あり。	①素地普通。パミス、チャート等のまじる1～3mm大の細礫多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味、黒色味の強いムラ広い。
23 鉢	口(29.2)	H区h-22・23G i-21・22G 図示部の1/6	口縁外面に折り返し部にはごくわずかであるが指頭状とヘラ状工具の圧痕が残っているが体部は無文で弱いヘラ削りの痕が一部に残っている。内面はヘラ状工具の擦痕が下半を中心に残る。	①素地やや粗い。輝石、パミス等のまじる粗砂やや多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味、黒色味の強いムラ多く一様でない。
24 甕	口(28.0)	H区f-21G h-23G 図示部の1/3	口縁外端は折り返しの上に爪形の押擦痕。外面は斜位の細かな条痕。内面は雑なナデ。	①素地普通。パミス、チャート等のまじる1～2mm大の砂礫の混入多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/2。黒色味、赤色味をおびるムラ広い。
25 鉢	口(23.0)	H区h-21G 図示部の1/6	口縁外端に雑な沈線状の窪みあり。外面無文で弱いヘラ削りの痕跡が一部に残る。内面もヘラ状工具使用の整形であるが外面より強い擦痕が残っている。	①素地普通。石英、パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR4/4。黒色味をおびるムラ広い。
26 鉢	口 25cm程か	H区h-20G 図示部小片	口縁の折り返しは雑で形状は一定でない。体部は細かな条痕。内面はヘラ状工具によるナデの痕が残っている。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、輝石、1～2mm大の細礫等雑多な混入物多い。②酸化焰。普通。③黒褐5YR2/2。内面にぶい赤褐2.5YR4/4。
27 鉢		H区i-23G h・i・g-22G 図示部の1/2	外面は斜位の規則的な条痕。内面のナデはやや雑。	①素地ややシルト質。赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/3。外面赤色味をおびる部分あり。断面黒色。
28 甕	胴 30.0	H区j-21G g・h・i-20G 図示部の1/3	輪積みか。外面はやや不規則で細かな条痕。内面はヘラ状工具によるナデの痕が残っている。	①素地普通。赤褐色鉱物等雑多な混入物まじりの砂粒多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。黒斑や赤色味の強いムラあり。
29 甕		H区h-23G i-22G 図示部の1/3	断面は摩滅し接合痕不明。外面は縦位の細かな条痕。内面やや不整。	①素地普通。赤褐色鉱物の混入多い。パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面は彩度低い。
30 甕	底 9.5	H区g・i-21G 体下半 1/5 底 4/5	外底は方向不定で細かな削り。体部下面は不規則な条痕が部分的に見られ下端は弱い削り。内底は工具使用の強いナデ。体部は雑なナデ。	①素地やや粗い。片岩、1～3mm大の細礫の混入多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。黒斑や灰色味をおびるムラあり。
31 鉢	底 6.3～6.6	H区 図示部完存	輪積か。外底に明瞭な木葉痕。体部下端に弱いヘラ削り。内底はナデに使用した長いヘラ状の圧痕が多数見られる。	①素地普通。輝石、パミスまじりの粗砂やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙2.5YR6/4。内面黒褐色。
32 鉢	底 7.1	H区g-21G 図示部の4/5	外底は明瞭な木葉痕。体部外面は斜位で不規則な条痕あり。内面のナデはやや丁寧。	①素地普通。1mm大の赤褐色鉱物の混入やや多い。②酸化焰。やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味黒色味おびるムラあり。断面黒色。
33 壺か	口(11.6)	H区 図示部の1/3	内外面に縄文。外面はRLL縦位か。内面は不明瞭。黒色味おびるムラあり。断面黒色。	①素地普通。石英目立つ。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
34 鉢	口 18.4	H区H-21G b・g-20G 図示部の2/3	外面きわめて細かいLRの横位縄文施文。内面にはヘラ状工具使用のやや鋭いナデの痕が残っている。	①素地普通。パミス、輝石等のまじる砂粒やや多い。 ②酸化焰。普通。③赤褐2.5YR4/6。外面中心に黒斑広い。
35 鉢	底(6.2)	H区g-21G 体下端 2/5 底部若干	外面に細かな横位縄文施文。外底は木葉痕か。34と同一個体の可能性あり。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石まじりの砂粒を含む。 ②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR6/4。外面は赤色味強い。断面黒色。
36 鉢	底 8.1	H区i-21G h・i-22G 図示部の1/2	外底は明瞭な網代痕。外面は条痕と思われる部分がわずかにかかる。内面のナデはやや雑。	①素地普通。輝石、パミスまじりの砂粒の混入多い。 ②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。黒色味をおびるムラあり。内面黒色。
37 鉢	底(8.3)	H区g-20G j-21G	外底は網代痕。体部下端に弱いヘラ削り。内面のナデは雑で器面は平滑さ欠く。	①素地普通。0.5~2mm大の砂粒多い。石英散見。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。内面と外底は黒色。

10 氾濫層下豎穴住居出土遺物 大館馬場遺跡

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (土師)	口 7.0 高[7.2]	中央やや北寄り 身 4/5 胴 1/2	胴部の3孔は上方から穿っている。外面はヘラ磨きを施しているが、やや不明瞭。内底中央のみ剥落著しい。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多く、器面はややザラザラしている。②酸化焰。やや硬調。③灰白2.5Y8/2。断面中央は黒色味強い。
2 高杯 (土師)	口 7.9 高[3.6]	中央やや北寄り 図示部の2/3	器面は摩滅し不明瞭だが、外面にヘラ磨きの痕跡あり。内底中央のみ剥落著しい。	①素地普通。輝石やや多い。②酸化焰。普通。③淡黄2.5Y8/3。外面に灰色味をおびるムラあり。断面中央は黒色味強い。
3 高杯 (土師)	脚上2.9 高[6.5]	中央やや南寄り 図示部ほぼ完存	2とは別個体。3孔はやや下に規則的に穿たれている。外面のヘラ磨き是一部に鋭い擦痕を残している。	①②③2にほぼ同じ。
4 器台 (土師)	口 7.6 脚上2.3 高[4.6]	中央やや北寄り 身部、脚上半 ほぼ完存	4孔は2対ずつ高さが異なっており、裾部にさらに孔が穿たれている可能性あり。脚部のヘラ磨きは丁寧。他は摩滅し不明瞭。	①素地普通。輝石、石英等のまじる砂粒やや多い。 ②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR6/4。外面一部赤色味が強い。
5 器台 (土師)	口 7.3 脚上(2.4) 高[5.2]	中央やや北寄り 図示部の1/2	孔の配置は4に同じ。脚部内面を除いて、丁寧なヘラ磨きを施している。	①素地やや緻密。輝石、パミス等を少量含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。内面やや彩度低い。
6 台付甕 (土師)	口 15.2 胴(21.8) 高[15.5]	中央やや南寄り 口 2/3 胴 1/3	単口縁。外面はやや細かなハケ目。胴部に見られるハケ目は粗く、単位が異なる。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/4。黒色味・赤色味の強いムラあり一様でない。
7 台付甕 (土師)	台 9.7 高(18.0)	中央やや南寄り 胴 1/4 台 3/4	胎土やハケ目等、6と類似点が多く、同一個体の可能性あり。接地部分は平坦で一部にハケ目が残っている。	①②③6にほぼ同じ。
8 台付甕 (土師)	口(15.0) 胴(23.4) 高[17.8]	中央やや北寄り 図示部の1/4	外面肩部付近にはハケ目の下にヘラ削りの痕跡がある。ハケ目はきわめて強い。内面胴部はナデ上げた痕が深くて圧痕状に残っている。	①素地普通。輝石、チャート、パミス等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/2。外面下半灰褐7.5YR4/2。
9 台付甕 (土師)	口(15.2) 高[8.7]	中央やや北寄り 図示部の2/5	8に似ているがハケ目は細かく弱い。	①②③8にほぼ同じ。
10 台付甕 (土師)	台 9.6	中央やや南寄り 図示部完存	8・9とは別個体と思われる。外面はハケ目の上を縦位にすり消している。台端部の内側折り返し部の上に指頭痕が残っている。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。 ②酸化焰。普通。③浅黄橙10YR8/4。内面は赤色味をおびる。

11 氾濫層下畠出土遺物 安養寺森西遺跡 (本文381~383頁 P L-93・94)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (土師)	口 8.5 台 11.7 高 7.8	E区 k-24G 2面 ほぼ完形	口縁に歪みあり。脚部に4孔を穿っているが配置は不整。外面は丁寧な磨き。身部内面にも放射状の磨きを施すが、不明瞭。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、チャート等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。彩度の低いムラあり。
2 高杯 (土師)	口(10.6) 脚(11.8) 高 9.8	E区 j-24G 1/3個体	罎型の身に高杯状の脚がつく。脚中ほどに3孔を穿っているが、配置は不規則。身部の屈曲部分も内外とも不整。身部内面は平滑。脚部外面に細かな磨き。内面もやや平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物の混入やや多い。輝石、雲母まじりの細砂を含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。黒色味、赤色味をおびるムラあり一様でない。
3 壺(土師)	口(28.0) 高[5.8]	E区 p-5G 2面 図示部の1/5	残存部分は全面に横位の強いナデを施しているが、外面一部にハケ目状の工具痕が残っている。	①素地やや粗い。チャート、赤褐色鉱物、輝石等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。断面は灰色味が強い。
4 石田川式 甕(土師)	口(16.6)	E区 b-20G 図示部の1/6	外面のハケ目は明瞭。口縁は強いナデ。内面は器面に細かな凹凸が残る。小片からの復元で径不安。	①素地普通。輝石、パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。内面やや彩度高く、断面は黒色味をおびる。
5 甕(土師)	口 14.6 胴 18.2 高[11.7]	E区 図示部の4/5	外面のハケ目は浅く細かく、口縁内面のハケ目と異なる。胴部内面のナデは鋭い擦痕が残っている。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、パミス等の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。灰色味、黄色味をおびるムラあり一様でない。
6 甕(土師)	口(17.2) 高[17.7]	E区 i・j-23G h-23・24G 図示部ほぼ完存	やや厚手だが台付甕になる可能性。外面のハケ目は不明瞭。図示部以外にヘラ記号状の線刻あり。内面のナデはやや雑で、一部にハケ目が見られる。	①素地普通。2mm大の赤褐色鉱物やや多い。輝石、パミスを含む。②酸化焰。やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。明度、彩度まちまちで一様でない。
7 小型甕 (土師)	口(12.0) 胴(12.8) 高[7.0]	E区 i-23G 図示部の2/5	口縁外端に小さな窪みが巡っている。外面のハケ目は乱雑。口縁内面は幅広い端正なハケ目。胴部内面は削りに近い深い擦痕が残る。	①素地普通。1~2mm大の赤褐色鉱物やや多い。パミス、輝石等を含む。②酸化焰。やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面一部赤色味強い。
8 小型甕 (土師)	口 13.4 底 5.6 高 12.9	E区 2/3個体	外面は幅広く細かな削りを施すが、肩部付近は不明瞭。内面のナデの痕跡も不明瞭だが器面はやや平滑。厚手で重量。	①素地普通。石英、赤褐色鉱物等1mm大の混入物多い。②酸化焰。普通。③浅黄橙10YR8/3。外面は黒斑広く、内面は赤色味をおびている。
9 壺(土師)	口(16.6) 胴 19.5 高[16.0]	E区 e-22G 1面 f-21G 図示部の1/2	外面の削りはやや雑。内面のナデも弱く接合痕が明瞭に残っている。厚手。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物、パミス等の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③灰白2.5Y8/2。外面に黒斑広い。内面は赤色味をおびる。
10 小型甕 (土師)	口(11.0)	E区 i-23G 図示部の1/2	外面のハケ目は肩部付近で不明瞭。内面にもハケ目が残る。口縁の歪み強く径不安。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミス、輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。外面に黒斑あり。
11 台付甕 (土師)	台 8.4	E区 i-23G 図示部の4/5	やや厚手。外面のハケ目は細かい。内面は甕類としては平滑。台部内面にはしぼり目が残っている。	①素地普通。1~2mm大の赤褐色鉱物の混入多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。外面に黒色味おびるムラあり。
12 台付甕 (土師)	台 4.1 高[5.9]	E区 j-23G 2面 図示部の1/2	二次被熱の影響で整形痕は不明瞭。内外面ともハケ目が部分的に見られる。	①素地普通。2mm大の赤褐色鉱物多い。パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内面は赤色味が強い。
13 台付甕 (土師)	底(10.0) 高[6.3]	E区 i-23G 図示部の2/3	台端部は平坦で内側へ小さく突出している。外面のハケ目は不明瞭。内面は丁寧に仕上げている。	①素地普通。細かなパミス、輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰。やや硬調。③橙2.5YR6/6。彩度の低いムラあり。
14 台付甕 (土師)	台 7.5~7.9	E区 i-23G 図示部の4/5	台端部は平坦。外面のハケ目はきわめて不明瞭。内面下半には細かなハケ目が残る。	①素地普通。輝石、パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰。やや軟調。③灰褐5YR6/2。すすけたような黒色部分広い。
15 台付甕 (土師)	台(9.2) 高[6.8]	E区 i-1G 図示部の1/2	外面のハケ目は不明瞭。内面底部は不整。大型で厚手で重量。	①素地普通。3mm大の赤褐色鉱物を含む。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面橙2.5YR6/6。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
16 高杯 (土師)	口(7.8) 脚(8.6) 高 9.0	E区p-20・22 G 2面 g・h-22G 口1/3 胴1/2	外面は杯部下半でやや鋭い削り。脚部は弱く丁寧な削り。内面は杯部のみ丁寧なナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、石英等雑多な混入物多い。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。黒色味、赤色味をおびるムラあり様でない。
17 高杯 (土師)	台(12.0) 高[7.8]	E区n-4G 2面 柱2/3 裾1/3	接地面は平坦でなく安定の悪い土器である。外面の磨きは鋭く擦痕状になっている。内面は幅広の工具痕が残っている。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物、輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰。やや硬調。③橙5YR7/6。内面は彩度低く、断面は灰色味強い。
18 高杯 (土師)	台(8.8) 高[4.6]	E区2面 裾部1/3の他はほぼ完存	外面脚部は細かな削りだが不明瞭。内面は横位のナデ。杯部底面は平滑。	①やや砂質でザラザラした素地。赤褐色鉱物、輝石を含む。②酸化焰。やや硬調。③外面浅黄橙10YR8/4。脚内面は黒色。
19	口(7.6) 高 5.1	E区2面 1/2個体	外面の削りは、小型の土器としては幅広で息長い。内面に横位のやや強い擦痕が巡っているが、底部周辺は平滑さ欠く。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰。やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に黒斑広い。
20 杯(土師)	口 12.4 高 5.1	E区c-21G ほぼ完形	口縁端部はほぼ平坦で内傾している。外面立ち上り部は外方への突出が大きい。外底の削りは幅広で丁寧。口縁と内面のナデも丁寧でやや鋭い擦痕。	①素地普通。パミス、輝石、赤褐色鉱物等小粒の混入物やや多い。②酸化焰。やや軟調。③橙5YR6/6。外面に黒斑広い。
21 杯(土師)	口(12.4) 高[5.3]	E区2面 図示部の1/4	口縁上端は丸く、内端はわずかに窪む。外底の削りは幅広でやや鋭い。縁部に無調整部分が残るが器面は平滑。内面のナデは丁寧。	①素地普通。輝石、1mm大の赤褐色鉱物等の混入やや多い。②酸化焰。普通。③橙5YR7/6。内面は彩度低い。
22 杯(土師)	口(12.0)	E区2面 口1/3 底1/6	口縁上端は小さく窪み、内端は幅広にわずかに窪む。外面の削りはやや丁寧で、残存部分に削り残しはない。内面のナデも丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物、粗砂等1mm大の混入物やや多い。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。断面中央は黄色味が強い。
23 杯(土師)	口(12.0) 高 4.8	E区2面 口1/4 体3/4	口縁端部は丸い。外底の削りは幅広で弱い。内面は平滑だが、摩滅していてナデの痕跡は不明瞭。	①素地普通。赤褐色鉱物の混入目立つ。輝石、チャートを含む。②酸化焰。普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面彩度低く、断面黄色味強い。
24 杯(土師)	口(11.8) 高 4.9	E区d・e- 20・23G 2面 口1/5 底2/5	口縁端部はやや平坦で内傾気味。外面立ち上りの稜は強い。外底の削りは幅広でやや強い。内面のナデは丁寧。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物、粗砂等を含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。外底に黒斑あり。
25 杯(土師)	口(11.8) 高[4.9]	E区g・h-22 G 図示部の1/4	口縁端部は平坦な部分があるが形状は一定でない。器面は摩滅して不明瞭だが、削り、ナデともやや丁寧。口縁の歪み強く径不安。	①素地普通。輝石、1mm大の赤褐色鉱物等の混入やや多い。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。内面は灰色味が強い。
26 杯(土師)	口(12.0) 高 5.3	E区2面 2/5個体	口縁端部は丸く、内端はやや窪む。口縁立ち上り部の稜はやや強い。器面は摩滅して不明瞭だが、削り、ナデとも丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③浅黄橙10YR8/3。外底に黒斑あり。断面は灰色味が強い。
27 杯(土師)	口(11.6)	E区e-22G 1面 図示部の1/3	口縁端部は丸い。外面の削りはやや粗く鋭い。内面のナデは丁寧で平滑に仕上げている。	①素地普通。赤褐色鉱物、輝石、チャート等の混入やや多い。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。外底に黒斑あり。
28 杯(土師)	口(11.4)	E区e-22G 1面 口1/8 底1/4	口縁端部は丸い。外底の削りは細かく強い。縁部に若干削り残しがある。口縁外面のナデは平滑で横位の磨きのようになっている。内面は剥落すすみ不明瞭。	①素地普通。赤褐色鉱物の混入目立つ。輝石、チャートを含む。②酸化焰。普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面は彩度低く、断面は黄色味が強い。
29 杯(土師)	口 11.6 高 4.6	E区h-22G 2/5個体	口縁端部は平坦気味で内傾している。外面の削りは幅広でやや弱い。内面のナデは丁寧で、特に口縁部は平滑。内底は凹凸が残る。	①素地やや緻密。チャート、パミス等1mm大の混入物を少量含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。外面に黒色味をおびるムラあり。
30 杯(土師)	口 12.1 高[4.5]	E区2面 図示部の4/5	口縁上端丸く、内側に弱い沈線が巡っている。外面の削りはやや強い。内面のナデは丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物の混入目立つ。輝石、チャートを含む。②酸化焰。普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面彩度低く、断面黄色味強い。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
31 小型壺 (土師)	口(10.0) 胴 12.4 高 12.6	E区 e-22G 1面 口 1/4 体 3/4	口縁部は強いナデ。外面は胴部下半のみ幅広いヘラ削りの痕跡が残る。内底付近は凹凸多く、平滑さ欠く。	①素地普通。輝石、チャート、赤褐色鉱物等細かな混入物を含む。②酸化焰。普通。③浅黄橙10YR8/3。外面に淡い黒斑あり。断面は黒色味をおびる。
32 小型壺 (土師)	胴 14.3 底 4.1 高[13.0]	E区 n-7G 口下半 1/3 体 ほぼ完存	剥落がすすみ外面の削りは不明瞭だが器面は平滑。頸部付近にハケ目が残っている。内面のナデもハケ目状。	①素地普通。2mm大の赤褐色鉱物多い。パミス、石英等を含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。外面に黒斑あり。
33 甕(土師)	口(13.2) 高[4.5]	E区 i-23G 図示部の2/5	口縁外面に接合痕が残る。端部は平坦に仕上げ、一部に粘土がはみ出している。外面の削りは不明瞭。内面のナデはやや鋭い擦痕が残っている。	①素地普通。2mm大の赤褐色鉱物多い。パミス、石英等を含む。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。外面に黒斑あり。
34 小型壺 (土師)	口 15.2 胴 17.0 底 5.3 高 14.6	E区 2面 ほぼ完形	外面は頸部付近にハケ目残る。胴部全面にヘラ磨きを施すが、図示部は磨き残し部分で弱いハケ目が観察できる。内面は下半に接合痕が残り、底部付近にハケ目がある。	①素地普通。赤褐色鉱物、パミス、石英等を含む。②酸化焰。普通。③にぶい橙5YR7/4。外面に広い黒斑あり。
35 台付甕 (土師)	口12.5~13.0 胴 14.5 底 5.2 高 16.5	E区上層 埋没土 4/5個体	口縁は小さく波状に歪む。胴部の歪みも強い。外面の削りは弱く、器面の凹凸が著しい。内面のナデも雑で平滑さ欠く。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物、3mm大のパミス等の混入やや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味、黒色味をおびるムラあり一様でない。
36 甕(土師)	口(19.8) 底 8.2 高 35.6	E区 e-22G 1面 2面一括 1/3個体	外面は幅広く息の長い削り。胴部付近で鋭い。内面のナデは上半のみ鋭い擦痕が残り、他は不明瞭。器面はやや平滑さに欠ける。	①ややボソボソした素地。輝石、赤褐色鉱物等細かな混入物を含む。②酸化焰。普通。③浅黄橙10YR8/3。外底付近に黒斑広い。断面も黒色味をおびる。
37 杯(土師)	口(13.4) 高 5.2	F区 l-24G 口 1/6 底 3/4	外底の削りは粗く強い。口縁部のナデは雑で器面は不整。内面のナデも雑で特に底部は不整。口縁部の残存少く径不安。	①やや砂質でザラザラした素地。輝石、パミス等細かな混入物を含む。②酸化焰。やや硬調。③灰白2.5Y8/2。内底は黒色味をおびる。
38 高杯 (土師)	高[4.0]	F区 e-21G 図示部ほぼ完存	外面の磨きは丁寧で器面に弱い光沢あり。杯部内面は平滑さやや欠ける。脚柱部内面はナデの痕跡は不明瞭だが、器面は比較的平滑。	①素地普通。混入物は微細で精選されている。②酸化焰。普通。③橙2.5YR6/6。杯部内面は黒色処理だが光沢欠く。
39 壺(土師)	口 14.9 胴 24.4 高 26.0	F区 h-21・22 G 4/5個体	外面は全面縦位のやや雑なヘラ磨き。内面はハケ目状のナデ痕が残る。口縁内端に弱い沈線状の窪みが巡っている。	①素地普通。輝石、赤褐色鉱物等の混入やや多い。②酸化焰。やや軟調。③淡黄橙7.5YR8/3。外底に黒斑あり。内面彩度低い。
40 甕(土師)	口 18.2 胴(24.0) 高[22.4]	F区 l-24G 口~肩 ほぼ完 存 胴 1/3	口縁は小さく波状に歪む。外面の削りは幅広く強い。頸部付近にハケ目が残る。内面のナデもハケ目状の工具痕が残っている。	①ボソボソしたやや粗い素地。輝石、パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰。普通。③灰白2.5Y8/2。外面に黒色味をおびたムラあり。
41 甕(土師)	口(16.0) 高[13.1]	F区 l-24G 口 1/3 肩 1/5	口縁端部はやや平坦で外傾しているが形状は一定でない。外面のハケ目は不明瞭。内面のナデはやや弱く、直線的な接合痕が所々に残っている。	①素地やや砂質でボソボソしている。石英、輝石等を含む。②酸化焰。普通。③外面灰褐7.5YR4/2。内面灰白2.5Y8/2。
42 壺(土師)	口 13.0	F区 l-24G 口 完存 肩 1/4	外面の削りは細かく弱く、方向不定。器面のナデはやや強く、口縁には幅広いの工具痕が残っている。	①素地普通。パミスまじりの粗砂を含む。②酸化焰。普通。③灰白2.5Y8/2。黒色味、赤色味をおびるムラあり。

写真図版



安養寺森西遺跡全景（南東から）

大館馬場・阿久津宮内遺跡全景（北西から）



PL-2 調査風景



弥生時代包含層試掘グリッド全景



AY-16号井戸調査風景 (東から)



AY-5号井戸調査風景



井戸底面付近の調査風景



安養寺森西遺跡流路調査風景



大館馬場遺跡溝調査風景



大館馬場遺跡畠調査風景



武蔵島地区トレンチ配置状況



AY-1・10号住居全景（西から）



AY-2号住居全景（西から）



AY-3号住居全景（西から）



AY-3号住居遺物出土状態（西から）



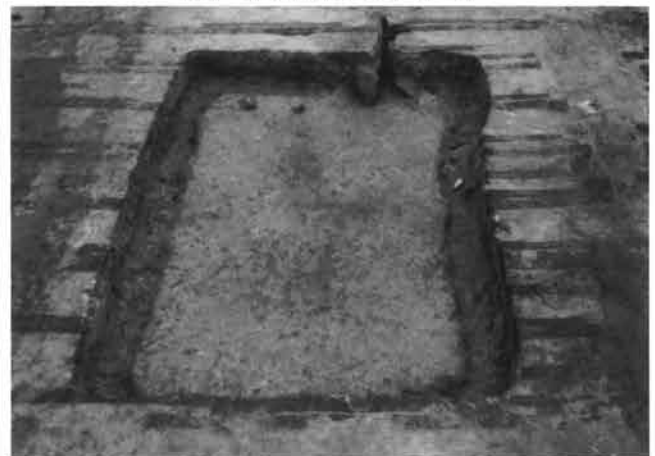
AY-3号住居遺物出土状態（西から）



AY-4号住居全景（西から）



AY-5号住居全景（西から）



AY-6号住居全景（西から）

PL-4 AY-7~13号住居



AY-7号住居全景 (西から)



AY-8号住居遺物出土状態 (西から)



AY-9号住居全景 (南から)



AY-9号住居カマド全景 (南から)



AY-11号住居全景 (西から)



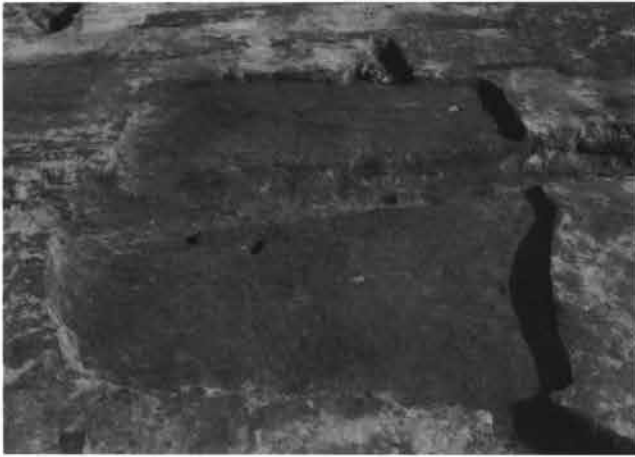
AY-12号住居掘り方全景 (南から)



AY-13号住居遺物出土状態 (西から)



AY-13号住居遺物出土状態 (西から)



AY-14号住居全景（西から）



AY-14号住居掘り方（西から）



AY-15号住居全景（東から）



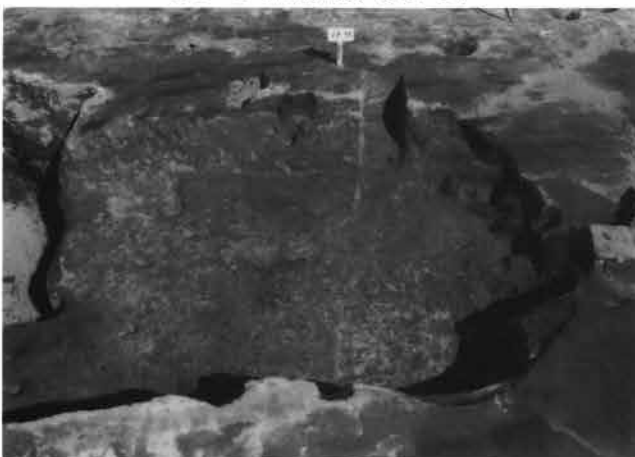
AY-15号住居掘り方（東から）



AY-16号住居全景（東から）



AY-16号住居掘り方（北西から）



AY-17号住居掘り方（南から）



AY-17号住居セクション（南から）



AY-18号住居全景（南から）



AY-18号住居セクション（南から）



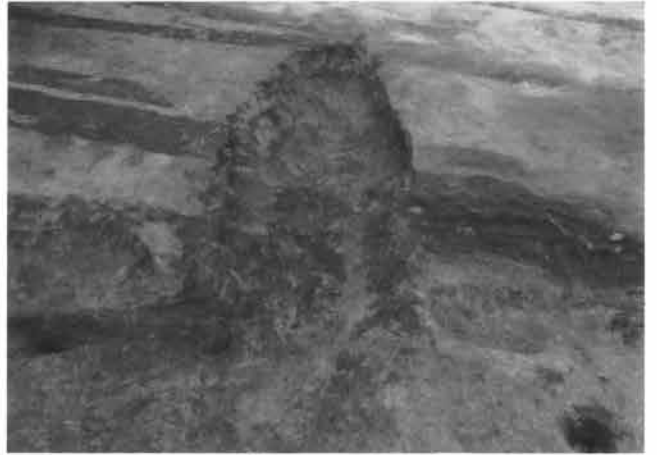
AY-19号住居全景（南から）



AY-20号住居掘り方（西から）



AY-21号住居全景（東から）



AY-21号住居カマド全景（南から）



AY-22号住居全景（西から）



AY-22号住居遺物出土状態（南から）



AY-23号住居全景 (西から)



AY-24号住居全景 (西から)



AY-25号住居全景 (西から)



AY-25号住居遺物出土状態 (西から)



AY-26号住居全景 (南西から)



AY-27号住居全景 (西から)



AY-28号住居全景 (西から)



AY-28号住居カマド全景 (西から)



AY-30号住居全景 (西から)



AY-30号住居掘り方全景 (西から)



AY-31号住居全景 (西から)



AY-31号住居カマドセクション



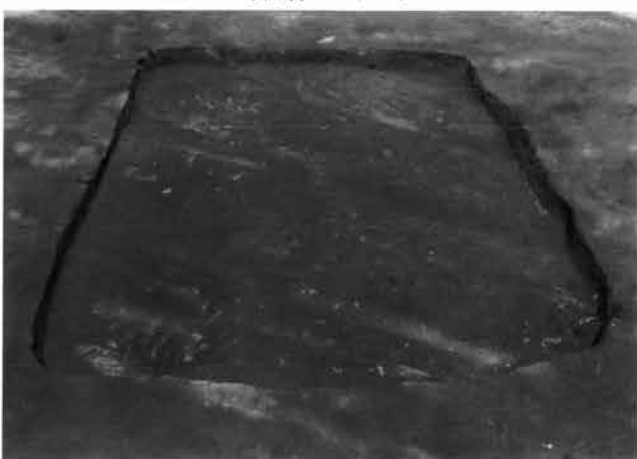
AY-32号住居全景 (西から)



AY-32号住居カマドセクション



AY-33号住居全景 (西から)



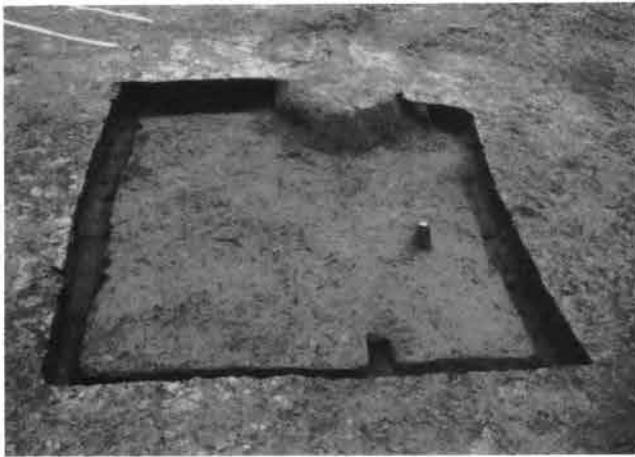
AY-34号住居全景 (西から)



AY-35号住居遺物出土状態（西から）



AY-36号住居カマド遺物出土状態（南から）



AY-37号住居全景（西から）



AY-37号住居カマドセクション



AY-38号住居全景（西から）



AY-38号住居カマド全景（西から）

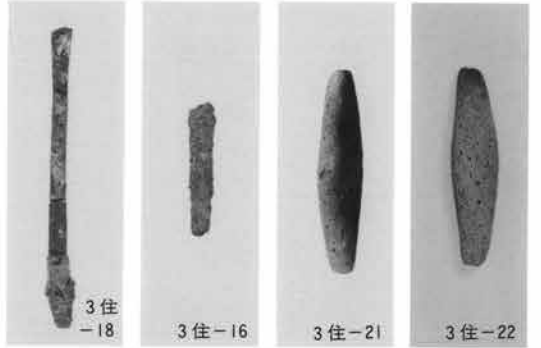


AY-39号住居全景（西から）



AY-39号住居カマド掘り方全景

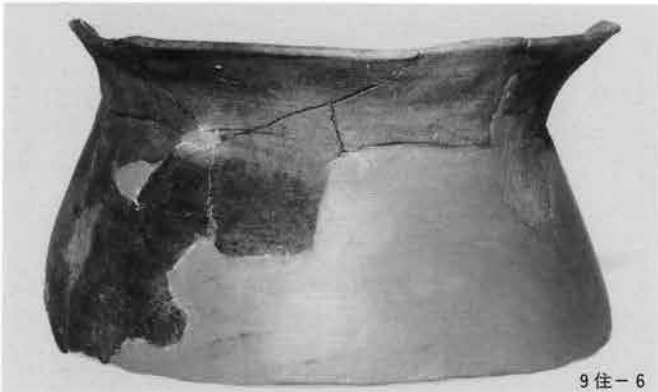
PL-10 竪穴住居出土遺物(AY-1~3号住居)



PL-11 竪穴住居出土遺物(AV-4~7号住居)

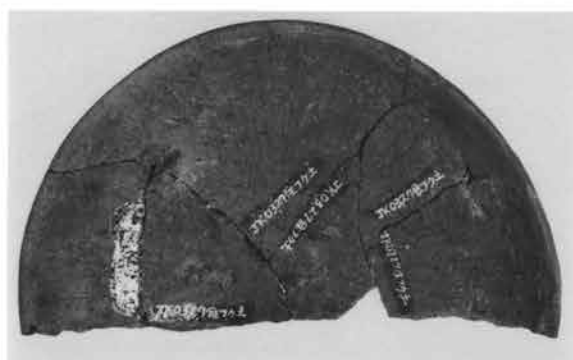
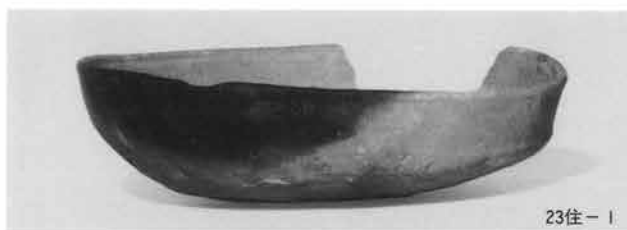


PL-12 竪穴住居出土遺物(AV-8・9・11・13号住居)



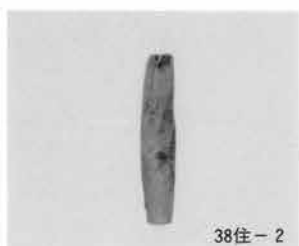


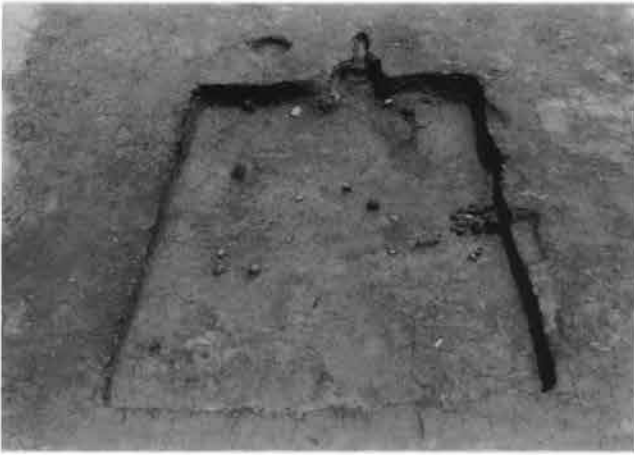
PL-14 竪穴住居出土遺物 (AY-21・23~25・27~29号住居)



PL-15 竪穴住居出土遺物 (AY-31・33・35・36号住居)







AK-1号住居遺物出土状態（西から）



AK-2号住居遺物出土状態（西から）



AK-1号住居カマド遺物出土状態



AK-2号住居カマド遺物出土状態



AK-1号住居カマドセクション



AK-2号住居カマドセクション



AK-1 住-1



AK-1 住-5



AK-2 住-1



明王院と中世館跡堀 (南より)



中世館堀 (上空より)



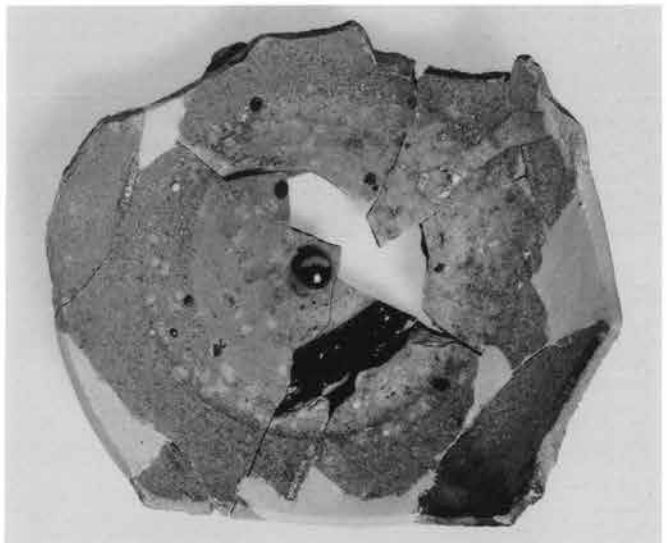
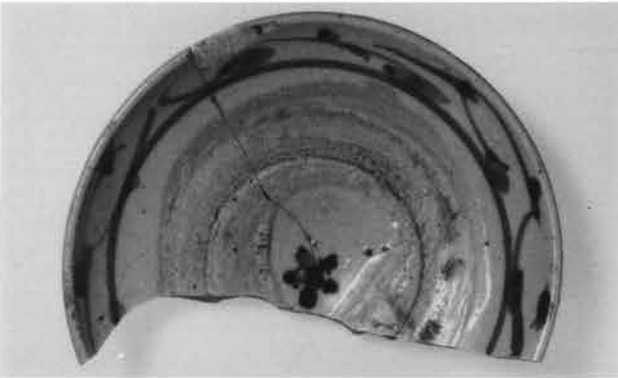
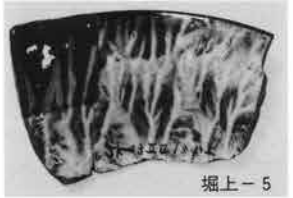
館堀 (北堀) 全景 (西より)



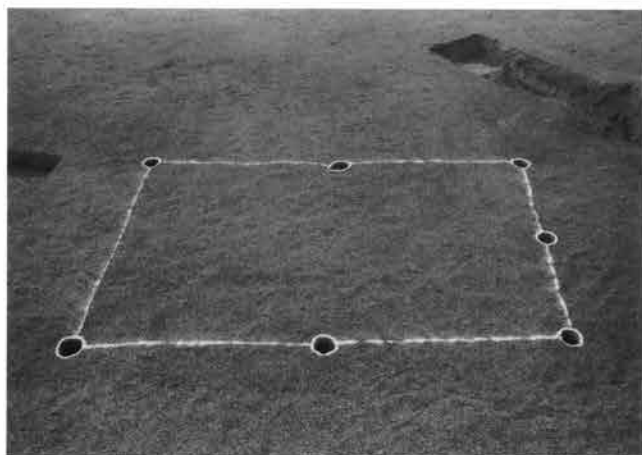
館堀 (南堀) 全景 (西より)



館堀 (南堀) 断面 (西より)



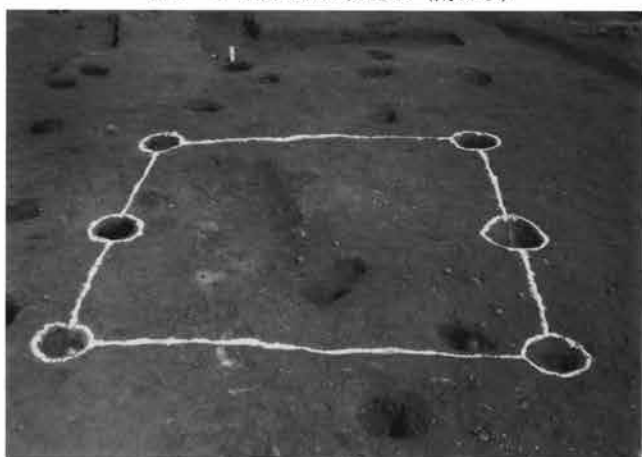
PL-20 AY-1~7号掘立柱建物



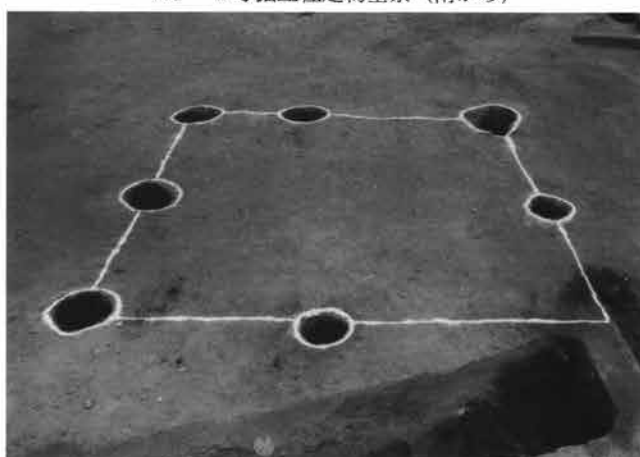
AY-1号掘立柱建物全景 (南から)



AY-2号掘立柱建物全景 (南から)



AY-3号掘立柱建物全景 (西から)



AY-4号掘立柱建物全景 (南から)



AY-5号掘立柱建物全景 (上面南から)



AY-5号掘立柱建物柱穴断面 (南から)



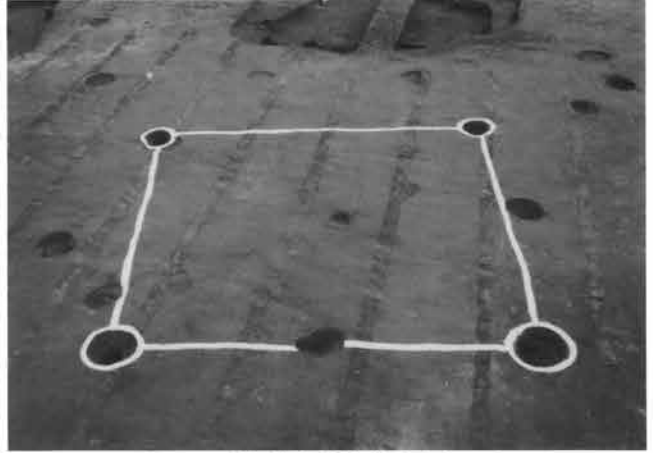
AY-6号掘立柱建物全景 (南から)



AY-6・7号掘立柱建物全景 (南東から)



AY-8号掘立柱建物全景（南から）



AY-9号掘立柱建物全景（西から）



AY-10号掘立柱建物全景（南から）



AY-11号掘立柱建物全景（南から）



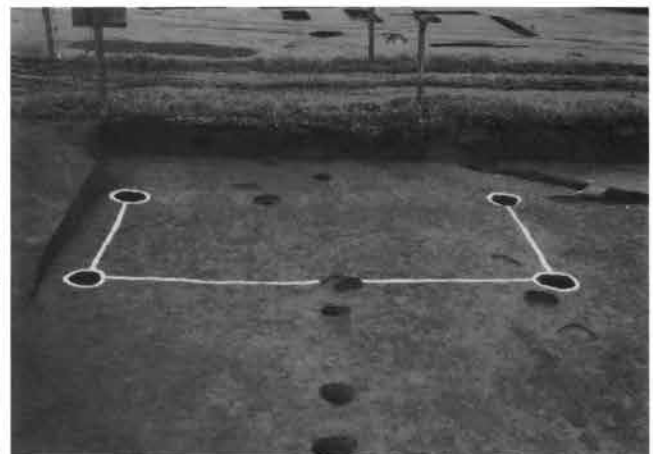
AY-12号掘立柱建物全景（南から）



AY-12号掘立柱建物柱穴礎石



AY-13号掘立柱建物全景（南から）

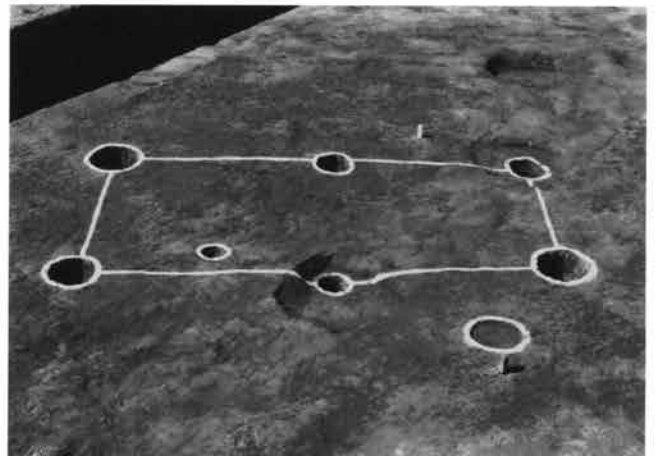


AY-15号掘立柱建物全景（南から）

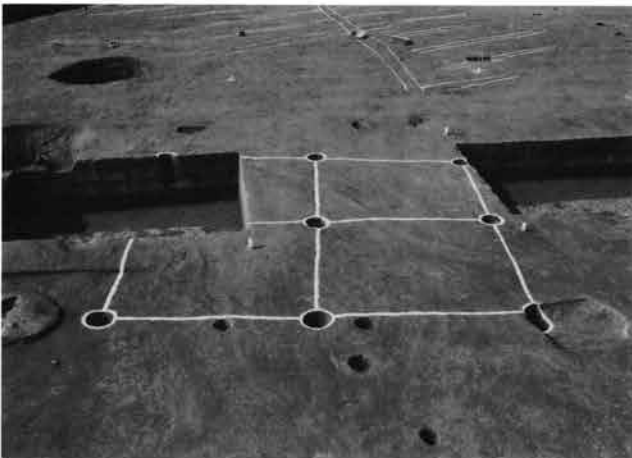
PL-22 OT・AK掘立柱建物



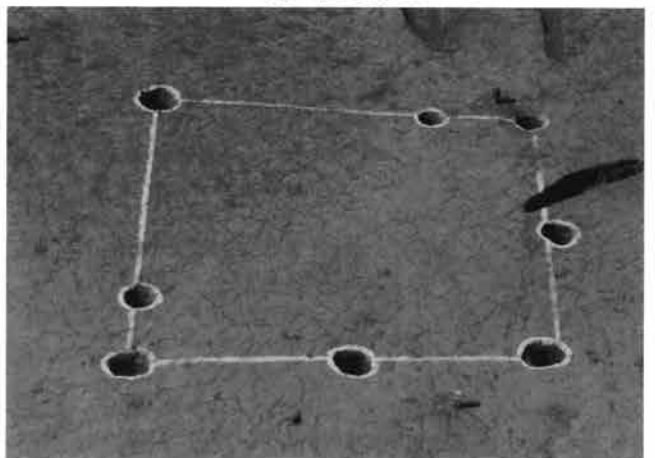
OT-1号掘立柱建物（南から）



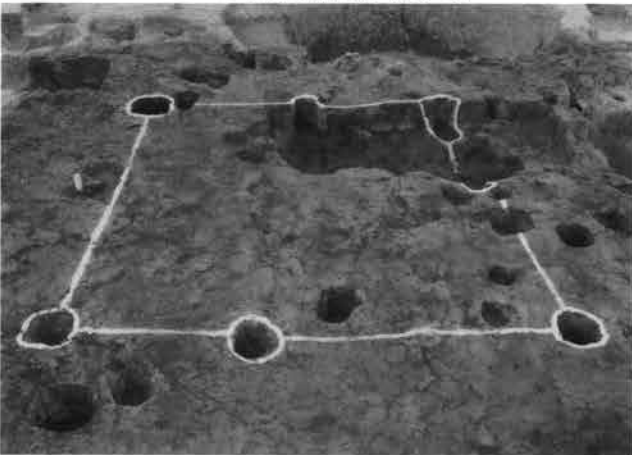
OT-2号掘立柱建物（西から）



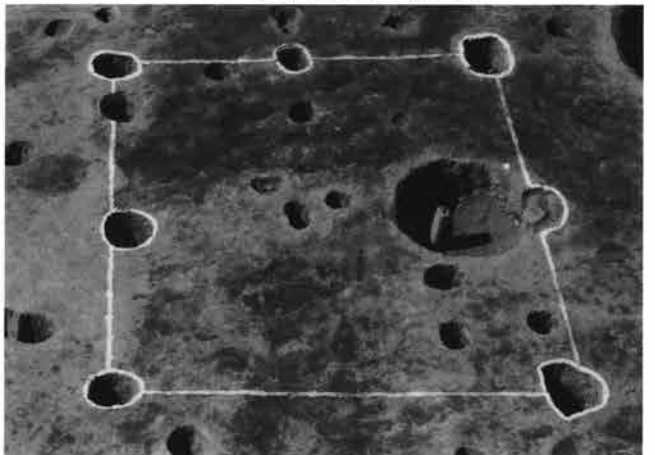
OT-3号掘立柱建物（東から）



OT-4号掘立柱建物（南から）



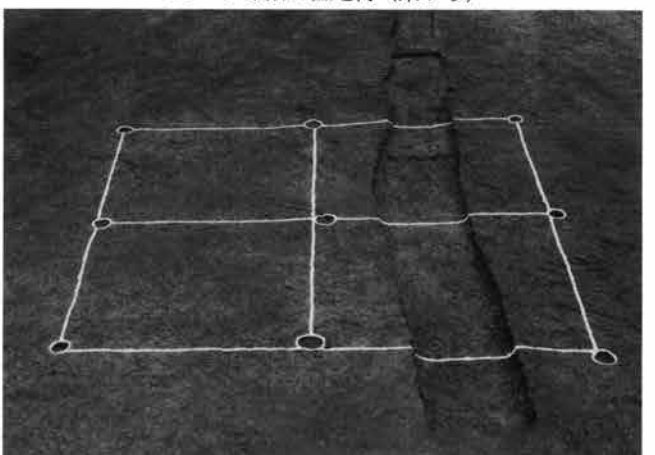
OT-5号掘立柱建物（東から）



OT-6号掘立柱建物（東から）



AK-1号掘立柱建物（南から）



AK-2号掘立柱建物（西から）



AY-2~4号溝遠景 (北西から)



AY-13号溝 (南東から)



AY-16号溝 (北東から)



AY-17号溝 (東から)



AY-18号溝 (南西から)



AY-19号溝 (南西から)



AY-20号溝セクション



AY-20号溝セクション



AY-21号溝 (南から)



AY-24号溝セクション



AY-25号溝セクション



AY-25号溝 (西から)



AY-25号溝セクション



AY-28号溝 (北西から)



AY-28号溝セクション



AY-28号溝セクション



AY-28号溝セクション



AY-29号溝 (南から)



AY-29号溝セクション



AY-30・31号溝 (南から)



AY-30・31号溝セクション



AY-32号溝 (西から)



AY-32号溝セクション



AY-33号溝 (西から)



AY-33号溝セクション



AY-34号溝 (南西から)



AY-35号溝 (西から)



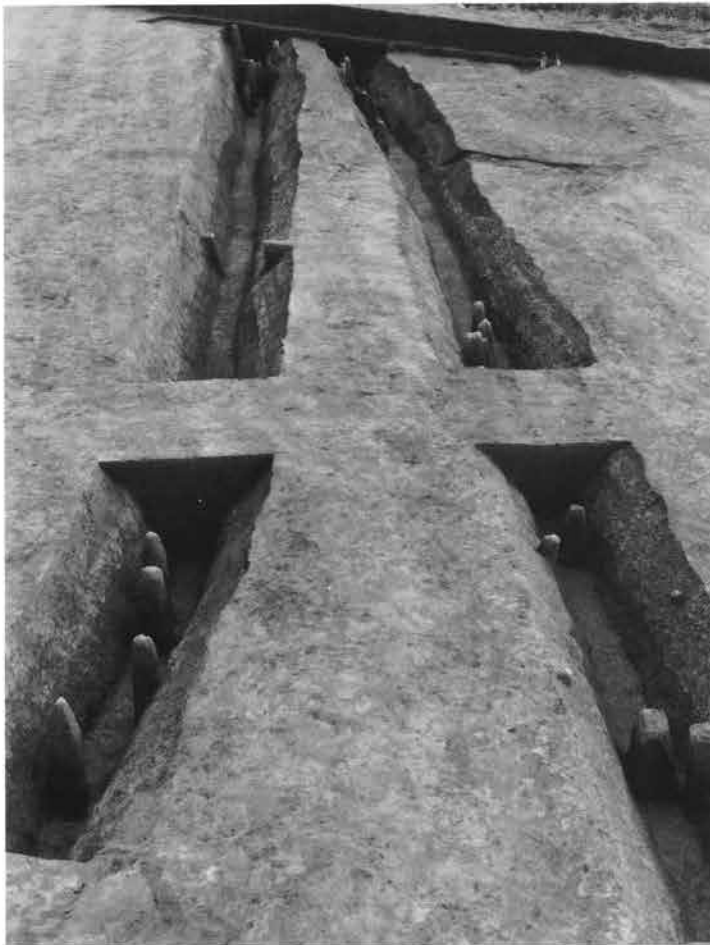
AY-35号溝セクション



OT-2号溝 (南西から)



OT-2号溝セクション



OT-3・4号溝 (南から)



OT-3号溝セクション



OT-3号溝セクション



OT-4号溝セクション



OT-4号溝セクション



OT-5号溝 (西から)



OT-5号溝セクション



OT-6号溝 (南から)



OT-6号溝セクション



AK-1号溝 (南から)



AK-2号溝セクション



AK-2号溝 (南から)



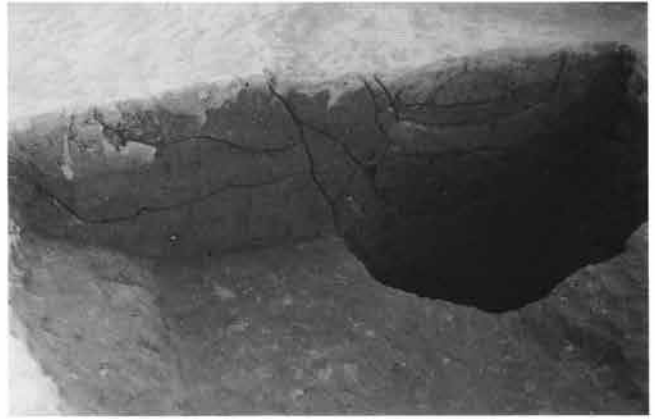
AK-2号溝 (南から)



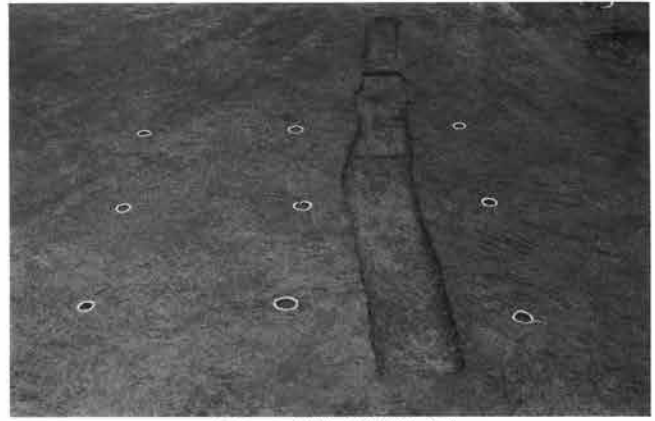
AK-2号溝出土遺物



AK-3号溝 (南から)



AK-3号溝セクション



AK-4号溝 (南西から)



AK-5号溝 (西から)



AK-5号溝セクション



AK-5号溝セクション



AK-5号溝セクション

PL-30 AY-1・16号溝出土遺物 AK-1・2号溝出土遺物



AY-1溝-2



AY-16溝-1



AK-1溝-1



AK-1溝-2



AK-2溝-1



AK-2溝-3



AK-2溝-4



AK-2溝-5



AK-2溝-6



AK-2溝-7



AK-2溝-8



AK-2溝-9



AK-2溝-10



AK-2溝-11



AK-2溝-12



AK-2溝-13



AK-2溝-14



AY-1号井戸底面



AY-2号井戸



AY-3号井戸



AY-4号井戸



AY-5号井戸セクション



AY-6号井戸



AY-7号井戸



AY-7号井戸井戸枠



AY-8号井戸セクション



AY-8号井戸



AY-9号井戸



AY-9号井戸



AY-10号井戸



AY-11号井戸



AY-11号井戸井戸枠確認状態



AY-11号井戸井戸枠



AY-12号井戸底面付近セクション



AY-12号井戸



AY-13号井戸上面



AY-15号井戸セクション



AY-16号井戸上面



AY-16号井戸木枠確認状態



AY-17号井戸上面



AY-18号井戸セクション



AY-19号井戸上面



AY-20号井戸



AY-21号井戸遺物出土状態



AY-21号井戸上面



OT-1号井戸上面



OT-2号井戸セクション



OT-3号井戸



OT-4号井戸上面



OT-4号井戸遺物出土状態



OT-5号井戸セクション



OT-6号井戸上面



OT-7号井戸上面



OT-8号井戸上面



OT-8号井戸井戸枠



OT-9号井戸



OT-10号井戸



OT-11号井戸上面



OT-11号井戸井戸枠



OT-12号井戸上面



OT-12号井戸底面



OT-12号井戸出土遺物



OT-13号井戸上面



OT-13号井戸井戸柱



OT-14号井戸上面



OT-15号井戸上面



OT-16号井戸



OT-17号井戸



OT-18号井戸



OT-19号井戸樹皮出土状態



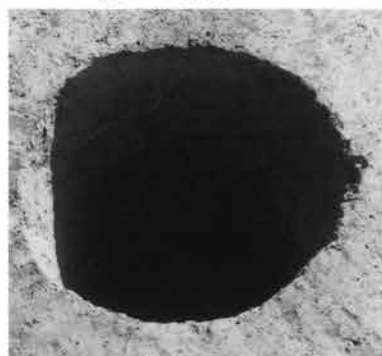
OT-19号井戸



OT-20号井戸セクション



OT-20号井戸



OT-21号井戸



AK-1・2号井戸



AK-3号井戸



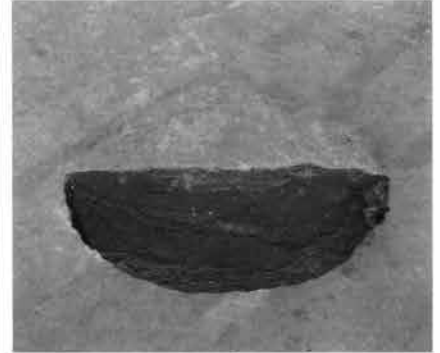
AK-4号井戸



AK-5号井戸



AK-6号井戸



AK-7号井戸セクション



AK-8号井戸



AK-9号井戸



AK-10号井戸



AK-11号井戸



AK-12号井戸



AK-13号井戸セクション



AK-14号井戸



AK-15号井戸



AK-16号井戸



2#-7



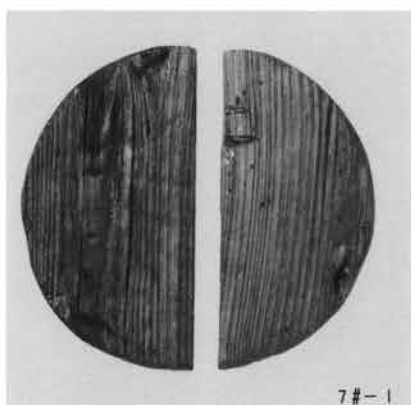
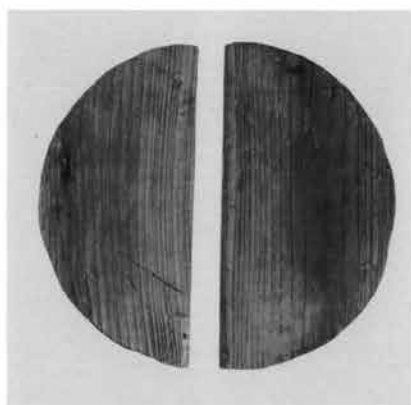
2#-12



6#-1



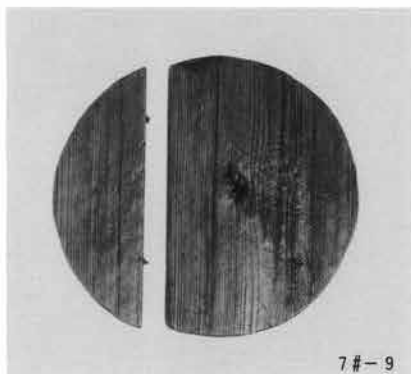
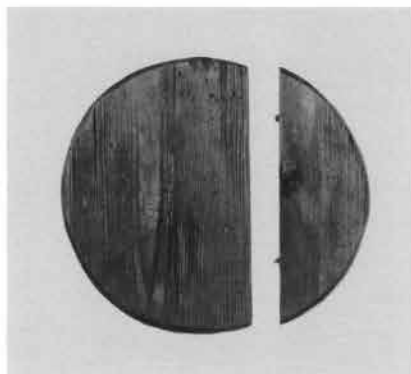
2#-1



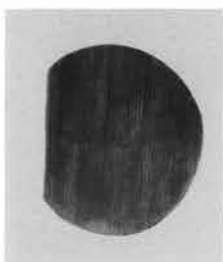
7#-1



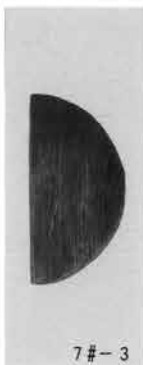
7#-5



7#-9



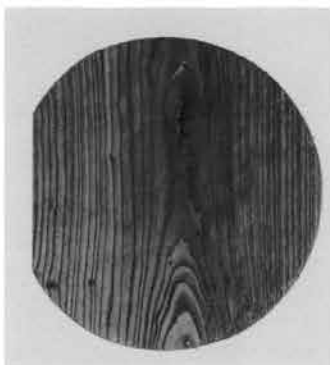
7#-6



7#-3



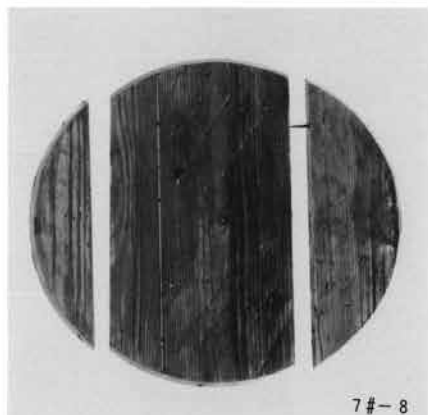
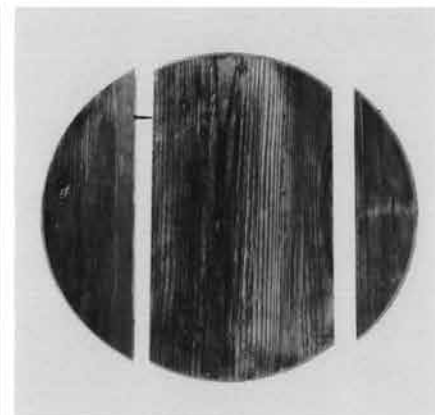
7#-11



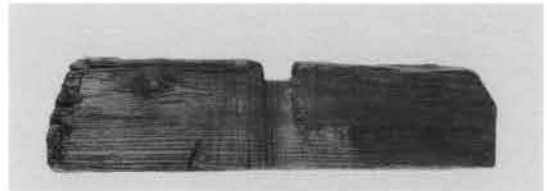
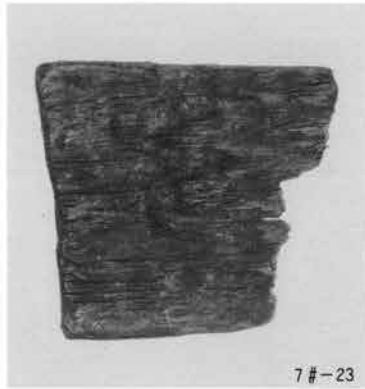
7#-7



7#-12

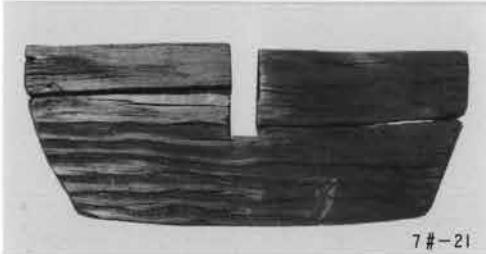
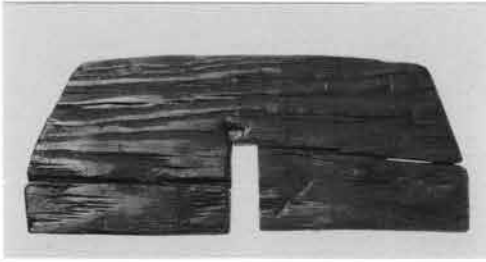


7#-8



7#-23

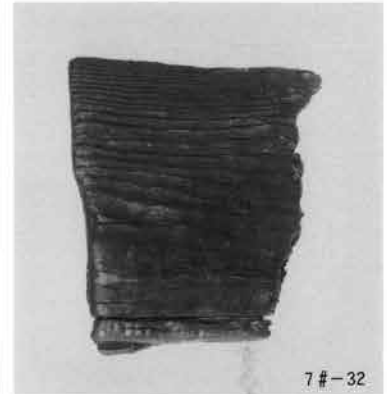
7#-22



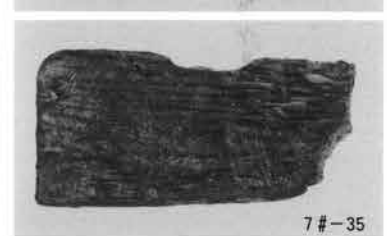
7#-21



7#-24



7#-32



7#-35



7#-26



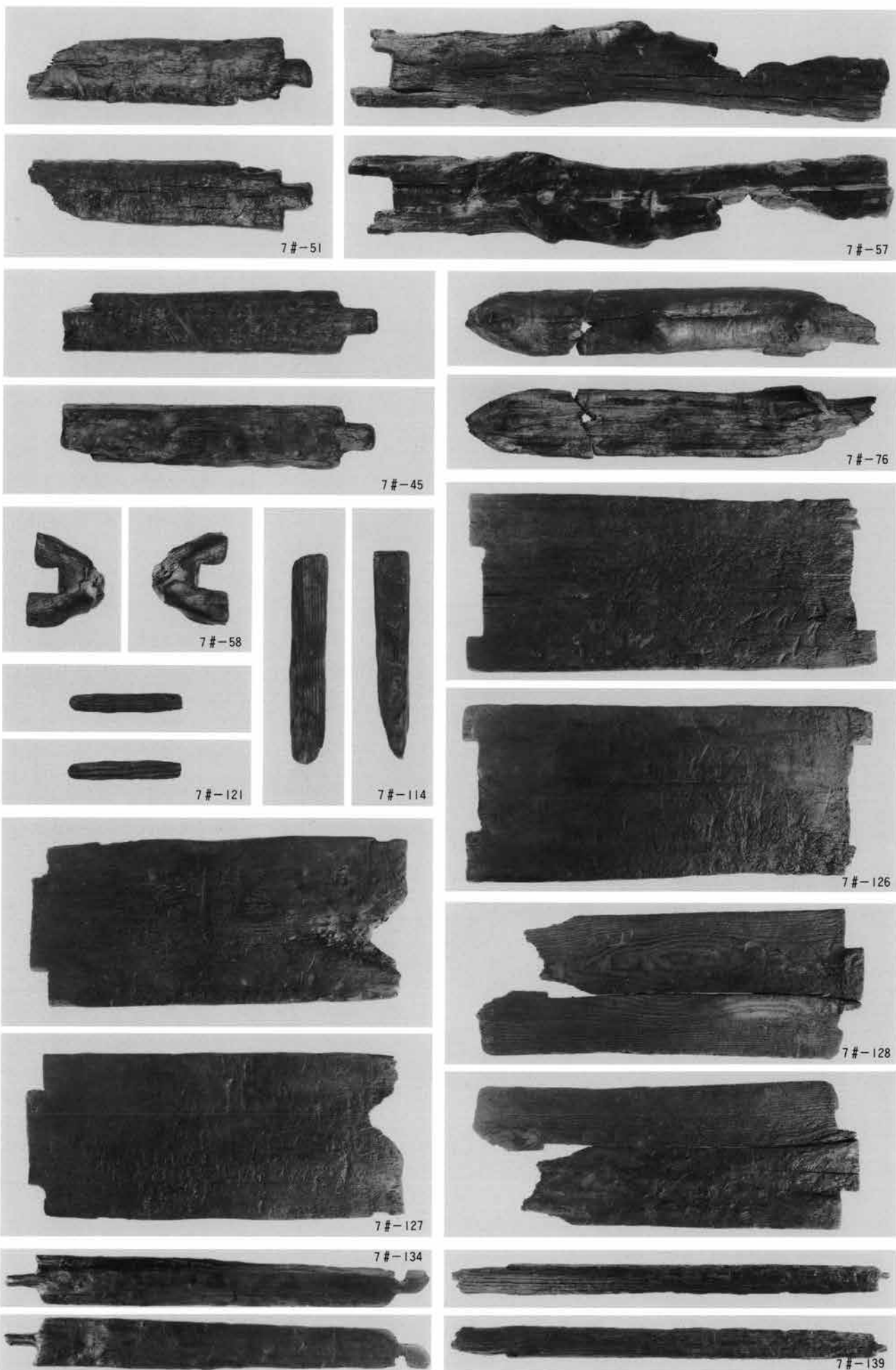
7#-25

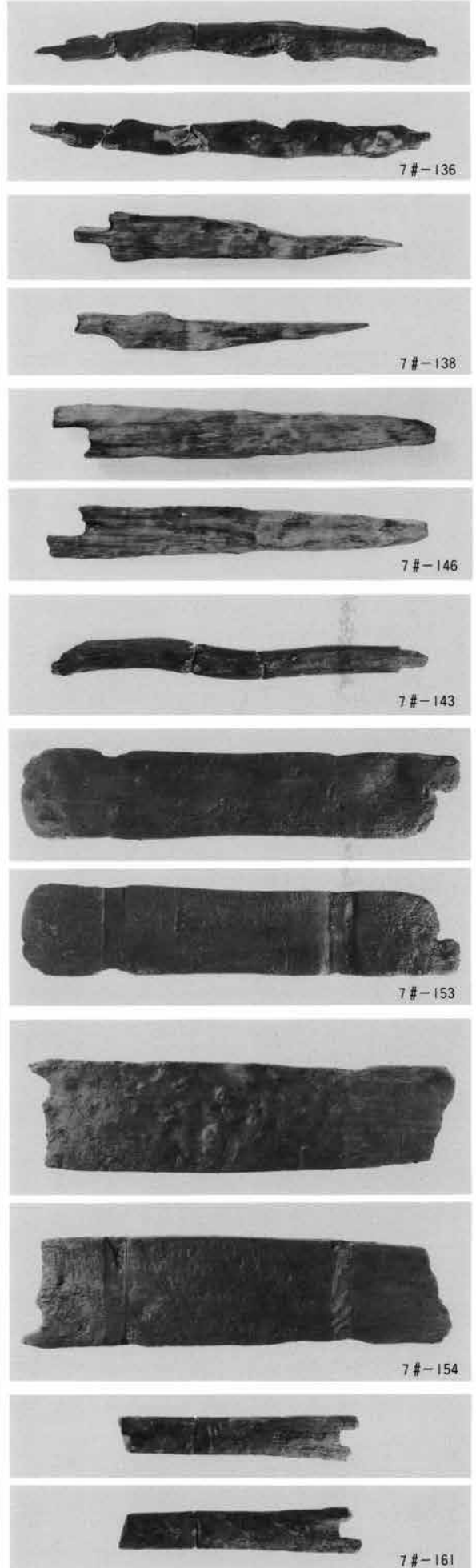
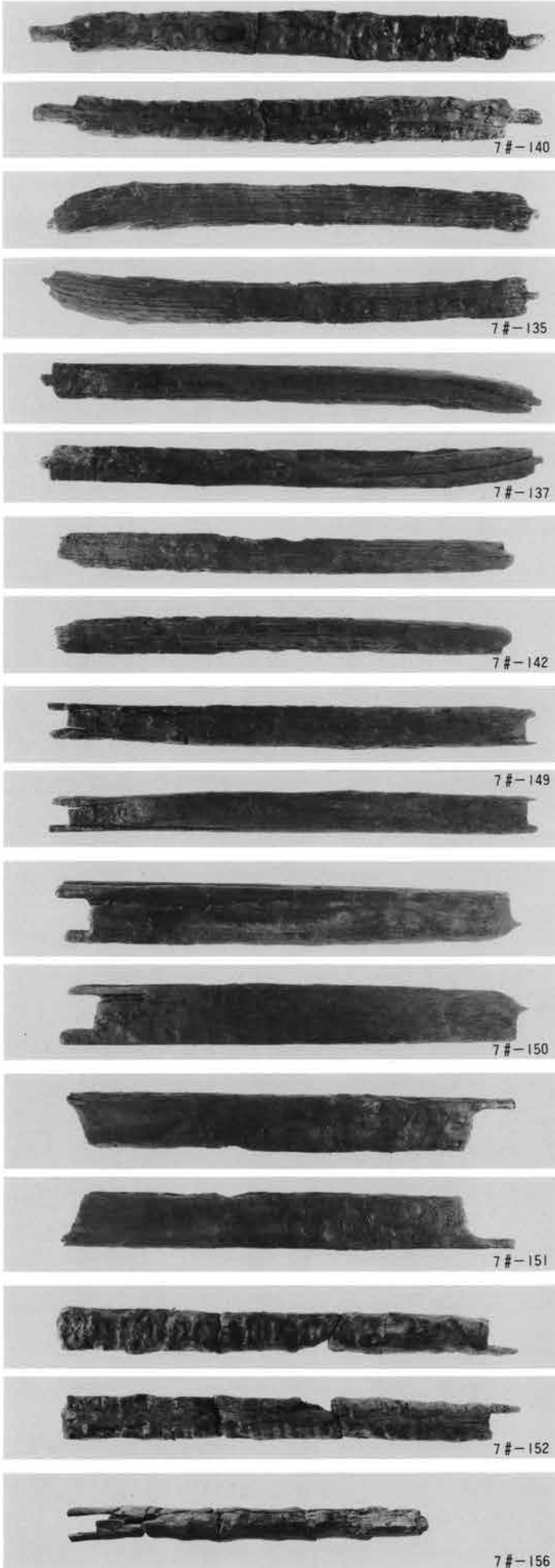


7#-48

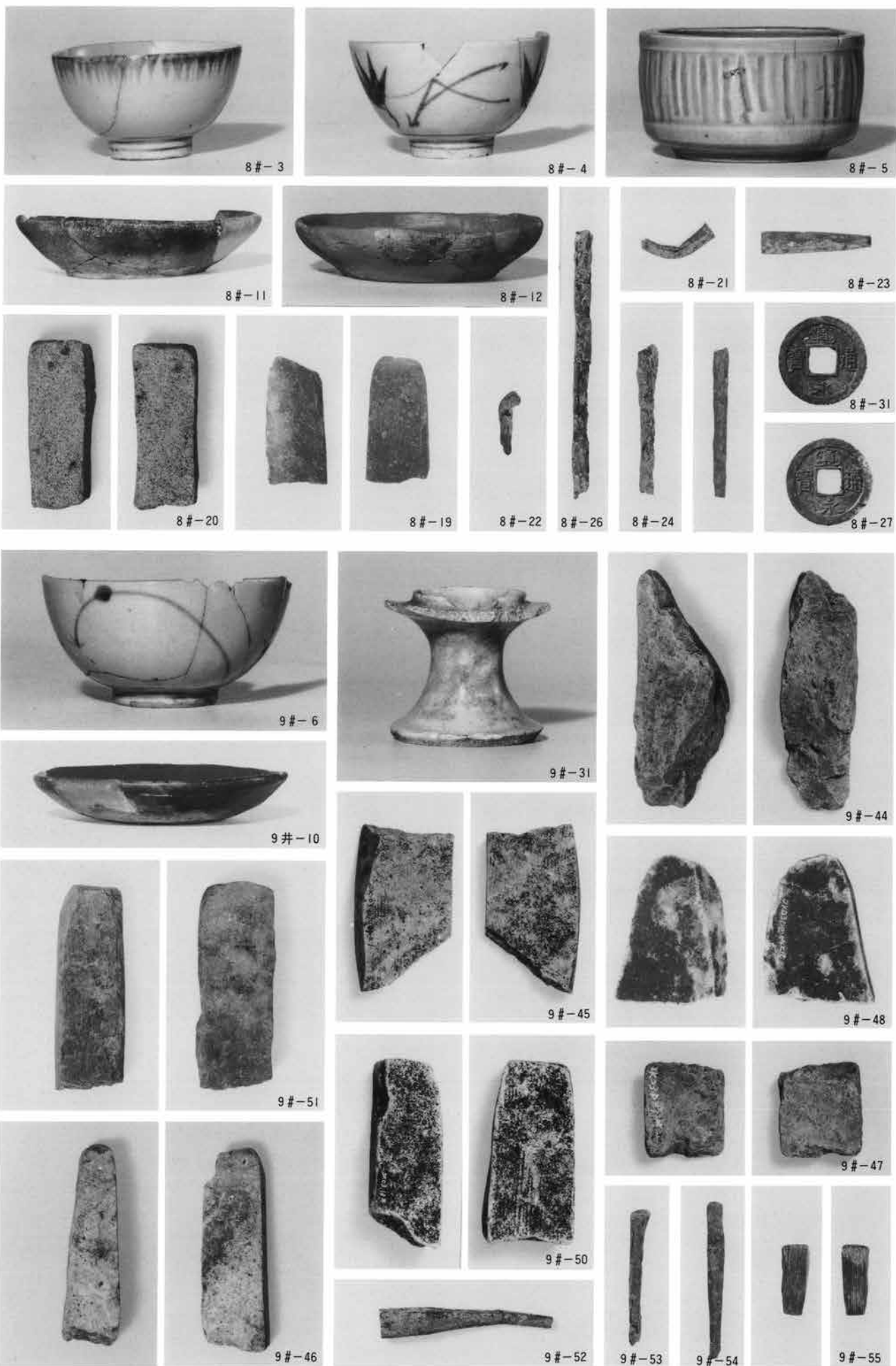


7#-44



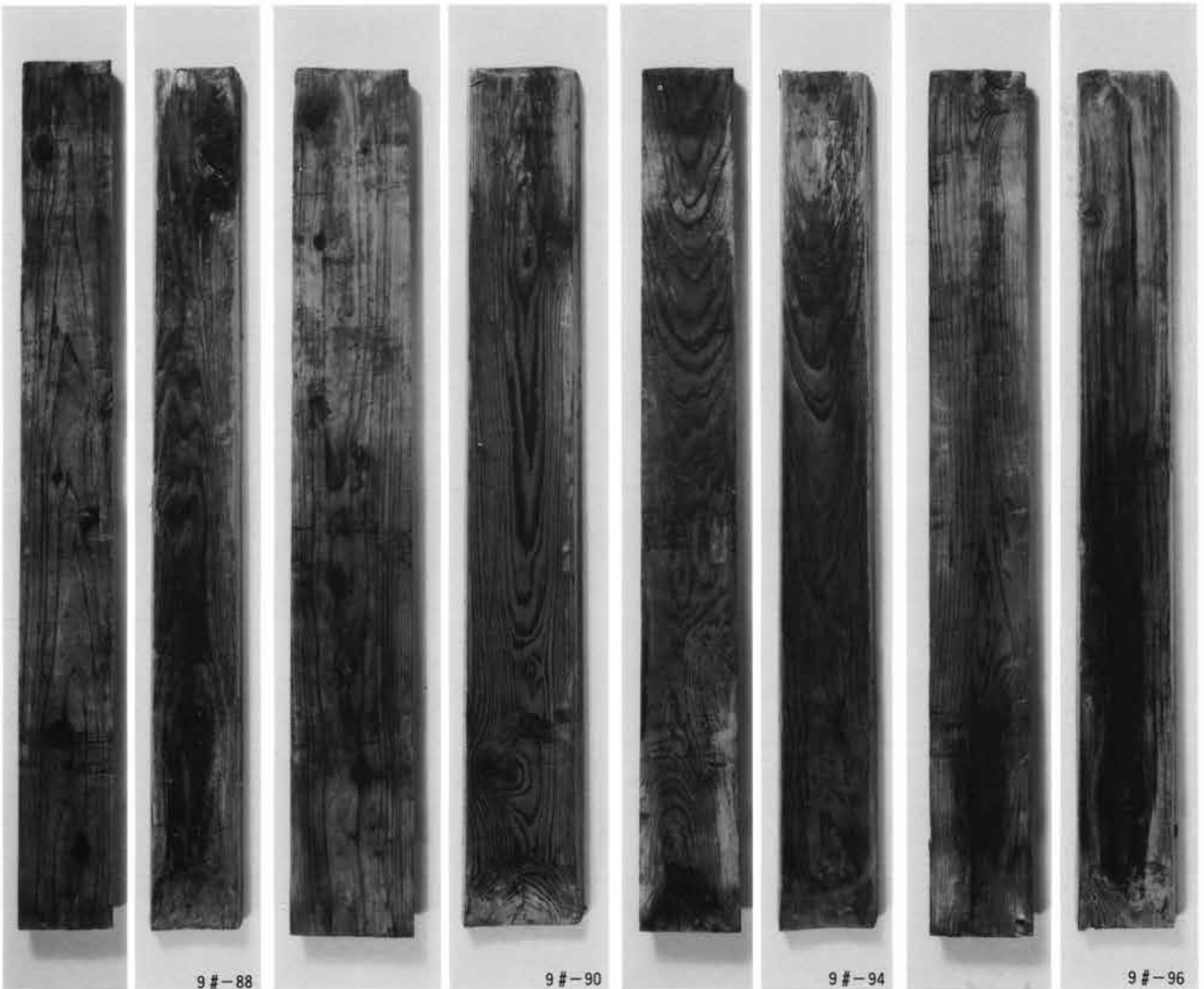
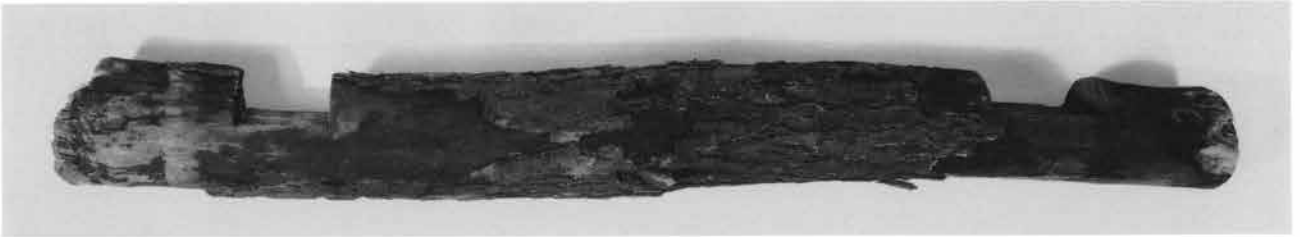


PL-40 AY-8・9号井戸出土遺物





9#-101



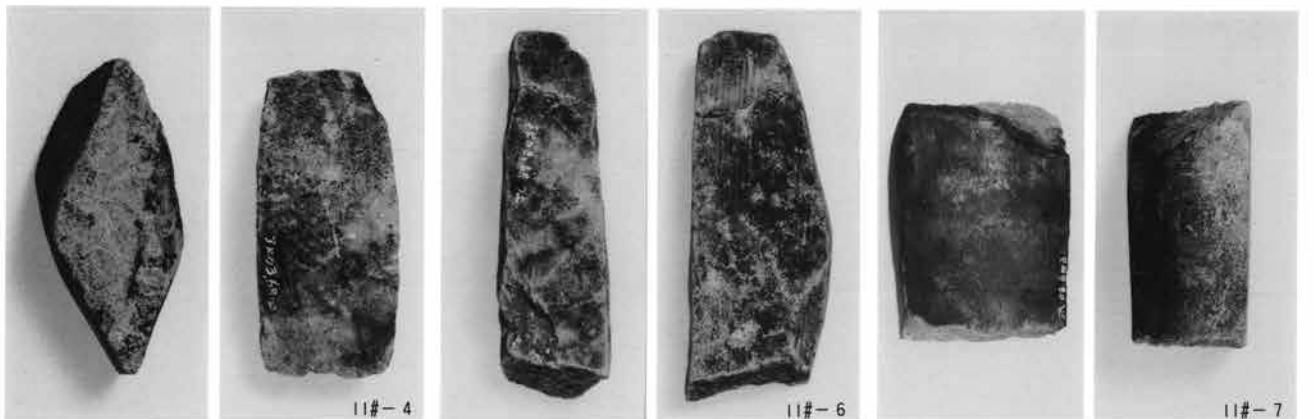
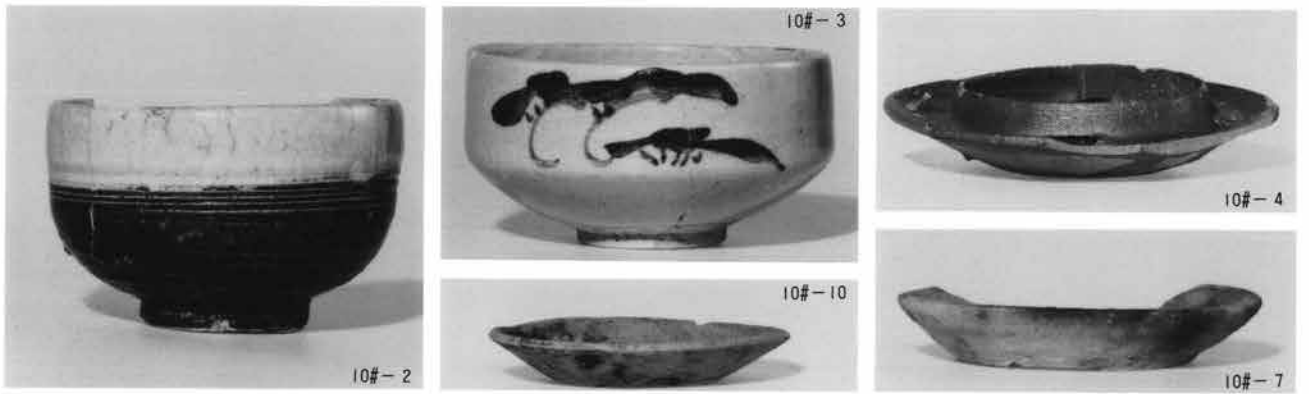
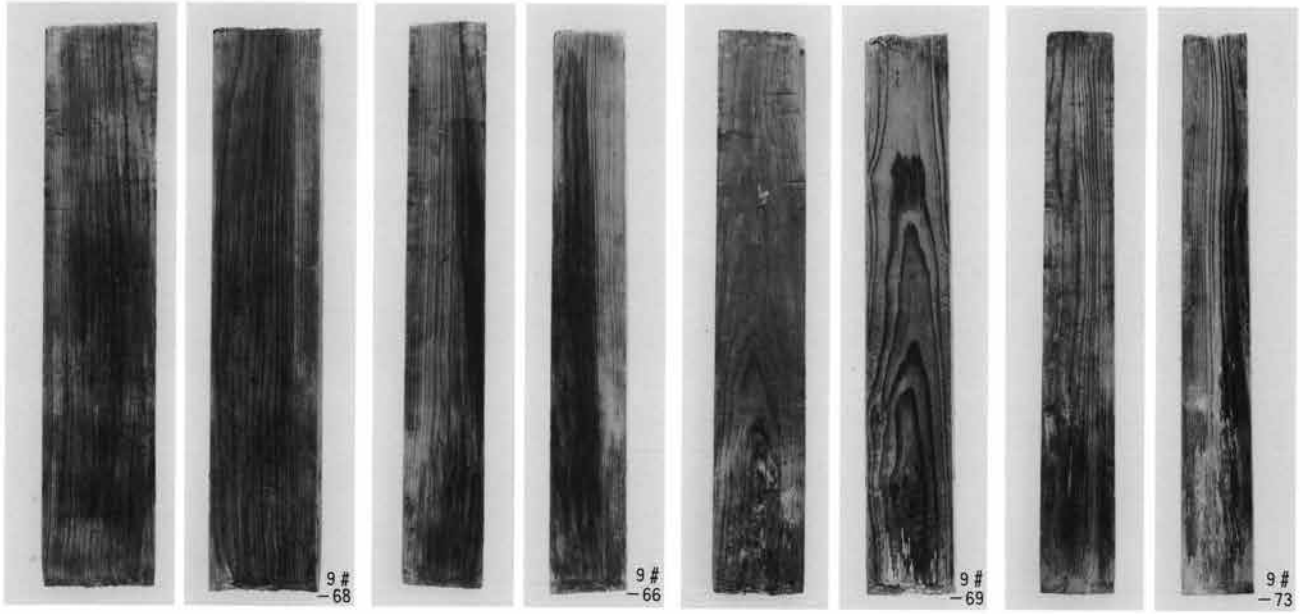
9#-88

9#-90

9#-94

9#-96

PL-42 AY-9・10・11号井戸出土遺物

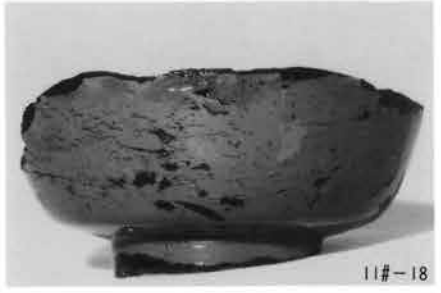




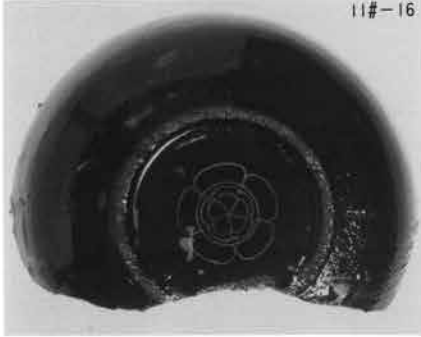
11#-8



11#-14



11#-18



11#-16



11#-17



11#-19



11#-34



11#-57



11#-58



11#-35



11#-36

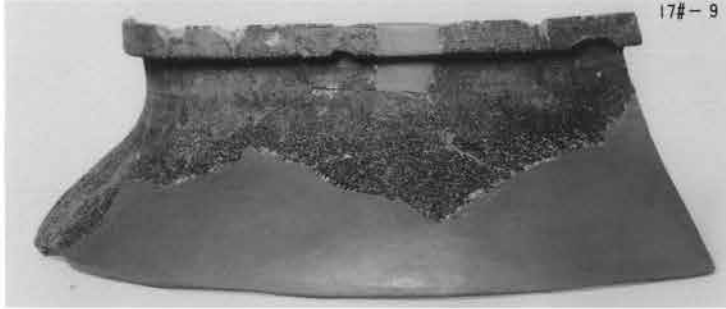




17#-3



17#-6



17#-9



17#-4



17#-10



17#-11



19#-2



21#-3



21#-5



21#-1



21#-3



21#-6



OT・11#-1



OT・11#-2



OT・13#-1



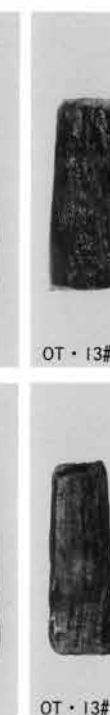
OT・13#-2



OT・13#-3



OT・13#-4



OT・13#-5



OT・13#-7



OT・13#-6



OT・17#-2



OT・17#-4



OT・17#-3



OT・17#-6



AK・3#-1



OT-1号火葬土坑全景（南から）



OT-1号火葬土坑全景（西から）



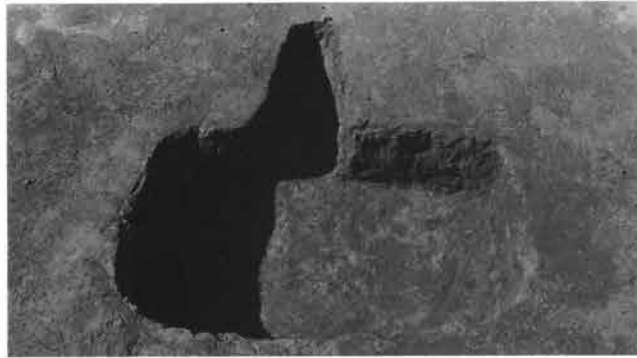
OT-2号火葬土坑全景（東から）



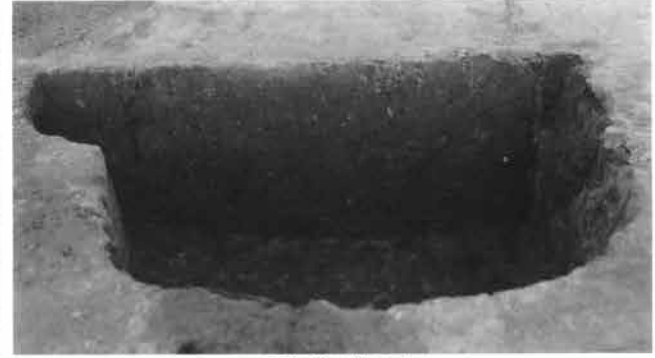
OT-3号火葬土坑全景（東から）



OT-3号火葬土坑セクション



OT-4号火葬土坑全景（東から）



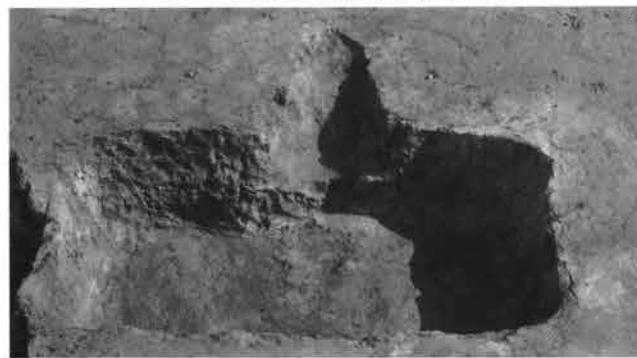
OT-4号火葬土坑セクション



OT-5号火葬土坑全景（東から）



OT-5号火葬土坑セクション



OT-6号火葬土坑全景（西から）



OT-6号火葬土坑底面施設（西から）



AY-1号墓壙 (南から)



AY-3号墓壙 (東から)



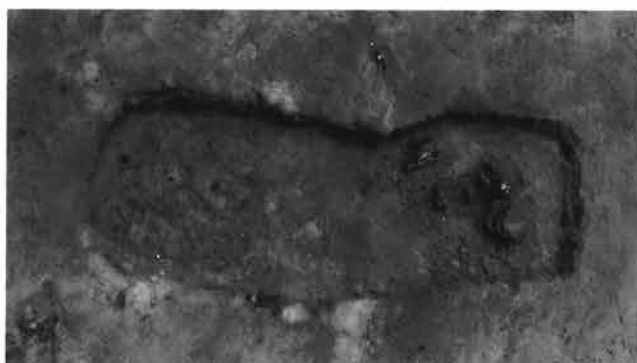
AY-2号墓壙 (北から)



AY-4号墓壙 (南から)



AY-4号墓壙 (北西から)



AY-5号墓壙 (南から)



AY-6号墓壙 (東から)



AY-7号墓壙 (東から)



OT-1号墓壙 (西から)



OT-2号墓壙 (東から)



AK-1号墓壙



AY・4墓-1



AY・4墓-2



AY・4墓-3



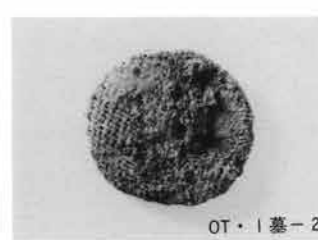
AY・4墓-4



AY・4墓-5



AY・4墓-6



OT・1墓-2



AY・2墓-6



AY・2墓-7



AY・2墓-8



AY・2墓-9



AY・2墓-10



AY・2墓-11



AY・2墓-12



AY・2墓-13



AY・2墓-1



AY・2墓-3



AY・2墓-4



AY・2墓-5



AY・2墓-14



AY・7墓頭骨



AY・4墓頭骨



OT・1墓頭骨



AY・7墓頭骨



AY・4墓頭骨



OT・1墓頭骨



AY-1号桶土坑全景（南西から）



AY-1号桶土坑セクション



AY-1号桶土坑遺物出土状態（南西から）



AY-1号桶土坑出土遺物



AY-2～4号桶土坑全景（南から）



AY-5・6号桶土坑全景（北から）



AY-7～9号桶土坑全景（南から）



AY-1号土坑



AY-2号土坑



AY-3号土坑



AY-4号土坑



AY-5号土坑



AY-6号土坑



AY-7号土坑



AY-8号土坑



AY-10号土坑



AY-9号土坑



AY-13号土坑



AY-11号土坑

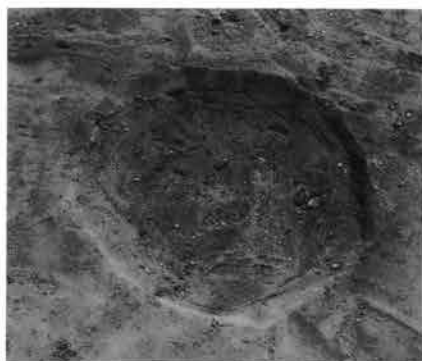


AY-14号土坑



AY-15·20号土坑

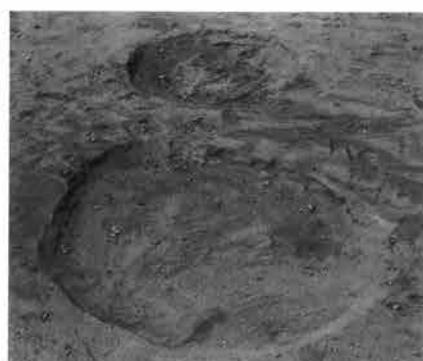
PL-52 AY-16~44号土坑



AY-16号土坑



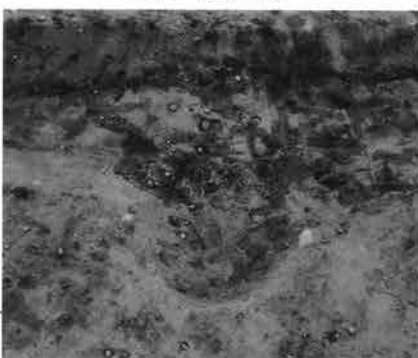
AY-17号土坑



AY-18号土坑



AY-19号土坑



AY-21号土坑



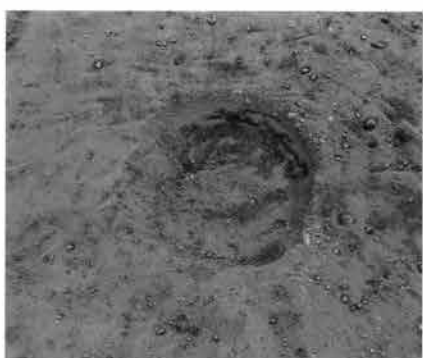
AY-22号土坑



AY-23号土坑



AY-25号土坑



AY-26号土坑



AY-27号土坑



AY-34号土坑



AY-36号土坑



AY-37·38号土坑



AY-39·43·44号土坑



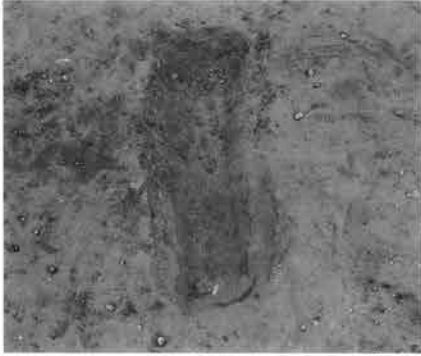
AY-45号土坑



AY-46号土坑



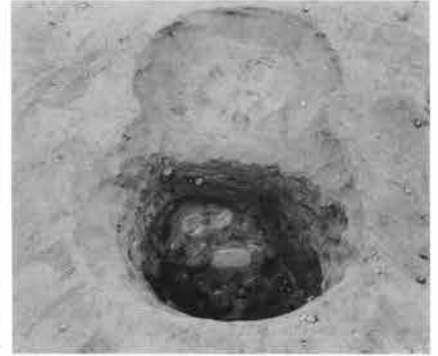
AY-47号土坑



AY-49号土坑



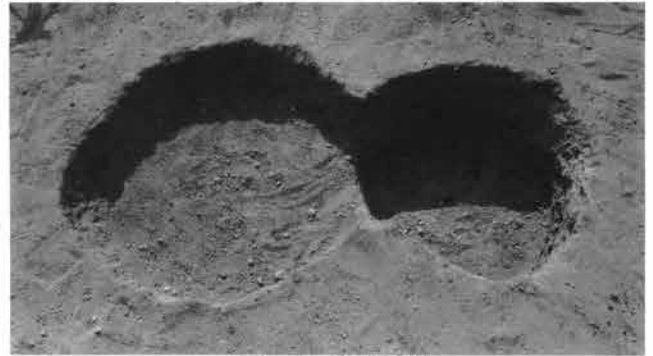
AY-50号土坑



AY-51·52号土坑



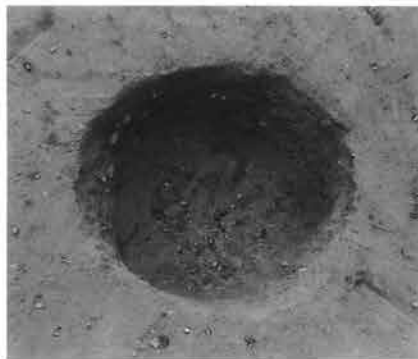
AY-48·53号土坑



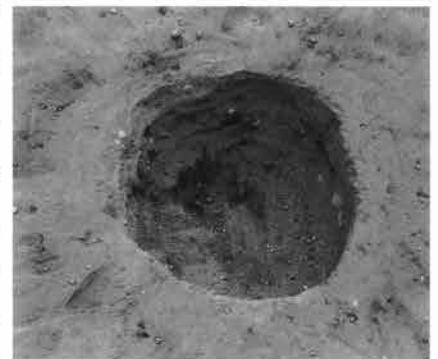
AY-57·58号土坑



AY-54号土坑



AY-55号土坑



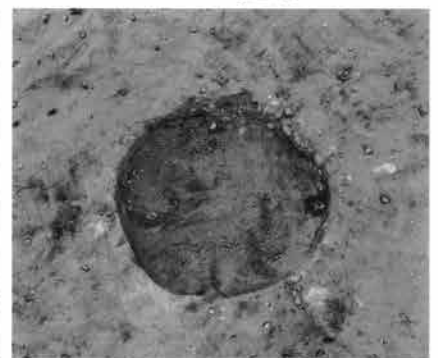
AY-56号土坑



AY-59号土坑



AY-60号土坑



AY-61号土坑

PL-54 AY-62~79号土坑



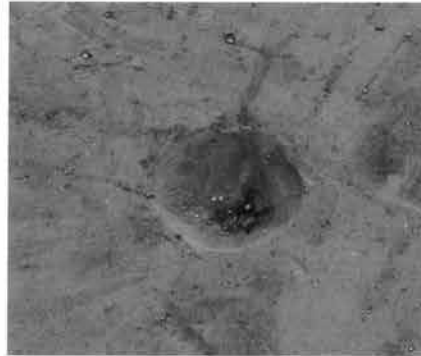
AY-62号土坑



AY-73·74号土坑



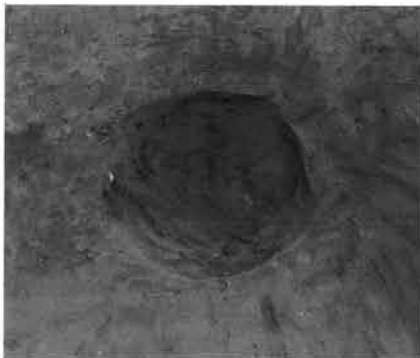
AY-63号土坑



AY-64号土坑



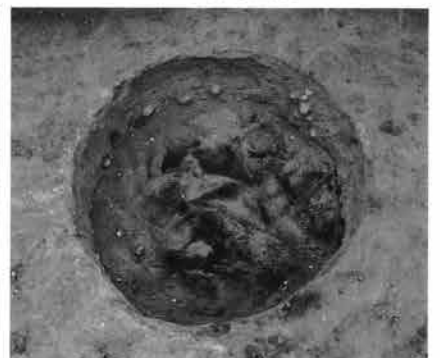
AY-65号土坑



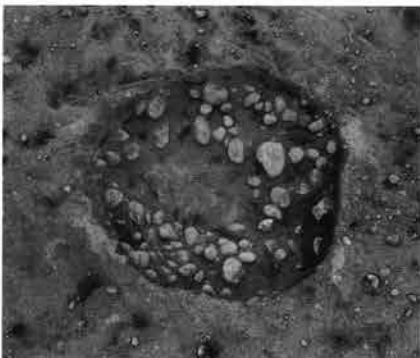
AY-67号土坑



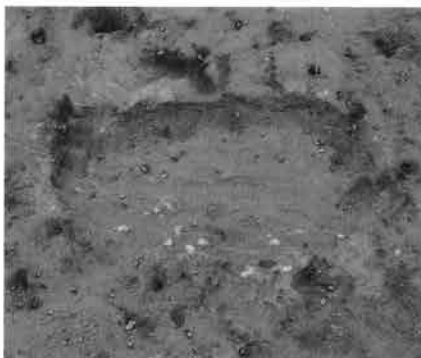
AY-69号土坑



AY-70号土坑



AY-71号土坑



AY-72号土坑



AY-74号土坑



AY-75号土坑



AY-76号土坑



AY-79号土坑



AY-83号土坑



AY-84号土坑



AY-91号土坑



AY-100号土坑



AY-104号土坑



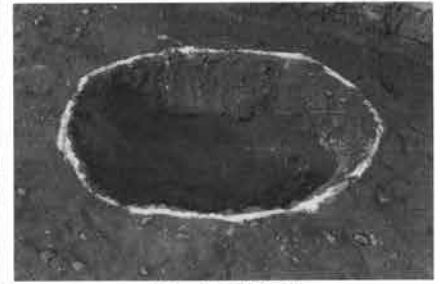
AY-74·75号土坑



AY-106号土坑



AY-107号土坑



AY-116号土坑



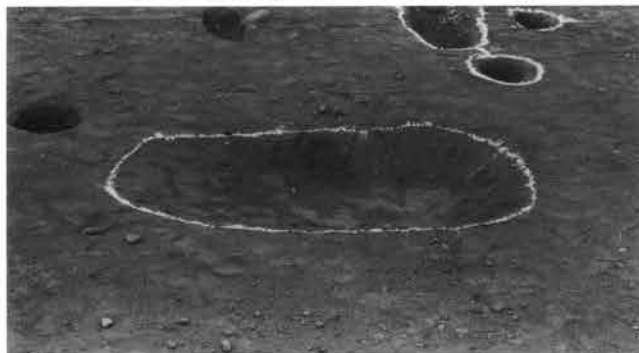
AY-108号土坑



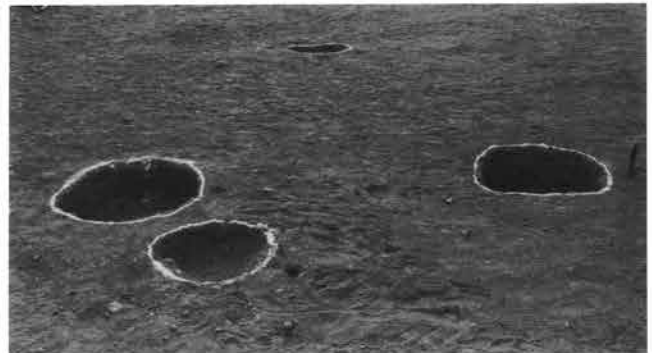
AY-109号土坑



AY-114·115号土坑



AY-105号土坑



AY-110~113号土坑



AY-117号土坑



AY-125号土坑



AY-136号土坑



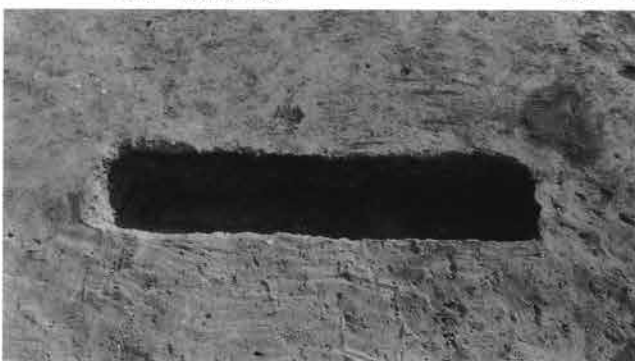
AY-137号土坑



AY-158号土坑



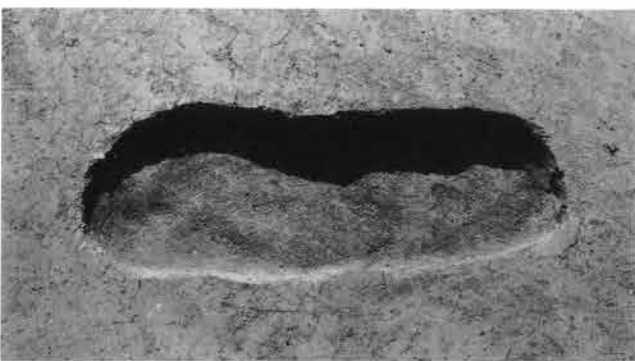
AY-160号土坑



AY-124号土坑



AY-138号土坑



AY-151号土坑



AY-155号土坑



AY-163~167号土坑



AY-168·169号土坑



AY-171·172号土坑



AY-173~175号土坑



AY-176号土坑



AY-177号土坑



AY-178号土坑



AY-179·180号土坑



AY-181·182号土坑



AY-183·184号土坑



AY-185·186号土坑



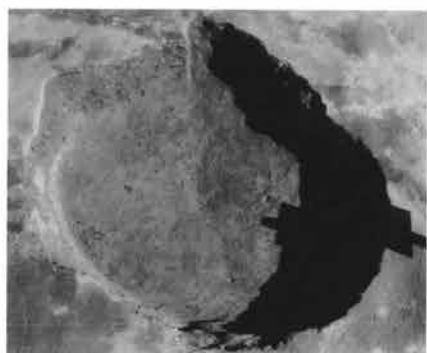
AY-188号土坑



AY-190·191号土坑



AY-193号土坑



AY-197号土坑



AY-198号土坑



AY-213号土坑



AY-214号土坑



AY-243·244号土坑



AY-245·246号土坑



AY-220·221号土坑



AY-225·226号土坑



AY-237·238号土坑



AY-242号土坑



AY-241号土坑



AY-239·240号土坑



AY-247号土坑



AY-248·249号土坑



AY-250·253·254号土坑



AY-252号土坑



AY-255号土坑



AY-261~263号土坑



AY-251号土坑



AY-256号土坑



AY-257号土坑



AY-258号土坑



AY-259号土坑



AY-260号土坑

PL-60 AY-264~282号土坑



AY-264号土坑



AY-266号土坑



AY-267~269号土坑



AY-265号土坑



AY-282号土坑



AY-270~272号土坑



AY-273·274号土坑



AY-275号土坑



AY-276号土坑



AY-277号土坑



AY-278号土坑



AY-279号土坑



AY-280号土坑



AY-281号土坑



AY-283号土坑



AY-285~288号土坑



AY-284号土坑



AY-298号土坑



AY-289号土坑



AY-290·291号土坑



AY-292~297号土坑



AY-299号土坑



AY-305号土坑



AY-306号土坑



AY-300~304号土坑



AY-307号土坑



AY-310号土坑



AY-312~314号土坑



AY-311号土坑



AY-317号土坑



AY-320号土坑



AY-321号土坑



AY-315·316号土坑



AY-322·323号土坑



AY-324~326号土坑



AY-329·330号土坑



AY-331·332号土坑



AY-333~336号土坑



AY-337号土坑



AY-338号土坑



AY-348号土坑



AY-339·340号土坑



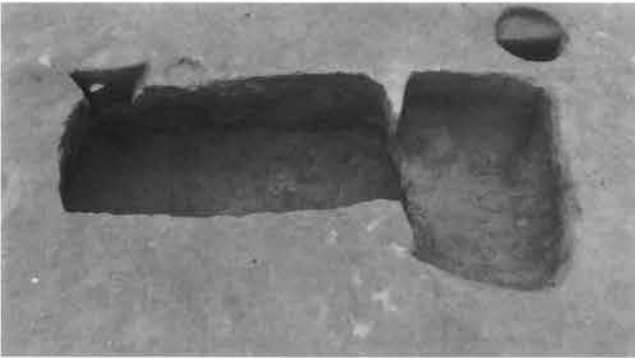
AY-341~345号土坑



AY-346号土坑



AY-347号土坑



AY-350·351号土坑



AY-354·355号土坑



AY-349号土坑



AY-352号土坑

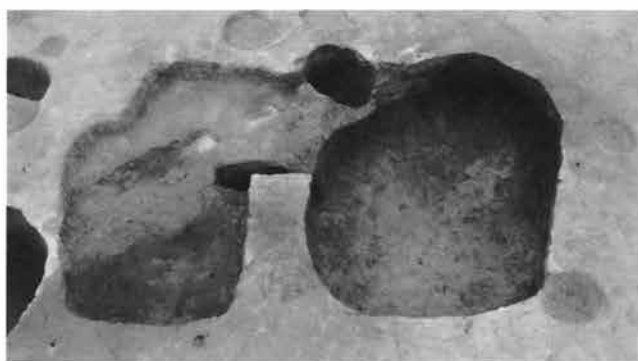


AY-353号土坑

PL-64 AY-356~376号土坑



AY-356·357号土坑



AY-363~366号土坑



AY-358号土坑



AY-359·360号土坑



AY-361号土坑



AY-362号土坑



AY-367号土坑



AY-368号土坑



AY-369号土坑



AY-371号土坑



AY-372号土坑



AY-376号土坑



AY-370·373~375号土坑



AY-377·378号土坑



AY-379~381号土坑



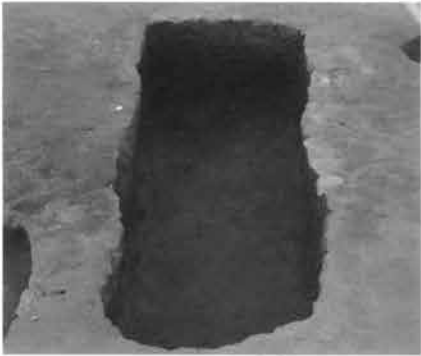
AY-382·383号土坑



AY-384号土坑



AY-385~387号土坑



AY-388号土坑



AY-391号土坑



AY-389·390号土坑



AY-392号土坑



AY-393号土坑



AY-397号土坑



AY-398~400号土坑



AY-394~396号土坑



AY-401~404号土坑



AY-405~407号土坑



AY-412·413号土坑



AY-414~423号土坑



AY-425~430号土坑



AY-433~435号土坑



AY-408号土坑



AY-424号土坑



AY-431·432号土坑



AY-436号土坑



AY-437号土坑



AY-438~442号土坑



AY-445号土坑



AY-449~451号土坑



AY-443号土坑



AY-446·447号土坑



AY-448号土坑



AY-452号土坑



AY-453号土坑



AY-456号土坑



AY-454号土坑



AY-455号土坑



AY-457·458号土坑



AY-460号土坑



AY-464号土坑



AY-461号土坑



AY-465号土坑



AY-459号土坑



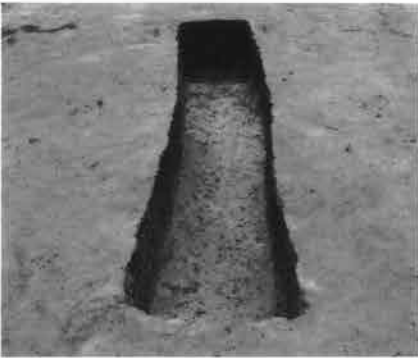
AY-462·463号土坑



AY-467号土坑



AY-468号土坑



AY-466号土坑



AY-469号土坑



AY-470号土坑



AY-471号土坑



AY-472号土坑



AY-478号土坑



AY-477号土坑



AY-483·485号土坑



AY-486·487号土坑



AY-490号土坑



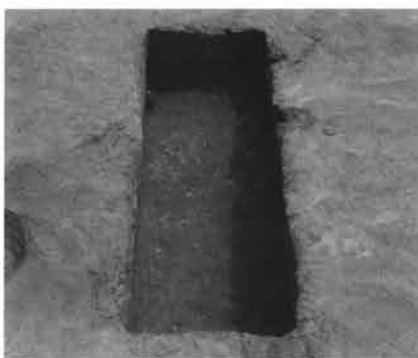
AY-491·492号土坑



AY-493·494号土坑



AY-495号土坑



AY-497号土坑



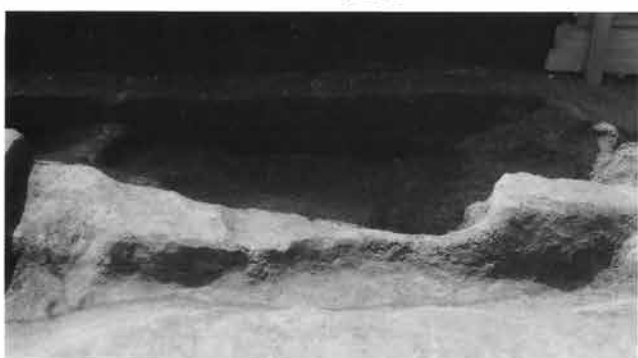
AY-512号土坑



AY-498号土坑



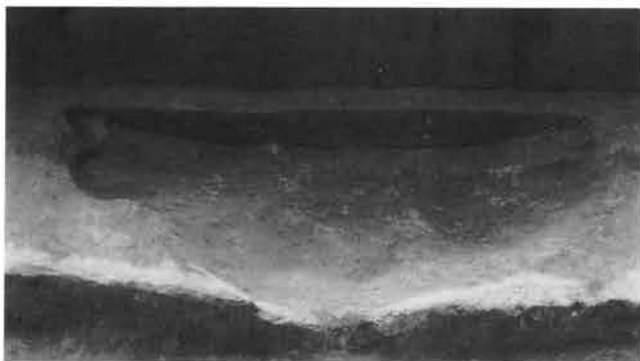
AY-499~502号土坑



AY-503~505号土坑



AY-507·508号土坑



AY-509号土坑



AY-513号土坑



AY-510号土坑



AY-511号土坑



AY-514号土坑



AY-515号土坑



AY-518号土坑



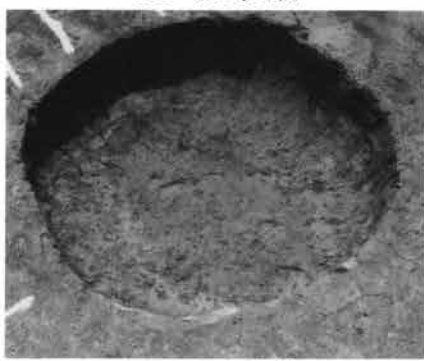
AY-521号土坑



AY-522号土坑



AY-523号土坑



AY-526号土坑



AY-527号土坑



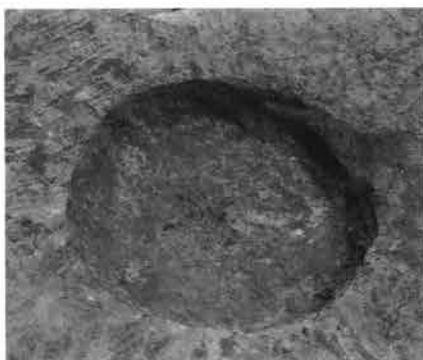
AY-528号土坑



AY-529号土坑



AY-530号土坑



AY-531号土坑



AY-532号土坑



AY-534号土坑



AY-535号土坑



OT-1·2号土坑



OT-3号土坑



OT-9·10号土坑



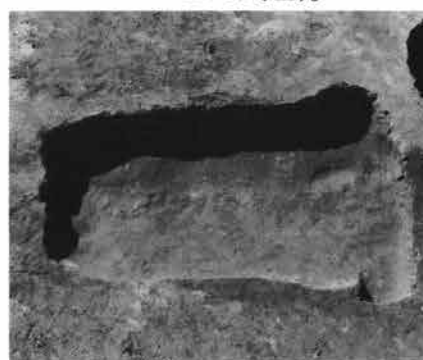
OT-11~13号土坑



OT-14号土坑



OT-15号土坑



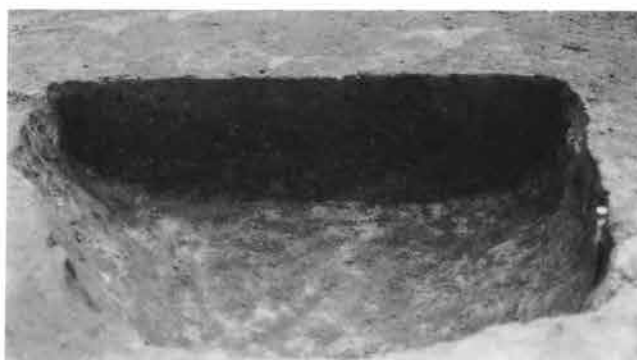
OT-16号土坑



OT-17号土坑



OT-18号土坑



OT-19号土坑



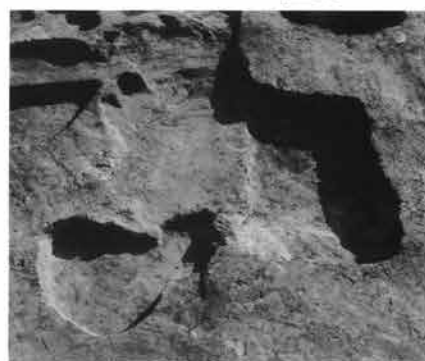
OT-20号土坑



OT-21号土坑



OT-22·23号土坑



OT-25~27号土坑



OT-28号土坑



OT-29·30号土坑



OT-31·32号土坑



OT-33号土坑



OT-34号土坑



OT-35号土坑



OT-39号土坑



OT-40号土坑



OT-36~38号土坑



OT-41·42号土坑



OT-43号土坑



OT-44~48号土坑



OT-49~52号土坑



OT-60号土坑



OT-61号土坑



OT-67·68号土坑



OT-62·63号土坑



OT-64号土坑



OT-65号土坑



OT-69号土坑



OT-70号土坑



OT-71号土坑

PL-74 OT-72~99号土坑



OT-72号土坑



OT-73号土坑



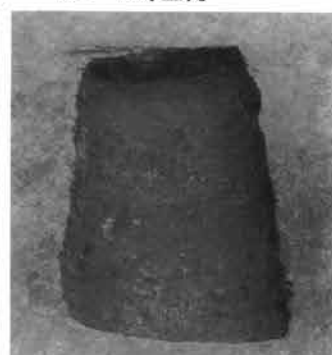
OT-74号土坑



OT-75号土坑



OT-76~79号土坑



OT-85号土坑



OT-82~84号土坑



OT-86号土坑



OT-87·88号土坑



OT-89号土坑



OT-92号土坑



OT-93号土坑



OT-94号土坑



OT-95·96号土坑



OT-98·99号土坑



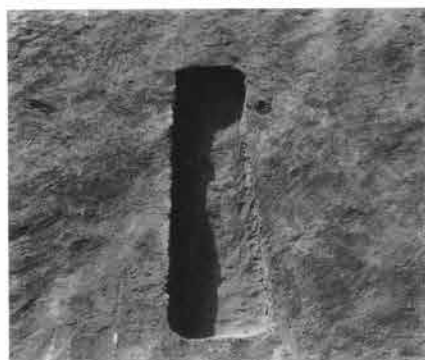
OT-100号土坑



OT-101号土坑



OT-102·103·105·106号土坑



OT-107号土坑



OT-108号土坑



OT-110号土坑



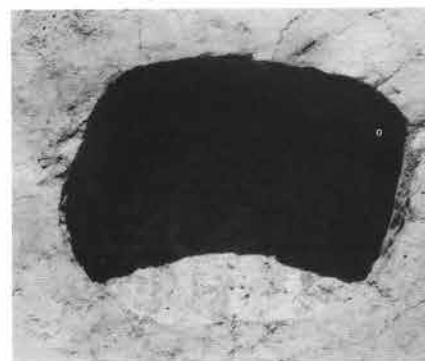
OT-111号土坑



OT-113号土坑



OT-114号土坑



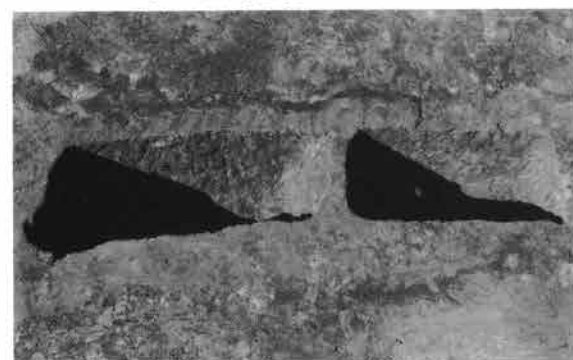
OT-115号土坑



OT-116号土坑



OT-117号土坑



OT-118·119号土坑



OT-120号土坑

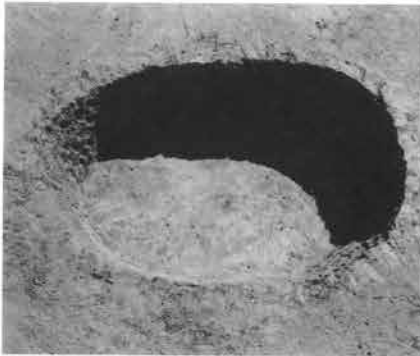


OT-121号土坑

PL-76 OT-122~130号土坑 AK-1~6号土坑



OT-122号土坑



OT-123号土坑



OT-124号土坑



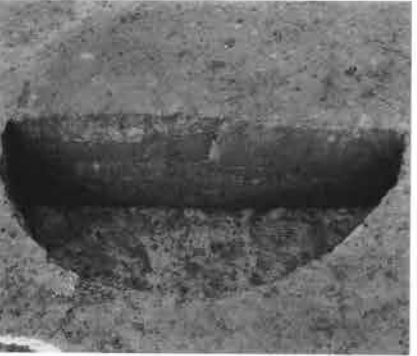
OT-125号土坑



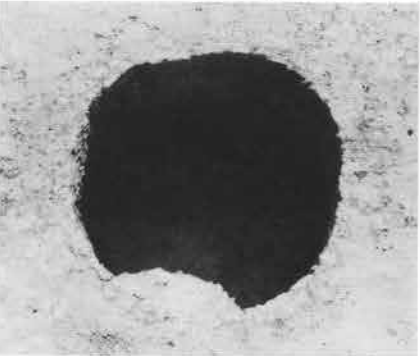
OT-126号土坑



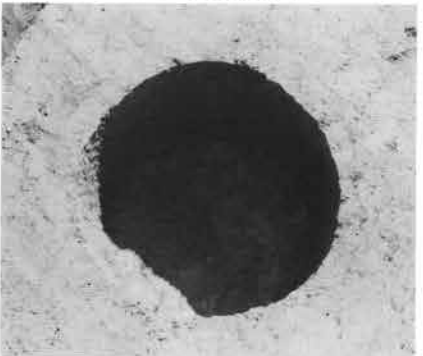
OT-127号土坑



OT-128号土坑



OT-129号土坑



OT-130号土坑



AK-1号土坑



AK-2号土坑



AK-4号土坑



AK-3号土坑



AK-5号土坑



AK-6号土坑



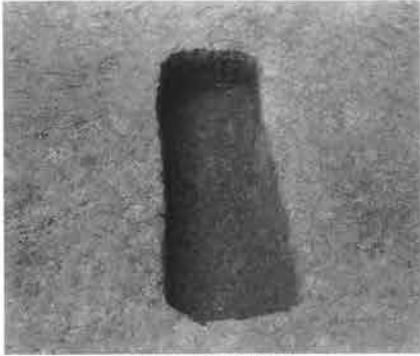
AK-7号土坑



AK-8号土坑



AK-9号土坑



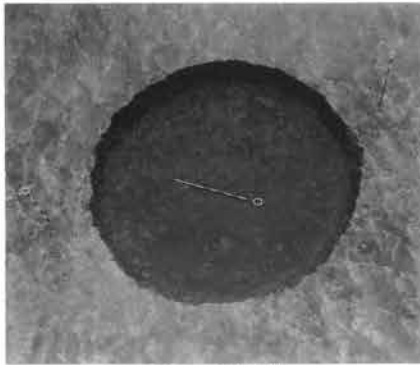
AK-10号土坑



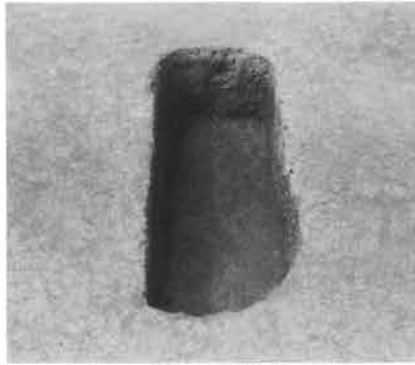
AK-11号土坑



AK-12号土坑



AK-13号土坑



AK-14号土坑



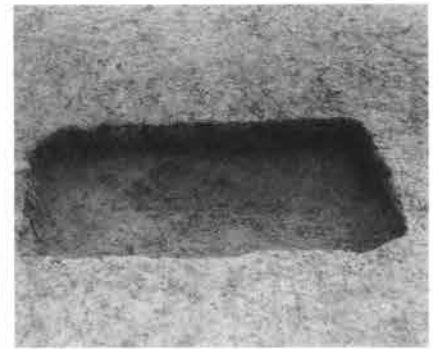
AK-15号土坑



AK-16号土坑



AK-17号土坑



AK-18号土坑



AK-19号土坑



AK-20号土坑



AK-21号土坑

PL-78 AK-22~37号土坑



AK-22号土坑



AK-23号土坑



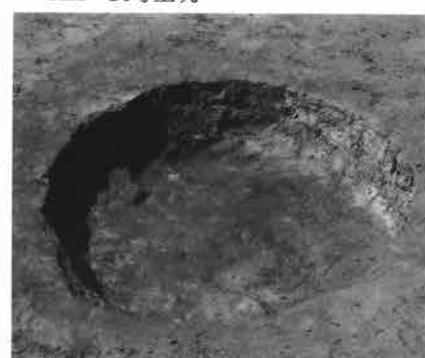
AK-24号土坑



AK-25号土坑



AK-26号土坑



AK-27号土坑



AK-28号土坑



AK-29号土坑



AK-30号土坑



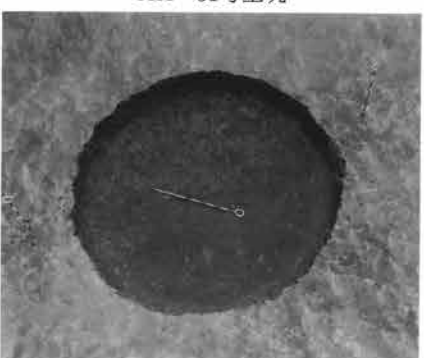
AK-31号土坑



AK-32号土坑



AK-33号土坑



AK-34号土坑



AK-35号土坑



AK-37号土坑



AK-36号土坑



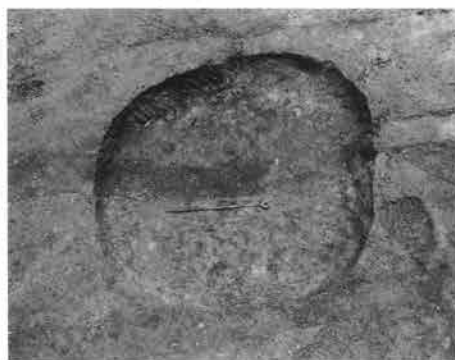
AK-39号土坑



AK-40号土坑



AK-41号土坑



AK-45号土坑



AK-42号土坑



AK-43号土坑



AK-46号土坑



AK-47号土坑



AK-49号土坑



AK-50号土坑



AK-52号土坑

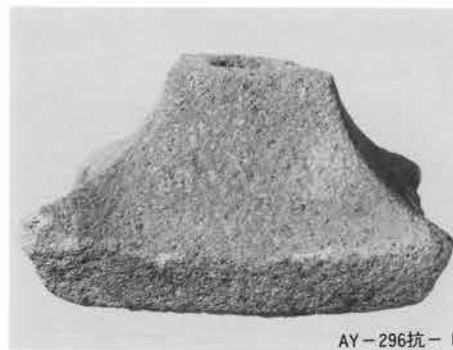


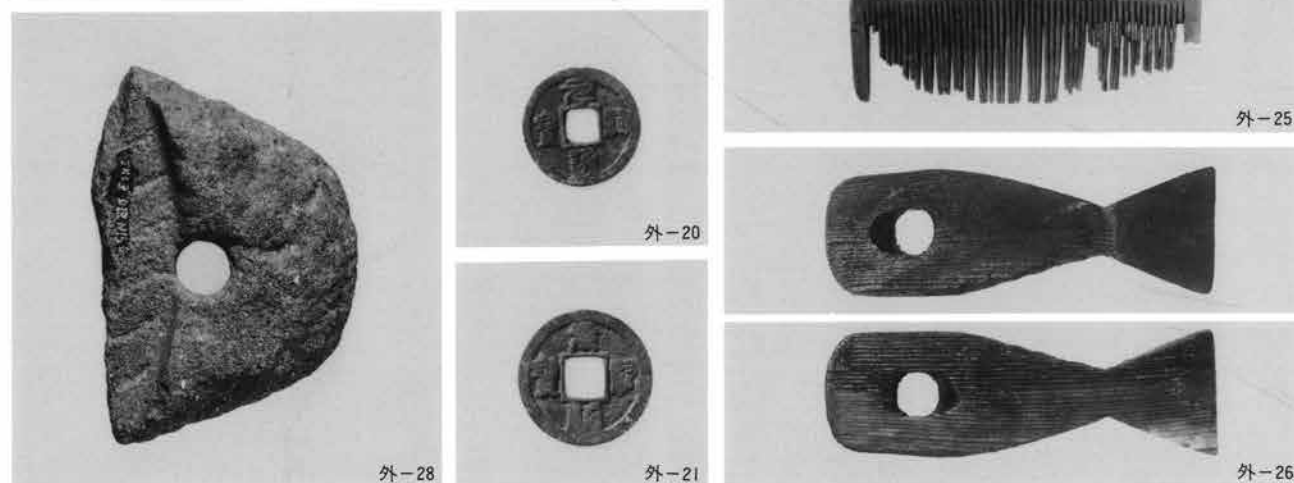
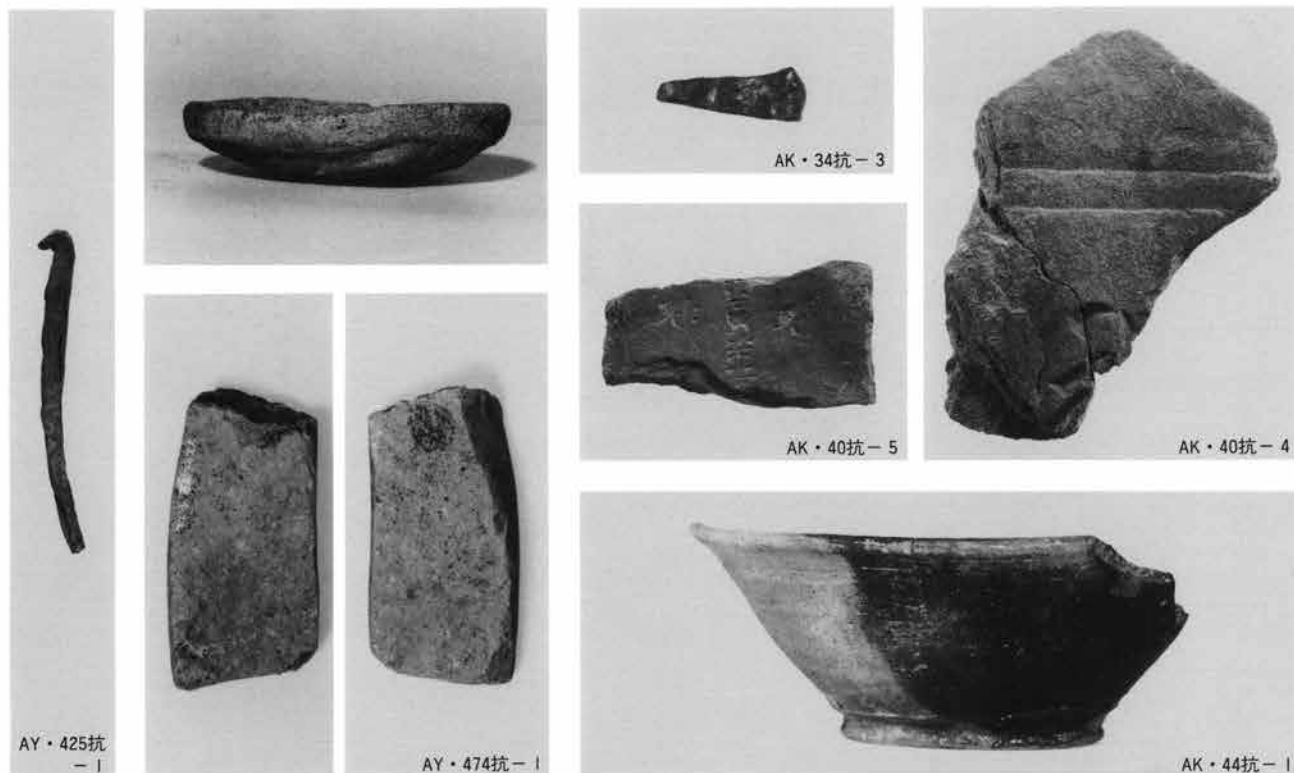
AK-53号土坑

PL-80 安養寺森西遺跡土坑出土遺物



AY-168抗







遺物出土状態



H区h-22G付近遺物出土状態



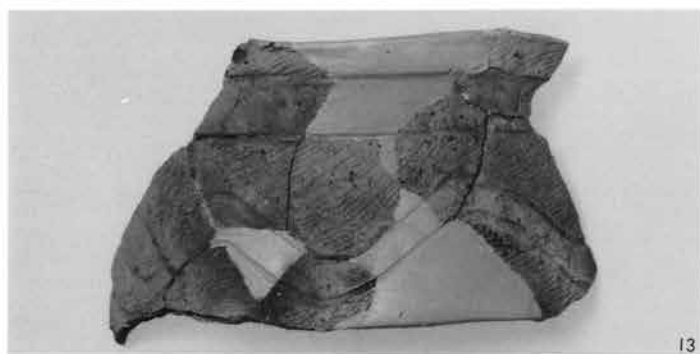
H区l-20・21G付近遺物出土状態

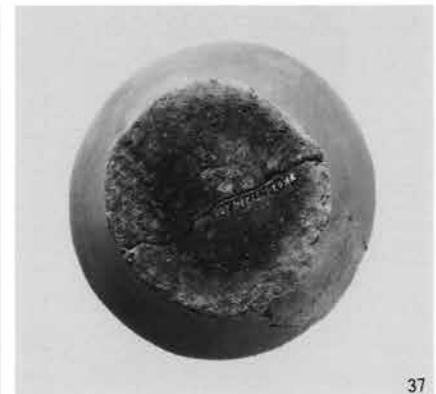
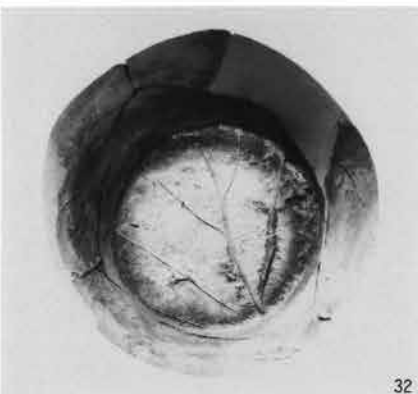
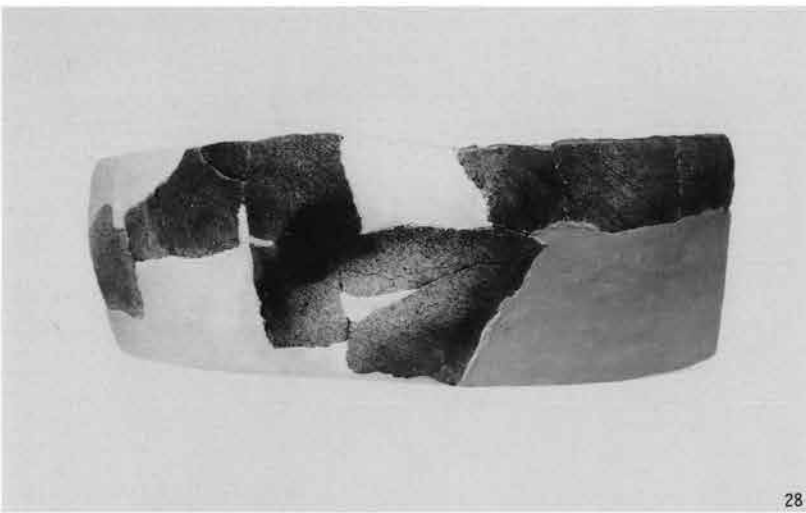


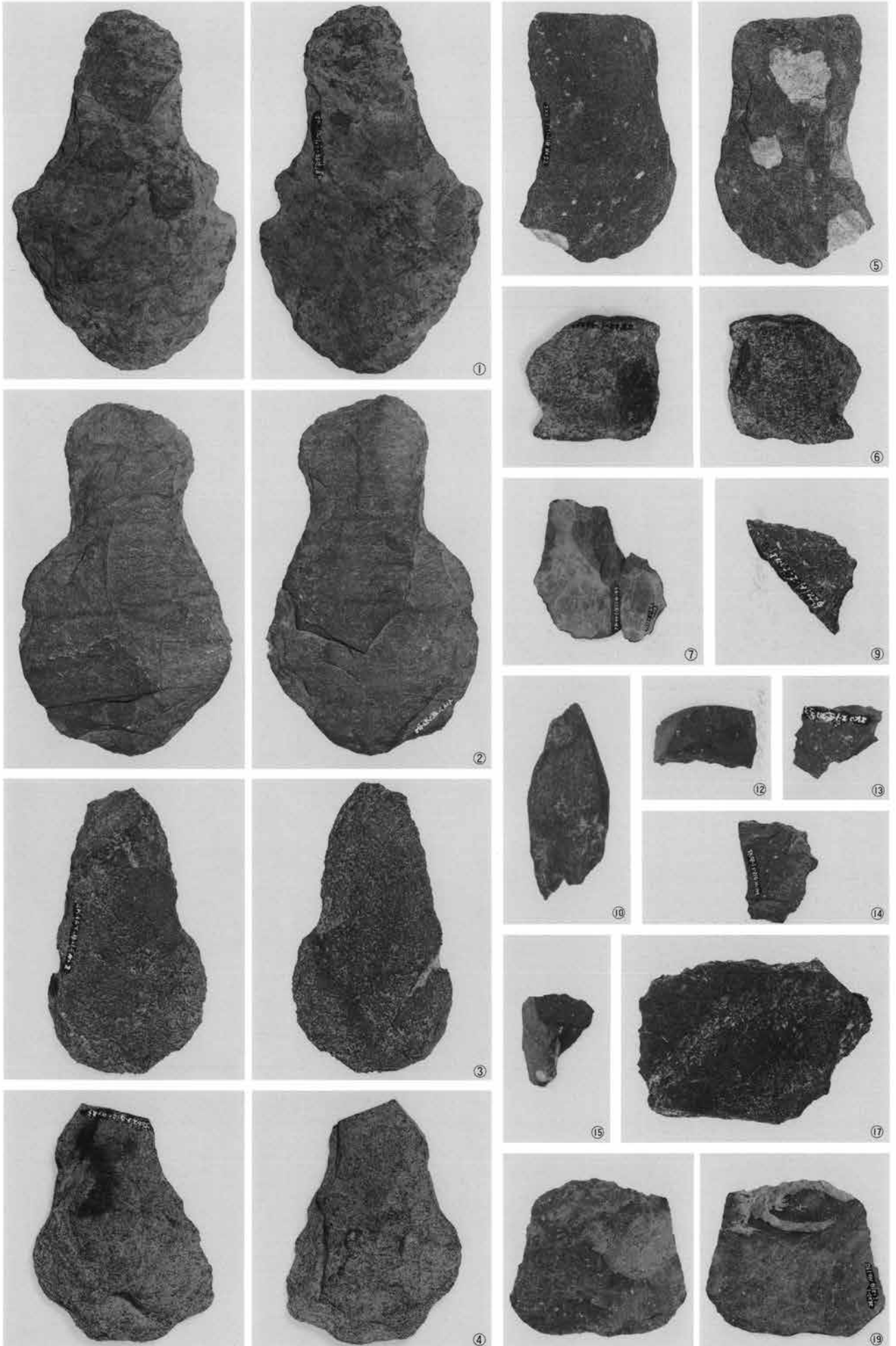
土器出土状態

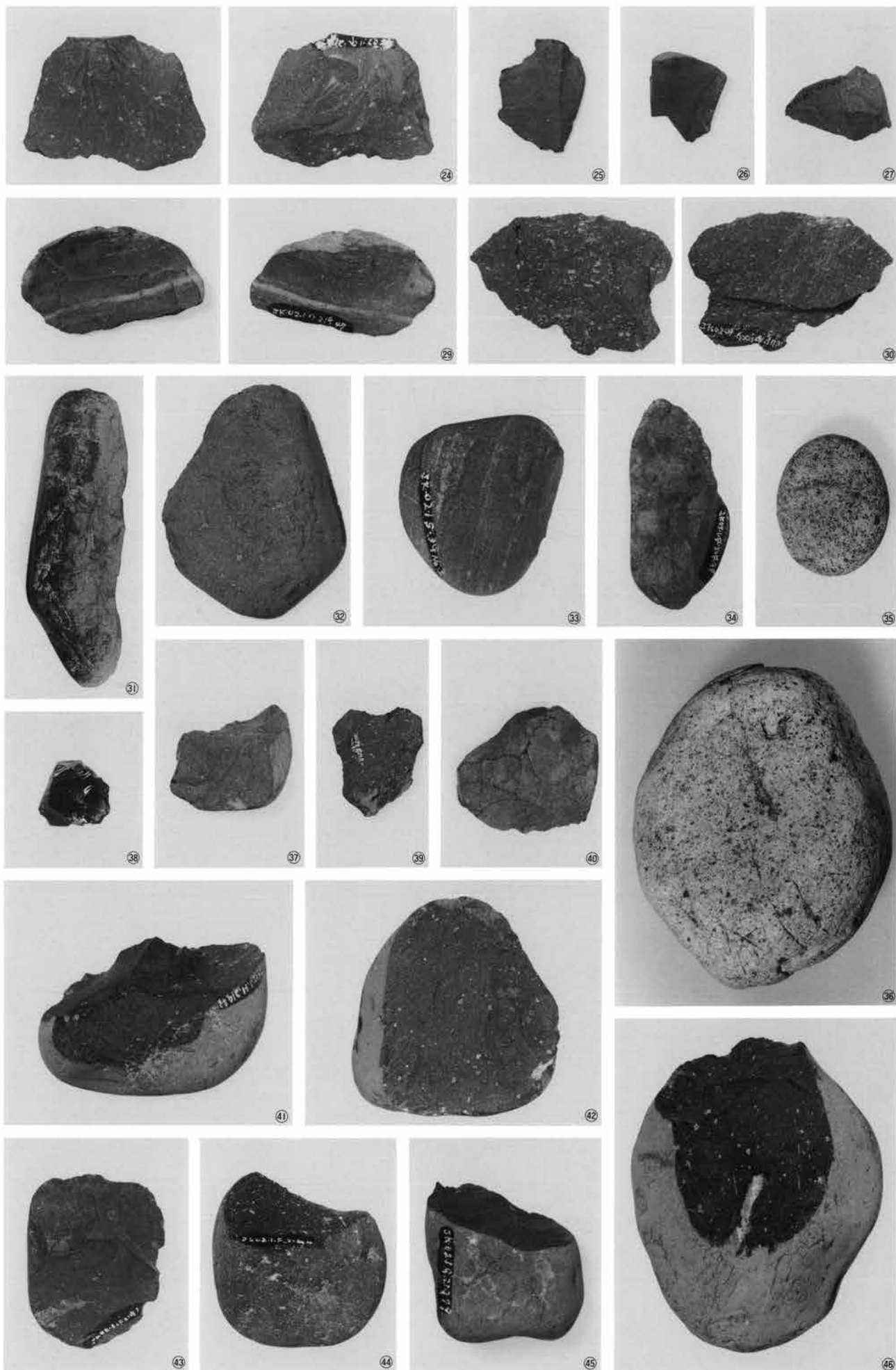


石鋤出土状態











黒安接合資料-3



黒安接合資料-4



黒安接合資料-5



黒安接合資料-1



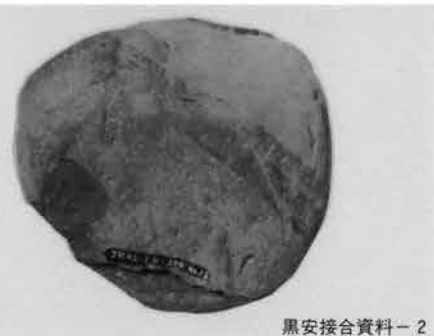
黒安接合資料-16



黒安接合資料-13



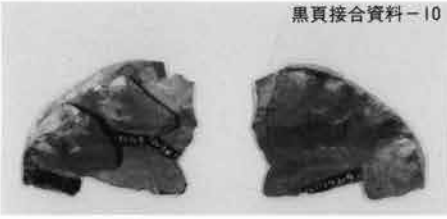
黒安接合資料-2



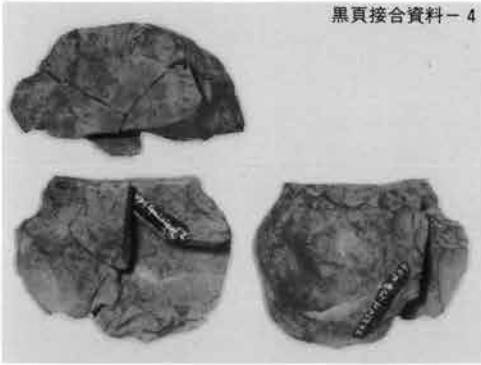
黒頁接合資料-5

PL-88 弥生時代の遺物 石器(4)

黒頁接合資料-10



黒頁接合資料-4



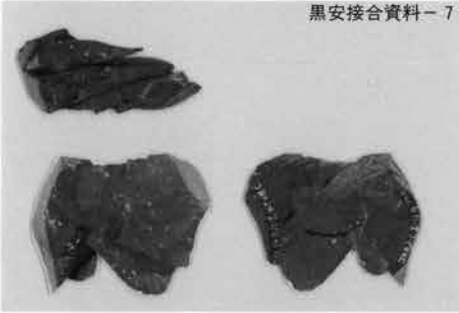
黒安接合資料-9



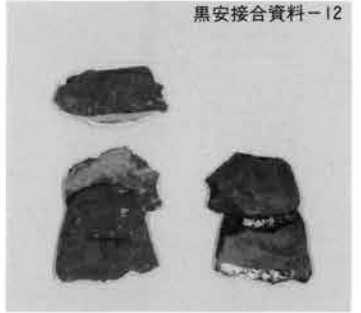
黒安接合資料-8



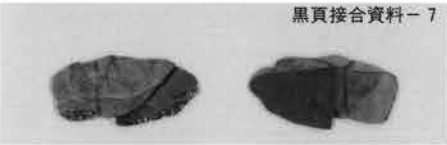
黒安接合資料-7



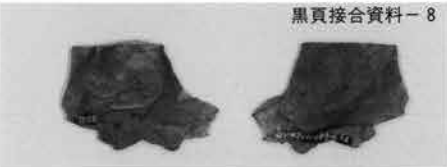
黒安接合資料-12



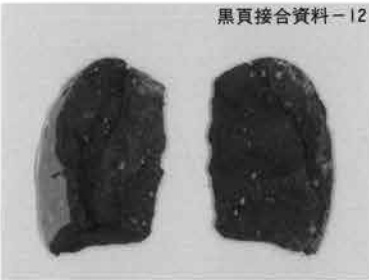
黒頁接合資料-7



黒頁接合資料-8



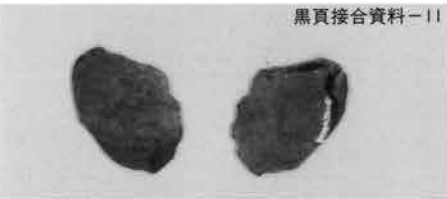
黒頁接合資料-12



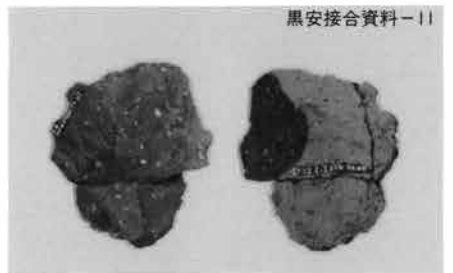
黒頁接合資料-9



黒頁接合資料-11



黒安接合資料-11



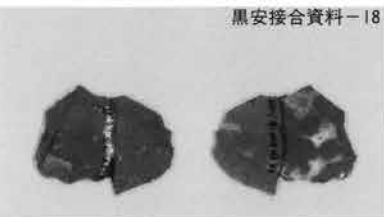
黒安接合資料-17



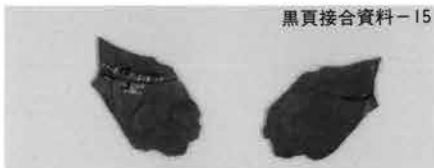
黒頁接合資料-13



黒安接合資料-18



黒頁接合資料-15



黒安接合資料-15

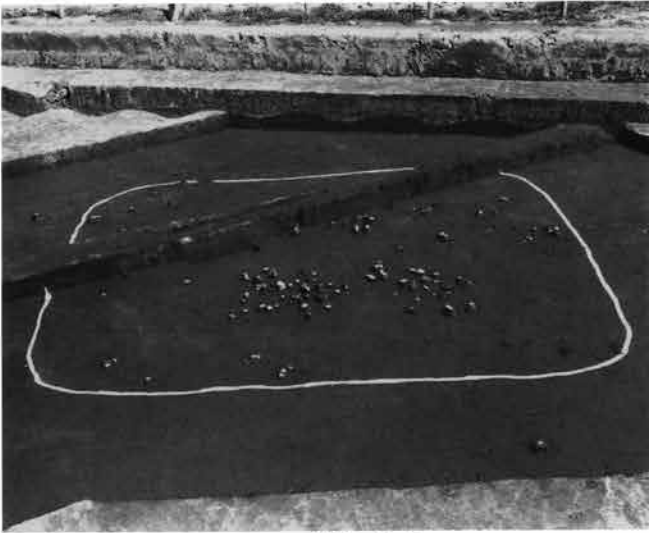


チャート接合資料-1



黒頁接合資料-1





OT-1号住居全景



OT-1号住居遺物出土状態



1



4



3



6



7

PL-90 氾濫層下畠(1)



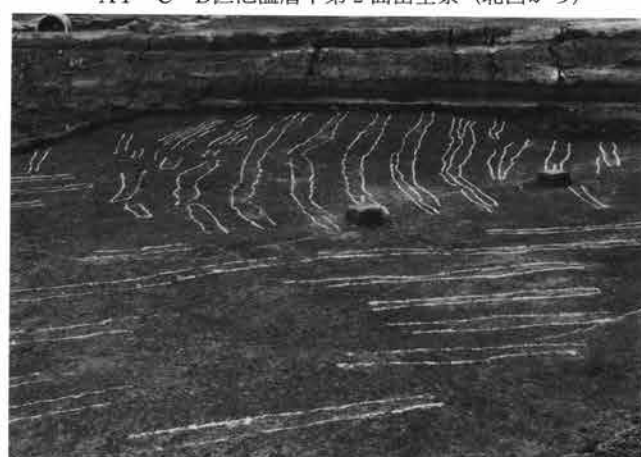
AY-D区氾濫層下第1面畠近接(南西から)



AY-C・D区氾濫層下第2面畠全景(北西から)



AY-D区氾濫層下第3面畠全景(南から)



AY-D区氾濫層下第3面畠全景(南西から)



AY-E区氾濫層下第1面畠全景(南東から)



AY-E区氾濫層下第1面畠全景(南から)



AY-E区氾濫層下第1面畠全景(南西から)



AY-E区氾濫層下第2面畠全景(南西から)



AY-E区氾濫層下第1面畠全景(南西から)



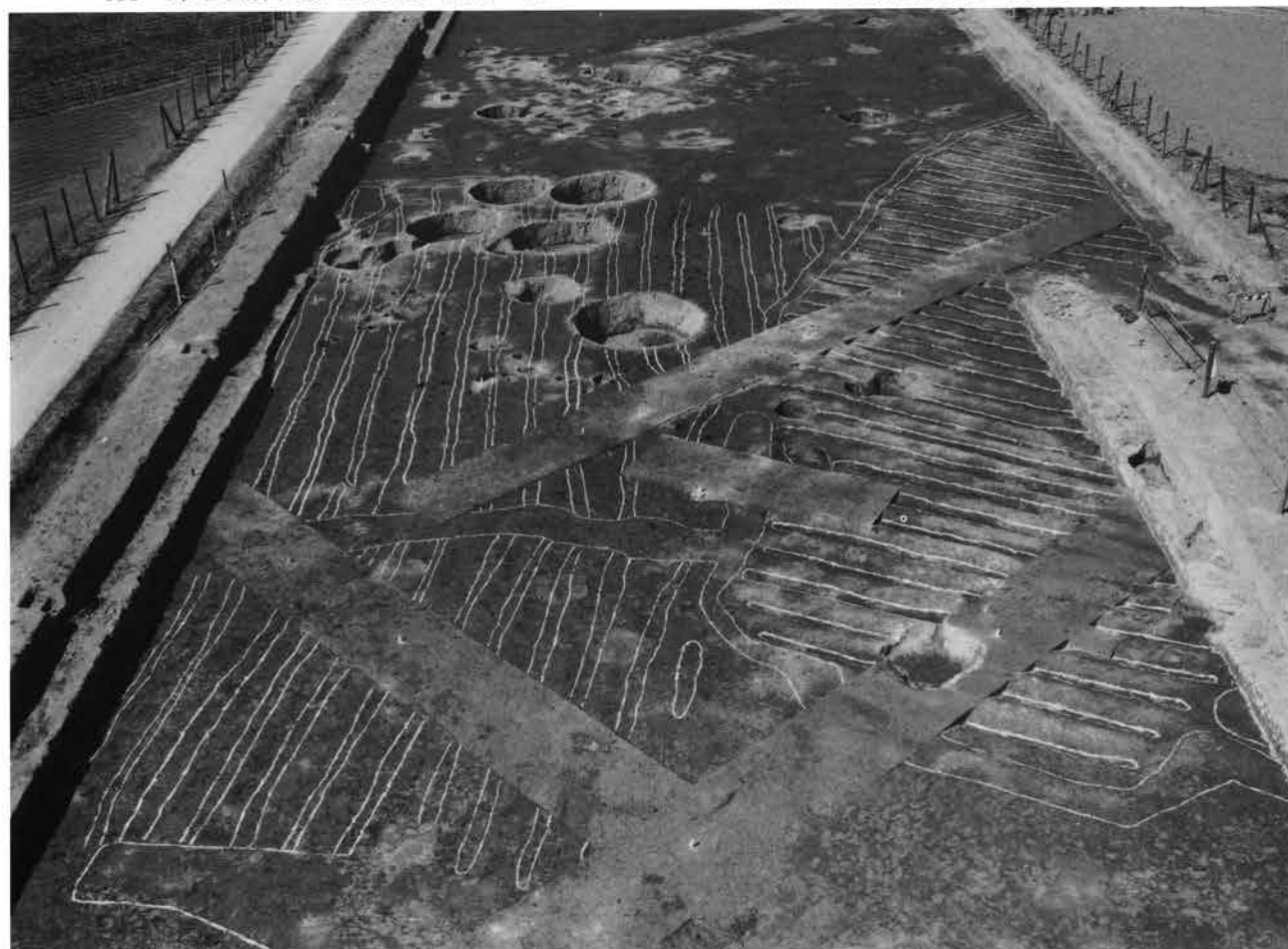
AY-E区氾濫層下第2面畠全景(南西から)



AY-F区氾濫層下第1面畠全景(南西から)



OT-F区氾濫層下第1面畠全景(北西から)



OT-F・G区氾濫層下第1面畠遠景(南西から)

PL-92 氾濫層下畠(3)



OT-G区氾濫層下第2面畠全景(南から)



OT-G区氾濫層下第2面畠全景(南から)



OT-G区氾濫層下第2面畠全景(南東から)



OT-G区氾濫層下第2面畠近接(北東から)



OT-H区氾濫層下第3面畠全景(北東から)



AK-H区氾濫層下第1面畠全景(北西から)



AK-I区氾濫層下第1面畠全景(南東から)



AK-H・I区氾濫層下第1面畠調査風景(東から)



PL-94 沱濫層下畠出土遺物(2)



20



27



26



30



31



32



34



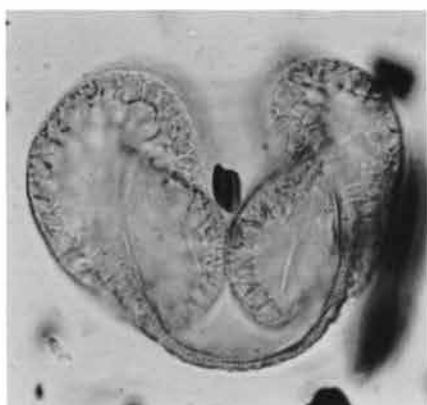
35



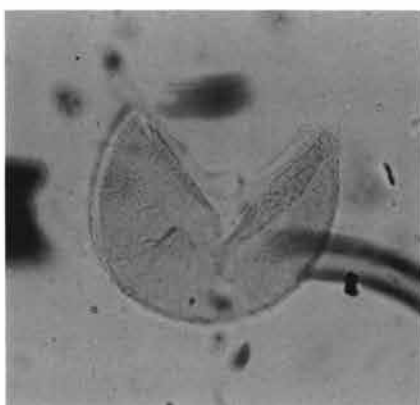
39



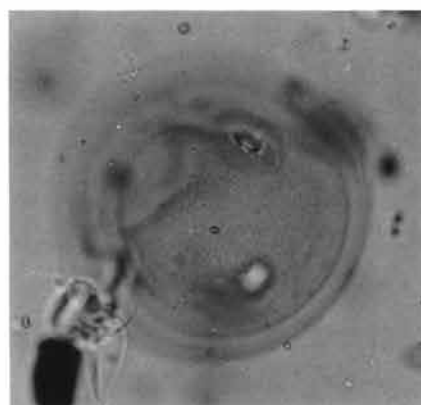
40



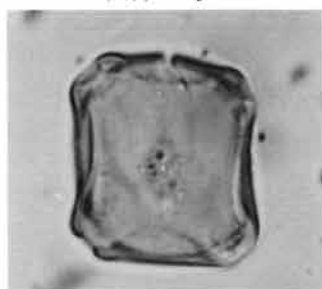
試料1 pinus ×190



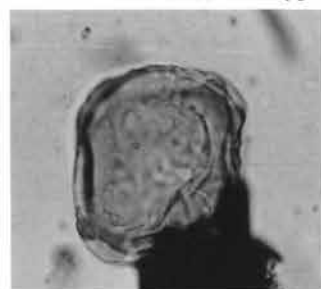
試料1 Cryptomeria ×190



試料1 Alnus ×277



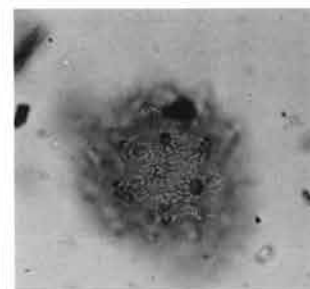
試料1 Zelkova ×190



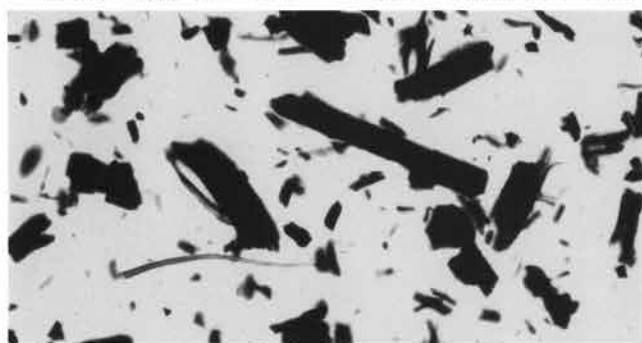
試料1 Gramineae ×190



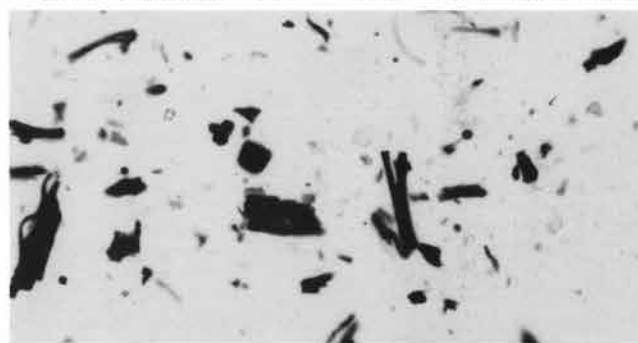
試料1 Artemisia ×277



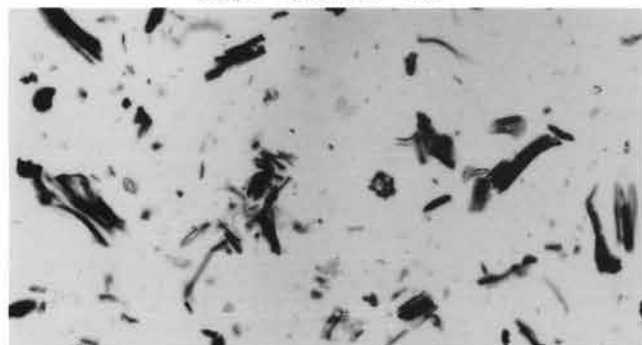
試料1 Carduoieae ×190



試料1 状況写真 ×50



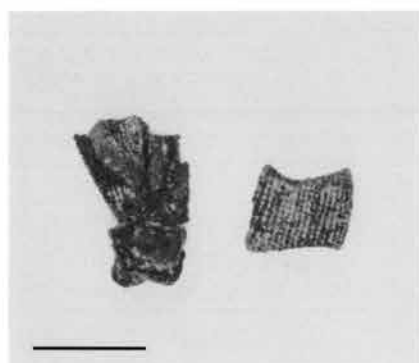
試料14 状況写真 ×50



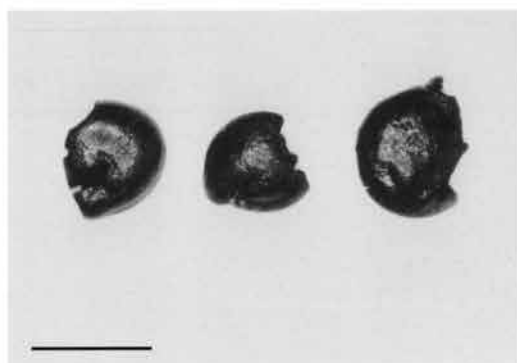
試料8 状況写真 ×50



試料4 状況写真 ×50



種実 Oryza sativa



種実 Chenopodium album



種実 Vitidaceae sp.

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第190集

安養寺森西遺跡
大館馬場遺跡
阿久津宮内遺跡
(遺物観察表・写真図版編)

一般国道17号(上武道路)改築工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成7年3月20日 印刷

平成7年3月27日 発行



編集・発行／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2

電話(027)952-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社